2024(令和６)年度

男女共同参画に関する市民意識調査

― 報　告　書 ―

郡　山　市

目　　次

2024（令和６）年度郡山市男女共同参画に関する市民意識調査

第１章　調査の概要

１　調査目的 ･････････････････････････････････････ １
２　調査対象者等 ･････････････････････････････････ １
３　調査内容 ･････････････････････････････････････ １
４　回答状況等 ･･･････････････････････････････････ １
５　回答者の属性 ･････････････････････････････････ ２

第２章　調査結果の概要

１　男女平等意識について ･････････････････････････ ５
２　人権について ･････････････････････････････････ ７
３　家庭生活について ･････････････････････････････ ８
４　女性活躍について ･････････････････････････････ ９
５　就業について ･････････････････････････････････ １１
６　男女の働き方と仕事と生活の調和について ･････････ １２

第３章　調査結果（各設問分析）

１　男女平等意識について ･････････････････････････ １５
２　人権について ･････････････････････････････････ ２８
３　家庭生活について ･････････････････････････････ ６１
４　女性活躍について ･････････････････････････････ ６７
５　女性の就業について ･･･････････････････････････ ７４
６　就業について ･････････････････････････････････ ７７
７　男女の働き方と仕事と生活の調和について ･････････ ８１
８　防災について ･････････････････････････････････ ８７
９　本市の男女共同参画に関する取り組みについて ････ ８９

第４章　自由回答

１　自由回答記述者数 ･････････････････････････････ ９４
２　各問の自由回答 ･･･････････････････････････････ ９５
３　男女共同参画に関する自由記載欄 ･･････････････ １０３

第５章　資料
１　調査票　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１１３
２　過去の調査との比較　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１２５

第６章　参考
１　国・県・市の比較資料　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１５３

本報告書の見方について

1　比率はすべて百分率（％）で表示し、表示単位未満を四捨五入し、単位未満の数値を調整した。そのため、個々の比率の合計が 100％にならない場合がある。

2　本文や図表中の選択肢の標記は、短縮・簡略化している場合がある。

3　資料において、国（内閣府）及び福島県が実施した調査結果との比較を行った。
なお、比較した調査結果は、次のとおりである。

【国（内閣府）の調査】「男女共同参画社会に関する世論調査」［2022（令和４）年 11 月実施］
調査対象：全国 18 歳以上の日本国籍を有する男女　5,000 人（郵送法）

【福島県の調査】「男女共同参画・女性の活躍促進に関する意識調査報告書」［2019（令和元）年 11 月実施］
調査対象：福島県内に居住する 20 歳以上の男女　2,000 人（郵送による自記式調査）

2024(令和６)年度

郡山市男女共同参画に関する市民意識調査

第１章 調査の概要

この章では、調査の目的や調査対象及び方法、調査内容、回答者の数や属性について、掲載しています。

1　調査目的

この調査は、2018（平成30)年４月にスタートした「第三次こおりやま男女共同参画プラン」が2025（令和７)年度に終了することから、男女共同参画に関する市民の意識や実態を把握し、「第四次こおりやま男女共同参画プラン」策定に向けた基礎資料とするため実施する。

2　調査対象者等

年　　度	2024（令和６)年度
調 査 対 象	市内在住１８歳以上の男女　３，０００人（男女各１，５００人）
抽　出　数	住民基本台帳からの年代、地域を考慮した無作為抽出
調 査 方 法	郵送による配布及び回収、インターネットによる電子申請
調 査 期 間	2024（令和６)年７月２９日～８月３１日 ※ただし、期限後の９月末日到達分まで集計した。
回　答　率	３３．１％

3　調査内容

（1）　回答者の属性
（2）　男女平等意識
（3）　人権
（4）　家庭生活
（5）　女性活躍推進
（6）　就業
（7）　仕事と生活の調和
（8）　防災
（9）　本市の取り組み
（10）意見・感想【自由回答】

4　回答状況等

性別	男性	女性	その他	性別無回答	総数
返 戻 数	７件	５件	―	―	１２件
回 答 数	４５４件	５３１件	４件	４件	９９３件
送 達 率	９９．５％	９９．７％	―	―	９９．６％
回 答 率	３０．３％	３５．４％	―	―	３３．１％

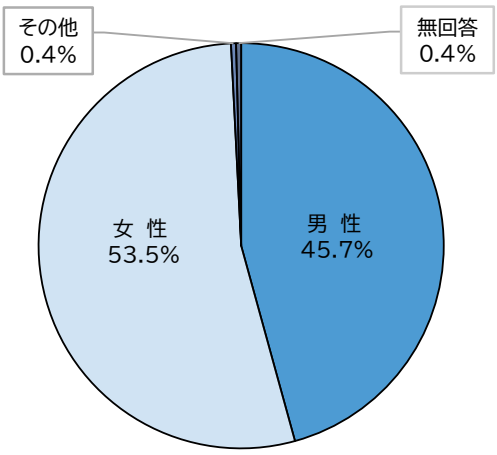
※集計では、問11～13の設問については性別を「その他」「性別無回答」に分けて掲載し、それを除く設問では、性別「その他」を「性別無回答」に合計した上で掲載しています。

5　回答者の属性

（１）　性別（性自認）

問１

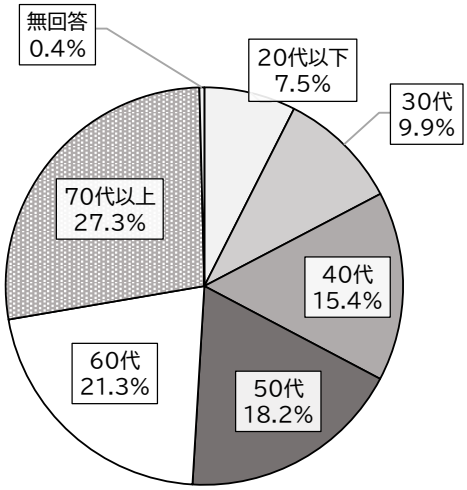
	基数（人）	構成比（%）
男　性	454	45.7%
女　性	531	53.5%
その他	4	0.4%
無回答	4	0.4%
計	993	100.0%



（２）　年齢別

問２

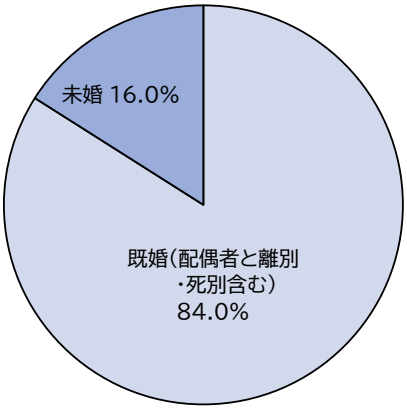
	基数（人）	構成比（%）
２０代以下	74	7.5%
３０代	98	9.9%
４０代	153	15.4%
５０代	181	18.2%
６０代	212	21.3%
７０代以上	271	27.3%
無回答	4	0.4%
計	993	100.0%



（３）　結婚等（事実婚含む）

問３

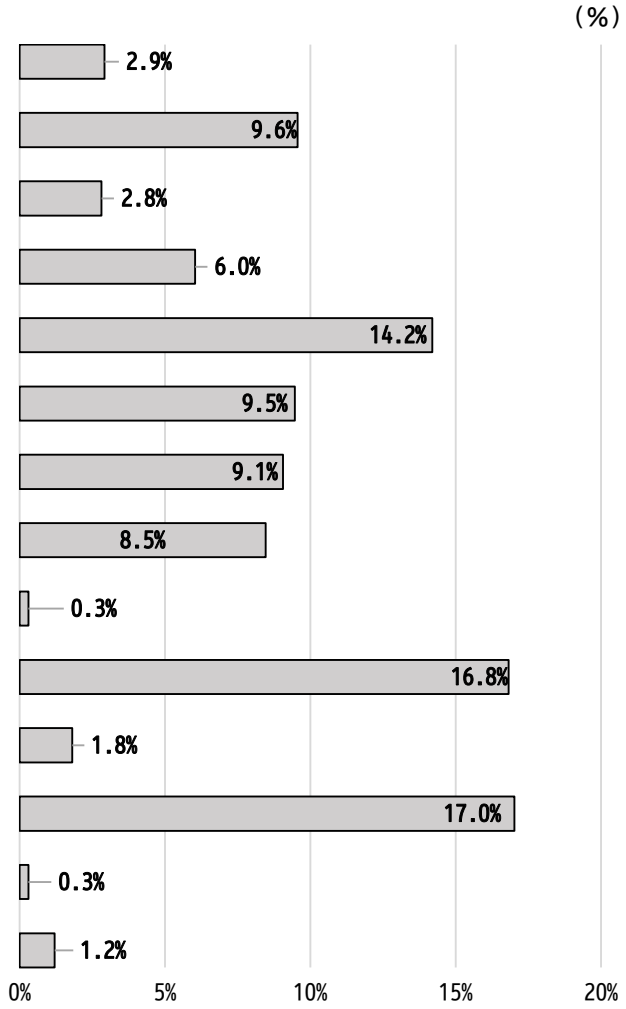
	基数（人）	構成比（%）
既婚（配偶者と離別・死別含む）	834	84.0%
未婚	159	16.0%
無回答	0	0.0%
計	993	100.0%

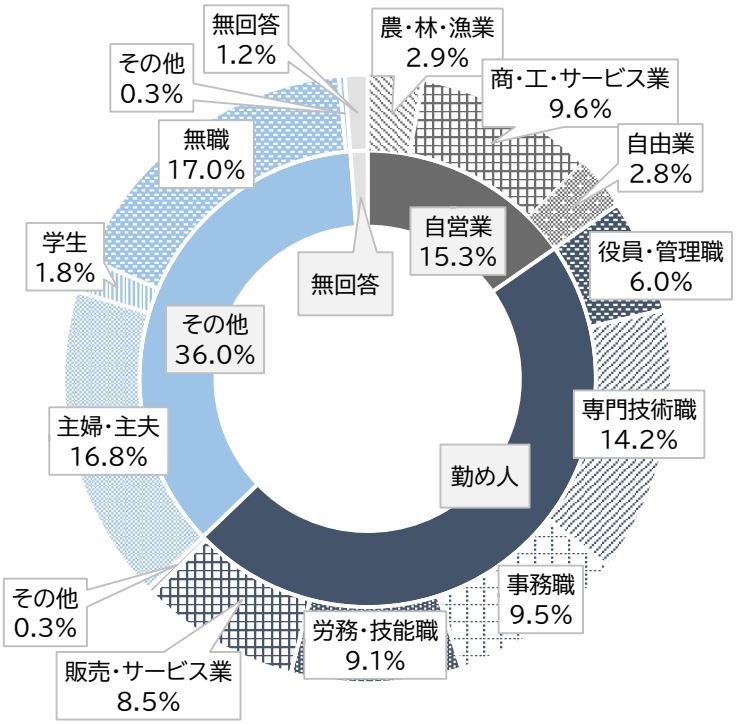


（4）　職業

問４

	業種等	基数（人）	構成比（%）
自営業	農・林・漁業	29	2.9%
	商・工・サービス業	95	9.6%
	自由業	28	2.8%
勤め人	役員・管理職	60	6.0%
	専門技術職	141	14.2%
	事務職	94	9.5%
	労務・技能職	90	9.1%
	販売・サービス業	84	8.5%
	その他	3	0.3%
その他	主婦・主夫	167	16.8%
	学生	18	1.8%
	無職	169	17.0%
	その他	3	0.3%
無　回　答		12	1.2%
計		993	100.0%





第２章 調査結果の概要

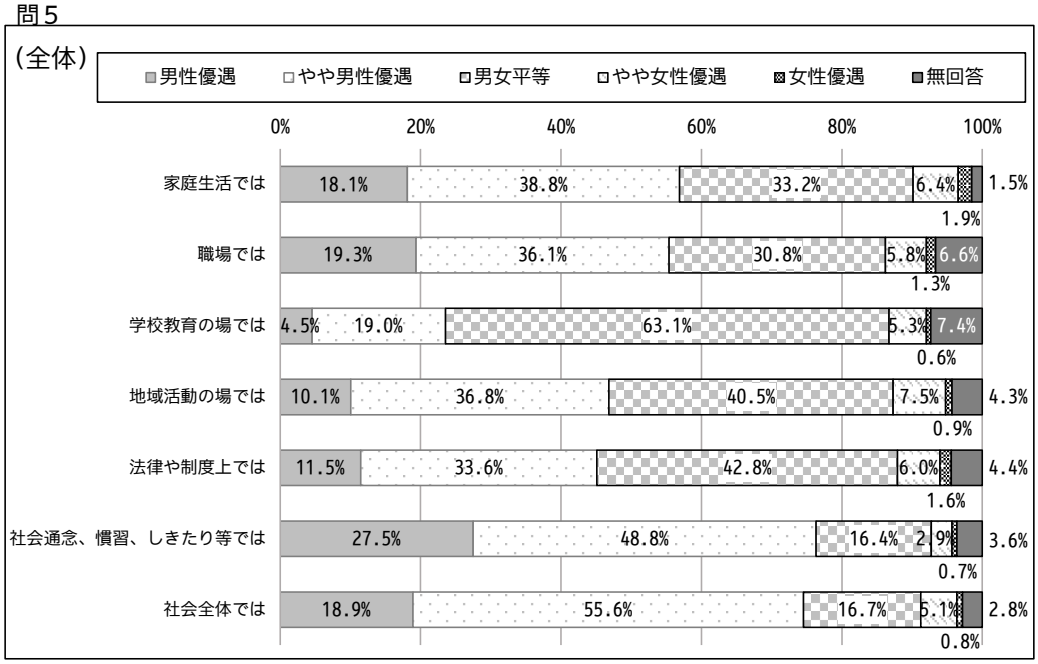
この章では、分野ごとに調査の目的や調査対象及び方法、調査内容、回答者の数や属性について、掲載しています。

１.男女平等意識について

「家庭生活」、「職場」、「学校教育の場」、「地域活動の場」、「法律や制度上」、「社会通念、慣習、しきたり等」の各分野及び「社会全体」における男女の地位の平等感について

男女の地位の平等感について、「男性が優遇」又は「やや男性が優遇」と回答した割合は、「社会通念、慣習、しきたり等では」が76.3%と最も高く、「家庭生活では」が56.9%、「職場では」が55.4%といずれも５割を超えているが、「学校教育の場では」は23.5%と低く、63.1%が「男女平等」と回答している。

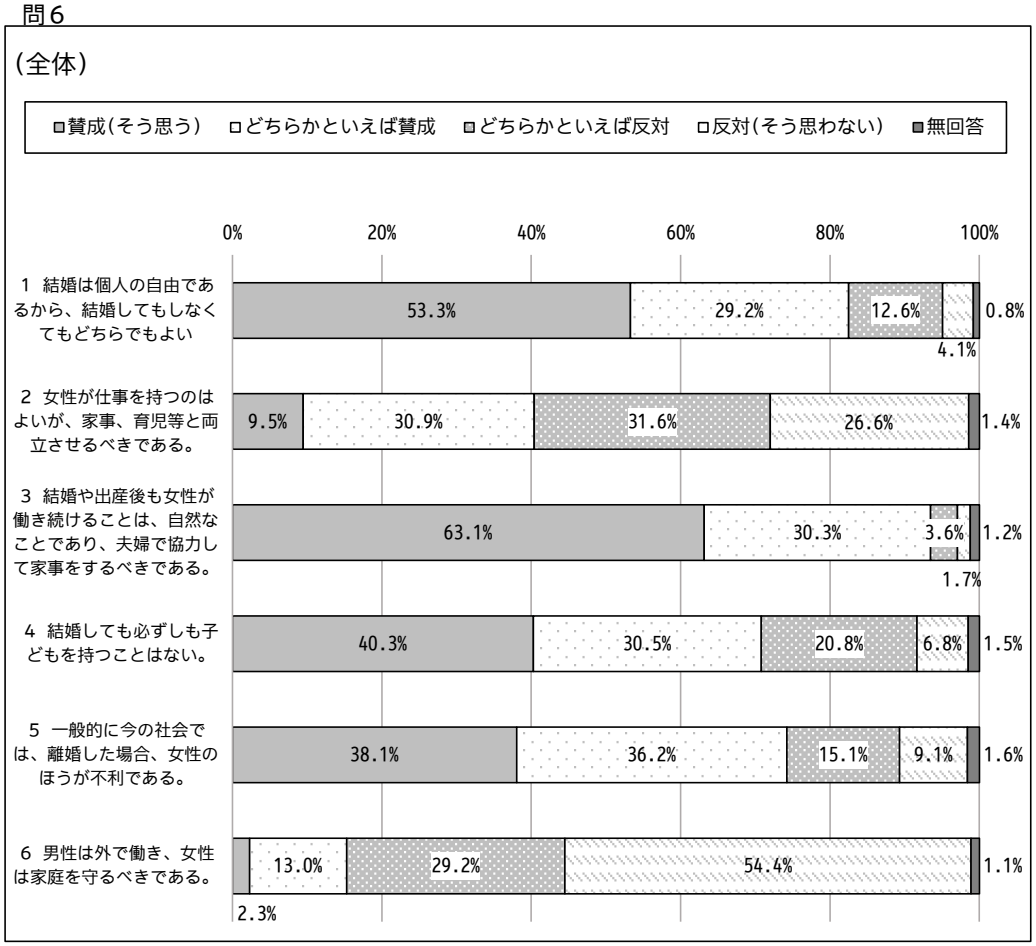
問５



結婚、家庭、離婚等の考え方について

結婚、家庭、離婚の考え方について、「賛成」又は「どちらかといえば賛成」と回答した割合は、「３ 結婚や出産後も女性が働き続けることは、自然なことであり、夫婦で協力して家事をするべきである」が93.4%と最も高く、「１ 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」は82.5%、「５ 一般的に今の社会では、離婚した場合、女性の方が不利である」は74.3%といずれも７割を超えているが、「６ 男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」は、83.6%が「反対」又は「どちらかといえば反対」と回答している。

問６



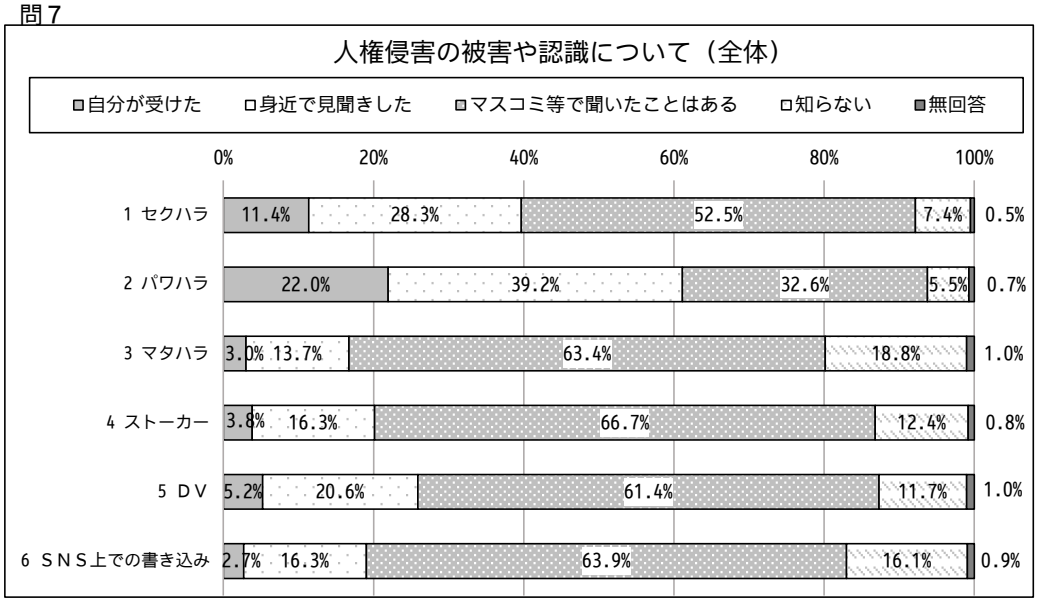
２.人権について

人権侵害の被害や認識について

人権侵害の被害や認識について、「自分が受けた」又は「身近で見聞きした」と回答した割合は、「2 パワハラ」が61.2%と最も高く、次いで「1 セクハラ」が39.7%と続いた。

一方、「3 マタハラ」は、「自分が受けた」又は「身近で見聞きした」と回答した割合が16.7%と、他の言葉と比較すると低い。

問７

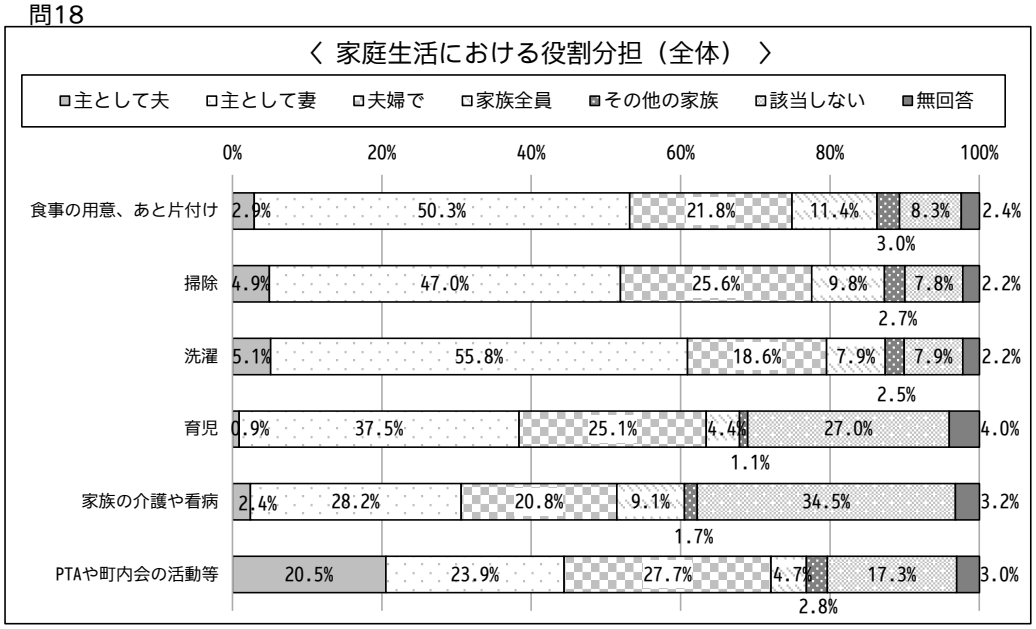


３.家庭生活について

家庭生活における家事等の役割分担について

家庭生活における役割分担については、「食事の用意、あと片付け」「洗濯」が「主として妻」と回答している割合が最も高く、５割を超えている。「掃除」「育児」「家族の介護や看病」も「該当しない（対象者がいない等）」を除くと、主として妻が行っている割合が高い。

問18



４.女性活躍について

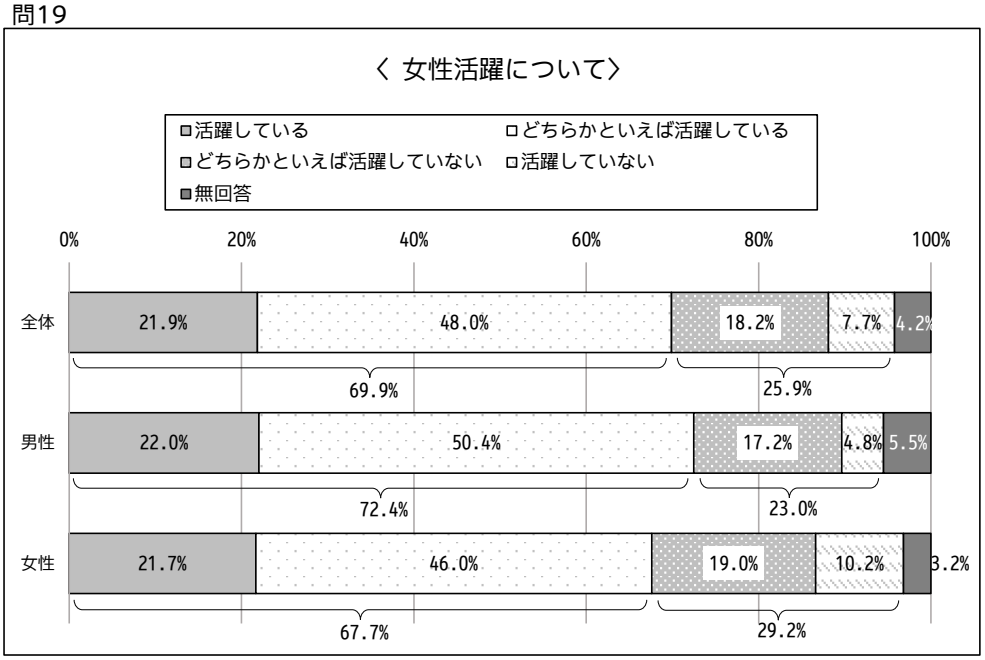
女性活躍に関する意識とその理由について

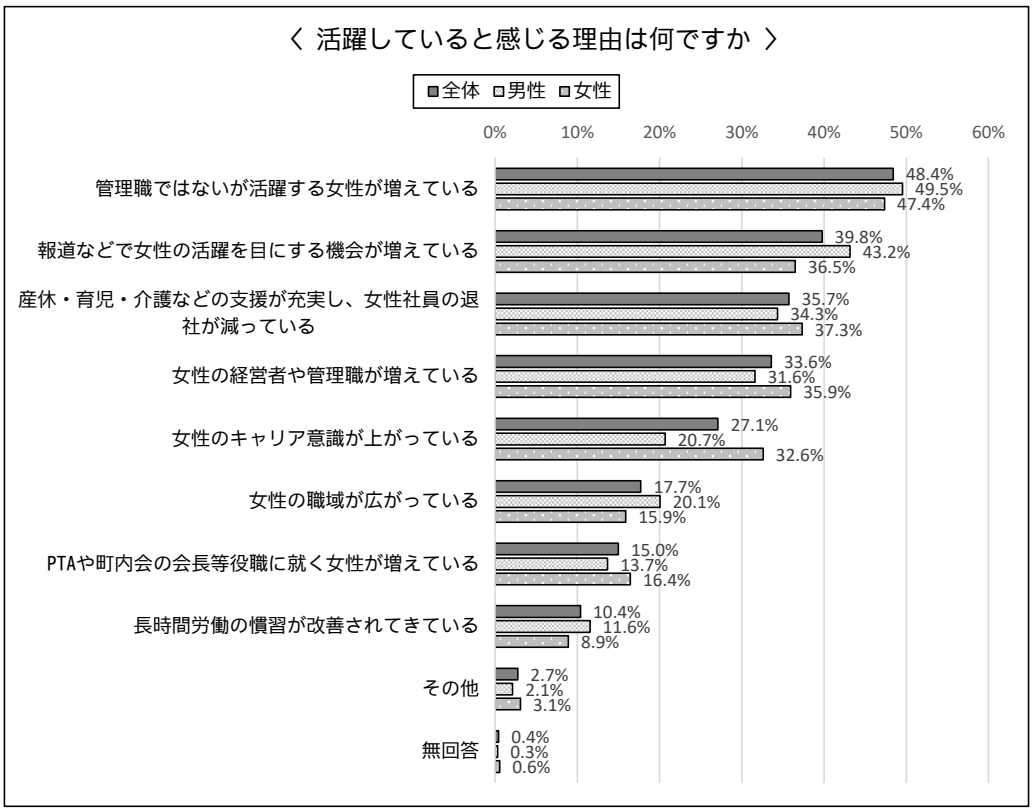
「活躍している」又は「どちらかといえば活躍している」と回答した割合は、69.9%、「どちらかといえば活躍していない」又は「活躍していない」と回答した割合は25.9%となり、約７割は仕事や地域活動で「活躍している」と感じている。

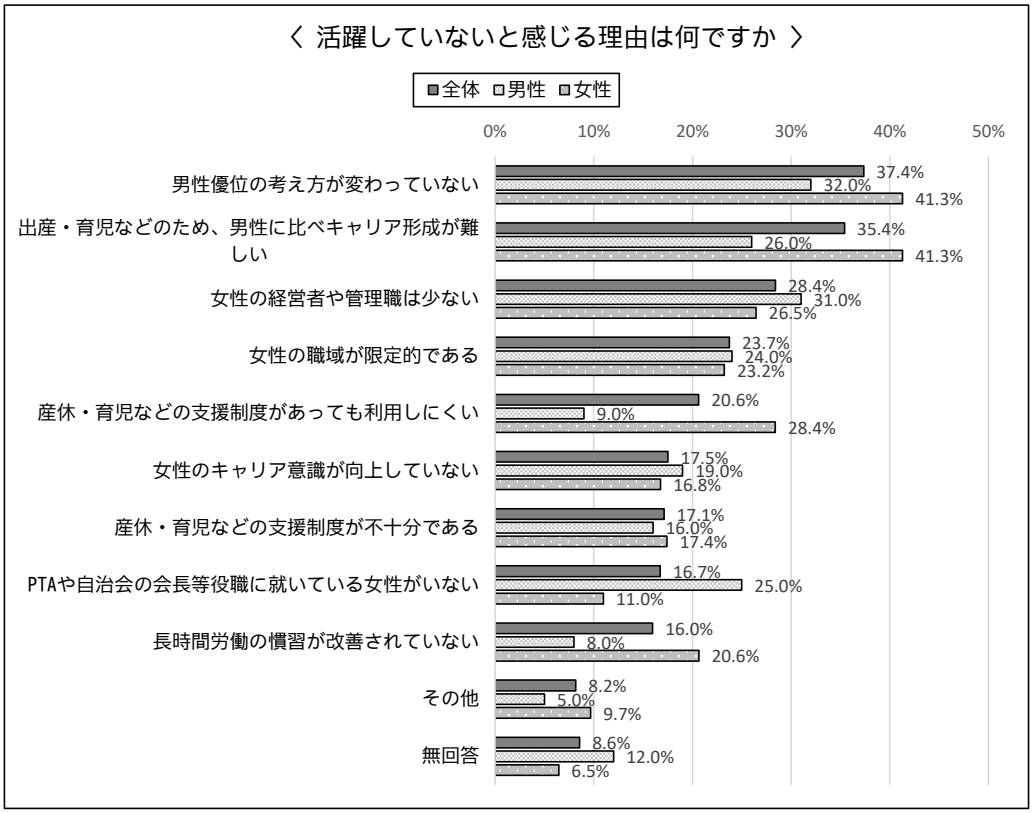
性別では、「活躍している」又は「どちらかといえば活躍している」と回答した割合は、男性が72.4%、女性が67.7%となり、男性の方が女性が活躍していると感じている割合が高い。

また、活躍していると感じる理由は、男女ともに「3 管理職ではないが活躍する女性が増えている」と回答した割合（男性49.5%、女性47.4%）が最も高く、活躍していないと感じる理由は、男性は「7 男性優位の考え方が変わっていない」が37.4%で最も高く、女性は「7 男性優位の考え方が変わっていない」「6 出産・育児などのため、男性に比べキャリア形成が難しい」がともに41.3%で最も高い。

問19




〈 活躍していると感じる理由は何ですか 〉
全体
男性
女性
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
管理職ではないが活躍する女性が増えている
48.4%
49.5%
47.4%
報道などで女性の活躍を目にする機会が増えている
39.8%
43.2%
36.5%
産休・育児・介護などの支援が充実し、女性社員の退社が減っている
35.7%
34.3%
37.3%
女性の経営者や管理職が増えている
33.6%
31.6%
35.9%
女性のキャリア意識が上がっている
27.1%
20.7%
32.6%
女性の職域が広がっている
17.7%
20.1%
15.9%
PTAや町内会の会長等役職に就く女性が増えている
15.0%
13.7%
16.4%
長時間労働の慣習が改善されてきている
10.4%
11.6%
8.9%
その他
2.7%
2.1%
3.1%
無回答
0.4%
0.3%
0.6%


〈 活躍していないと感じる理由は何ですか 〉
全体
男性
女性
0%
10%
20%
30%
40%
50%
男性優位の考え方が変わっていない
37.4%
32.0%
41.3%
出産・育児などのため、男性に比べキャリア形成が難しい
35.4%
26.0%
41.3%
女性の経営者や管理職は少ない
28.4%
31.0%
26.5%
女性の職域が限定的である
23.7%
24.0%
23.2%
産休・育児などの支援制度があっても利用しにくい
20.6%
9.0%
28.4%
女性のキャリア意識が向上していない
17.5%
19.0%
16.8%
産休・育児などの支援制度が不十分である
17.1%
16.0%
17.4%
PTAや自治会の会長等役職に就いている女性がいない
16.7%
25.0%
11.0%
長時間労働の慣習が改善されていない
16.0%
8.0%
20.6%
その他
8.2%
5.0%
9.7%
無回答
8.6%
12.0%
6.5%

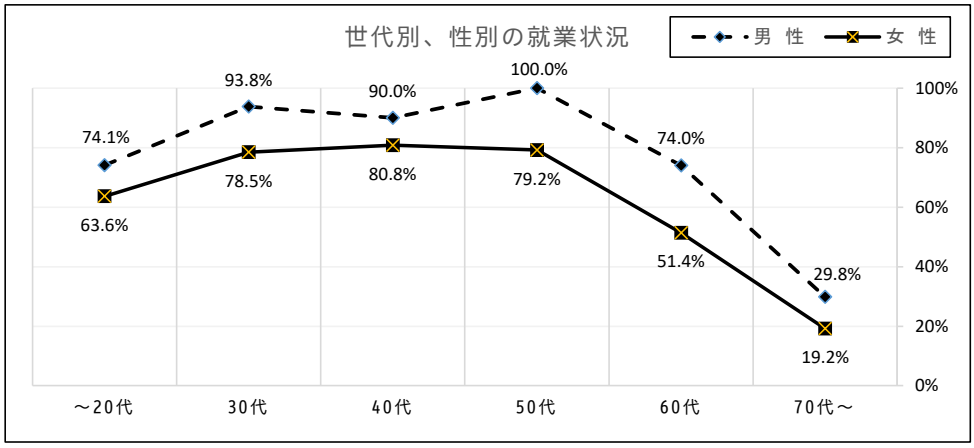
5.就業について

世代別、性別の就業状況について

性別・年代別の就業率は、男性では50代が100%と最も高く、次いで、30代 93.8%、40代 90.0%と続いている。
女性では、40代が80.8%と最も高く、次いで、50代 79.2%、30代 78.5%、20代以下が 63.6%となっており、M字カーブの現象は解消されてきている。

問24

	男　性（人）		女　性（人）		性別無回答		男　性	女　性	性別無回答
	実人数	就業数	実人数	就業数	実人数	就業数	就業率(%)		
～20代	27	20	44	28	3	3	74.1%	63.6%	100%
30代	32	30	65	51	1	1	93.8%	78.5%	100%
40代	80	72	73	59	0	0	90.0%	80.8%	----
50代	85	85	96	76	0	0	100.0%	79.2%	----
60代	104	77	107	55	1	1	74.0%	51.4%	100%
70代～	124	37	146	28	1	0	29.8%	19.2%	0%
無回答	2	2	0	0	2	0	100.0%	0.0%	0%
計	454	323	531	297	8	5	71.1%	55.9%	62.5%

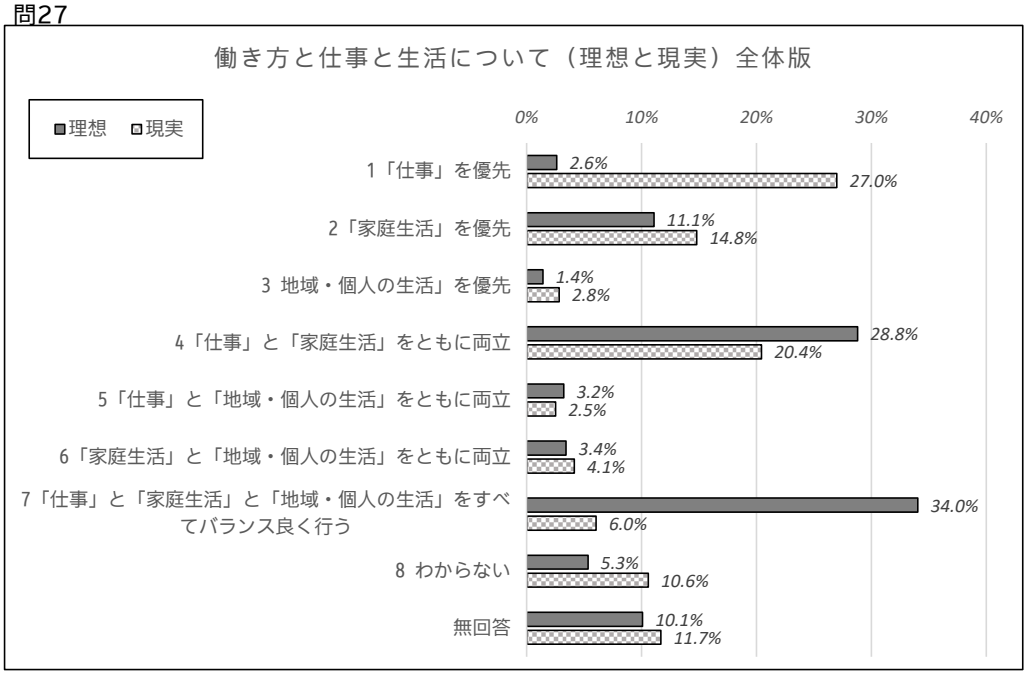


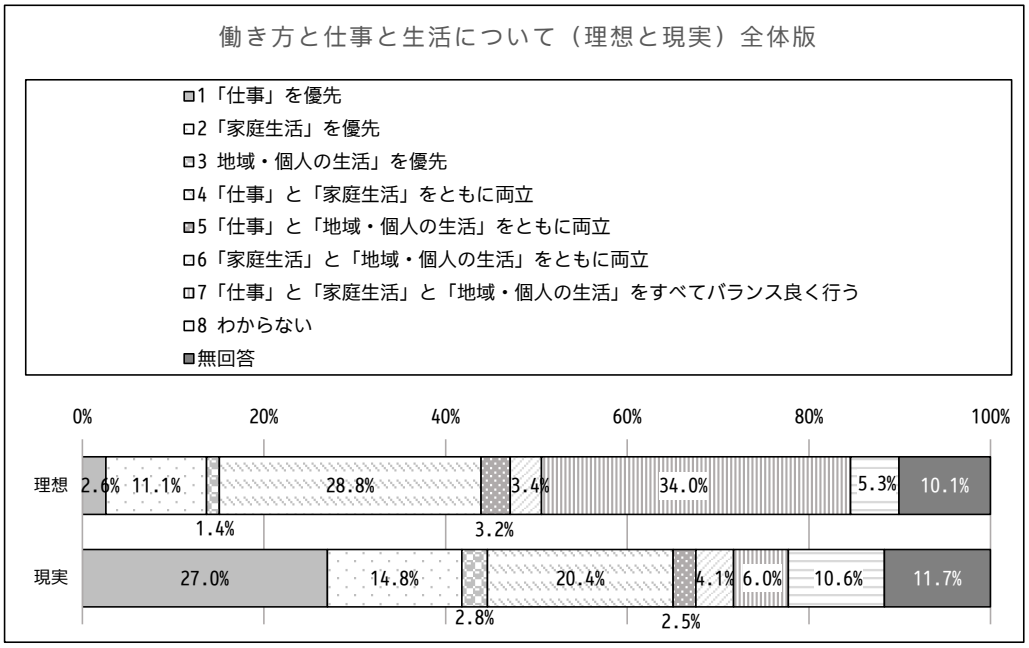
６.男女の働き方と仕事と生活の調和について

ワークライフバランスに関する理想と現実について

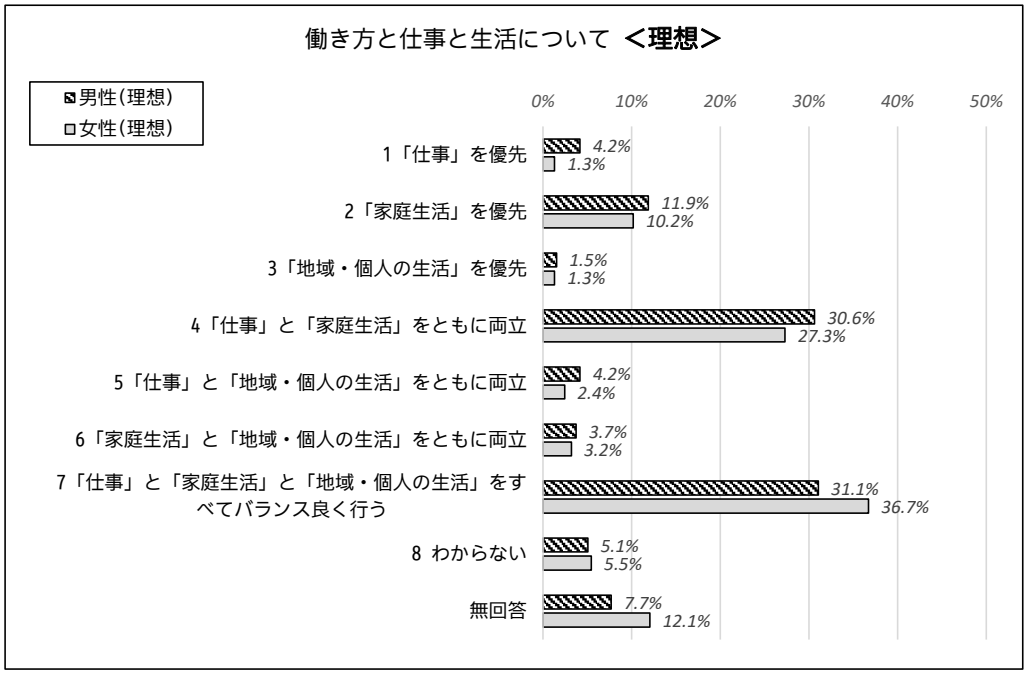
全体では、理想は「7 仕事、家庭生活、地域・個人の生活をすべてバランス良く行う」が34.0%で最も高く、次いで「4 仕事と家庭生活をともに両立」が28.8%、「2 家庭生活を優先」11.1%と回答した割合が高い一方で、現実は、「1 仕事を優先」が27.0%で最も高く、次いで「4 仕事と家庭生活をともに両立」が20.4%、「2 家庭生活を優先」14.8%となっており、理想と現実には大きな違いがある。

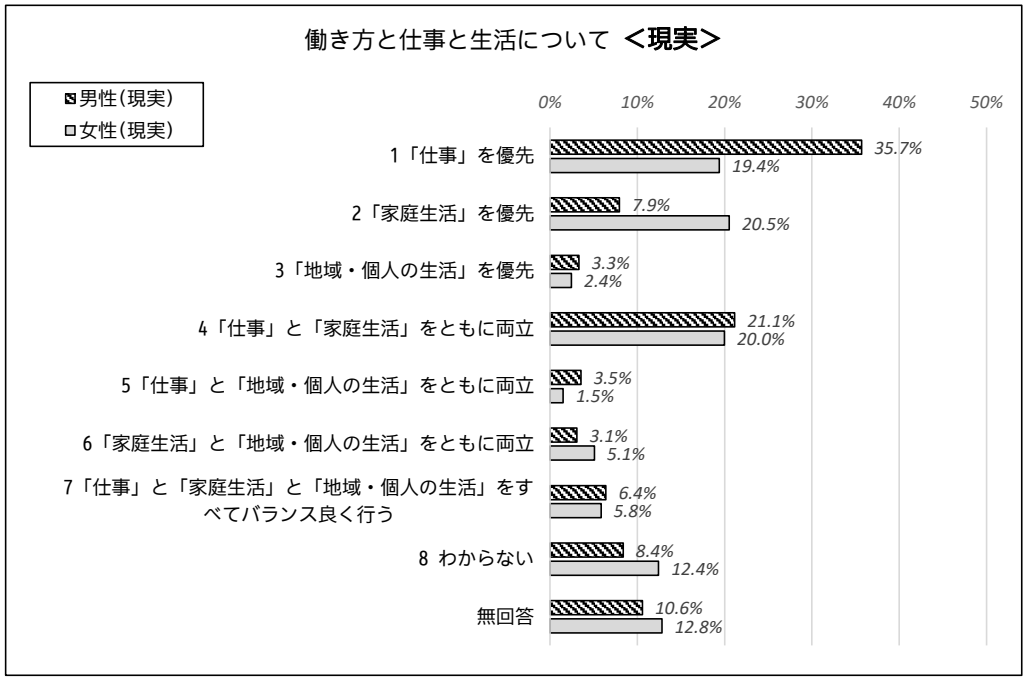
問27





男女ともに「7 仕事と家庭生活と地域・個人の生活をすべてバランス良く行う」を理想（男性31.1%、女性36.7%）としているものの、現実は、男性は「1 仕事を優先」が35.7%で最も高く、次いで「4 仕事と家庭生活をともに両立」が21.1%、女性は「2 家庭生活を優先」が20.5%が最も高く、次いで「4 仕事と家庭生活をともに両立」が20.0%と続いている。





第３章　調査結果(各設問分析)

この章では、市民意識調査の設問ごとに、「回答者全体、男女別、年代別、前回調査（令和２年度）比較」の調査結果を掲載しています。

1　男女平等意識について

問５　あなたは、次のような各分野での男女の地位が平等だと思いますか。

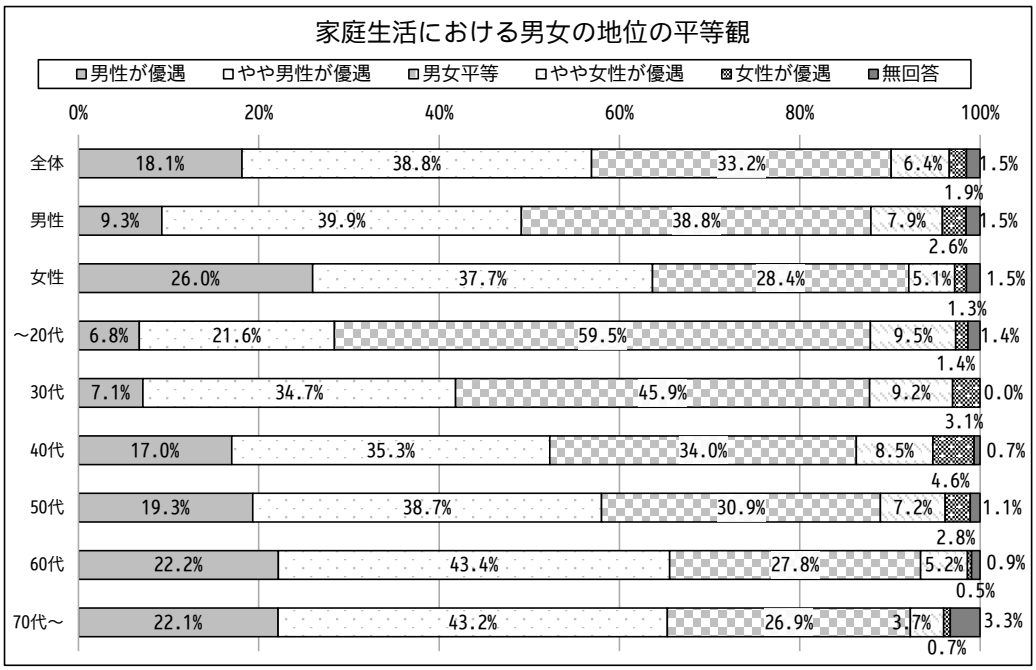
問５－①　家庭生活では

【全　体】
「やや男性が優遇されている」と回答した割合が38.8%で最も高く、次いで「男女平等」が33.2%、「男性が優遇されている」が18.1%と続いている。

【性　別】
男女ともに「やや男性が優遇されている」と回答した割合が最も高い。
「男性が優遇されている」と回答した割合は、男性よりも女性の方が高い（男性9.3%、女性26.0%）。

【年代別】
10代～30代は「男女平等」と回答している割合が最も高く、40代以上は「やや男性が優遇されている」と回答している割合が最も高い。年齢が高くなるほど、男性の方が優遇されていると回答した割合が高くなっている。

【前回調査（2020年）比較】
「男女平等」と回答した割合が減少した（2020年 36.1%）が、「女性が優遇されている」「やや女性が優遇されている」と回答した割合が全体的に増加している。



（人）

	実人数	男性が優遇	やや男性が優遇	男女平等	やや女性が優遇	女性が優遇	無回答
全体	993	180	385	330	64	19	15
男性	454	42	181	176	36	12	7
女性	531	138	200	151	27	7	8
性別無回答	8	0	4	3	1	0	0
～20代	74	5	16	44	7	1	1
30代	98	7	34	45	9	3	0
40代	153	26	54	52	13	7	1
50代	181	35	70	56	13	5	2
60代	212	47	92	59	11	1	2
70代～	271	60	117	73	10	2	9
年齢無回答	4	0	2	1	1	0	0

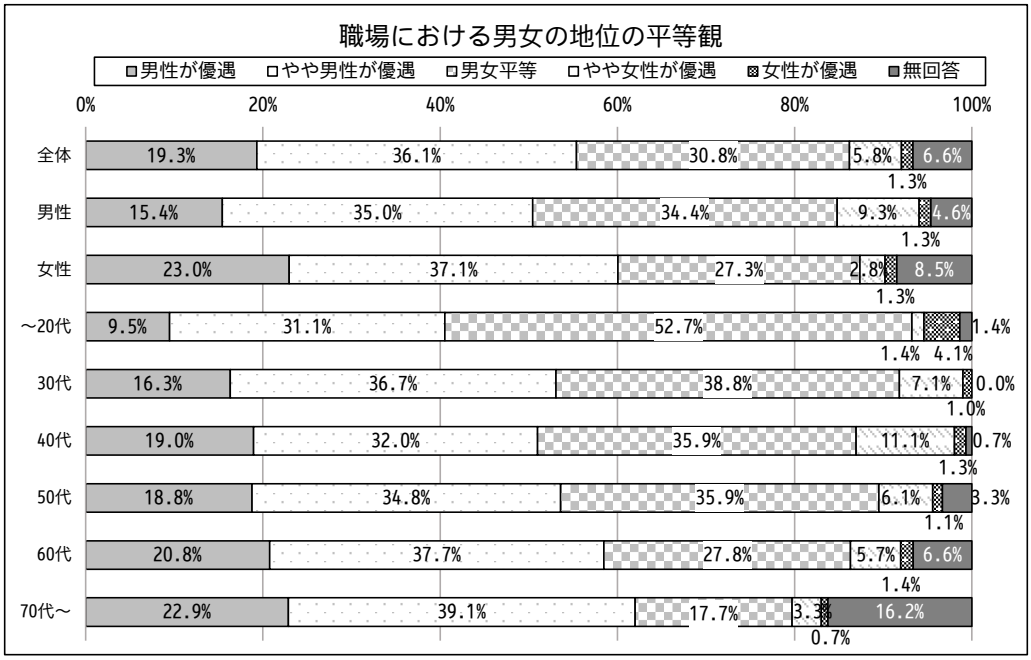
問５－②　職場では

【全　体】
「やや男性が優遇されている」と回答した割合が36.1%で最も高く、次いで「男女平等」が30.8%、「男性が優遇されている」が19.3%と続いている。

【性　別】
「男女平等」と回答した割合は、女性より男性の方が高い。（男性34.4%、女性27.3%）

【年代別】
50代以下では、「男女平等」と回答した割合が最も高く、60代以上は、「やや男性が優遇されている」と回答した割合が最も高い。

【前回調査（2020年）比較】
「男女平等」と回答した割合が増加している。（2020年 25.8%）



（人）

	実人数	男性が優遇	やや男性が優遇	男女平等	やや女性が優遇	女性が優遇	無回答
全体	993	192	358	306	58	13	66
男性	454	70	159	156	42	6	21
女性	531	122	197	145	15	7	45
性別無回答	8	0	2	5	1	0	0
～20代	74	7	23	39	1	3	1
30代	98	16	36	38	7	1	0
40代	153	29	49	55	17	2	1
50代	181	34	63	65	11	2	6
60代	212	44	80	59	12	3	14
70代～	271	62	106	48	9	2	44
年齢無回答	4	0	1	2	1	0	0

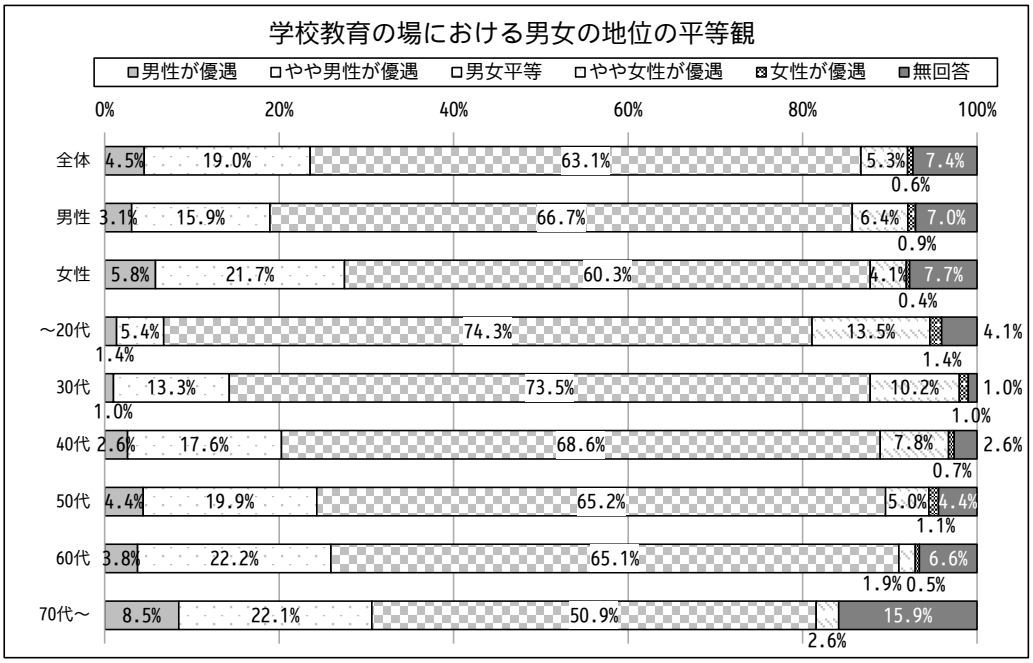
問５－③　学校教育の場では

【全　体】
「男女平等」と回答した割合が63.1％と最も高く、次いで、「やや男性が優遇されている」が19.0％と続いている。

【性　別】
「男女平等」と回答した割合は、女性より男性の方が高い。（男性66.7％、女性60.3％）

【年代別】
60代以下では「男女平等」と回答した割合が６割を超えているが、70代以上では５割となっている。

【前回調査（2020年）比較】
「男女平等」と回答した割合が増加している。（2020年 57.8％）



（人）

	実人数	男性が優遇	やや男性が優遇	男女平等	やや女性が優遇	女性が優遇	無回答
全体	993	45	189	627	53	6	73
男性	454	14	72	303	29	4	32
女性	531	31	115	320	22	2	41
性別無回答	8	0	2	4	2	0	0
～20代	74	1	4	55	10	1	3
30代	98	1	13	72	10	1	1
40代	153	4	27	105	12	1	4
50代	181	8	36	118	9	2	8
60代	212	8	47	138	4	1	14
70代～	271	23	60	138	7	0	43
年齢無回答	4	0	2	1	1	0	0

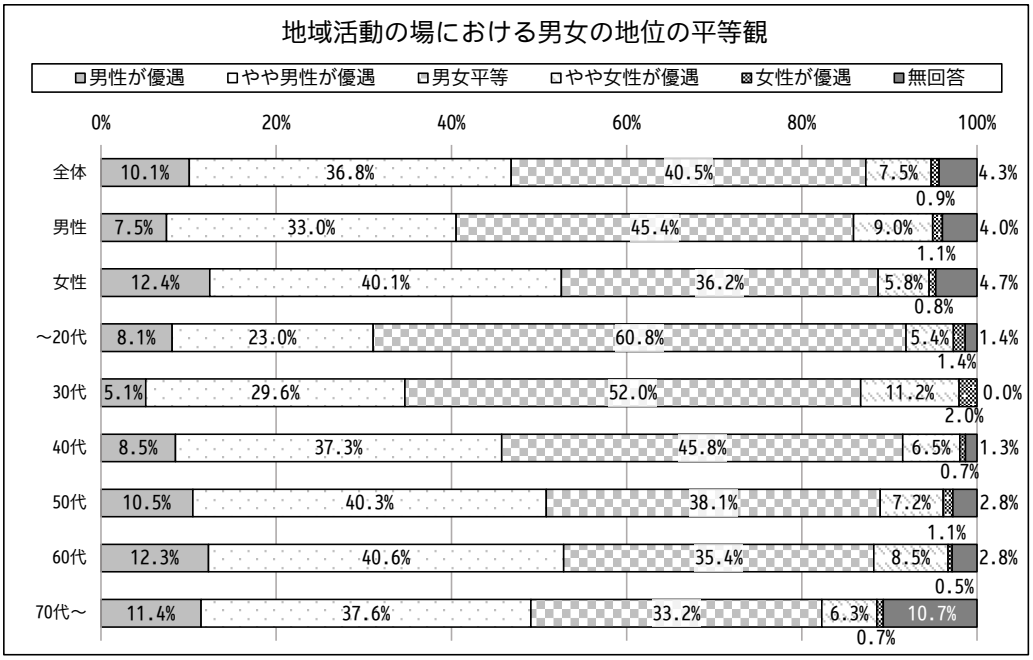
問５－④　地域活動の場では

【全　体】
「男女平等」と回答した割合が40.5％で最も高く、次いで「やや男性が優遇されている」が36.8％、「男性が優遇」が10.1％と続いている。

【性　別】
「男女平等」と回答した割合は、女性より男性の方が高い。（男性45.4％、女性36.2％）

【年代別】
「男女平等」と回答した割合は10～20代が最も高い。年齢が高くなるほど、「男女平等」と回答した割合が低くなっている。

【前回調査（2020年）比較】
「男女平等」と回答した割合が増加している。（2020年 37.3％）



（人）

	実人数	男性が優遇	やや男性が優遇	男女平等	やや女性が優遇	女性が優遇	無回答
全体	993	100	365	402	74	9	43
男性	454	34	150	206	41	5	18
女性	531	66	213	192	31	4	25
性別無回答	8	0	2	4	2	0	0
～20代	74	6	17	45	4	1	1
30代	98	5	29	51	11	2	0
40代	153	13	57	70	10	1	2
50代	181	19	73	69	13	2	5
60代	212	26	86	75	18	1	6
70代～	271	31	102	90	17	2	29
年齢無回答	4	0	1	2	1	0	0

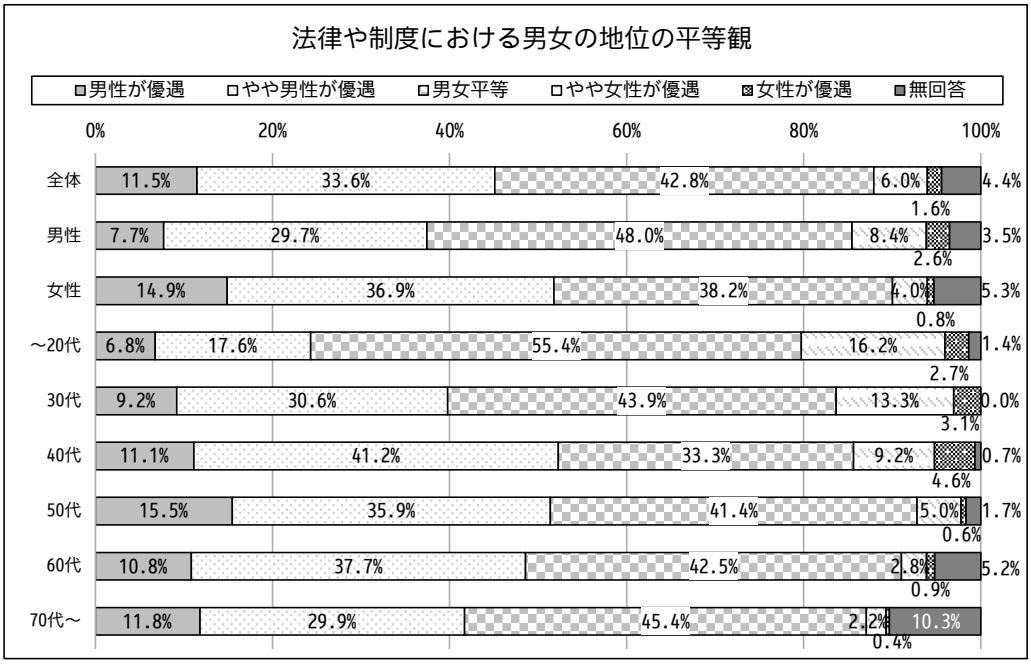
問５－⑤　法律や制度上では

【全　体】
「男女平等」と回答した割合が42.8％と最も高く、次いで「やや男性が優遇」が33.6％、「男性が優遇」が11.5％と続いている。

【性　別】
「男女平等」と回答した割合は、女性より男性の方が高い。（男性48.0％、女性38.2％）

【年代別】
「男女平等」と回答した割合は10～20代が最も高い。

【前回調査（2020年）比較】
「男女平等」と回答した割合が増加している。（2020年 39.8％）



（人）

	実人数	男性が優遇	やや男性が優遇	男女平等	やや女性が優遇	女性が優遇	無回答
全体	993	114	334	425	60	16	44
男性	454	35	135	218	38	12	16
女性	531	79	196	203	21	4	28
性別無回答	8	0	3	4	1	0	0
～20代	74	5	13	41	12	2	1
30代	98	9	30	43	13	3	0
40代	153	17	63	51	14	7	1
50代	181	28	65	75	9	1	3
60代	212	23	80	90	6	2	11
70代～	271	32	81	123	6	1	28
年齢無回答	4	0	2	2	0	0	0

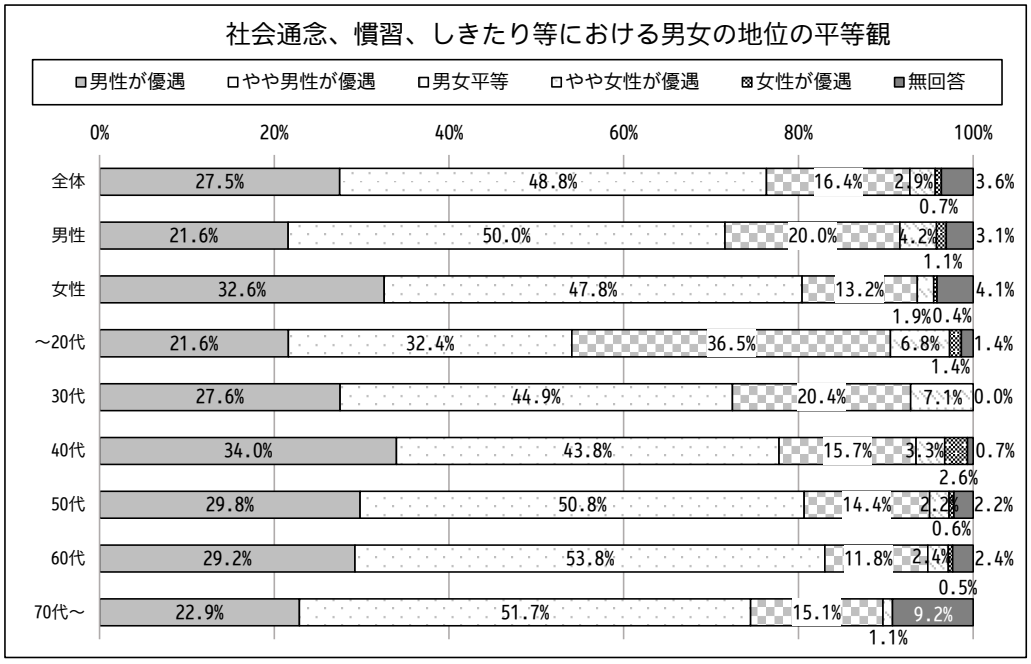
問５－⑥　社会通念、慣習、しきたり等では

【全　体】
「やや男性が優遇されている」と回答した割合が48.8%で最も高く、次いで「男性が優遇されている」が27.5%、「男女平等」が16.4%と続いている。

【性　別】
「男性が優遇されている」と回答した割合は、男性より女性の方が高い。
（男性21.6%　女性32.6%）

【年代別】
「男女平等」と回答した割合は10～20代が最も高い。そのほかの年代では「やや男性が優遇されている」と回答した割合が最も高い。

【前回調査（2020年）比較】
前回同様、「男性が優遇されている」又は「やや男性が優遇されている」と回答した割合（2020年 80.0%）が高く、「男女平等」と回答した割合が低くなっている。（2020年 12.6%）



（人）

	実人数	男性が優遇	やや男性が優遇	男女平等	やや女性が優遇	女性が優遇	無回答
全体	993	273	485	163	29	7	36
男性	454	98	227	91	19	5	14
女性	531	173	254	70	10	2	22
性別無回答	8	2	4	2	0	0	0
～20代	74	16	24	27	5	1	1
30代	98	27	44	20	7	0	0
40代	153	52	67	24	5	4	1
50代	181	54	92	26	4	1	4
60代	212	62	114	25	5	1	5
70代～	271	62	140	41	3	0	25
年齢無回答	4	0	4	0	0	0	0

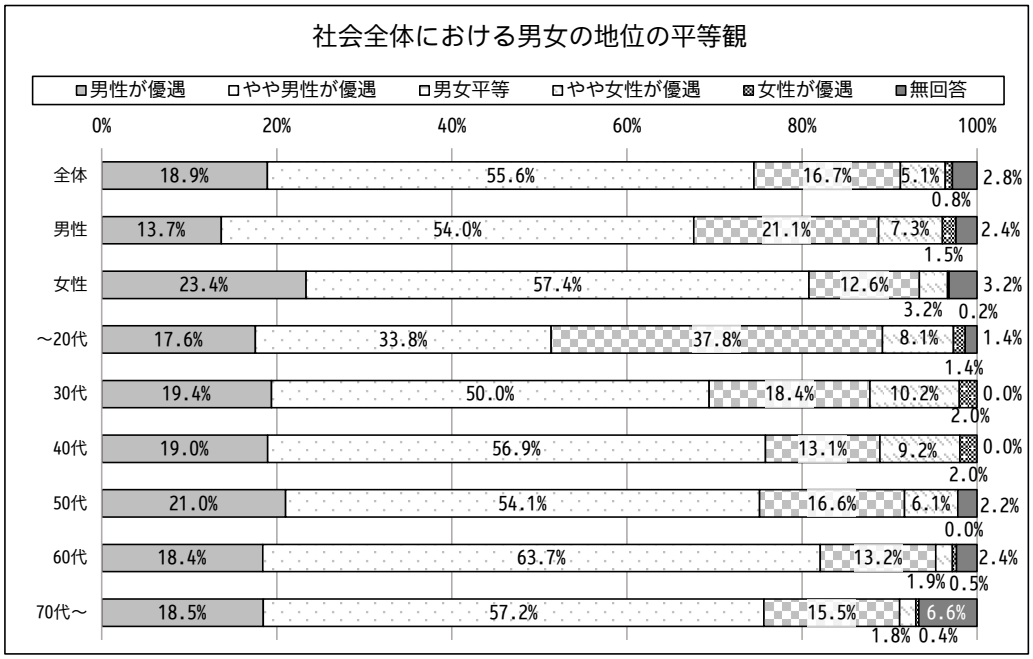
問５－⑦　社会全体では

【全　体】
「やや男性が優遇」と回答した割合が55.6％で最も高く、次いで「男性が優遇」が18.9％、「男女平等」が16.7％と続いている。

【性　別】
「男性が優遇」と回答した割合は、男性より女性の方が高い。
（男性13.7％　女性23.4％）

【年代別】
「男女平等」と回答した割合は10～20代が最も高い。そのほかの年代では「やや男性が優遇されている」と回答した割合が最も高い。

【前回調査（2020年）比較】
前回同様、「男性が優遇」又は「やや男性が優遇」と回答した割合（2020年 76.6％）が高いものの、「男女平等」と回答した割合は増加している。（2020年 15.2％）



（人）

	実人数	男性が優遇	やや男性が優遇	男女平等	やや女性が優遇	女性が優遇	無回答
全体	993	188	552	166	51	8	28
男性	454	62	245	96	33	7	11
女性	531	124	305	67	17	1	17
性別無回答	8	2	2	3	1	0	0
～20代	74	13	25	28	6	1	1
30代	98	19	49	18	10	2	0
40代	153	29	87	20	14	3	0
50代	181	38	98	30	11	0	4
60代	212	39	135	28	4	1	5
70代～	271	50	155	42	5	1	18
年齢無回答	4	0	3	0	1	0	0

問６　あなたは、結婚、家庭、離婚等についての次のような考え方についてどう思いますか。

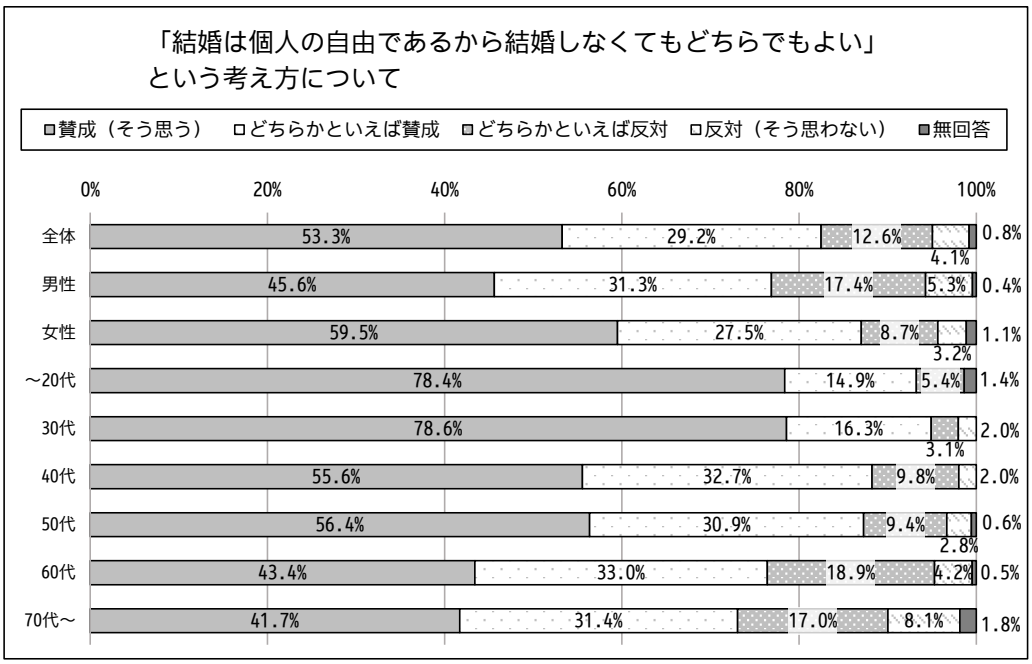
問６－①　結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい。

【全　体】
「賛成」と回答した割合が53.3%で最も高く、次いで「どちらかと言えば賛成」が29.2%、「どちらかといえば反対」が12.6%と続いている。

【性　別】
「賛成」と回答した割合は、男性より女性の方が高い。（男性45.6%、女性59.5%）

【年代別】
年代が高くなるほど「賛成」「どちらかと言えば賛成」と回答した割合は低くなっている。

【前回調査（2020年）比較】
「賛成」又は「どちらかと言えば賛成」と回答した割合が増加している。（2020年78.0%）



（人）

	実人数	賛成（そう思う）	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対（そう思わない）	無回答
全体	993	529	290	125	41	8
男性	454	207	142	79	24	2
女性	531	316	146	46	17	6
性別無回答	8	6	2	0	0	0
～20代	74	58	11	4	0	1
30代	98	77	16	3	2	0
40代	153	85	50	15	3	0
50代	181	102	56	17	5	1
60代	212	92	70	40	9	1
70代～	271	113	85	46	22	5
年齢無回答	4	2	2	0	0	0

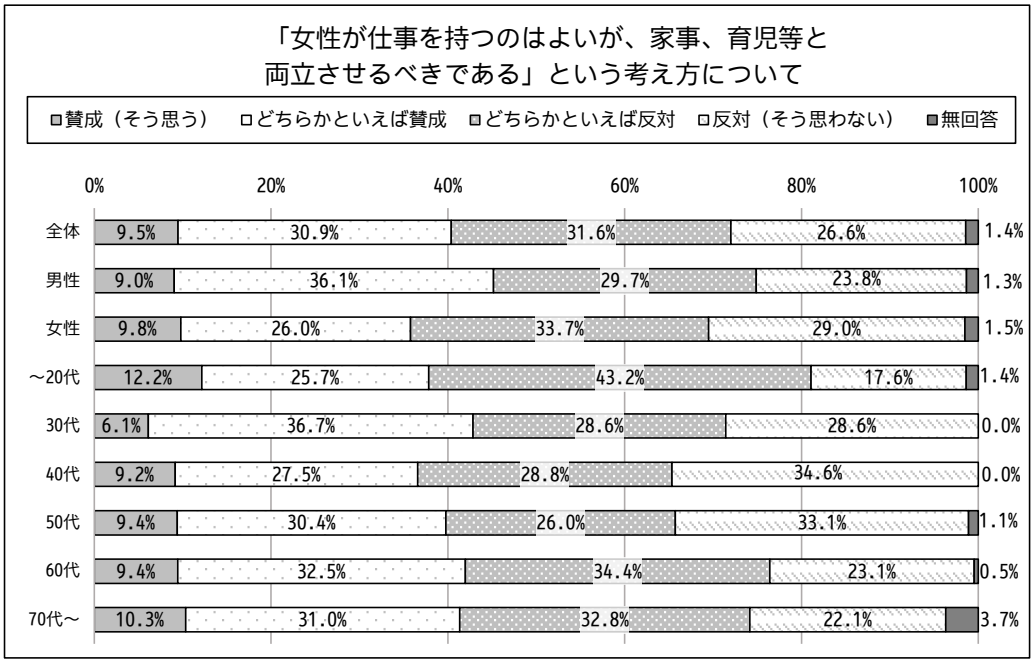
問６－②　女性が仕事を持つのはよいが、家事、育児等と両立させるべきである。

【全　体】
「どちらかといえば反対」と回答した割合が31.6％で最も高く、次いで「どちらかといえば賛成」が30.9％、「反対」が26.6％と続いている。

【性　別】
「賛成（そう思う）」又は「どちらかといえば賛成」と回答した割合は、女性より男性の方が高い。（男性45.1％、女性35.8％）

【年代別】
すべての年代で「反対（そう思わない）」又は「どちらかといえば反対」と回答した割合が高い。

【前回調査（2020年）比較】
「賛成」又は「どちらかといえば賛成」と回答した割合と「反対（そう思わない）」又は「どちらかといえば反対」と回答した割合はほぼ変わらず、横ばいである。（2020年 賛成約40％、反対約60％）



（人）

	実人数	賛成（そう思う）	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対（そう思わない）	無回答
全体	993	94	307	314	264	14
男性	454	41	164	135	108	6
女性	531	52	138	179	154	8
性別無回答	8	1	5	0	2	0
～20代	74	9	19	32	13	1
30代	98	6	36	28	28	0
40代	153	14	42	44	53	0
50代	181	17	55	47	60	2
60代	212	20	69	73	49	1
70代～	271	28	84	89	60	10
年齢無回答	4	0	2	1	1	0

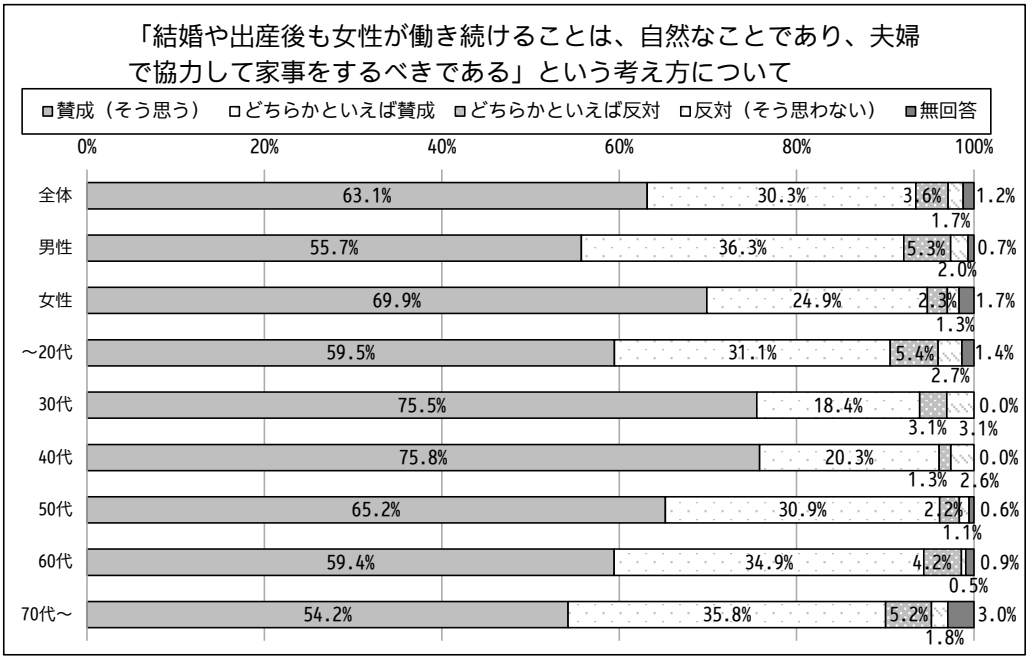
問６－③　結婚や出産後も女性が働き続けることは、自然なことであり、夫婦で協力して家事をするべきである。

【全　体】
「賛成」又は「どちらかといえば賛成」と回答した割合が93.4％で９割を超えている。

【性　別】
「賛成」と回答した割合は、男性より女性の方が高い。（男性55.7％、女性69.9％）

【年代別】
すべての年代で「賛成」又は「どちらかといえば賛成」と回答した割合が９割を超えている。

【前回調査（2020年）比較】
「賛成」又は「どちらかといえば賛成」と回答した割合はほぼ横ばいでとなっている。（2020年　94.0％）



（人）

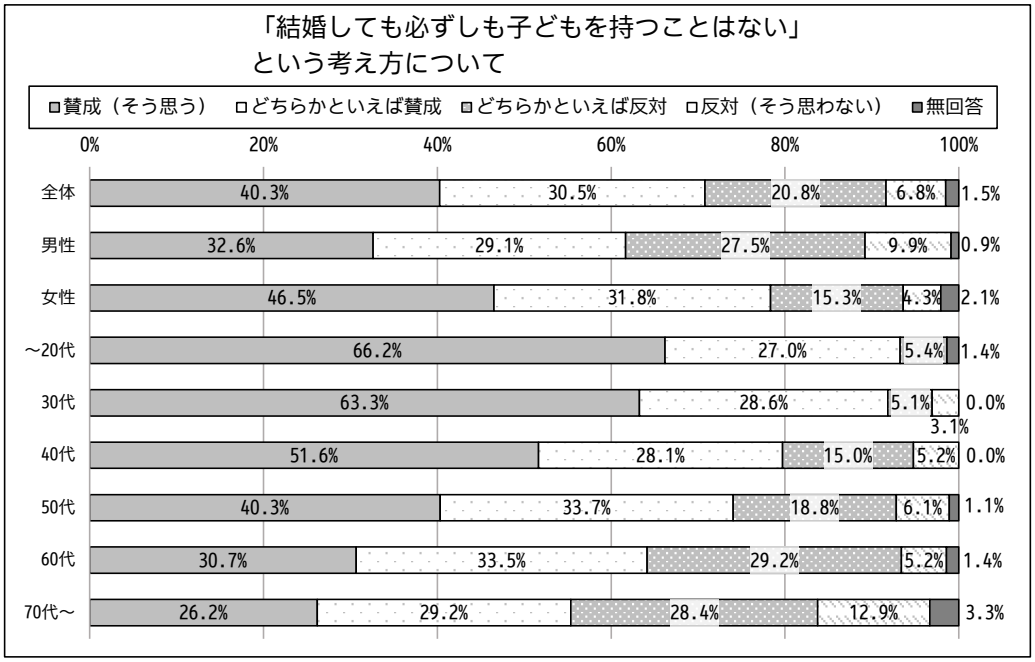
	実人数	賛成（そう思う）	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対（そう思わない）	無回答
全体	993	627	301	36	17	12
男性	454	253	165	24	9	3
女性	531	371	132	12	7	9
性別無回答	8	3	4	0	1	0
～20代	74	44	23	4	2	1
30代	98	74	18	3	3	0
40代	153	116	31	2	4	0
50代	181	118	56	4	2	1
60代	212	126	74	9	1	2
70代～	271	147	97	14	5	8
年齢無回答	4	2	2	0	0	0

問６－④　結婚しても必ずしも子どもを持つことはない。

【全　体】
「賛成」と回答した割合が40.3%と最も高く、次いで「どちらかといえば賛成」が30.5%、「どちらかといえば反対」が20.8%と続いている。
【性　別】
「賛成」と回答した割合は、男性より女性の方が高い。（男性32.6%、女性46.5%）

【年代別】
年代が高くなるほど「賛成」と回答した割合は低くなっている。

【前回調査（2020年）比較】
「賛成」又は「どちらかといえば賛成」と回答した割合は増加している。（2020年63.5%）



（人）

	実人数	賛成（そう思う）	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対（そう思わない）	無回答
全体	993	400	303	207	68	15
男性	454	148	132	125	45	4
女性	531	247	169	81	23	11
性別無回答	8	5	2	1	0	0
～20代	74	49	20	4	0	1
30代	98	62	28	5	3	0
40代	153	79	43	23	8	0
50代	181	73	61	34	11	2
60代	212	65	71	62	11	3
70代～	271	71	79	77	35	9
年齢無回答	4	1	1	2	0	0

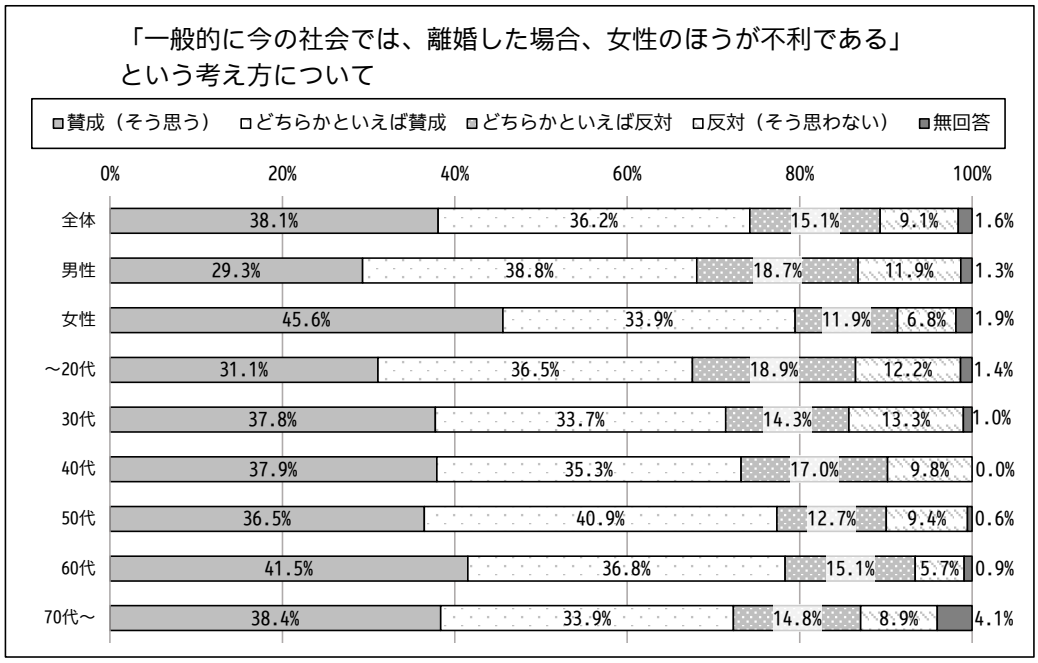
問６－⑤　一般的に今の社会では、離婚した場合、女性のほうが不利である。

【全　体】
「賛成」と回答した割合が38.1％で最も高く、次いで「どちらかといえば賛成」が36.2％、「どちらかといえば反対」が15.1％と続いている。

【性　別】
「賛成」と回答した割合は、男性より女性の方が高い。（男性29.3％、女性45.6％）

【年代別】
「賛成」又は「どちらかといえば賛成」と回答した割合は、20代以下が６割を超え、30代以上の年代は７割を超えている。

【前回調査（2020年）比較】
「賛成」又は「どちらかといえば賛成」と回答した割合は減少している。（2020年77.4％）



（人）

	実人数	賛成（そう思う）	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対（そう思わない）	無回答
全体	993	378	359	150	90	16
男性	454	133	176	85	54	6
女性	531	242	180	63	36	10
性別無回答	8	3	3	2	0	0
～20代	74	23	27	14	9	1
30代	98	37	33	14	13	1
40代	153	58	54	26	15	0
50代	181	66	74	23	17	1
60代	212	88	78	32	12	2
70代～	271	104	92	40	24	11
年齢無回答	4	2	1	1	0	0

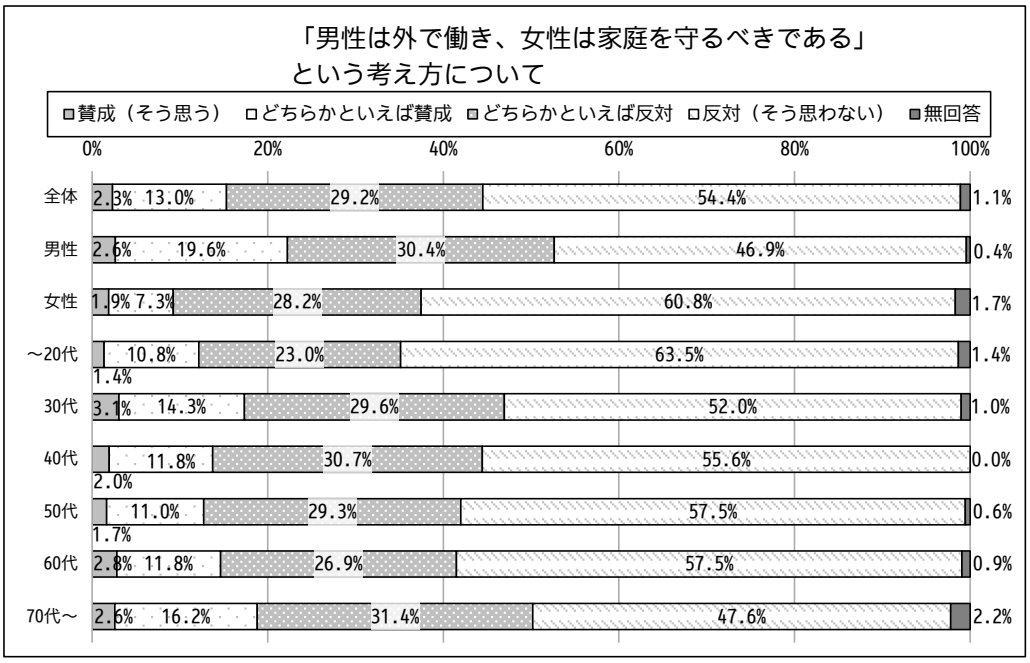
問６－⑥　男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである。

【全　体】
「反対」と回答した割合が54.4％で最も高く、次いで「どちらかといえば反対」が29.2％、「どちらかといえば賛成」が13.0％と続いている。

【性　別】
「反対」又は「どちらかといえば反対」と回答した割合は、男性より女性の方が高い。
（男性77.3％、女性89.0％）

【年代別】
すべての年代で「反対」と回答した割合が最も高い。

【前回調査（2020年）比較】
「反対」又は「どちらかといえば反対」と回答した割合は増加している。
（2020年 81.6％）



（人）

	実人数	賛成（そう思う）	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対（そう思わない）	無回答
全体	993	23	129	290	540	11
男性	454	12	89	138	213	2
女性	531	10	39	150	323	9
性別無回答	8	1	1	2	4	0
～20代	74	1	8	17	47	1
30代	98	3	14	29	51	1
40代	153	3	18	47	85	0
50代	181	3	20	53	104	1
60代	212	6	25	57	122	2
70代～	271	7	44	85	129	6
年齢無回答	4	0	0	2	2	0

２ 人権について

問７ あなたは、次のような人権侵害を受けたり、身近で見聞きしたことがありますか。

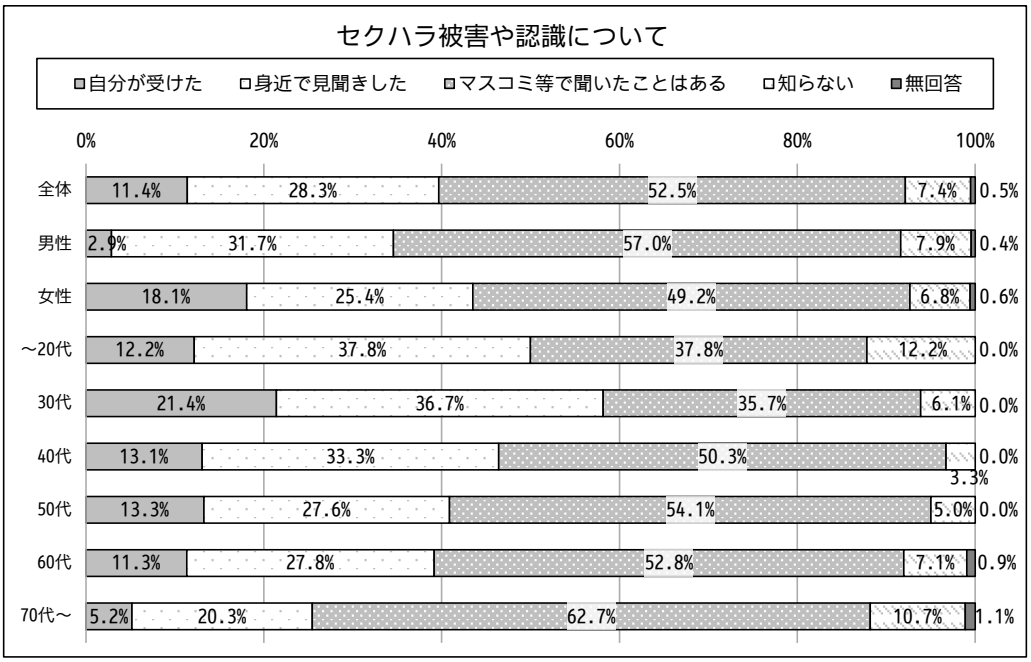
問７－① セクハラ（セクシュアル・ハラスメント）被害や認識について

【全　体】
「マスコミ等で聞いたことはある」と回答した割合が52.5％で最も高く、次いで「身近で見聞きした」が28.3％、「自分が受けた」が11.4％と続いている。

【性　別】
「自分が受けた」と回答した割合は男性より女性の方が高い。（男性2.9％、女性18.1％）

【年代別】
「自分が受けた」と回答した割合は30代で最も高い。

【前回調査（2020年）比較】
「自分が受けた」又は「身近で見聞きした」と回答した割合は増加している。（2020年34.7％）



（人）

	実人数	自分が受けた	身近で見聞きした	マスコミ等で聞いたことはある	知らない	無回答
全体	993	113	281	521	73	5
男性	454	13	144	259	36	2
女性	531	96	135	261	36	3
性別無回答	8	4	2	1	1	0
～20代	74	9	28	28	9	0
30代	98	21	36	35	6	0
40代	153	20	51	77	5	0
50代	181	24	50	98	9	0
60代	212	24	59	112	15	2
70代～	271	14	55	170	29	3
年齢無回答	4	1	2	1	0	0

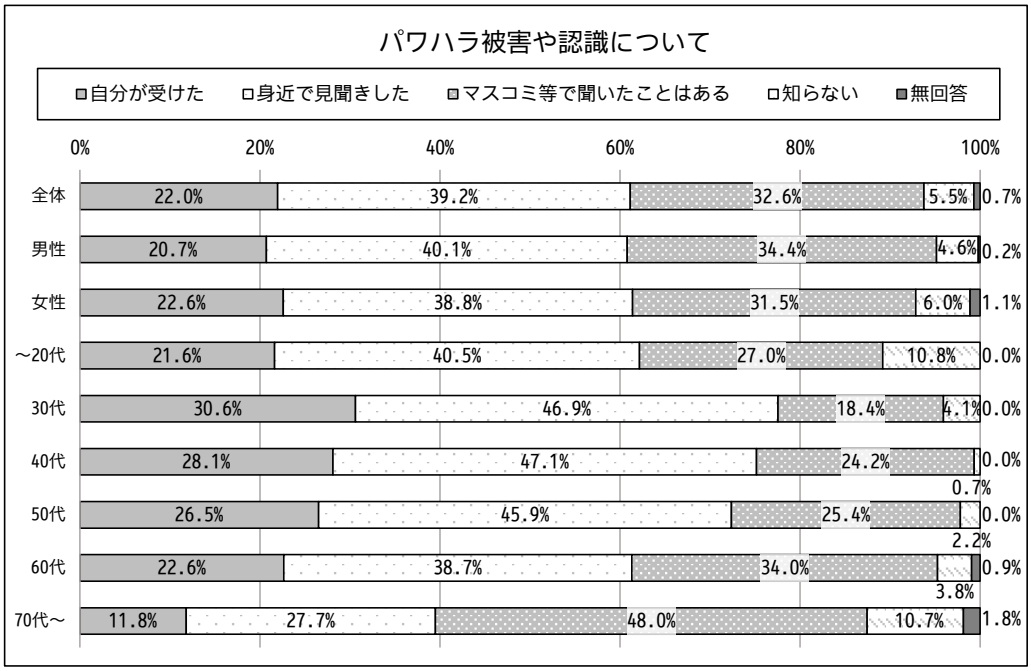
問７－②　パワハラ（パワー・ハラスメント）被害や認識について

【全　体】
「身近で見聞きした」と回答した割合が39.2%で最も高く、次いで「マスコミ等で聞いたことはある」が32.6%、「自分が受けた」が22.0%と続いている。

【性　別】
「自分が受けた」と回答した割合は男性より女性の方が高い。
（男性20.7%、女性22.6%）

【年代別】
「自分が受けた」と回答した割合は60代以下の年代で高い。

【前回調査（2020年）比較】
「自分が受けた」又は「身近で見聞きした」と回答した割合は増加している。（2020年52.8%）



（人）

	実人数	自分が受けた	身近で見聞きした	マスコミ等で聞いたことはある	知らない	無回答
全体	993	218	389	324	55	7
男性	454	94	182	156	21	1
女性	531	120	206	167	32	6
性別無回答	8	4	1	1	2	0
～20代	74	16	30	20	8	0
30代	98	30	46	18	4	0
40代	153	43	72	37	1	0
50代	181	48	83	46	4	0
60代	212	48	82	72	8	2
70代～	271	32	75	130	29	5
年齢無回答	4	1	1	1	1	0

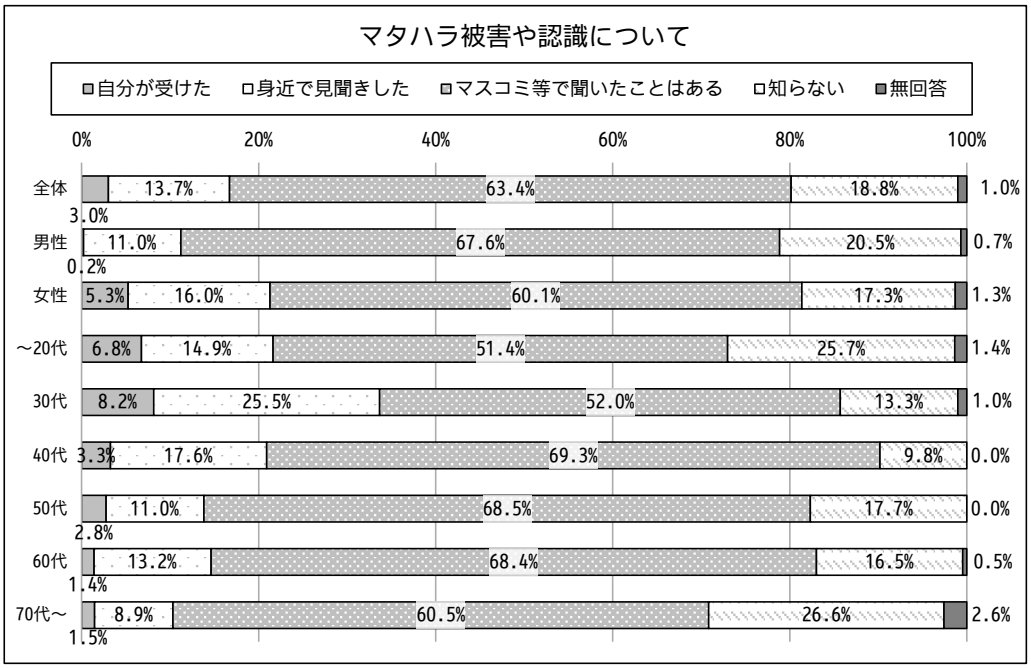
問７－③　マタハラ（マタニティ・ハラスメント）被害や認識について

【全　体】
「マスコミ等で聞いたことはある」と回答した割合が63.4％で最も高く、次いで「知らない」が18.8％、「身近で見聞きした」が13.7％と続いている。

【性　別】
「自分が受けた」と回答した割合は男性より女性の方が高い。（男性0.2％、女性5.3％）

【年代別】
「自分が受けた」「身近で見聞きした」と回答した割合は30代が最も高い。

【前回調査（2020年）比較】
「自分が受けた」又は「身近で見聞きした」と回答した割合は増加している。（2020年14.7％）



（人）

	実人数	自分が受けた	身近で見聞きした	マスコミ等で聞いたことはある	知らない	無回答
全体	993	30	136	630	187	10
男性	454	1	50	307	93	3
女性	531	28	85	319	92	7
性別無回答	8	1	1	4	2	0
～20代	74	5	11	38	19	1
30代	98	8	25	51	13	1
40代	153	5	27	106	15	0
50代	181	5	20	124	32	0
60代	212	3	28	145	35	1
70代～	271	4	24	164	72	7
年齢無回答	4	0	1	2	1	0

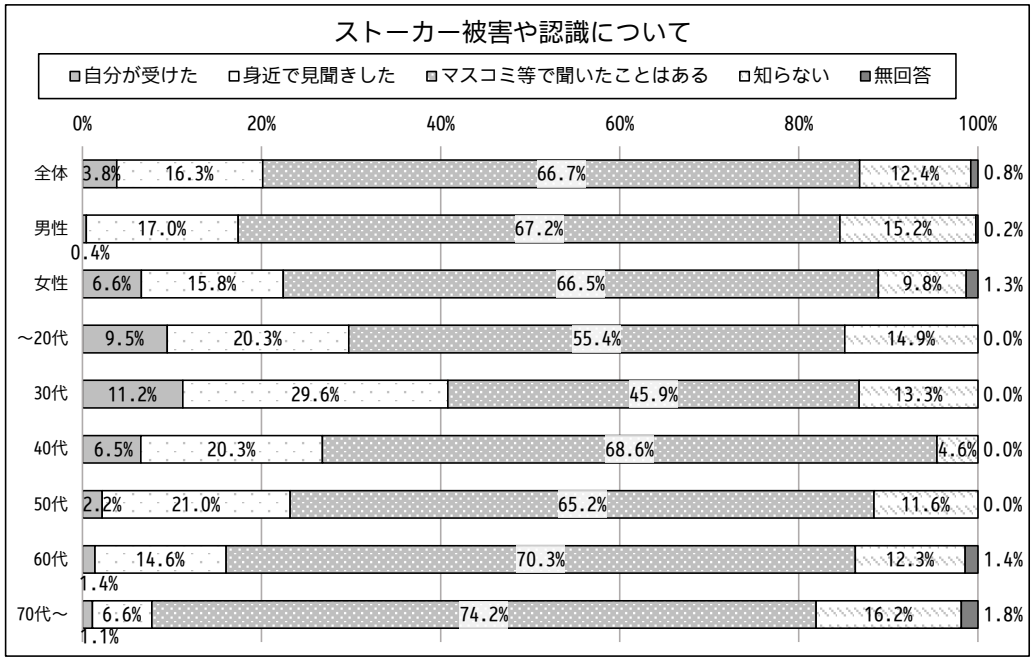
問７－④　ストーカー被害や認識について

【全　体】
「マスコミ等で聞いたことはある」と回答した割合が66.7％で最も高く、次いで「身近で見聞きした」が16.3％と続いている。

【性　別】
「自分が受けた」と回答した割合は男性より女性の方が高い。（男性0.4％、女性6.6％）

【年代別】
「自分が受けた」と回答した割合は30代が最も高い。

【前回調査（2020年）比較】
「自分が受けた」又は「身近で見聞きした」と回答した割合は増加している。（2020年17.0％）



（人）

	実人数	自分が受けた	身近で見聞きした	マスコミ等で聞いたことはある	知らない	無回答
全体	993	38	162	662	123	8
男性	454	2	77	305	69	1
女性	531	35	84	353	52	7
性別無回答	8	1	1	4	2	0
～20代	74	7	15	41	11	0
30代	98	11	29	45	13	0
40代	153	10	31	105	7	0
50代	181	4	38	118	21	0
60代	212	3	31	149	26	3
70代～	271	3	18	201	44	5
年齢無回答	4	0	0	3	1	0

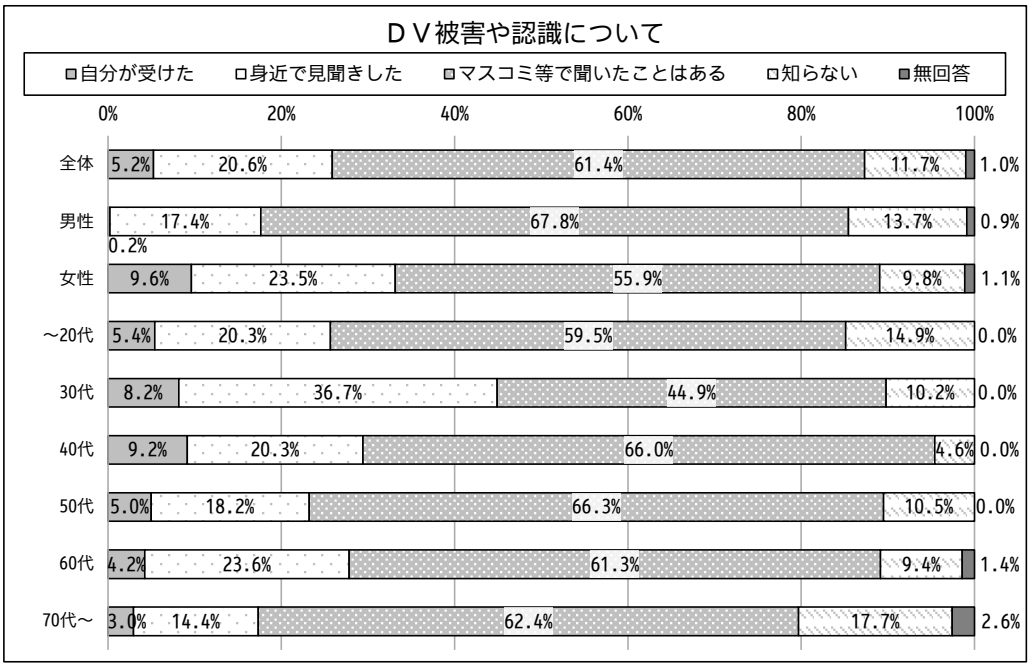
問７－⑤　ＤＶ（ドメスティック・バイオレンス）被害や認識について

【全　体】
「マスコミ等で聞いたことはある」と回答した割合が61.4％で最も高く、次いで「身近で見聞きした」が20.6％と続いている。

【性　別】
「自分が受けた」と回答した割合は男性より女性の方が高い。（男性0.2％、女性9.6％）

【年代別】
「自分が受けた」と回答した割合は40代が最も高い。

【前回調査（2020年）比較】
「自分が受けた」と回答した割合は増加している。（2020年 3.7％）



（人）

	実人数	自分が受けた	身近で見聞きした	マスコミ等で聞いたことはある	知らない	無回答
全体	993	52	205	610	116	10
男性	454	1	79	308	62	4
女性	531	51	125	297	52	6
性別無回答	8	0	1	5	2	0
～20代	74	4	15	44	11	0
30代	98	8	36	44	10	0
40代	153	14	31	101	7	0
50代	181	9	33	120	19	0
60代	212	9	50	130	20	3
70代～	271	8	39	169	48	7
年齢無回答	4	0	1	2	1	0

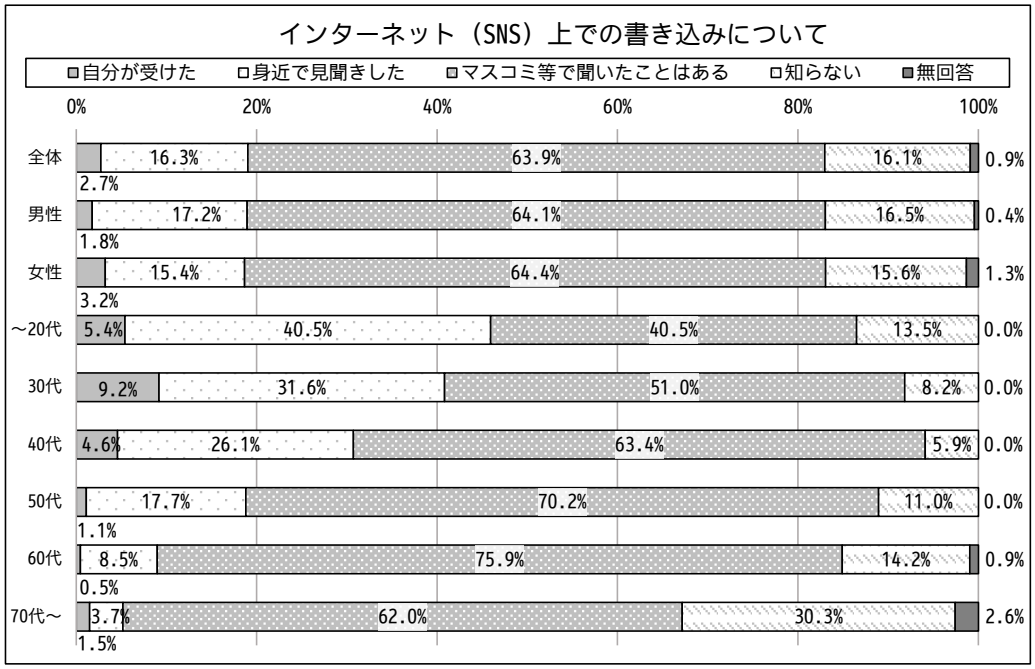
問７－⑥　インターネット（SNS）上での書き込み被害や認識について

【全　体】
「マスコミ等で聞いたことはある」と回答した割合が63.9％で最も高く、次いで「身近で見聞きした」が16.3％と続いている。

【性　別】
「自分が受けた」と回答した割合は男性より女性の方が高い。（男性1.8％、女性3.2％）

【年代別】
「自分が受けた」と回答した割合は30代が最も高い。

【前回調査（2020年）比較】
2024年度新規調査項目



（人）

	実人数	自分が受けた	身近で見聞きした	マスコミ等で聞いたことはある	知らない	無回答
全体	993	27	162	635	160	9
男性	454	8	78	291	75	2
女性	531	17	82	342	83	7
性別無回答	8	2	2	2	2	0
～20代	74	4	30	30	10	0
30代	98	9	31	50	8	0
40代	153	7	40	97	9	0
50代	181	2	32	127	20	0
60代	212	1	18	161	30	2
70代～	271	4	10	168	82	7
年齢無回答	4	0	1	2	1	0

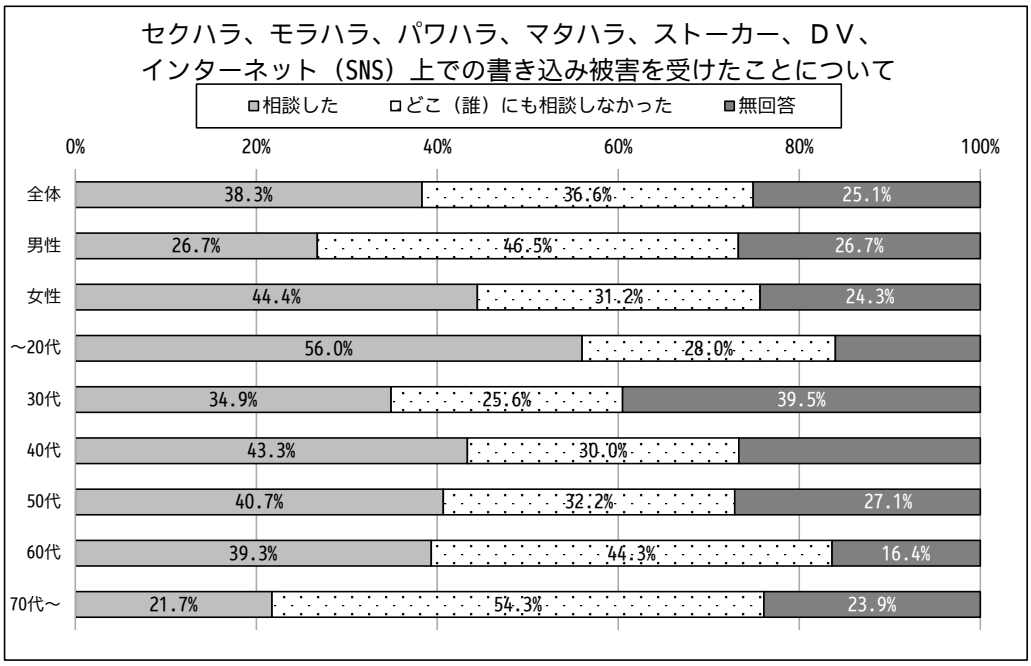
問８　問７で「自分が受けた」と答えた方へ。あなたはそのことを誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。

【全　体】
「相談した」「どこ（誰）にも相談しなかった」と回答した割合は同程度となっている。

【性　別】
「相談した」と回答した割合は男性より女性の方が高い。（男性26.7%、女性44.4%）

【年代別】
「相談した」と回答した割合は20代以下で５割を超えている一方、70代以上では「どこ（誰）にも相談しなかった」と回答した割合が５割を超えている。

【前回調査（2020年）比較】
「相談した」と回答した割合は増加している。（2020年 41.5%）



（人）

	実人数	相談した	どこ（誰）にも相談しなかった	無回答
全体	295	113	108	74
男性	101	27	47	27
女性	189	84	59	46
性別無回答	5	2	2	1
～20代	25	14	7	4
30代	43	15	11	17
40代	60	26	18	16
50代	59	24	19	16
60代	61	24	27	10
70代～	46	10	25	11
年齢無回答	1	0	1	0

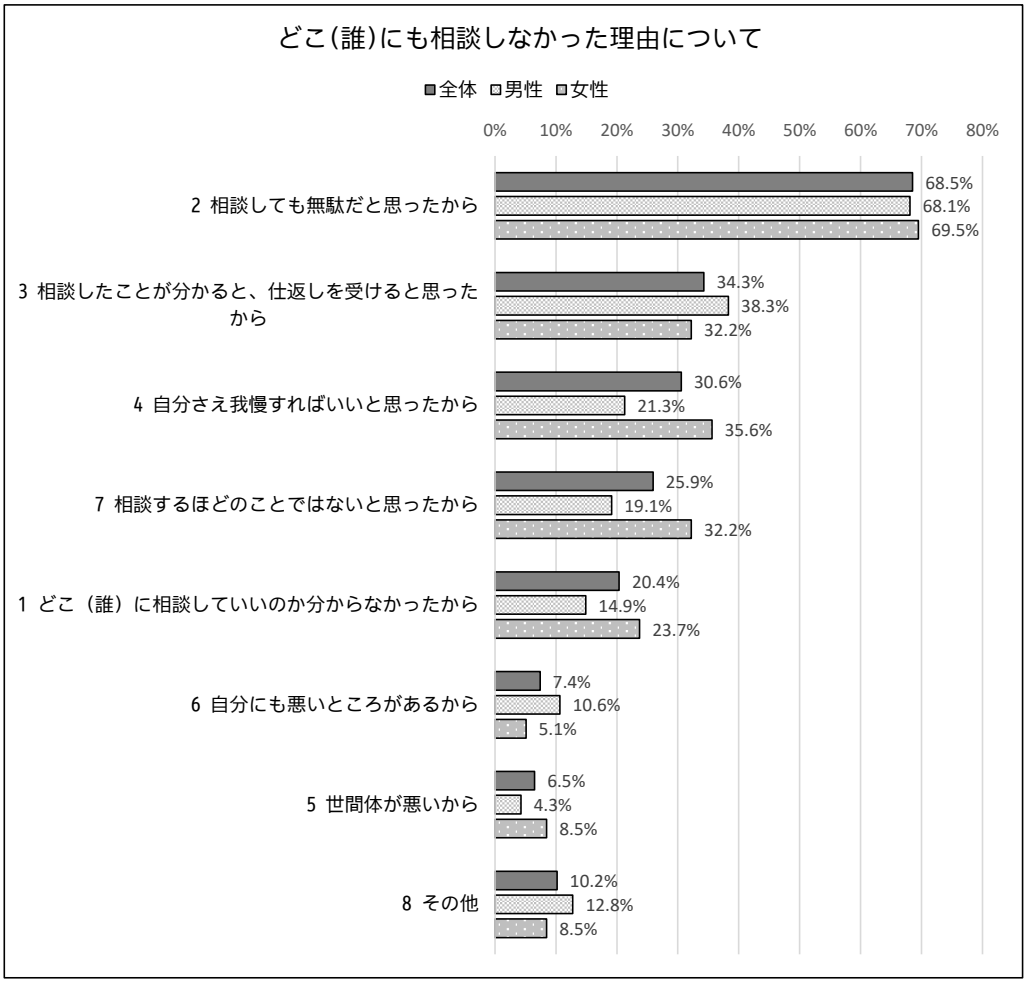
問９　問７で「２.どこ（誰）にも相談しなかった」と答えた方へ。
どこ（誰）にも相談しなかったのはなぜですか。【複数回答】

【全　体】
「2 相談しても無駄だと思ったから」と回答した割合が33.6%で最も高く、次いで「3 相談したことがわかると、仕返しを受けると思ったから」が16.8%、「4 自分さえ我慢すればいいと思ったから」が15.0%と続いている。

【性　別】
男女とも「2 相談しても無駄だと思ったから」と回答した割合が最も高い。

【年代別】
すべての年代で「2 相談しても無駄だと思ったから」と回答した割合が最も高い。

【前回調査（2020年）比較】
「1 どこ（誰）に相談していいのかわからなかった」「2 相談しても無駄だと思ったから」「4 自分さえ我慢すればいいと思ったから」「6 自分にも悪いところがあるから」と回答した割合は減少したが、「3 相談したことがわかると、仕返しを受けると思ったから」と回答した割合は増加している。



（上段:人）

	回答実人数	回答総数	1.どこへ(誰)に相談していいのか分からなかったから	2.相談しても無駄だと思ったから	3.相談したことが分かると、仕返しを受けると思ったから	4.自分さえ我慢すればいいと思ったから	5.世間体が悪いから	6.自分にも悪いところがあるから	7.相談するほどのことではないと思ったから	8.その他
全体	108	220	22 20.4%	74 68.5%	37 34.3%	33 30.6%	7 6.5%	8 7.4%	28 25.9%	11 10.2%
男性	47	89	7 14.9%	32 68.1%	18 38.3%	10 21.3%	2 4.3%	5 10.6%	9 19.1%	6 12.8%
女性	59	127	14 23.7%	41 69.5%	19 32.2%	21 35.6%	5 8.5%	3 5.1%	19 32.2%	5 8.5%
性別無回答	2	4	1 50.0%	1 50.0%	0 0.0%	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
～20代	7	16	2 28.6%	4 57.1%	2 28.6%	4 57.1%	0 0.0%	1 14.3%	2 28.6%	1 14.3%
30代	11	15	2 18.2%	5 45.5%	3 27.3%	0 0.0%	1 9.1%	0 0.0%	3 27.3%	1 9.1%
40代	18	40	3 16.7%	15 83.3%	6 33.3%	6 33.3%	2 11.1%	0 0.0%	7 38.9%	1 5.6%
50代	19	47	4 21.1%	15 78.9%	11 57.9%	8 42.1%	2 10.5%	2 10.5%	3 15.8%	2 10.5%
60代	27	53	3 11.1%	22 81.5%	8 29.6%	8 29.6%	0 0.0%	1 3.7%	6 22.2%	5 18.5%
70代～	25	46	7 28.0%	12 48.0%	7 28.0%	6 24.0%	2 8.0%	4 16.0%	7 28.0%	1 4.0%
年齢無回答	1	3	1 100.0%	1 100.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%

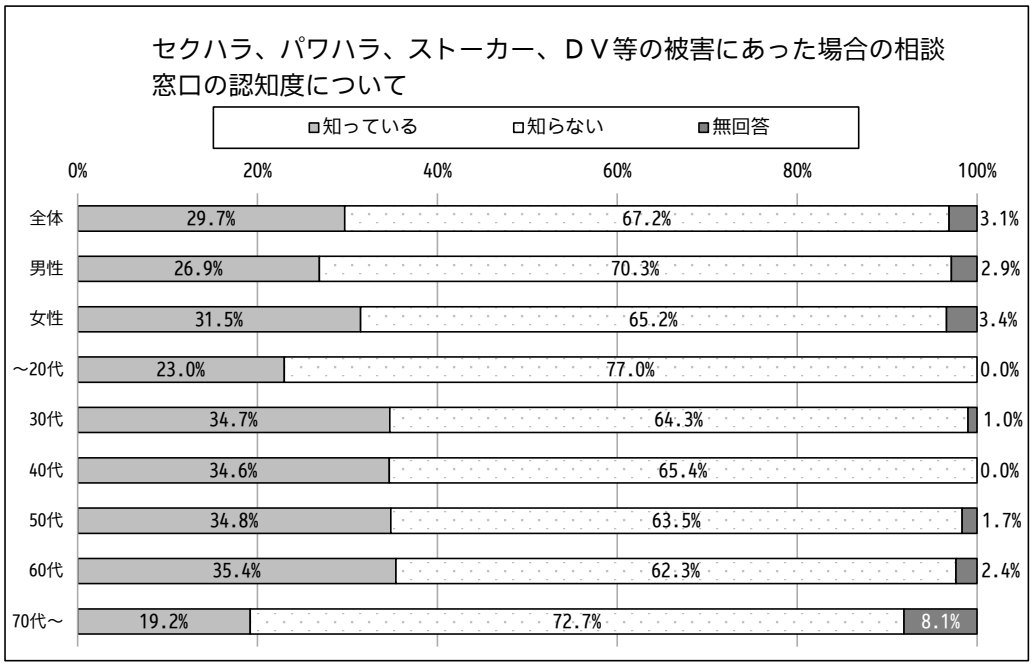
問１０　あなたは、セクハラ、パワハラ、ストーカー、ＤＶ、インターネット（SNS）上での書き込み等の被害にあったときの相談窓口をご存知ですか。

【全　体】
「知らない」と回答した割合が67.2%、「知っている」が29.7%となっている。

【性　別】
男女とも約７割が「知らない」と回答している。

【年代別】
すべての年代で「知らない」と回答した割合の方が高い。

【前回調査（2020年）比較】
「知っている」と回答した割合は増加している。（2020年 28.3%）



（人）

	実人数	知っている	知らない	無回答
全体	993	295	667	31
男性	454	122	319	13
女性	531	167	346	18
性別無回答	8	6	2	0
～20代	74	17	57	0
30代	98	34	63	1
40代	153	53	100	0
50代	181	63	115	3
60代	212	75	132	5
70代～	271	52	197	22
年齢無回答	4	1	3	0

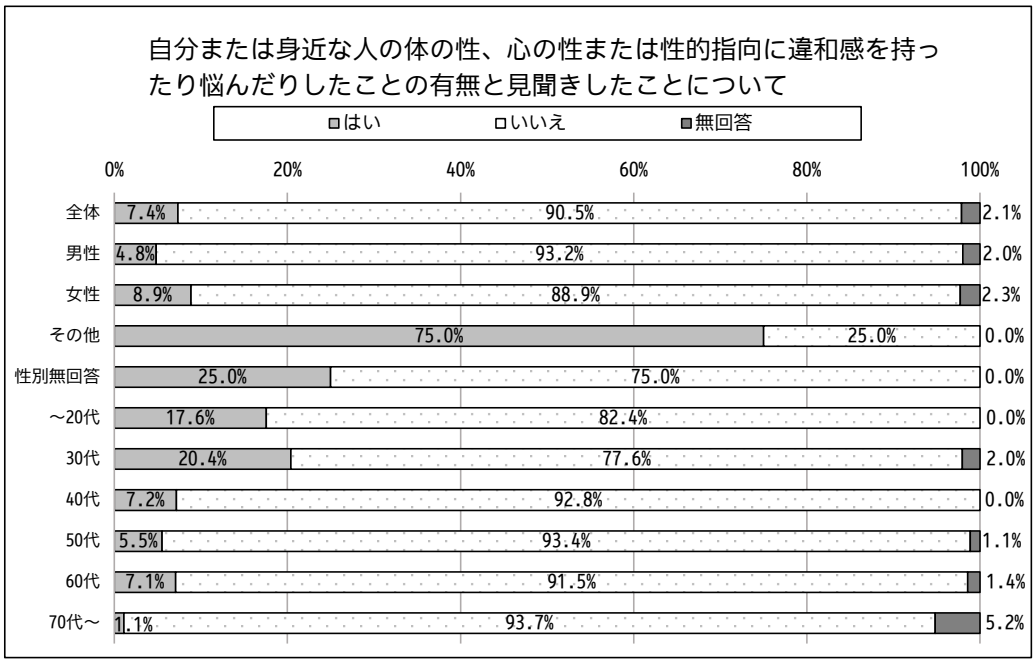
問１１　あなたは、今までに自分の体の性、心の性または性的指向に違和感を持ったり悩んだりしたことがありますか。また、身近に悩んでいる方を見たり、悩んでいることを聞いたりしましたか。

【全　体】
「はい」と回答した割合が7.4%、「いいえ」が90.5%となっている。

【性　別】
「はい」と回答した割合は男性より女性の方が高い。（男性4.8%、女性8.9%）

【年代別】
30代以下で「はい」と回答した割合が２割程度と若い年代で悩んだ経験や悩んでいる方を見聞きしている。

【前回調査（2020年）比較】
2024年度新規調査項目



（人）

	実人数	はい	いいえ	無回答
全体	993	73	899	21
男性	454	22	423	9
女性	531	47	472	12
その他	4	3	1	0
性別無回答	4	1	3	0
～20代	74	13	61	0
30代	98	20	76	2
40代	153	11	142	0
50代	181	10	169	2
60代	212	15	194	3
70代～	271	3	254	14
年齢無回答	4	1	3	0

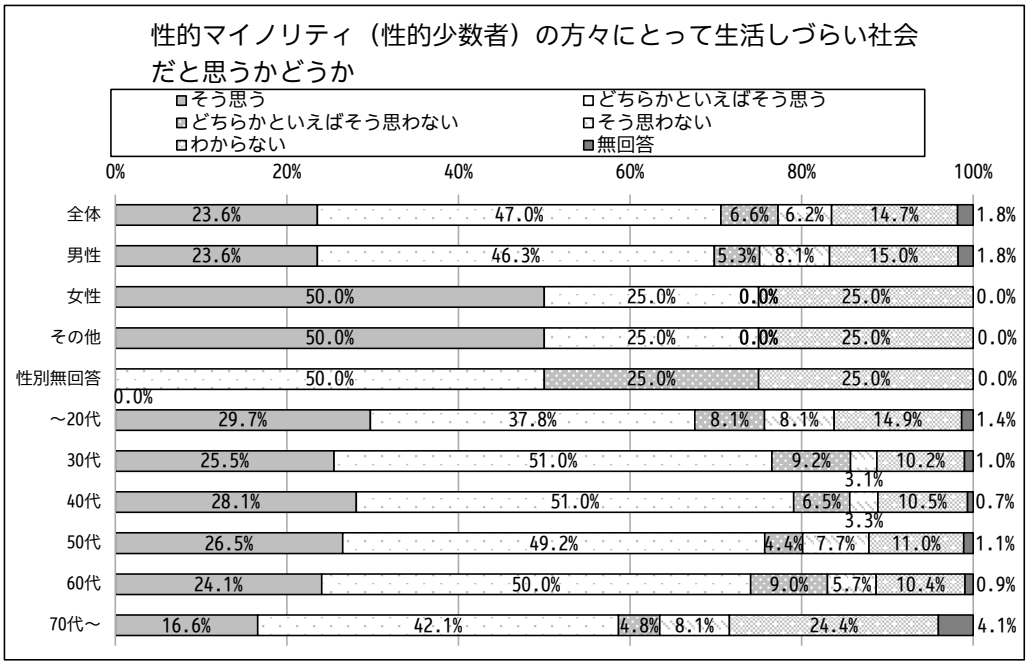
問１２　現在、性的マイノリティ（性的少数者）の方々にとって、偏見や差別などにより、生活しづらい社会だと思いますか。

【全　体】
「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、70.6%となっている。

【性　別】
「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、男女で大きな差はみられない。（男性69.9%、女性71.3%）

【年代別】
すべての年代で「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答した割合が５割を超えている。

【前回調査（2020年）比較】
2024年度新規調査項目



（人）

	実人数	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない	無回答
全体	993	234	467	66	62	146	18
男性	454	107	210	24	37	68	8
女性	531	125	254	41	25	76	10
その他	4	2	1	0	0	1	0
性別無回答	4	0	2	1	0	1	0
～20代	74	22	28	6	6	11	1
30代	98	25	50	9	3	10	1
40代	153	43	78	10	5	16	1
50代	181	48	89	8	14	20	2
60代	212	51	106	19	12	22	2
70代～	271	45	114	13	22	66	11
年齢無回答	4	0	2	1	0	1	0

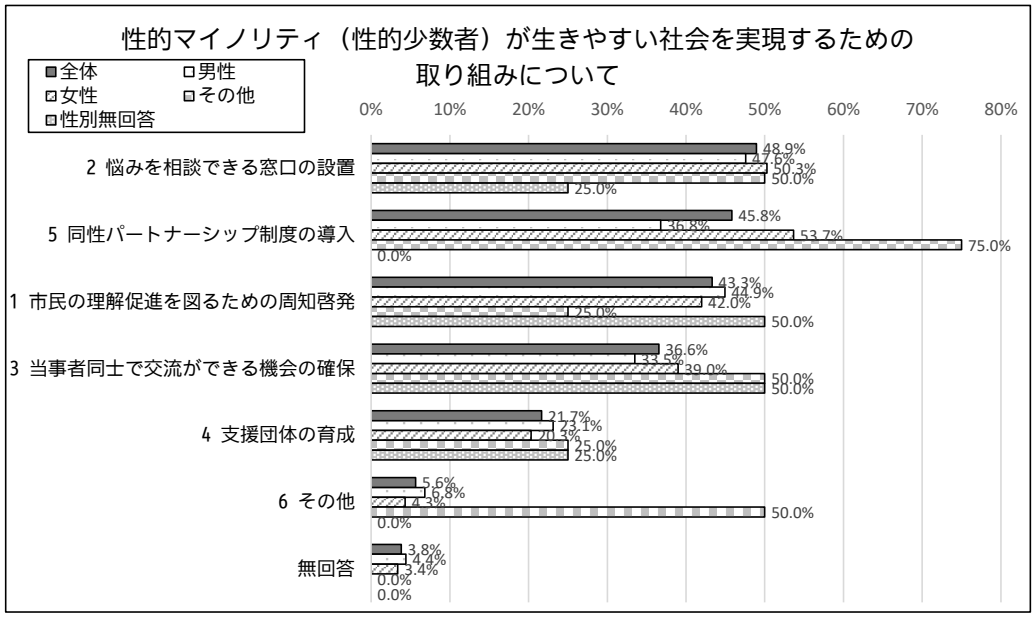
問１３ 性的マイノリティ（性的少数者）の方々が生きやすい社会を実現するために、あなたはどのような取り組みが必要だと思いますか。【複数回答】

【全　体】
「2 悩みを相談できる窓口の設置」と回答した割合が48.9%で最も高く、次いで「5 同性パートナーシップ制度の導入」が45.8%、「1 市民の理解促進を図るための周知啓発」が43.3%と続いている。

【性　別】
男性では、「2 悩みを相談できる窓口の設置」が47.6%、「1 市民の理解促進を図るための周知啓発」が44.9%と高い割合になっている。
女性では、「5 同性パートナーシップ制度の導入」が53.7%と最も高く、次いで「2 悩みを相談できる窓口の設置」が50.3%となっている。

【年代別】
50代以下の年代では、「5 同性パートナーシップ制度の導入」と回答した割合が最も高く、60代以上での年代では、「2 悩みを相談できる窓口の設置」と回答した割合が最も高い。

【前回調査（2020年）比較】
前回調査では、「1 市民の理解促進を図るための周知啓発」と回答した割合が最も高く、次いで「2 悩みを相談できる窓口の設置」、「5 同性パートナーシップ制度の導入」と順番が変わったものの、上位３項目は変わらず回答割合が高い。



（上段：人）

	回答実人数	回答総数	1. 市民の理解促進を図るための周知啓発	2. 悩みを相談できる窓口の設置	3. 当事者同士で交流ができる機会の確保	4. 支援団体の育成	5. 同性パートナーシップ制度の導入	6. その他	無回答
全体	993	2,043	430 43.3%	486 48.9%	363 36.6%	215 21.7%	455 45.8%	56 5.6%	38 3.8%
男性	454	895	204 44.9%	216 47.6%	152 33.5%	105 23.1%	167 36.8%	31 6.8%	20 4.4%
女性	531	1,131	223 42.0%	267 50.3%	207 39.0%	108 20.3%	285 53.7%	23 4.3%	18 3.4%
その他	4	11	1 25.0%	2 50.0%	2 50.0%	1 25.0%	3 75.0%	2 50.0%	0 0.0%
性別無回答	4	6	2 50.0%	1 25.0%	2 50.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
～20代	74	160	22 29.7%	29 39.2%	43 58.1%	10 13.5%	49 66.2%	7 9.5%	0 0.0%
30代	98	189	29 29.6%	40 40.8%	38 38.8%	14 14.3%	62 63.3%	4 4.1%	2 2.0%
40代	153	341	73 47.7%	63 41.2%	66 43.1%	29 19.0%	95 62.1%	14 9.2%	1 0.7%
50代	181	366	88 48.6%	75 41.4%	60 33.1%	41 22.7%	90 49.7%	10 5.5%	2 1.1%
60代	212	457	95 44.8%	119 56.1%	79 37.3%	60 28.3%	87 41.0%	10 4.7%	7 3.3%
70代～	271	522	121 44.6%	158 58.3%	75 27.7%	60 22.1%	71 26.2%	11 4.1%	26 9.6%
年齢無回答	4	8	2 50.0%	2 50.0%	2 50.0%	1 25.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%

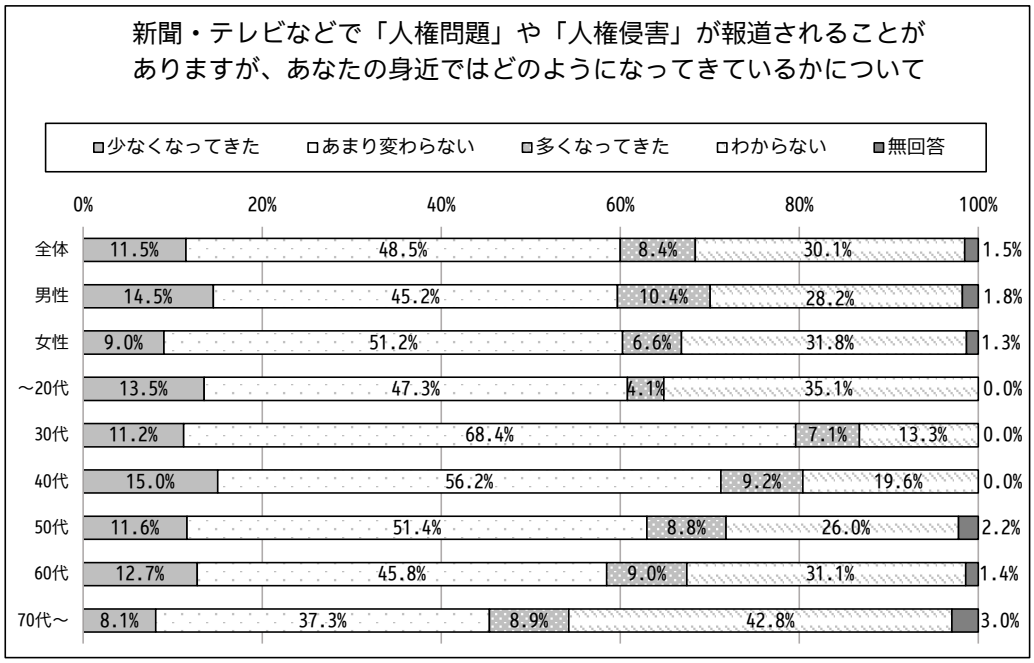
問１４　新聞、テレビなどで「人権問題」や「人権侵害」が報道されることがありますが、
あなたの身近では、どのようになってきていると思いますか。

【全　体】
「あまり変わらない」と回答した割合が48.5%で最も高く、次いで「わからない」が30.1%、「少なくなってきた」が11.5%と続いている。

【性　別】
男女ともに「あまり変わらない」と回答した割合は５割程度となっている。
（男性45.2%、女性51.2%）

【年代別】
60代までは「あまり変わらない」と回答した割合が５割程度であるが、70代以上は４割程度となっている。

【前回調査（2020年）比較】
「あまり変わらない」と回答している割合が増加している。（2020年 40.2%）



（人）

	実人数	少なくなってきた	あまり変わらない	多くなってきた	わからない	無回答
全体	993	114	482	83	299	15
男性	454	66	205	47	128	8
女性	531	48	272	35	169	7
性別無回答	8	0	5	1	2	0
～20代	74	10	35	3	26	0
30代	98	11	67	7	13	0
40代	153	23	86	14	30	0
50代	181	21	93	16	47	4
60代	212	27	97	19	66	3
70代～	271	22	101	24	116	8
年齢無回答	4	0	3	0	1	0

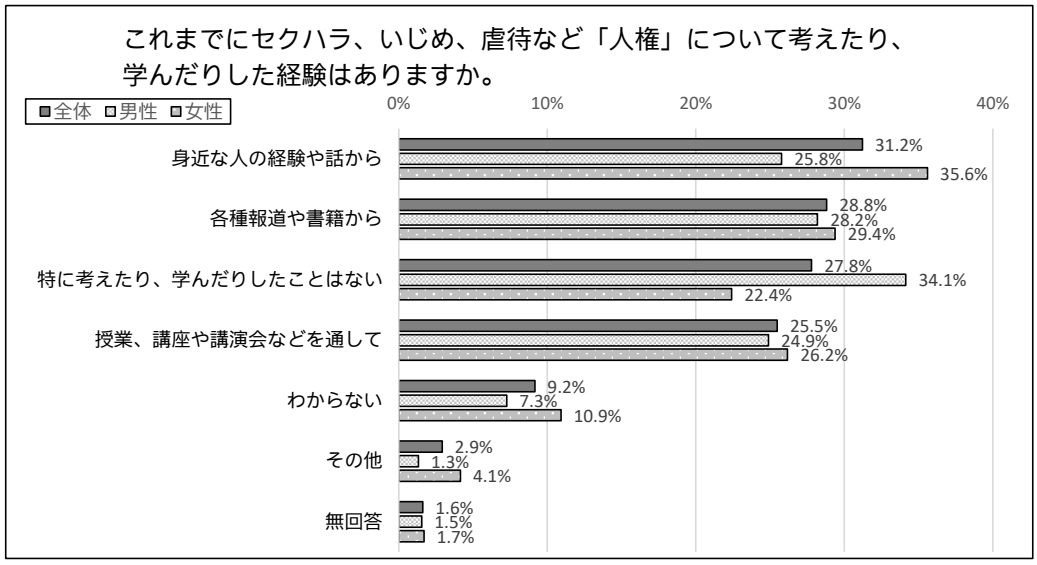
問１５　あなたは、これまでにセクハラ、いじめ、虐待など「人権」について考えたり、学んだりした経験はありますか。【複数回答】

【全　体】
「身近な人の経験や話から」と回答した割合が31.2%で最も高く、次いで「各種報道や書籍から」が28.8%、「特に考えたり、学んだりしたことはない」が27.8%と続いている。

【性　別】
男性は「特に考えたり、学んだりしたことはない」と回答した割合が最も高く、女性と11.7ポイントの差となっている一方、女性は「身近な人の経験や話から」と回答した割合が最も高く、男性と9.8ポイントの差となっている。

【年代別】
20代以下は「授業、講座や講演会などを通して」、30代～40代は「身近な人の経験や話から」、50代～60代は「各種報道や書籍から」、70代以上は「特に考えたり、学んだりしたことはない」と回答した割合が高い。

【前回調査（2020年）比較】
前回調査では、「特に考えたり、学んだりしたことはない」と回答した割合（2020年 29.7%）が最も高かったのに対し、今回調査では「身近な人の経験や話から」と回答した割合が増加している。（2020年 28.0%）



（上段：人）

	回答実人数	回答総数	1.各種報道や書籍から	2.授業、講座や講演会などを通して	3.身近な人の経験や話から	4.特に考えたり、学んだりしたことはない	5.わからない	6.その他	無回答
全体	993	0	286 28.8%	253 25.5%	310 31.2%	276 27.8%	91 9.2%	29 2.9%	16 1.6%
男性	454	1,261	128 28.2%	113 24.9%	117 25.8%	155 34.1%	33 7.3%	6 1.3%	7 1.5%
女性	531	559	156 29.4%	139 26.2%	189 35.6%	119 22.4%	58 10.9%	22 4.1%	9 1.7%
性別無回答	8	692	2 25.0%	1 12.5%	4 50.0%	2 25.0%	0 0.0%	1 12.5%	0 0.0%
～20代	74	10	22 29.7%	36 48.6%	24 32.4%	8 10.8%	7 9.5%	2 2.7%	0 0.0%
30代	98	99	28 28.6%	38 38.8%	55 56.1%	10 10.2%	7 7.1%	5 5.1%	0 0.0%
40代	153	143	38 24.8%	56 36.6%	70 45.8%	25 16.3%	5 3.3%	4 2.6%	0 0.0%
50代	181	198	66 36.5%	55 30.4%	58 32.0%	39 21.5%	8 4.4%	4 2.2%	2 1.1%
60代	212	232	69 32.5%	41 19.3%	51 24.1%	69 32.5%	12 5.7%	11 5.2%	3 1.4%
70代～	271	256	63 23.2%	26 9.6%	51 18.8%	123 45.4%	52 19.2%	3 1.1%	11 4.1%
年齢無回答	4	329	0 0.0%	1 25.0%	1 25.0%	2 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%

問１６　あなたは、次のことが夫婦やパートナーの間で行われた場合、それを暴力だと思いますか。

【全　体】

＜身体的暴力＞

夫婦やパートナー間で行われた場合、それを暴力だと思うかどうかについて、『刃物などを突きつける』が97.1%、『殴る、蹴る、首を絞める』が94.2%、『物を投げつける』が77.1%と、身体的に危害を加えることや危害を加える恐れがあることは、「どんな場合でも暴力にあたる」と思う割合が高い。

＜経済的暴力＞

『生活費を渡さない』が73.5%、『家計を厳しく管理し、金銭的自由を与えない』が62.9%と、経済的に生活の安全・安心を脅かすことは、「どんな場合でも暴力にあたる」と思う割合が高い。

＜精神的暴力＞

『子どもに母親（父親）を非難することを言わせる』が73.4%、『相手が大切にしている物を壊す』が67.8%、『「別れるなら自殺する」などと言う』が61.8%、『大声でどなる』が50.6%、『無視する』が39.9%と、言動や態度で精神的に相手を傷つけることも暴力と思っているが、子どもも含め、相手が大切にしている物を侵害することを、より暴力であると思う割合が高くなっている。

＜社会的暴力＞

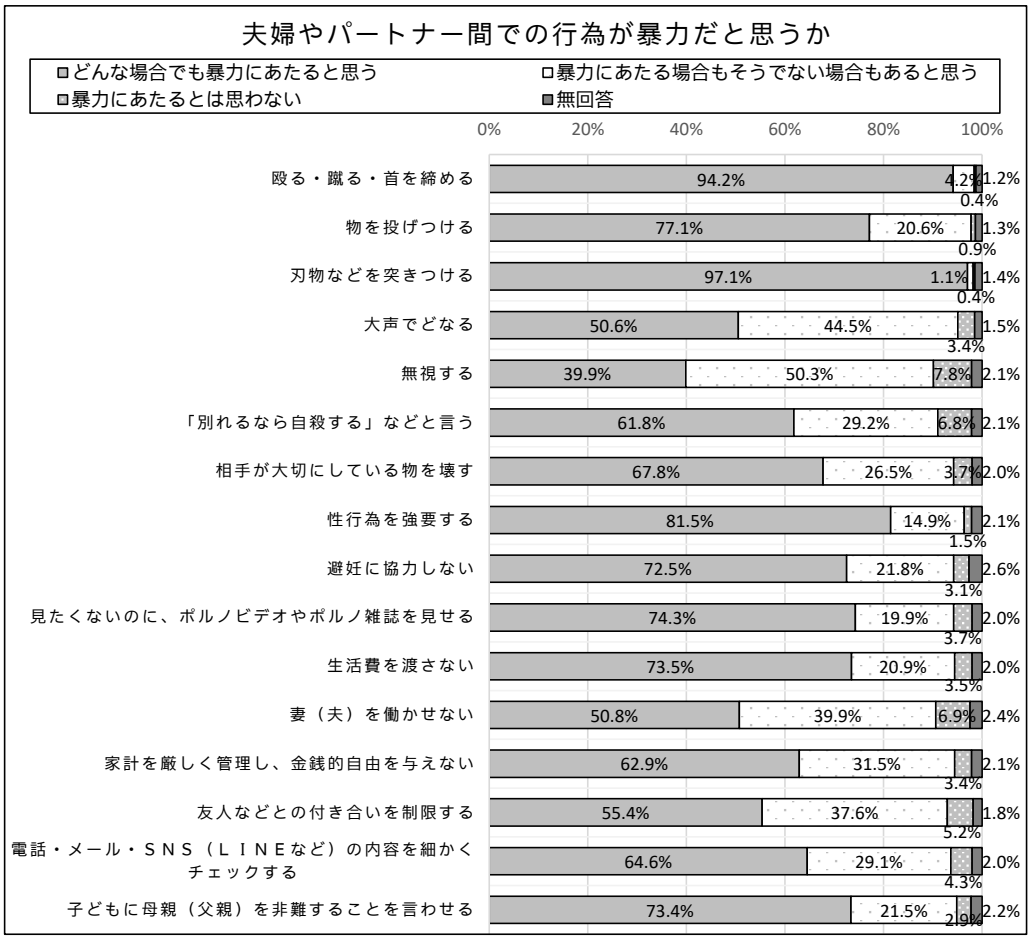
『電話・メール・ＳＮＳ（ＬＩＮＥなど）の内容をチェックする』が64.6%、『友人などとの付き合いを制限する』が55.4%、『妻（夫）を働かせない』が50.8%と、社会生活をする上での人間関係や行動を制限することは、「どんな場合でも暴力にあたる」と思う割合が高い。

＜性的暴力＞

『性行為を強要する』が81.5%、『見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる』が74.3%、『避妊に協力しない』が72.5%と、性的な強制、いやがらせは、「どんな場合でも暴力にあたる」と思う割合が高い。

【前回調査（2020年）比較】

2024年度新規調査項目



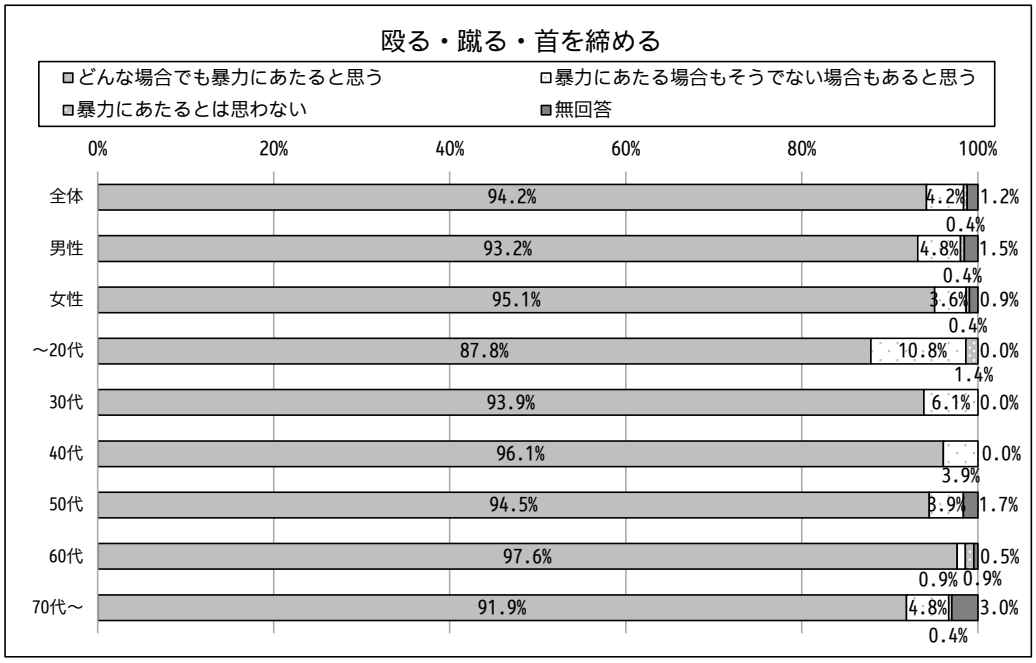
問１６－①　殴る・蹴る・首を締める

【全　体】
「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が94.2%と最も高い。

【性　別】
男女とも「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が高い。

【年代別】
すべての年代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が高い。

【前回調査（2020年）比較】
2024年度新規調査項目



（人）

	実人数	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	無回答
全体	993	935	42	4	12
男性	454	423	22	2	7
女性	531	505	19	2	5
性別無回答	8	7	1	0	0
～20代	74	65	8	1	0
30代	98	92	6	0	0
40代	153	147	6	0	0
50代	181	171	7	0	3
60代	212	207	2	2	1
70代～	271	249	13	1	8
年齢無回答	4	4	0	0	0

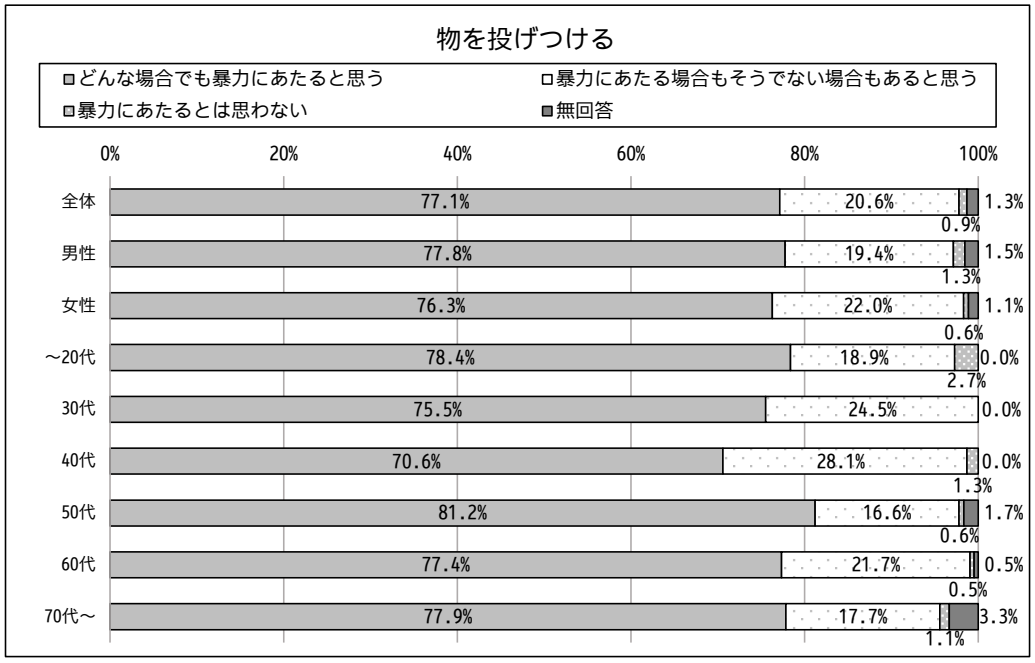
問１６－②　物を投げつける

【全　体】
「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が77.1％と最も高い。

【性　別】
男女とも「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が約８割と高い。

【年代別】
すべての年代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が高いが、40代では「暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う」と回答した割合が３割程度となっている。

【前回調査（2020年）比較】
2024年度新規調査項目



（人）

	実人数	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	無回答
全体	993	766	205	9	13
男性	454	353	88	6	7
女性	531	405	117	3	6
性別無回答	8	8	0	0	0
～20代	74	58	14	2	0
30代	98	74	24	0	0
40代	153	108	43	2	0
50代	181	147	30	1	3
60代	212	164	46	1	1
70代～	271	211	48	3	9
年齢無回答	4	4	0	0	0

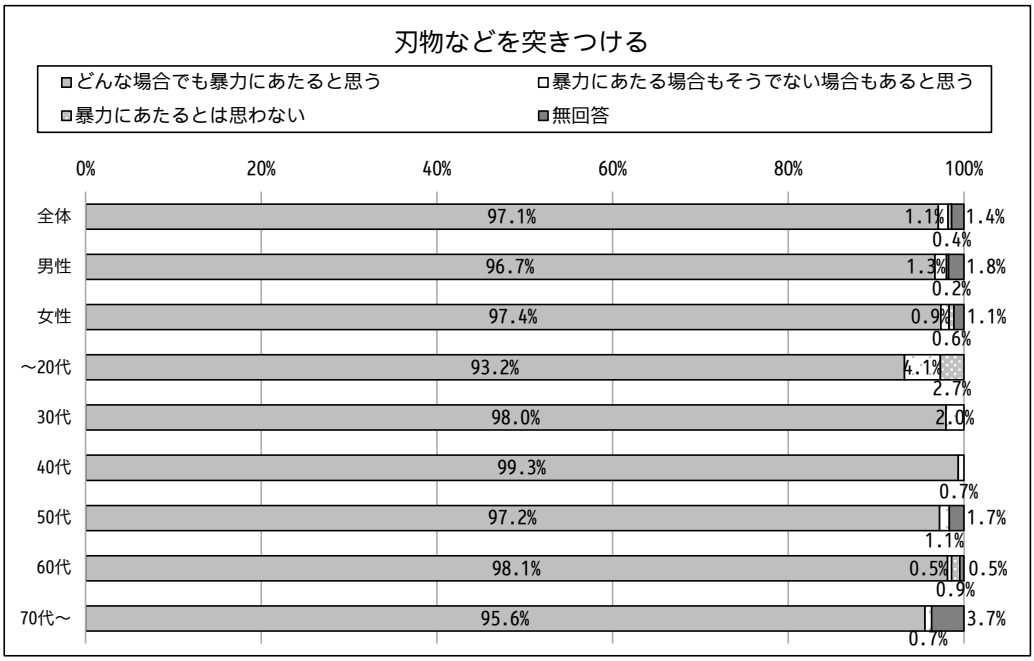
問１６－③　刃物などを突きつける

【全　体】
「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が97.1％で、ほとんどの回答者が「暴力」だと思っている。

【性　別】
男女とも「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が９割と高い。

【年代別】
すべての年代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が高い。

【前回調査（2020年）比較】
2024年度新規調査項目



（人）

	実人数	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	無回答
全体	993	964	11	4	14
男性	454	439	6	1	8
女性	531	517	5	3	6
性別無回答	8	8	0	0	0
～20代	74	69	3	2	0
30代	98	96	2	0	0
40代	153	152	1	0	0
50代	181	176	2	0	3
60代	212	208	1	2	1
70代～	271	259	2	0	10
年齢無回答	4	4	0	0	0

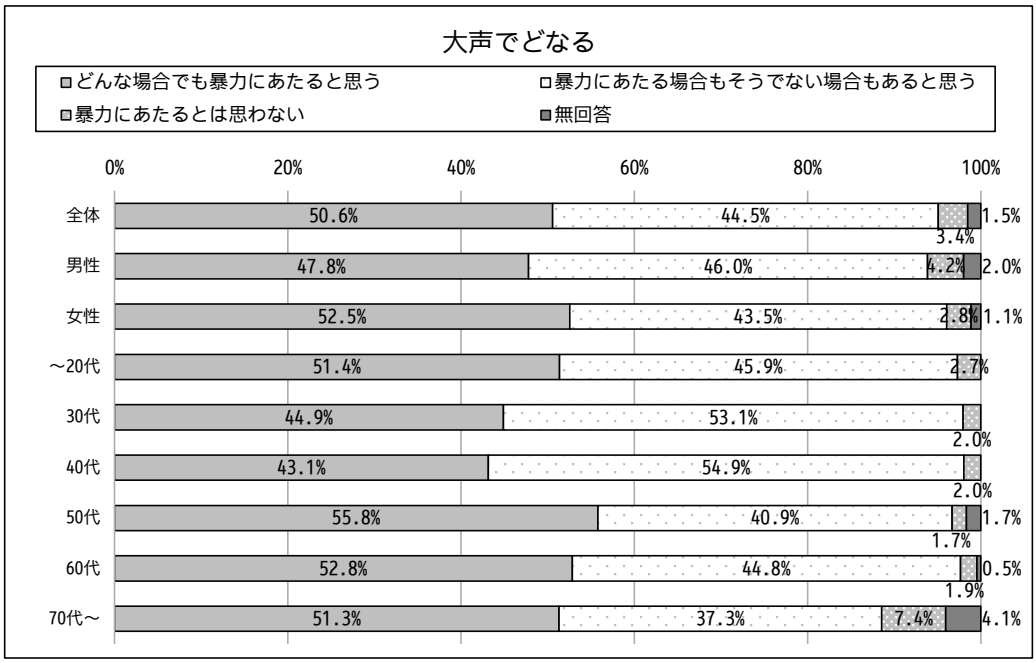
問１６－④　大声でどなる

【全　体】
「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が50.6%で最も高く、「暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う」と回答した割合が44.5%となっている。

【性　別】
「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合は男性より女性の方が高い。
（男性47.8%、女性52.5%）

【年代別】
30～40代では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が高く、20代以下や50代以上では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が高い。

【前回調査（2020年）比較】
2024年度新規調査項目



（人）

	実人数	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	無回答
全体	993	502	442	34	15
男性	454	217	209	19	9
女性	531	279	231	15	6
性別無回答	8	6	2	0	0
～20代	74	38	34	2	0
30代	98	44	52	2	0
40代	153	66	84	3	0
50代	181	101	74	3	3
60代	212	112	95	4	1
70代～	271	139	101	20	11
年齢無回答	4	2	2	0	0

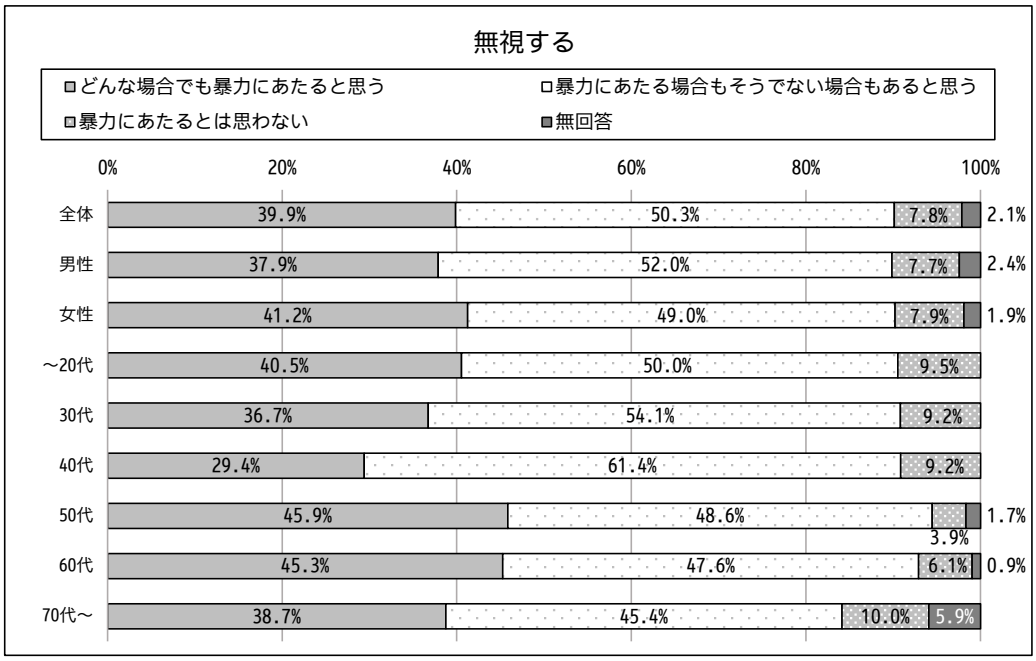
問１６－⑤　無視する

【全　体】
「暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う」と回答した割合が50.3％で最も高く、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が39.9％となっている。

【性　別】
「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合は男性より女性の方が高い。
（男性37.9％、女性41.2％）

【年代別】
40代を除く年代では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が４割程度なのに対し、40代では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が３割とほかの年代に比べて回答した割合が低い。

【前回調査（2020年）比較】
2024年度新規調査項目



（人）

	実人数	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	無回答
全体	993	396	499	77	21
男性	454	172	236	35	11
女性	531	219	260	42	10
性別無回答	8	5	3	0	0
～20代	74	30	37	7	0
30代	98	36	53	9	0
40代	153	45	94	14	0
50代	181	83	88	7	3
60代	212	96	101	13	2
70代～	271	105	123	27	16
年齢無回答	4	1	3	0	0

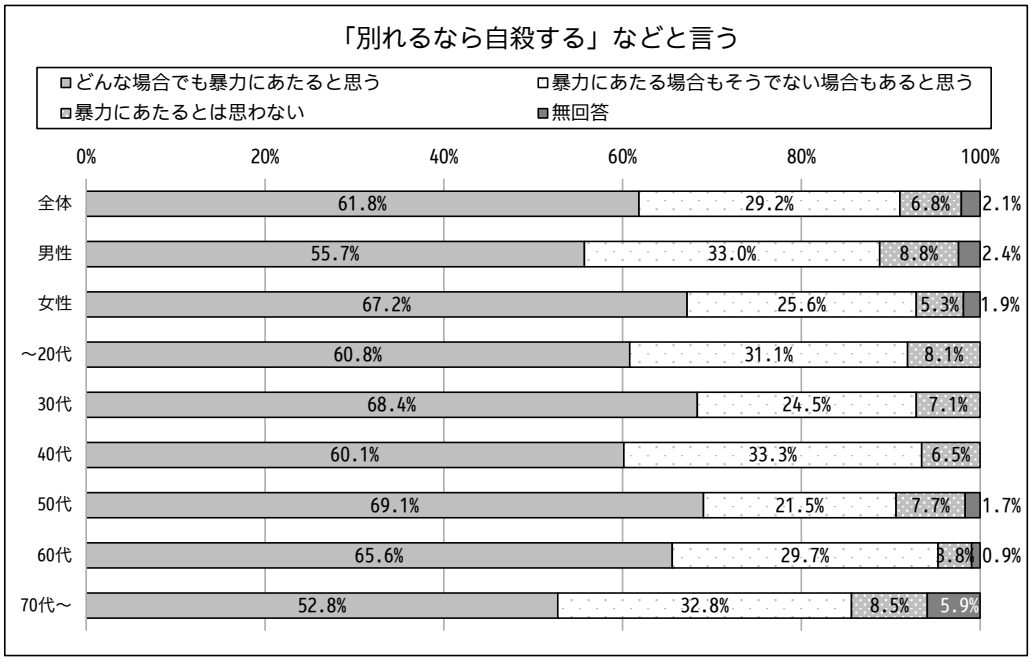
問１６－⑥　「別れるなら自殺する」などと言う

【全　体】
「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が61.8％で最も高く、「暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う」と回答した割合が29.2％となっている。

【性　別】
「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合は男性より女性の方が高い。
（男性55.7％、女性67.2％）

【年代別】
60代以下の年代では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が６割を超え、70代以上では５割と、すべての年代で「暴力」と思う割合が半数以上となっている。

【前回調査（2020年）比較】
2024年度新規調査項目



（人）

	実人数	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	無回答
全体	993	614	290	68	21
男性	454	253	150	40	11
女性	531	357	136	28	10
性別無回答	8	4	4	0	0
～20代	74	45	23	6	0
30代	98	67	24	7	0
40代	153	92	51	10	0
50代	181	125	39	14	3
60代	212	139	63	8	2
70代～	271	143	89	23	16
年齢無回答	4	3	1	0	0

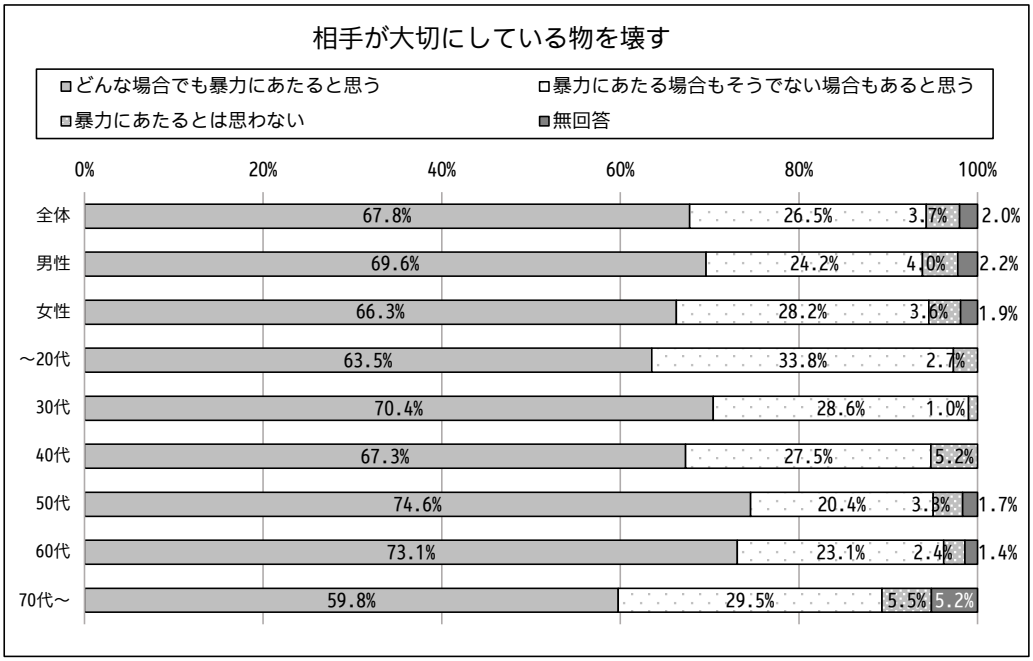
問１６－⑦　相手が大切にしている物を壊す

【全　体】
「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が67.8%で最も高く、「暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う」と回答した割合が26.5%となっている。

【性　別】
「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合は女性より男性の方が高い。
（男性69.6%、女性66.3%）

【年代別】
30代～60代では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が７割と高く、すべての年代で「暴力」と思う割合が半数以上となっている。

【前回調査（2020年）比較】
2024年度新規調査項目



（人）

	実人数	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	無回答
全体	993	673	263	37	20
男性	454	316	110	18	10
女性	531	352	150	19	10
性別無回答	8	5	3	0	0
～20代	74	47	25	2	0
30代	98	69	28	1	0
40代	153	103	42	8	0
50代	181	135	37	6	3
60代	212	155	49	5	3
70代～	271	162	80	15	14
年齢無回答	4	2	2	0	0

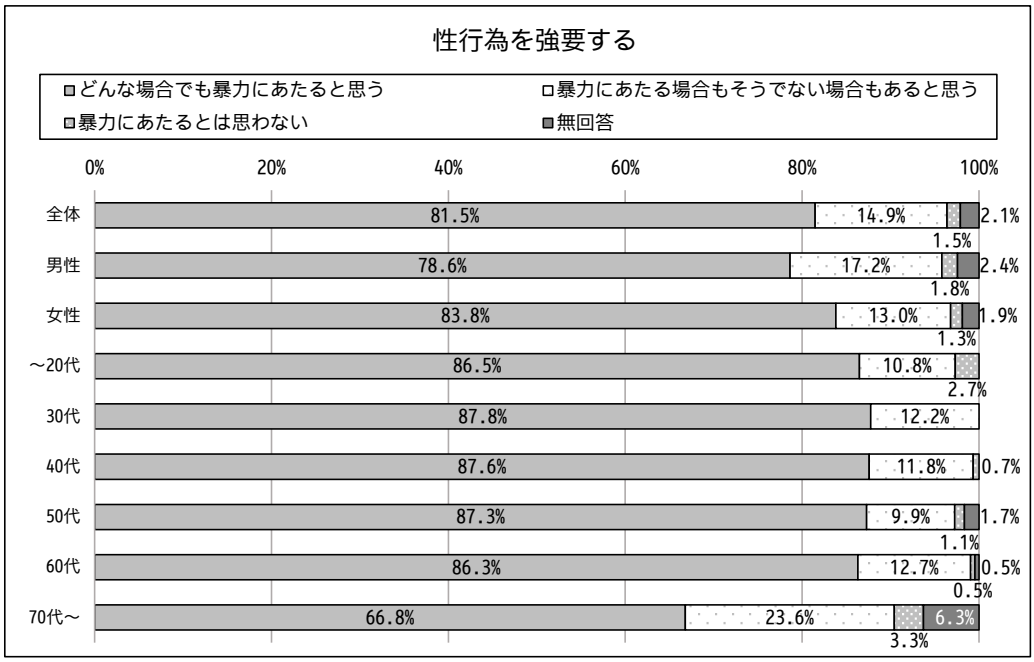
問１６－⑧　性行為を強要する

【全　体】
「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が81.5％と最も高い。

【性　別】
男女とも「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が約８割と高い。

【年代別】
すべての年代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が高い。

【前回調査（2020年）比較】
2024年度新規調査項目



（人）

	実人数	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	無回答
全体	993	809	148	15	21
男性	454	357	78	8	11
女性	531	445	69	7	10
性別無回答	8	7	1	0	0
～20代	74	64	8	2	0
30代	98	86	12	0	0
40代	153	134	18	1	0
50代	181	158	18	2	3
60代	212	183	27	1	1
70代～	271	181	64	9	17
年齢無回答	4	3	1	0	0

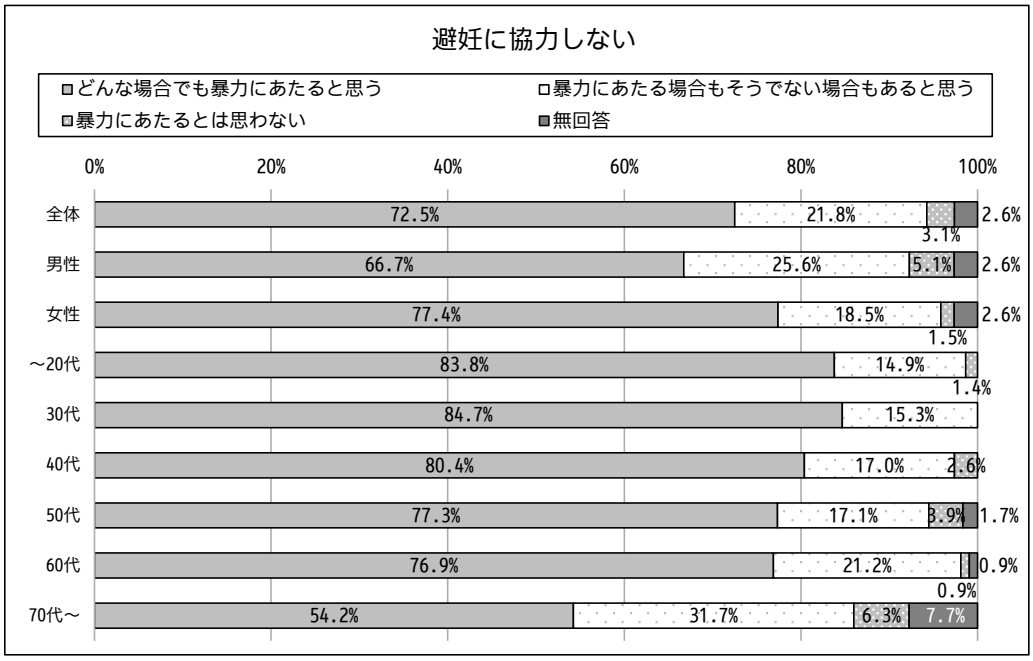
問１６－⑨　避妊に協力しない

【全　体】
「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が72.5％と最も高い。

【性　別】
「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合は男性より女性の方が高い。
（男性66.7％、女性77.4％）

【年代別】
すべての年代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が高く、60代以下では、概ね８割と高い。

【前回調査（2020年）比較】
2024年度新規調査項目



（人）

	実人数	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	無回答
全体	993	720	216	31	26
男性	454	303	116	23	12
女性	531	411	98	8	14
性別無回答	8	6	2	0	0
～20代	74	62	11	1	0
30代	98	83	15	0	0
40代	153	123	26	4	0
50代	181	140	31	7	3
60代	212	163	45	2	2
70代～	271	147	86	17	21
年齢無回答	4	2	2	0	0

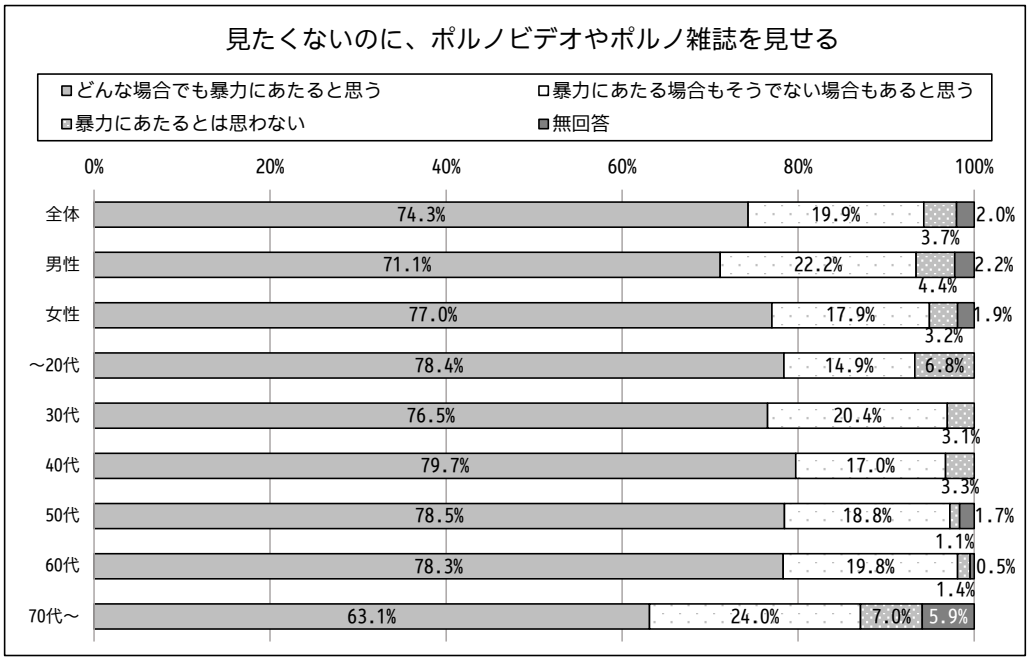
問１６－⑩　見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる

【全　体】
「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が74.3%で最も高く、「暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う」と回答した割合が19.9%となっている。

【性　別】
「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合は男性より女性の方が高い。
（男性71.1%、女性77.0%）

【年代別】
60代以下では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が８割と高く、すべての年代で「暴力」と思う割合が半数以上となっている。

【前回調査（2020年）比較】
2024年度新規調査項目



（人）

	実人数	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	無回答
全体	993	738	198	37	20
男性	454	323	101	20	10
女性	531	409	95	17	10
性別無回答	8	6	2	0	0
～20代	74	58	11	5	0
30代	98	75	20	3	0
40代	153	122	26	5	0
50代	181	142	34	2	3
60代	212	166	42	3	1
70代～	271	171	65	19	16
年齢無回答	4	4	0	0	0

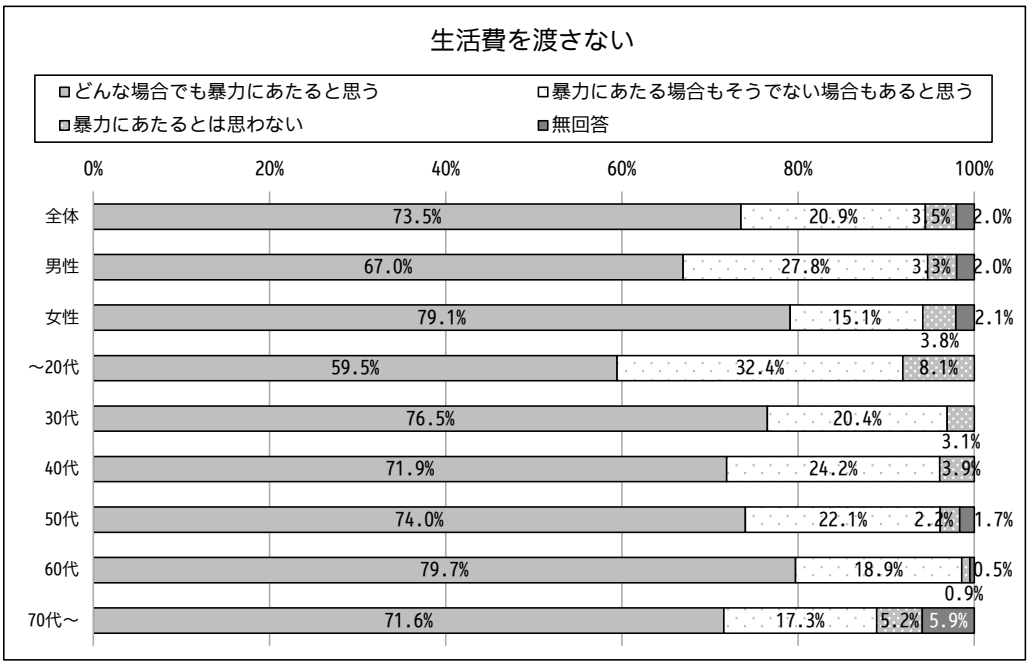
問１６－⑪　生活費を渡さない

【全　体】
「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が73.5%で最も高く、「暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う」と回答した割合が20.9%となっている。

【性　別】
「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合は男性より女性の方が高い。
（男性67.0%、女性79.1%）

【年代別】
60代では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が８割と高く、すべての年代で「暴力」と思う割合が半数以上となっている。

【前回調査（2020年）比較】
2024年度新規調査項目



（人）

	実人数	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	無回答
全体	993	730	208	35	20
男性	454	304	126	15	9
女性	531	420	80	20	11
性別無回答	8	6	2	0	0
～20代	74	44	24	6	0
30代	98	75	20	3	0
40代	153	110	37	6	0
50代	181	134	40	4	3
60代	212	169	40	2	1
70代～	271	194	47	14	16
年齢無回答	4	4	0	0	0

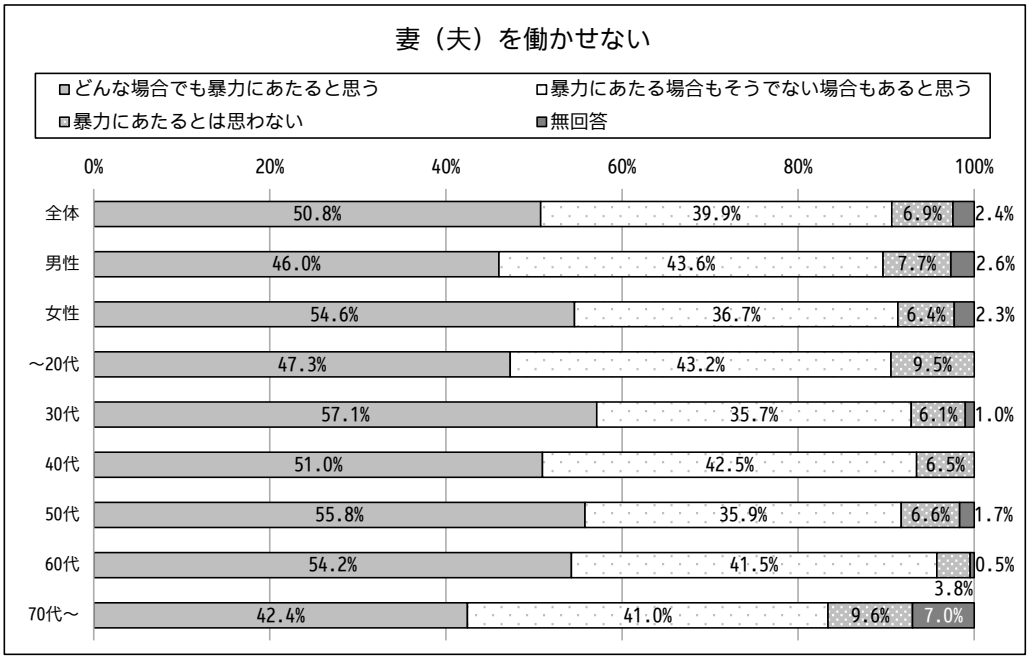
問１６－⑫　妻（夫）を働かせない

【全　体】
「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が50.8%で最も高く、「暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う」と回答した割合が39.9%となっている。

【性　別】
「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合は男性より女性の方が高い。
（男性46.0%、女性54.6%）

【年代別】
30代では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が高い。

【前回調査（2020年）比較】
2024年度新規調査項目



（人）

	実人数	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	無回答
全体	993	504	396	69	24
男性	454	209	198	35	12
女性	531	290	195	34	12
性別無回答	8	5	3	0	0
～20代	74	35	32	7	0
30代	98	56	35	6	1
40代	153	78	65	10	0
50代	181	101	65	12	3
60代	212	115	88	8	1
70代～	271	115	111	26	19
年齢無回答	4	4	0	0	0

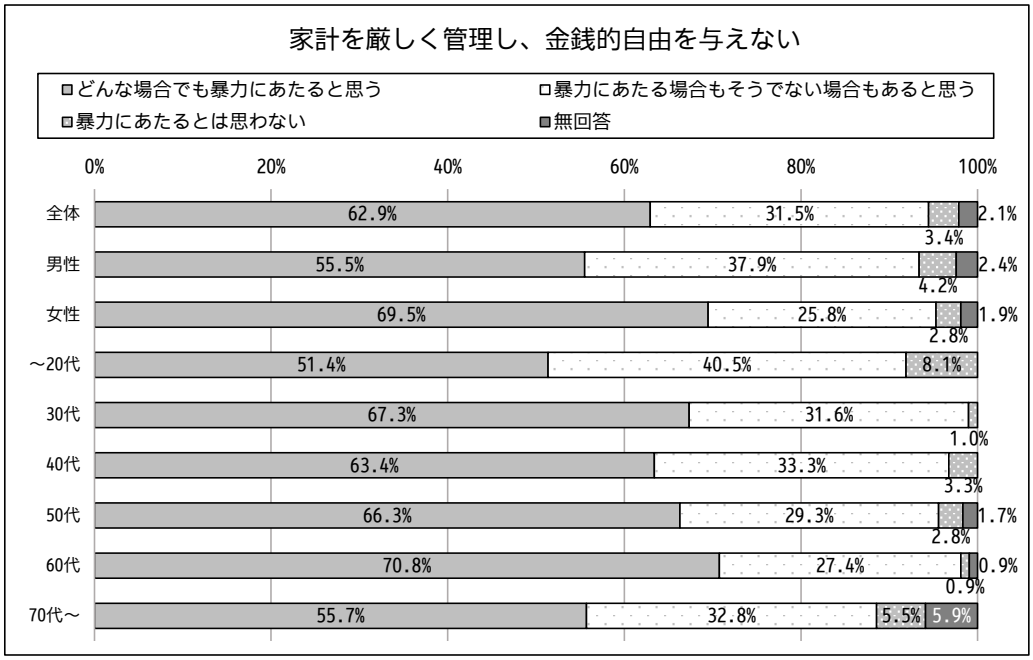
問１６－⑬　家計を厳しく管理し、金銭的自由を与えない

【全　体】
「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が62.9%で最も高く、「暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う」と回答した割合が31.5%となっている。

【性　別】
「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合は男性より女性の方が高い。
（男性55.5%、女性69.5%）

【年代別】
60代では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が７割と高く、すべての年代で「暴力」と思う割合が半数以上となっている。

【前回調査（2020年）比較】
2024年度新規調査項目



（人）

	実人数	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	無回答
全体	993	625	313	34	21
男性	454	252	172	19	11
女性	531	369	137	15	10
性別無回答	8	4	4	0	0
～20代	74	38	30	6	0
30代	98	66	31	1	0
40代	153	97	51	5	0
50代	181	120	53	5	3
60代	212	150	58	2	2
70代～	271	151	89	15	16
年齢無回答	4	3	1	0	0

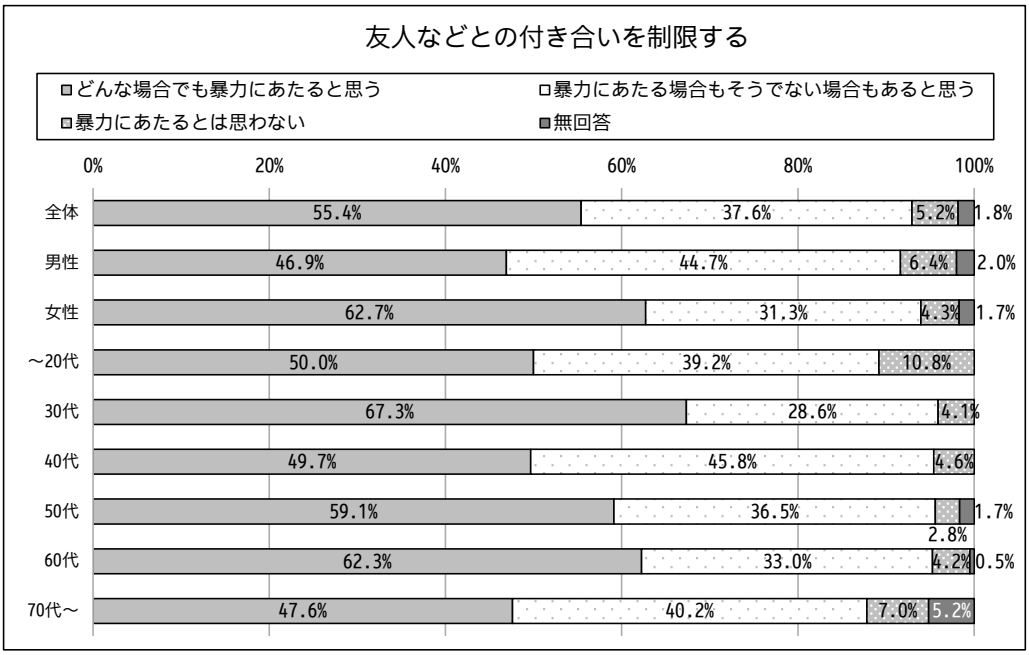
問１６－⑭　友人などとの付き合いを制限する

【全　体】
「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が55.4％で最も高く、「暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う」と回答した割合が37.6％となっている。

【性　別】
「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合は男性より女性の方が高い。
（男性46.9％、女性62.7％）

【年代別】
30代では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が高い。

【前回調査（2020年）比較】
2024年度新規調査項目



（人）

	実人数	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	無回答
全体	993	550	373	52	18
男性	454	213	203	29	9
女性	531	333	166	23	9
性別無回答	8	4	4	0	0
～20代	74	37	29	8	0
30代	98	66	28	4	0
40代	153	76	70	7	0
50代	181	107	66	5	3
60代	212	132	70	9	1
70代～	271	129	109	19	14
年齢無回答	4	3	1	0	0

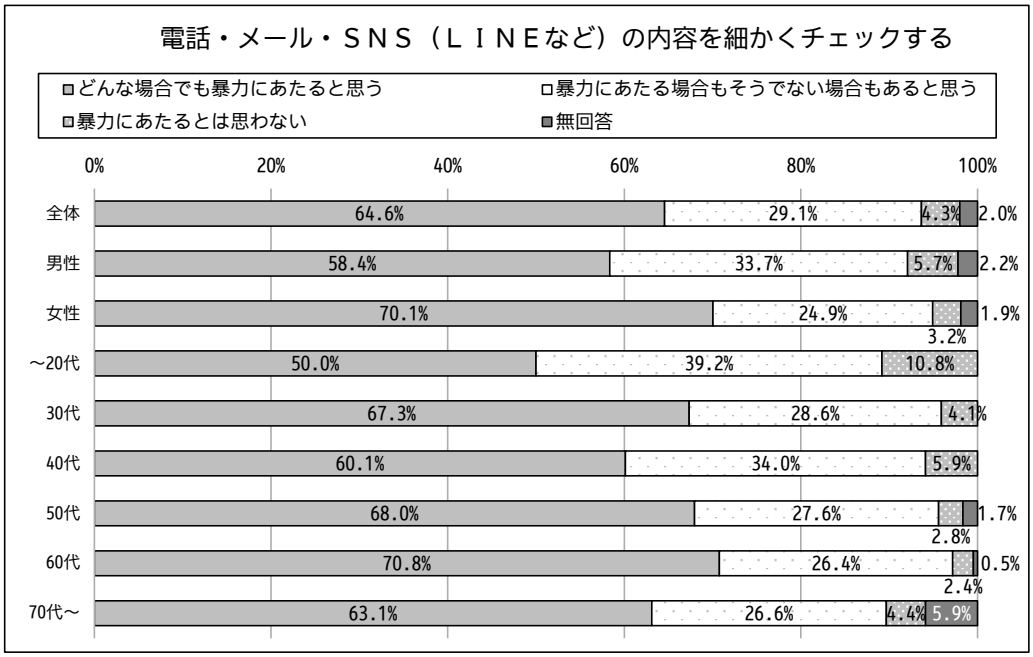
問１６－⑮　電話・メール・ＳＮＳ（ＬＩＮＥなど）の内容を細かくチェックする

【全　体】
「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が64.6％で最も高く、「暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う」と回答した割合が29.1％となっている。

【性　別】
「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合は男性より女性の方が高い。
（男性58.4％、女性70.1％）

【年代別】
60代では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が７割と高く、すべての年代で「暴力」と思う割合が半数以上となっている。

【前回調査（2020年）比較】
2024年度新規調査項目



（人）

	実人数	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	無回答
全体	993	641	289	43	20
男性	454	265	153	26	10
女性	531	372	132	17	10
性別無回答	8	4	4	0	0
～20代	74	37	29	8	0
30代	98	66	28	4	0
40代	153	92	52	9	0
50代	181	123	50	5	3
60代	212	150	56	5	1
70代～	271	171	72	12	16
年齢無回答	4	2	2	0	0

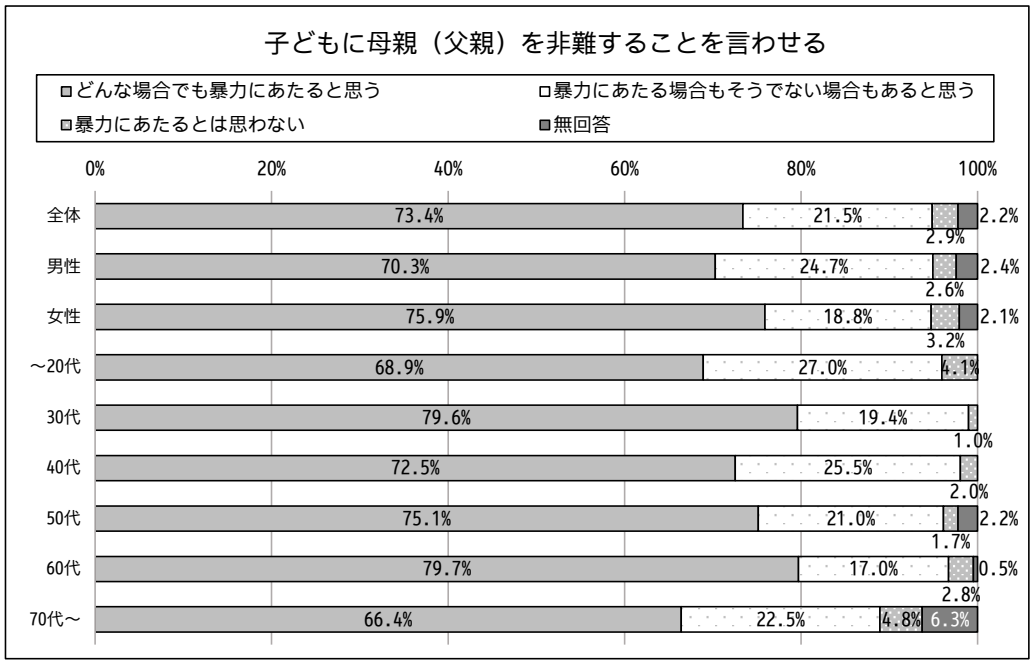
問１６－⑯　子どもに母親（父親）を非難することを言わせる

【全　体】
「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が73.4％で最も高く、「暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う」と回答した割合が21.5％となっている。

【性　別】
「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合は男性より女性の方が高い。
（男性70.3％、女性75.9％）

【年代別】
30代、60代では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が８割と高く、すべての年代で「暴力」と思う割合が６割を超えている。

【前回調査（2020年）比較】
2024年度新規調査項目



（人）

	実人数	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	無回答
全体	993	729	213	29	22
男性	454	319	112	12	11
女性	531	403	100	17	11
性別無回答	8	7	1	0	0
～20代	74	51	20	3	0
30代	98	78	19	1	0
40代	153	111	39	3	0
50代	181	136	38	3	4
60代	212	169	36	6	1
70代～	271	180	61	13	17
年齢無回答	4	4	0	0	0

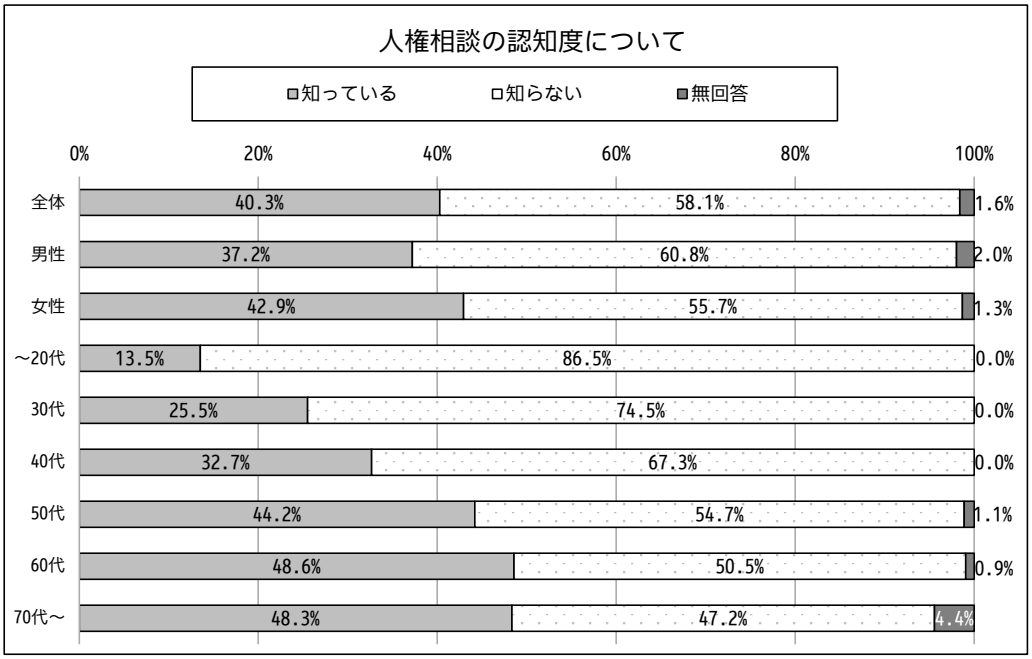
問１７　『人権相談』をご存知ですか。

【全　体】
「知っている」と回答した割合が40.3%、「知らない」が58.1%で、知らない割合が高い。

【性　別】
「知っている」と回答した割合は、男性より女性の方が高い。
（男性37.2%、女性42.9%）

【年代別】
年代が高くなるほど「知っている」と回答した割合は高い。

【前回調査（2020年）比較】
「知っている」と回答した割合が増加している。（2020年 29.6%）



（人）

	実人数	知っている	知らない	無回答
全体	993	400	577	16
男性	454	169	276	9
女性	531	228	296	7
性別無回答	8	3	5	0
～20代	74	10	64	0
30代	98	25	73	0
40代	153	50	103	0
50代	181	80	99	2
60代	212	103	107	2
70代～	271	131	128	12
年齢無回答	4	1	3	0

３ 家庭生活について

問１８　あなたの家庭では、次にあげるような家事、育児や介護等を、主にどなたが分担していますか。

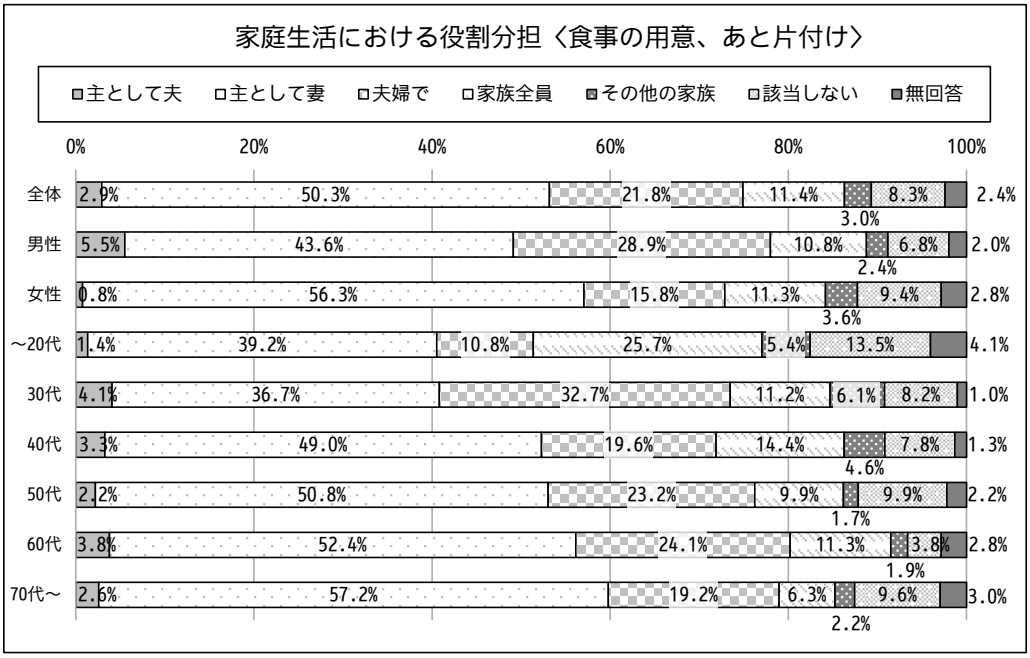
問１８－①　食事の用意、あと片付け

【全　体】
「主として妻」と回答した割合が50.3％で最も高く、次いで「夫婦で」が21.8％、「家族全員」が11.4％と続いている。

【性　別】
男女とも「主として妻」と回答した割合が最も高い。（男性43.6％、女性56.3％）

【年代別】
年代が高い方が「主として妻」と回答した割合が高い。

【前回調査（2020年）比較】
「夫婦で」（2020年 19.3％）「家族全員で」（2020年 9.4％）と回答した割合は増加している。



（人）

	実人数	主として夫	主として妻	夫婦で	家族全員	その他の家族	該当しない	無回答
全体	993	29	499	216	113	30	82	24
男性	454	25	198	131	49	11	31	9
女性	531	4	299	84	60	19	50	15
性別無回答	8	0	2	1	4	0	1	0
～20代	74	1	29	8	19	4	10	3
30代	98	4	36	32	11	6	8	1
40代	153	5	75	30	22	7	12	2
50代	181	4	92	42	18	3	18	4
60代	212	8	111	51	24	4	8	6
70代～	271	7	155	52	17	6	26	8
年齢無回答	4	0	1	1	2	0	0	0

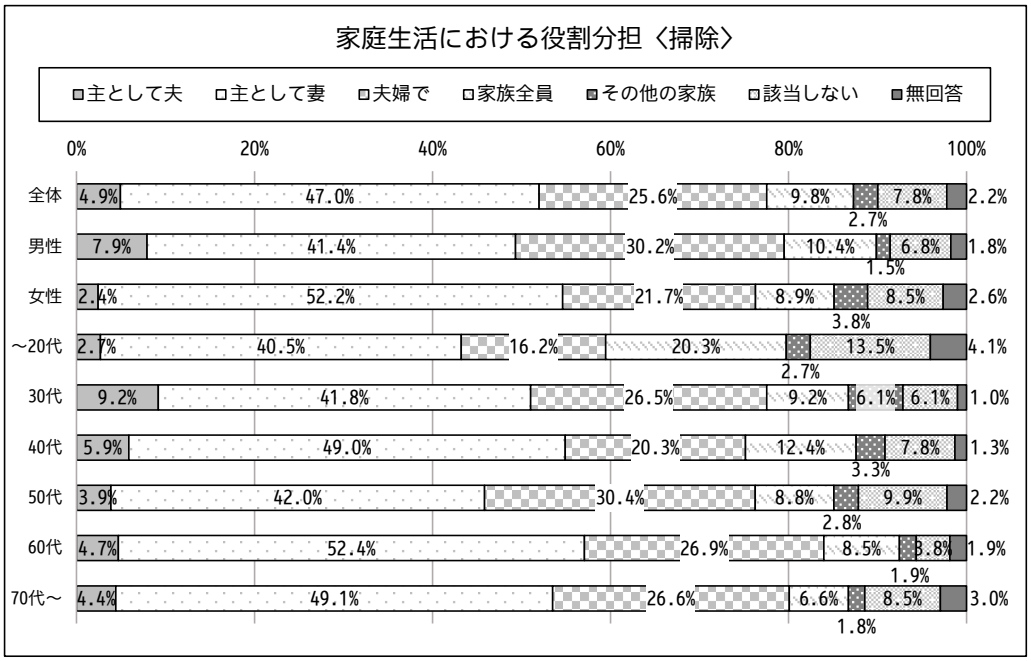
問１８－②　掃除

【全　体】
「主として妻」と回答した割合が47.0％で最も高く、次いで「夫婦で」が25.6％、「家族全員」が9.8％と続いている。

【性　別】
男女とも「主として妻」と回答した割合が最も高い。（男性41.4％、女性52.2％）

【年代別】
「夫婦で」と回答した割合は、50代が最も高い。

【前回調査（2020年）比較】
「主として妻」と回答した割合は減少（2020年 50.7％）、「夫婦で」（2020年 21.3％）「家族全員」（2020年 7.7％）と回答した割合は増加している。



（人）

	実人数	主として夫	主として妻	夫婦で	家族全員	その他の家族	該当しない	無回答
全体	993	49	467	254	97	27	77	22
男性	454	36	188	137	47	7	31	8
女性	531	13	277	115	47	20	45	14
性別無回答	8	0	2	2	3	0	1	0
～20代	74	2	30	12	15	2	10	3
30代	98	9	41	26	9	6	6	1
40代	153	9	75	31	19	5	12	2
50代	181	7	76	55	16	5	18	4
60代	212	10	111	57	18	4	8	4
70代～	271	12	133	72	18	5	23	8

問１８－③　洗濯

【全　体】
「主として妻」と回答した割合が55.8%で最も高く、次いで「夫婦で」が18.6%、「家族全員」が7.9%と続いている。

【性　別】
男女とも「主として妻」と回答した割合が最も高い。（男性54.6%、女性57.3%）

【年代別】
年代が高いほど「主として妻」と回答した割合が高い。

【前回調査（2020年）比較】
「主として妻」と回答した割合は減少（2020年 61.2%）しているが、「夫婦で」と回答した割合は増加（2020年 14.9%）している。

（人）

	実人数	主として夫	主として妻	夫婦で	家族全員	その他の家族	該当しない	無回答
全体	993	51	554	185	78	25	78	22
男性	454	29	248	95	35	9	30	8
女性	531	22	304	89	39	16	47	14
性別無回答	8	0	2	1	4	0	1	0
～20代	74	2	32	9	15	3	10	3
30代	98	7	46	28	7	3	6	1
40代	153	12	80	26	15	6	12	2
50代	181	9	97	38	11	4	18	4
60代	212	10	131	42	13	4	8	4
70代～	271	11	167	41	15	5	24	8
年齢無回答	4	0	1	1	2	0	0	0

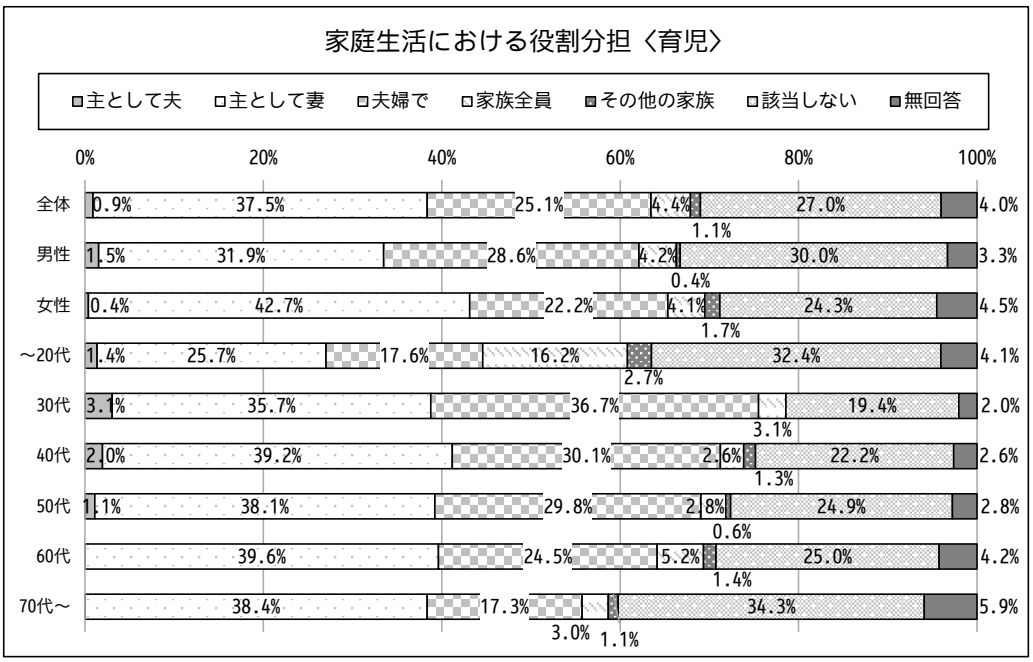
問１８－④　育児

【全　体】
「該当しない」（対象外の方）を除くと「主として妻」と回答した割合が37.5%で最も高く、次いで「夫婦で」が25.1%、「家族全員」が4.4%と続いている。

【性　別】
「主として妻」と回答した割合は男性よりも女性の方が高い。（男性31.9%、女性42.7%）

【年代別】
年代が高いほど「夫婦で」と回答した割合が低い。

【前回調査（2020年）比較】
「夫婦で」と回答した割合は増加している。（2020年 20.2%）



（人）

	実人数	主として夫	主として妻	夫婦で	家族全員	その他の家族	該当しない	無回答
全体	993	9	372	249	44	11	268	40
男性	454	7	145	130	19	2	136	15
女性	531	2	227	118	22	9	129	24
性別無回答	8	0	0	1	3	0	3	1
～20代	74	1	19	13	12	2	24	3
30代	98	3	35	36	3	0	19	2
40代	153	3	60	46	4	2	34	4
50代	181	2	69	54	5	1	45	5
60代	212	0	84	52	11	3	53	9
70代～	271	0	104	47	8	3	93	16
年齢無回答	4	0	1	1	1	0	0	1

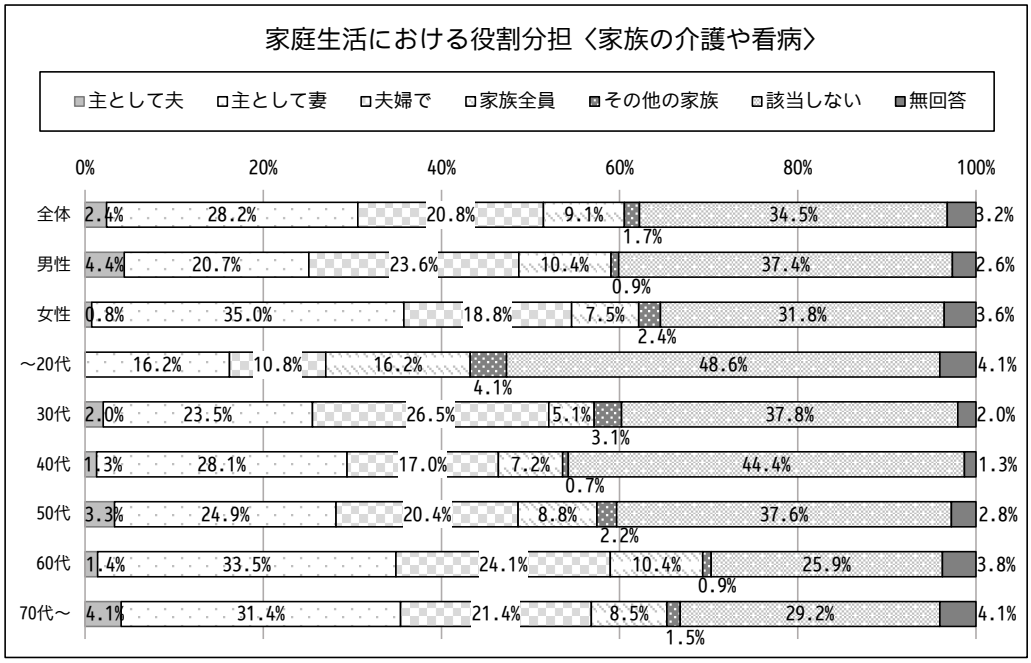
問１８－⑤　家族の介護や看病

【全　体】
「該当しない」（対象外の方）を除くと、「主として妻」と回答した割合が28.2%で最も高く、次いで「夫婦で」が20.8%、「家族全員で」が9.1%と続いている。

【性　別】
「主として妻」と回答した割合は男性よりも女性の方が高い。
（男性20.7%、女性35.0%）

【年代別】
30代を除くすべての年代で「夫婦で」と回答した割合よりも「主として妻」と回答した割合の方が高い。

【前回調査（2020年）比較】
「主として夫」（2020年 1.6%）「主として妻」（2020年 24.5%）「夫婦で」（2020年 17.6%）「家族全員」（2020年 5.3%）と回答した割合は増加している。



（人）

	実人数	主として夫	主として妻	夫婦で	家族全員	その他の家族	該当しない	無回答
全体	993	24	280	207	90	17	343	32
男性	454	20	94	107	47	4	170	12
女性	531	4	186	100	40	13	169	19
性別無回答	8	0	0	0	3	0	4	1
～20代	74	0	12	8	12	3	36	3
30代	98	2	23	26	5	3	37	2
40代	153	2	43	26	11	1	68	2
50代	181	6	45	37	16	4	68	5
60代	212	3	71	51	22	2	55	8
70代～	271	11	85	58	23	4	79	11
年齢無回答	4	0	1	1	1	0	0	1

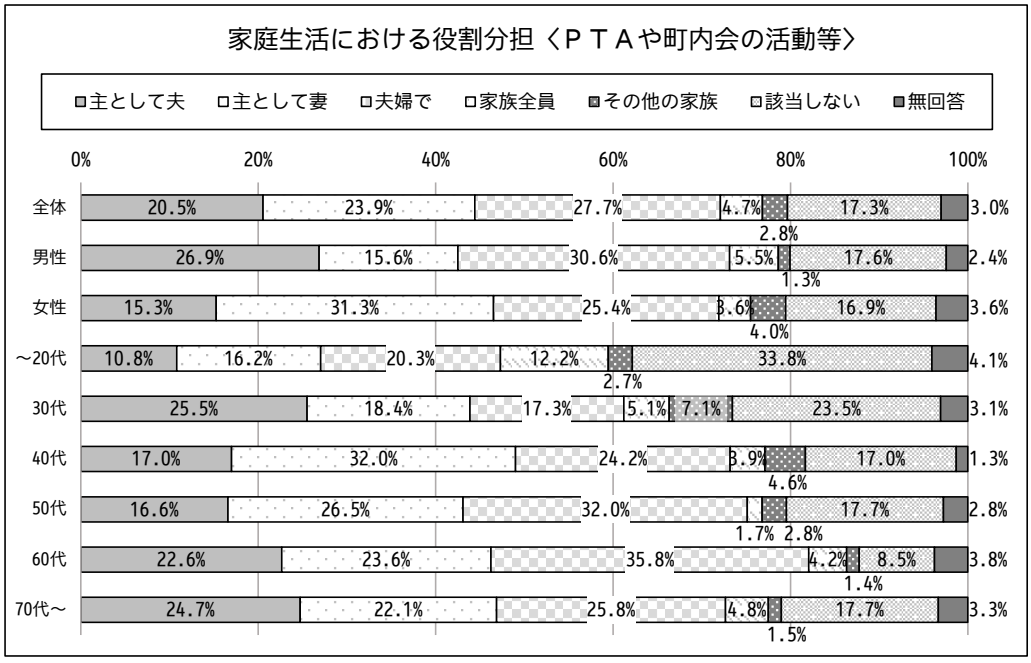
問１８－⑥　地域活動（ＰＴＡや町内会の活動等）

【全　体】
「夫婦で」と回答した割合が27.7％で最も高く、次いで「主として妻」が23.9％、「主として夫」が20.5％と続いている。

【性　別】
男性は「夫婦で」と回答した割合が最も高く、女性は「主として妻」と回答した割合が最も高い。

【年代別】
30代では「主として夫」と回答した割合が最も高く、40代では「主として妻」、そのほか20代以下と50代以上では「夫婦で」と回答した割合が高い。

【前回調査（2020年）比較】
「主として夫」と回答した割合（2020年 21.5％）は減少しており、「主として妻」（2020年 23.3％）「夫婦で」（2020年 24.8％）と回答した割合は増加している。



（人）

	実人数	主として夫	主として妻	夫婦で	家族全員	その他の家族	該当しない	無回答
全体	993	204	237	275	47	28	172	30
男性	454	122	71	139	25	6	80	11
女性	531	81	166	135	19	21	90	19
性別無回答	8	1	0	1	3	1	2	0
～20代	74	8	12	15	9	2	25	3
30代	98	25	18	17	5	7	23	3
40代	153	26	49	37	6	7	26	2
50代	181	30	48	58	3	5	32	5
60代	212	48	50	76	9	3	18	8
70代～	271	67	60	70	13	4	48	9
年齢無回答	4	0	0	2	2	0	0	0

４ 女性活躍について

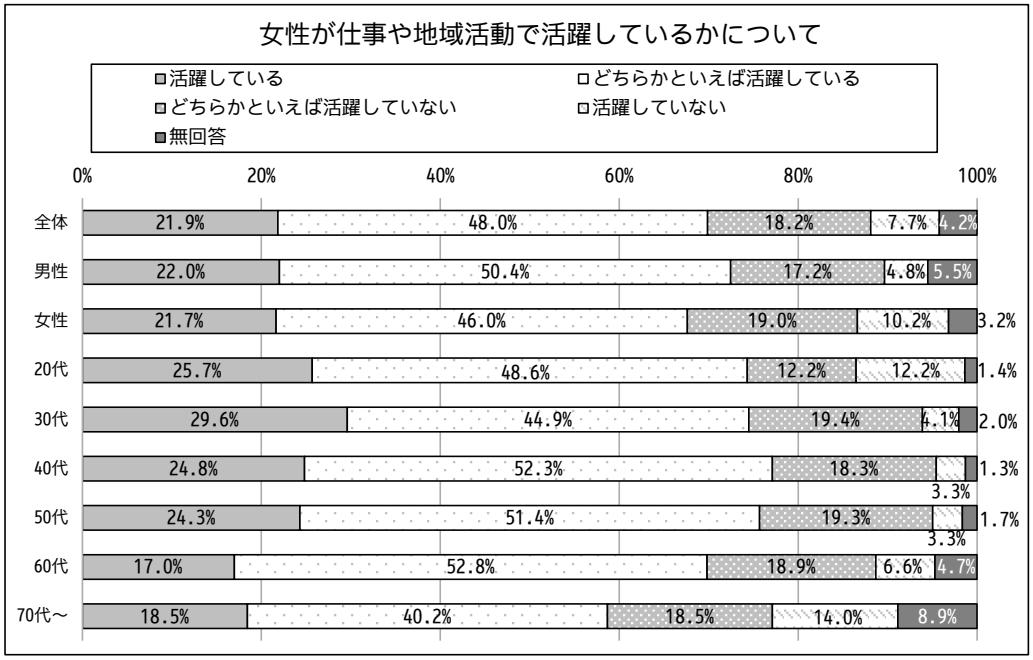
問１９　あなた自身あるいはあなたの身近にいる女性は、仕事や地域活動で活躍していると思いますか。

【全　体】
「活躍している」又は「どちらかといえば活躍している」と回答した割合は69.9%、「どちらかといえば活躍していない」又は「活躍していない」と回答した割合は25.9%となり、約７割は仕事や地域活動で「活躍している」と感じている。

【性　別】
女性より男性の方が「活躍している」又は「どちらかといえば活躍している」と回答した割合が高い。（男性は72.4%、女性は67.7%）

【年代別】
「活躍している」又は「どちらかといえば活躍している」と回答した割合は40代が77.1%と最も高いが、70代以上では58.7%と低い。

【前回調査（2020年）比較】
「活躍している」又は「どちらかといえば活躍している」と回答した割合は前回調査とほぼ同率となった。（2020年 68.6%）



（人）

	実人数	活躍している	どちらかといえば活躍している	どちらかといえば活躍していない	活躍していない	無回答
全体	993	217	477	181	76	42
男性	454	100	229	78	22	25
女性	531	115	244	101	54	17
性別無回答	8	2	4	2	0	0
～20代	74	19	36	9	9	1
30代	98	29	44	19	4	2
40代	153	38	80	28	5	2
50代	181	44	93	35	6	3
60代	212	36	112	40	14	10
70代～	271	50	109	50	38	24
年齢無回答	4	1	3	0	0	0

問２０　問１９のように感じる理由はなぜですか。【複数回答（３つまで）】

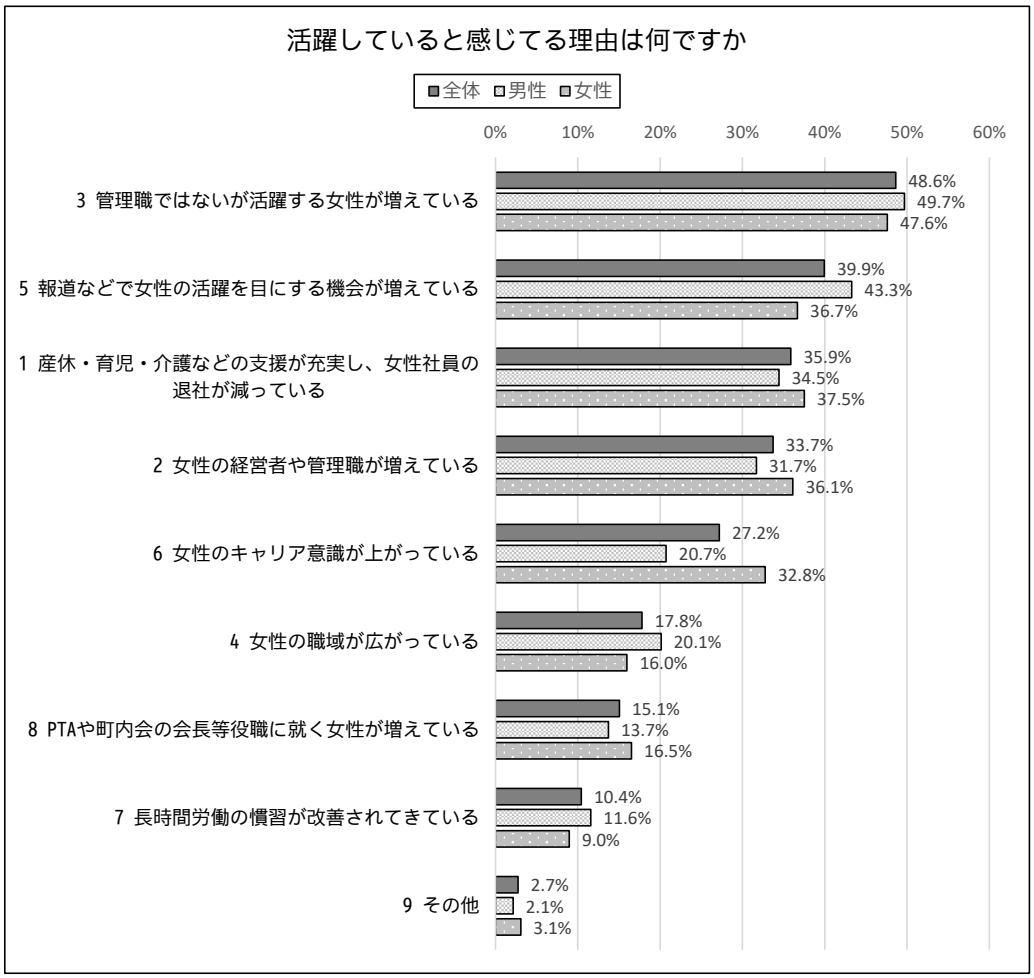
問２０ー①　活躍していると感じている理由は何ですか。【複数回答（３つまで）】

【全　体】
「3 管理職ではないが活躍する女性が増えている」と回答した割合が48.6%と最も高く、次いで「5 報道などで女性の活躍を目にする機会が増えている」が39.9%、「1 産休・育児などの支援が充実し、女性社員の退社が減っている」が35.9%と続いている。

【性　別】
男女とも、「3 管理職ではないが活躍する女性が増えている」と回答した割合が最も高く（男性49.7%、女性47.6%）、次いで男性は「5 報道などで女性の活躍を目にする機会が増えている」（43.3%）、女性は「1 産休・育児などの支援が充実し、女性社員の退社が減っている」（37.5%）と続いている。

【年代別】
20代以下、40代では「2 女性の経営者や管理職が増えている」、30代、50代、60代では「3 管理職ではないが活躍する女性が増えている」と回答した割合が高い。

【前回調査（2020年）比較】
前回同様、「3 管理職ではないが活躍する女性が増えている」と回答した割合が最も高い（2020年 50.0%）。「5 報道などで女性の活躍を目にする機会が増えている」と回答した割合が最も変動があり、前回調査より10.2ポイント増加している（2020年 29.7%）。



（上段:人）

	回答実人数	回答総数	1.産休・育児などの支援が充実し、女性社員の退社が減っている	2.女性の経営者や管理職が増えている	3.管理職ではないが活躍する女性が増えている	4.女性の職域が増えている	5.報道などで女性の活躍を目にする機会が増えている	6.女性のキャリア意識が上がっている	7.長時間労働の慣習が改善されてきている	8.PTAや町内会の会長等役職に就く女性が増えている	9.その他
全体	691	1,599	248 35.9%	233 33.7%	336 48.6%	123 17.8%	276 39.9%	188 27.2%	72 10.4%	104 15.1%	19 2.7%
男性	328	746	113 34.5%	104 31.7%	163 49.7%	66 20.1%	142 43.3%	68 20.7%	38 11.6%	45 13.7%	7 2.1%
女性	357	840	134 37.5%	129 36.1%	170 47.6%	57 16.0%	131 36.7%	117 32.8%	32 9.0%	59 16.5%	11 3.1%
性別無回答	6	13	1 16.7%	0 0.0%	3 50.0%	0 0.0%	3 50.0%	3 50.0%	2 33.3%	0 0.0%	1 16.7%
～20代	55	110	18 32.7%	22 40.0%	20 36.4%	11 20.0%	14 25.5%	12 21.8%	6 10.9%	5 9.1%	2 3.6%
30代	73	156	25 34.2%	28 38.4%	37 50.7%	6 8.2%	24 32.9%	24 32.9%	2 2.7%	8 11.0%	2 2.7%
40代	118	291	53 44.9%	57 48.3%	55 46.6%	20 16.9%	36 30.5%	35 29.7%	18 15.3%	15 12.7%	2 1.7%
50代	137	316	57 41.6%	56 40.9%	65 47.4%	28 20.4%	47 34.3%	33 24.1%	12 8.8%	14 10.2%	4 2.9%
60代	147	354	53 36.1%	36 24.5%	85 57.8%	28 19.0%	67 45.6%	43 29.3%	15 10.2%	22 15.0%	5 3.4%
70代～	157	364	41 26.1%	33 21.0%	73 46.5%	30 19.1%	86 54.8%	40 25.5%	18 11.5%	40 25.5%	3 1.9%
年齢無回答	4	8	1 25.0%	1 25.0%	1 25.0%	0 0.0%	2 50.0%	1 25.0%	1 25.0%	0 0.0%	1 25.0%

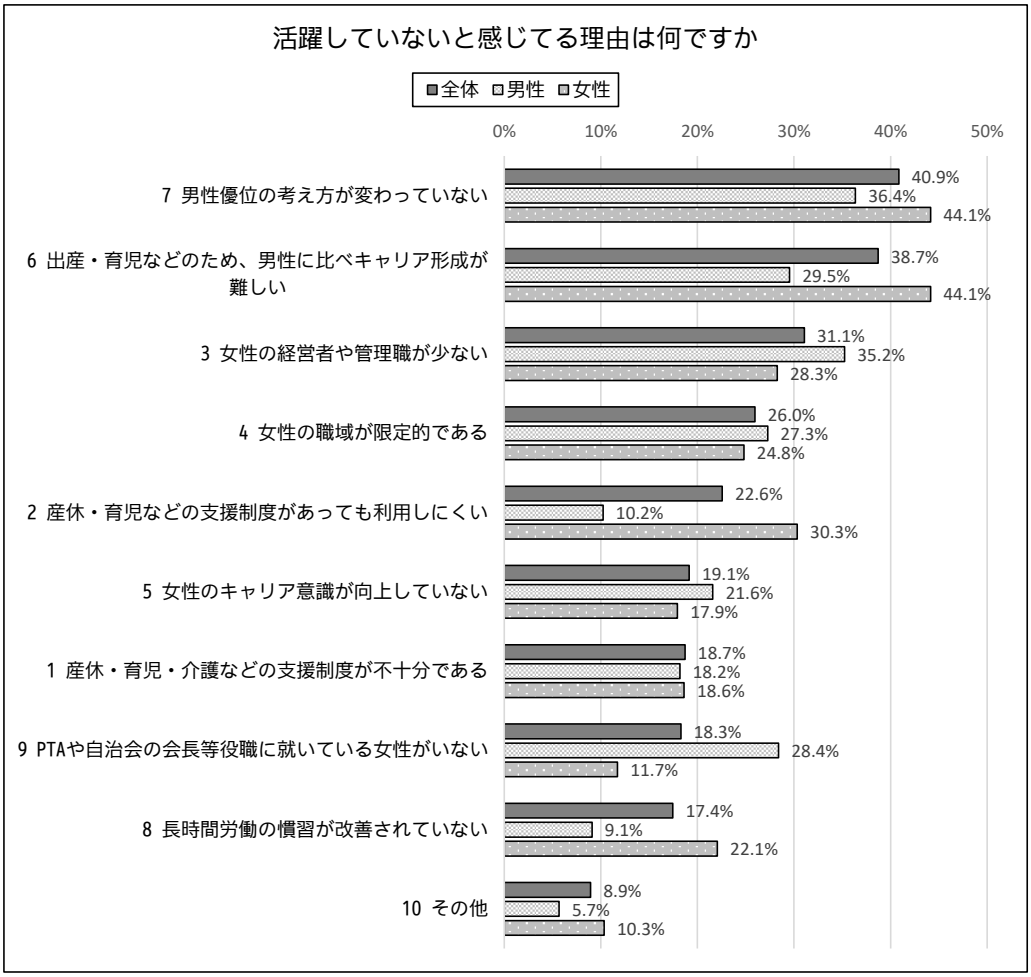
問２０－②　活躍していないと感じている理由は何ですか。【複数回答（３つまで）】

【全　体】
「7 男性優位の考え方が変わっていない」と回答した割合が40.9%と最も高く、次いで「6 出産・育児などのため、男性に比べキャリア形成が難しい」が38.7%、「3 女性の経営者や管理職は少ない」が31.1%と続いている。

【性　別】
男性は、「7 男性優位の考え方が変わっていない」が36.4%と最も高く、次いで「3 女性の経営者や管理職は少ない」が35.2%と続いている。
女性は、「6 出産・育児などのため、男性に比べキャリア形成が難しい」と「7 男性優位の考え方が変わっていない」が44.1%が同率で最も高い。

【年代別】
40代以下では「6 出産・育児などのため、男性に比べキャリア形成が難しい」と回答した割合も高く、50代以上の年代においては、「7 男性優位の考え方が変わっていない」と回答した割合が高い。

【前回調査（2020年）比較】
前回同様「7 男性優位の考え方が変わっていない」と回答した割合が最も高い。
「3 女性の経営者や管理職は少ない」と回答した割合が最も変動があり、前回調査から7.0ポイント増加している（2020年 24.1%）。



（上段:人）

	回答実人数	回答総数	1.産休・育児などの支援制度が不充実である	2.産休・育児などの支援制度があっても利用しにくい	3.女性の経営者や管理職が少ない	4.女性の職域が限定的である	5.女性のキャリア意識が向上していない	6.出産・育児などのため、男性に比べキャリア形成が難しい	7.男性優位の考え方が変わっていない	8.長時間労働の慣習が改善されていない	9.PTAや自治会の会長等役職に就いている女性がいない	10.その他
全体	235	568	44 18.7%	53 22.6%	73 31.1%	61 26.0%	45 19.1%	91 38.7%	96 40.9%	41 17.4%	43 18.3%	21 8.9%
男性	88	195	16 18.2%	9 10.2%	31 35.2%	24 27.3%	19 21.6%	26 29.5%	32 36.4%	8 9.1%	25 28.4%	5 5.7%
女性	145	366	27 18.6%	44 30.3%	41 28.3%	36 24.8%	26 17.9%	64 44.1%	64 44.1%	32 22.1%	17 11.7%	15 10.3%
性別無回答	2	7	1 50.0%	0 0.0%	1 50.0%	1 50.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	1 50.0%	1 50.0%	1 50.0%
～20代	18	50	3 16.7%	6 33.3%	7 38.9%	6 33.3%	5 27.8%	8 44.4%	5 27.8%	5 27.8%	3 16.7%	2 11.1%
30代	22	62	6 27.3%	7 31.8%	10 45.5%	1 4.5%	5 22.7%	14 63.6%	8 36.4%	6 27.3%	4 18.2%	1 4.5%
40代	31	94	12 38.7%	12 38.7%	13 41.9%	9 29.0%	6 19.4%	18 58.1%	13 41.9%	5 16.1%	4 12.9%	2 6.5%
50代	40	107	8 20.0%	11 27.5%	16 40.0%	12 30.0%	11 27.5%	18 45.0%	19 47.5%	7 17.5%	3 7.5%	2 5.0%
60代	51	110	6 11.8%	8 15.7%	12 23.5%	18 35.3%	9 17.6%	17 33.3%	24 47.1%	4 7.8%	7 13.7%	5 9.8%
70代	73	145	9 12.3%	9 12.3%	15 20.5%	15 20.5%	9 12.3%	16 21.9%	27 37.0%	14 19.2%	22 30.1%	9 12.3%
年齢無回答	0	0	0 ----	0 ----	0 ----	0 ----	0 ----	0 ----	0 ----	0 ----	0 ----	0 ----

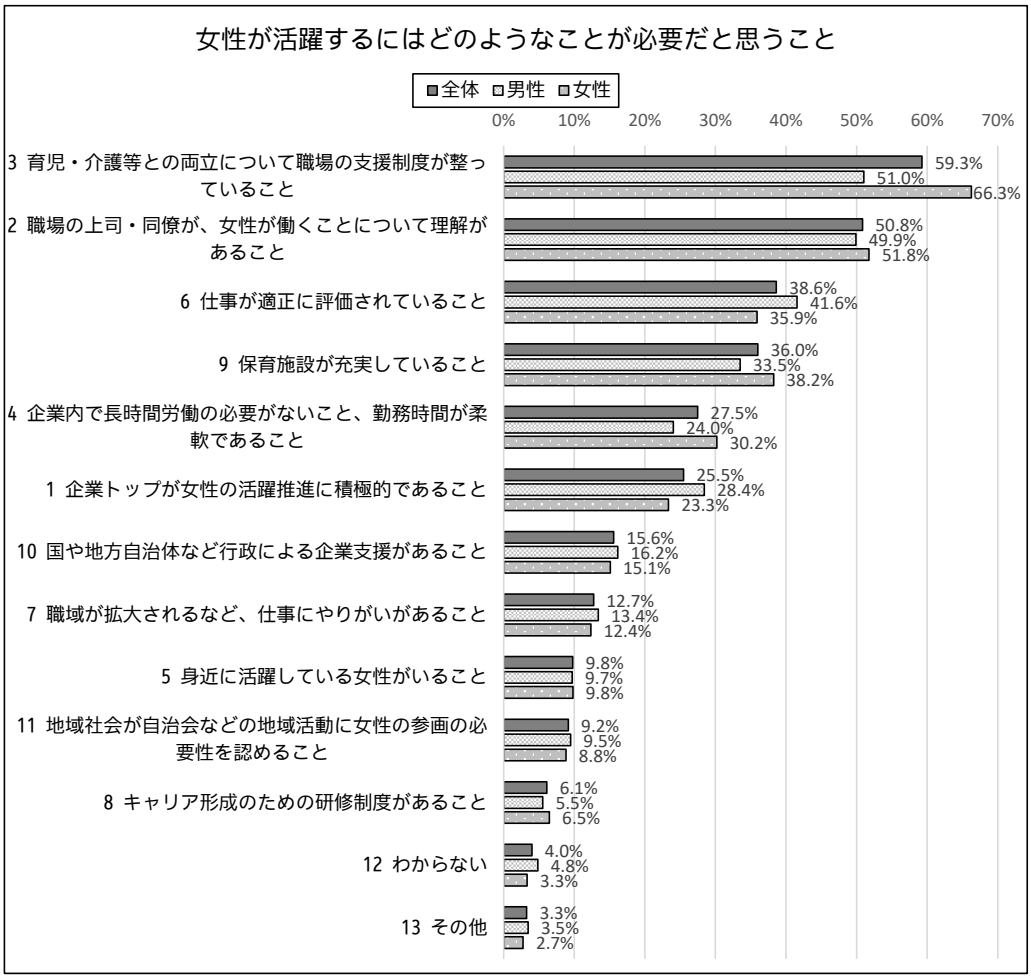
問２１　女性が活躍するにはどのようなことが必要だと思いますか。【複数回答】

【全　体】
「3 育児・介護等との両立について職場の支援制度が整っていること」と回答した割合が59.2%で最も高く、次いで「2 職場の上司・同僚が、女性が働くことについて理解があること」が50.8%と続いている。

【性　別】
男女ともに「3 育児・介護等との両立について職場の支援制度が整っていること」と回答した割合が最も高い。（男性50.9%　女性66.3%）

【年代別】
すべての年代で「3 育児・介護等との両立について職場の支援制度が整っていること」、「2 職場の上司・同僚が、女性が働くことに理解があること」と回答した割合が高かった。また、50代は「6 仕事が適正に評価されていること」と回答した割合が他の年代に比べ高かった。

【前回調査（2020年）比較】
前回同様「3 育児・介護等との両立について職場の支援制度が整っていること」と回答した割合が最も高い。
回答の多い順については、多少前後するものの、前回調査からほぼ変わっていない。
「6 仕事が適正に評価されていること」（2020年 31.4%）、「10 国や地方自治体など行政による企業支援があること」（2020年 8.9%）と回答した割合が最も変動があり、前回調査から6.7ポイント増加している。



（上段:人）

	回答実人数	回答総数	1. 企業トップが女性の活躍推進に積極的であること	2. 職場の上司・同僚が、女性が働くことについて理解があること	3. 育児・介護等との両立について職場の支援制度が整っていること	4. 企業内で長時間労働の必要がないこと、勤務時間が柔軟であること	5. 身近に活躍している女性がいること	6. 仕事が適正に評価されていること	7. 職域が拡大されるなど、仕事にやりがいがあること	8. キャリア形成のための研修制度があること	9. 保育施設が充実していること	10. 国や地方自治体など行政による企業支援があること	11. 地域社会が自治会などの地域活動に女性の参画の必要性を認めること	12. わからない	13. その他
全体	950	2,834	242 25.5%	483 50.8%	563 59.3%	261 27.5%	93 9.8%	367 38.6%	121 12.7%	58 6.1%	342 36.0%	148 15.6%	87 9.2%	38 4.0%	31 3.3%
男性	433	1,260	123 28.4%	216 49.9%	221 51.0%	104 24.0%	42 9.7%	180 41.6%	58 13.4%	24 5.5%	145 33.5%	70 16.2%	41 9.5%	21 4.8%	15 3.5%
女性	510	1,552	119 23.3%	264 51.8%	338 66.3%	154 30.2%	50 9.8%	183 35.9%	63 12.4%	33 6.5%	195 38.2%	77 15.1%	45 8.8%	17 3.3%	14 2.7%
性別無回答	7	22	0 0.0%	3 42.9%	4 57.1%	3 42.9%	1 14.3%	4 57.1%	0 0.0%	1 14.3%	2 28.6%	1 14.3%	1 14.3%	0 0.0%	2 28.6%
～20代	73	236	18 24.7%	35 47.9%	41 56.2%	26 35.6%	10 13.7%	28 38.4%	7 9.6%	6 8.2%	31 42.5%	14 19.2%	10 13.7%	6 8.2%	4 5.5%
30代	98	291	21 21.4%	55 56.1%	65 66.3%	33 33.7%	11 11.2%	32 32.7%	3 3.1%	5 5.1%	41 41.8%	12 12.2%	4 4.1%	2 2.0%	7 7.1%
40代	151	475	33 21.9%	84 55.6%	99 65.6%	48 31.8%	25 16.6%	61 40.4%	22 14.6%	9 6.0%	49 32.5%	25 16.6%	12 7.9%	1 0.7%	7 4.6%
50代	178	523	49 27.5%	85 47.8%	96 53.9%	56 31.5%	19 10.7%	82 46.1%	23 12.9%	17 9.6%	50 28.1%	22 12.4%	10 5.6%	7 3.9%	7 3.9%
60代	200	597	55 27.5%	95 47.5%	128 64.0%	51 25.5%	16 8.0%	82 41.0%	30 15.0%	9 4.5%	81 40.5%	34 17.0%	8 4.0%	3 1.5%	5 2.5%
70代～	246	700	65 26.4%	127 51.6%	130 52.8%	46 18.7%	12 4.9%	81 32.9%	36 14.6%	12 4.9%	88 35.8%	41 16.7%	43 17.5%	19 7.7%	0 0.0%
年齢無回答	4	12	1 25.0%	2 50.0%	4 100.0%	1 25.0%	0 0.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 25.0%

女性の就業について

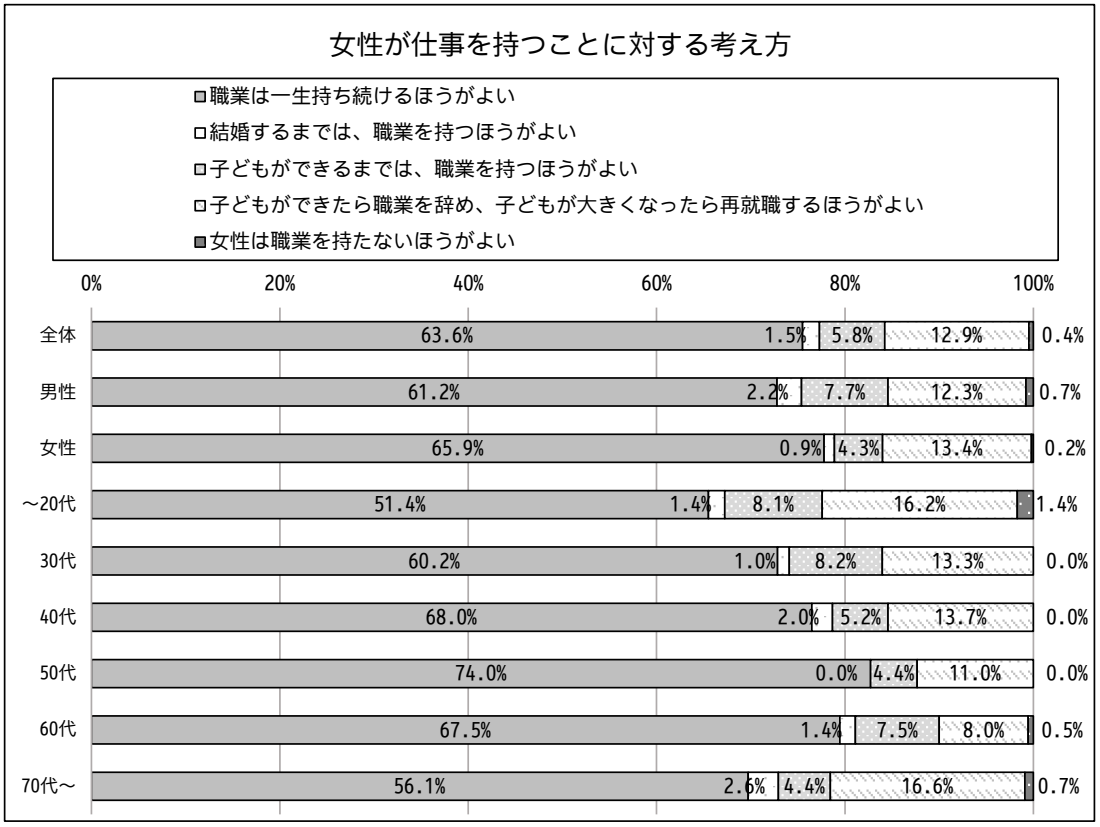
問２２　あなたは、女性が職業を持つことについて、どうお考えになりますか。

【全　体】
「職業は一生持ち続けるほうがよい」と回答した割合が63.6%と最も高い。

【性　別】
男女とも「職業は一生持ち続けるほうがよい」と回答した割合が高い。
（男性61.2%、女性65.9%）

【年代別】
30代～60代で「職業は一生持ち続けるほうがよい」と回答した割合が、６割を超えている。

【前回調査（2020年）比較】
2024年度新規調査項目



（人）

	実人数	職業は一生持ち続けるほうがよい	結婚するまでは、職業を持つほうがよい	子どもができるまでは、職業を持つほうがよい	子どもができたら職業を辞め、子どもが大きくなったら再就職するほうがよい	女性は職業を持たないほうがよい	わからない	その他	無回答
全体	993	632	15	58	128	4	65	51	40
男性	454	278	10	35	56	3	32	17	23
女性	531	350	5	23	71	1	32	33	16
性別無回答	8	4	0	0	1	0	1	1	1
～20代	74	38	1	6	12	1	8	7	1
30代	98	59	1	8	13	0	6	11	0
40代	153	104	3	8	21	0	11	4	2
50代	181	134	0	8	20	0	9	8	2
60代	212	143	3	16	17	1	8	16	8
70代～	271	152	7	12	45	2	22	4	27
年齢無回答	4	2	0	0	0	0	1	1	0

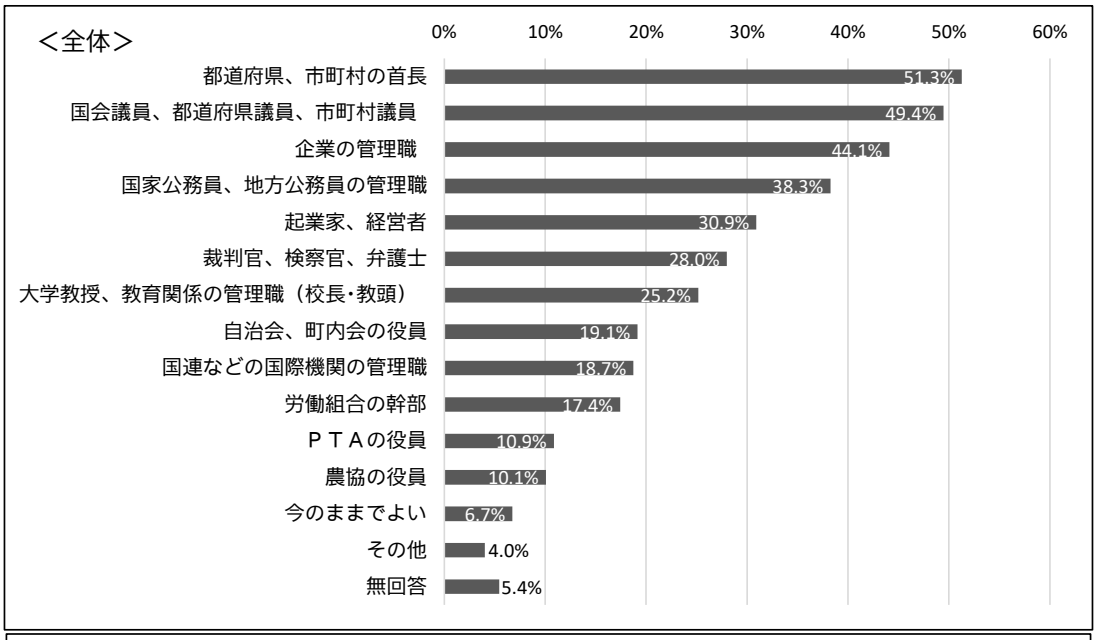
問２３　あなたが、次にあげるような政策、方針決定に関わる役職において、今後、女性がもっと増えたほうがよいと思うものはどれですか。【複数回答】

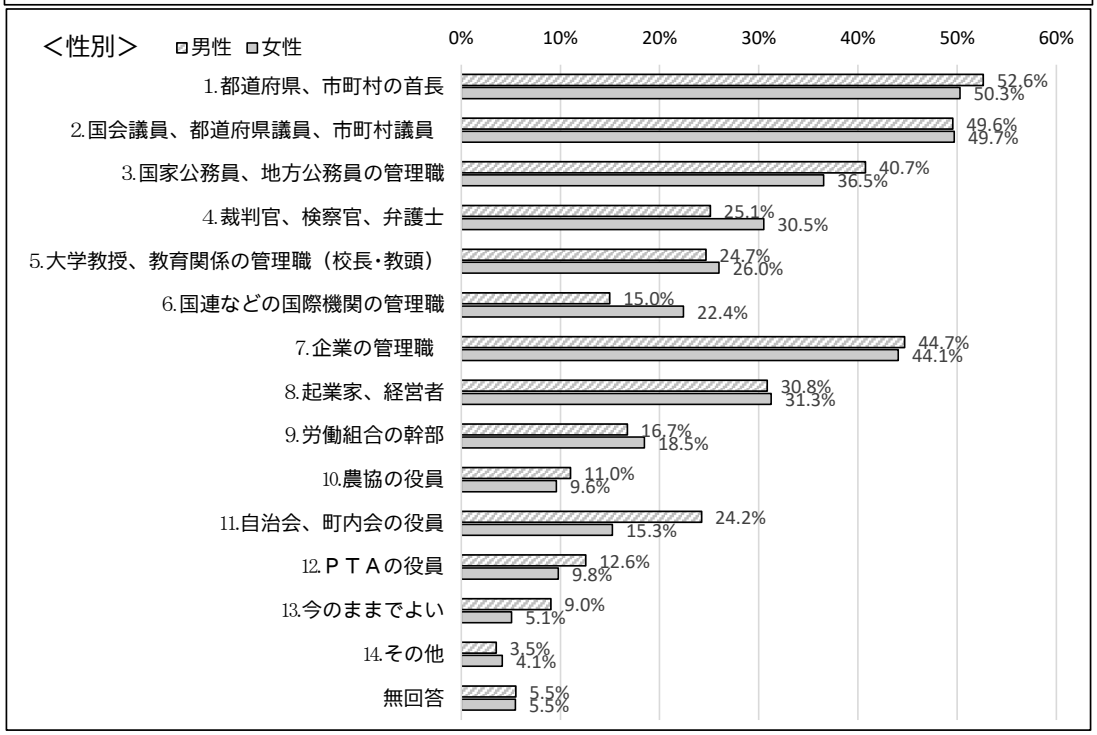
【全　体】
「都道府県、市町村の首長」と回答した割合が51.1％と最も高く、次いで「国会議員、都道府県議員、市町村議員」が49.4％、「企業の管理職」が44.0％と続いている。

【性　別】
男女とも「都道府県、市町村の首長」と回答した割合が最も高く（男性52.4％、女性50.1％）、次いで「国会議員、都道府県議員、市町村議員」（男性49.3％、女性49.5％）、「企業の管理職」（男性44.5、女性43.9％）と続いている。

【年代別】
すべての年代で「都道府県、市町村の首長」、「国会議員、都道府県議員、市町村議員」、「企業の管理職」と回答した割合が高い。

【前回調査（2020年）比較】
2024年度新規調査項目





（上段：人）

	回答実人数	回答総数	1. 都道府県、市町村の首長	2. 国会議員、都道府県議員、市町村議員	3. 国家公務員、地方公務員の管理職	4. 裁判官、検察官、弁護士	5. 大学教授、教育関係の管理職（校長・教頭）	6. 国連などの国際機関の管理職	7. 企業の管理職	8. 起業家、経営者	9. 労働組合の幹部	10. 農協の役員	11. 自治会、町内会の役員	12. ＰＴＡの役員	13. 今のままでよい	14. その他	無回答
全体	993	3,583	509 51.3%	492 49.5%	381 38.4%	279 28.1%	251 25.3%	187 18.8%	439 44.2%	308 31.0%	174 17.5%	101 10.2%	191 19.2%	109 11.0%	68 6.8%	40 4.0%	54 5.4%
男性	454	1,661	239 52.6%	225 49.6%	185 40.7%	114 25.1%	112 24.7%	68 15.0%	203 44.7%	140 30.8%	76 16.7%	50 11.0%	110 24.2%	57 12.6%	41 9.0%	16 3.5%	25 5.5%
女性	531	1,904	267 50.3%	264 49.7%	194 36.5%	162 30.5%	138 26.0%	119 22.4%	234 44.1%	166 31.3%	98 18.5%	51 9.6%	81 15.3%	52 9.8%	27 5.1%	22 4.1%	29 5.5%
性別無回答	8	18	3 37.5%	3 37.5%	2 25.0%	3 37.5%	1 12.5%	0 0.0%	2 25.0%	2 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 25.0%	0 0.0%
～20代	74	258	31 41.9%	38 51.4%	24 32.4%	20 27.0%	19 25.7%	17 23.0%	34 45.9%	24 32.4%	11 14.9%	8 10.8%	9 12.2%	9 12.2%	7 9.5%	4 5.4%	3 4.1%
30代	98	327	44 44.9%	43 43.9%	33 33.7%	28 28.6%	22 22.4%	20 20.4%	43 43.9%	25 25.5%	22 22.4%	9 9.2%	9 9.2%	7 7.1%	11 11.2%	10 10.2%	1 1.0%
40代	153	602	95 62.1%	82 53.6%	66 43.1%	47 30.7%	44 28.8%	33 21.6%	74 48.4%	46 30.1%	27 17.6%	18 11.8%	27 17.6%	23 15.0%	9 5.9%	9 5.9%	2 1.3%
50代	181	700	94 51.9%	94 51.9%	78 43.1%	53 29.3%	49 27.1%	27 14.9%	96 53.0%	70 38.7%	44 24.3%	20 11.0%	34 18.8%	19 10.5%	11 6.1%	8 4.4%	3 1.7%
60代	212	770	115 54.2%	104 49.1%	88 41.5%	61 28.8%	51 24.1%	42 19.8%	92 43.4%	72 34.0%	39 18.4%	20 9.4%	38 17.9%	22 10.4%	10 4.7%	3 1.4%	13 6.1%
70代～	271	907	128 47.2%	129 47.6%	90 33.2%	67 24.7%	65 24.0%	47 17.3%	98 36.2%	70 25.8%	30 11.1%	25 9.2%	73 26.9%	28 10.3%	20 7.4%	5 1.8%	32 11.8%
年齢無回答	4	19	2 50.0%	2 50.0%	2 50.0%	3 75.0%	1 25.0%	1 25.0%	2 50.0%	1 25.0%	1 25.0%	1 25.0%	1 25.0%	1 25.0%	0 0.0%	1 25.0%	0 0.0%

就業について

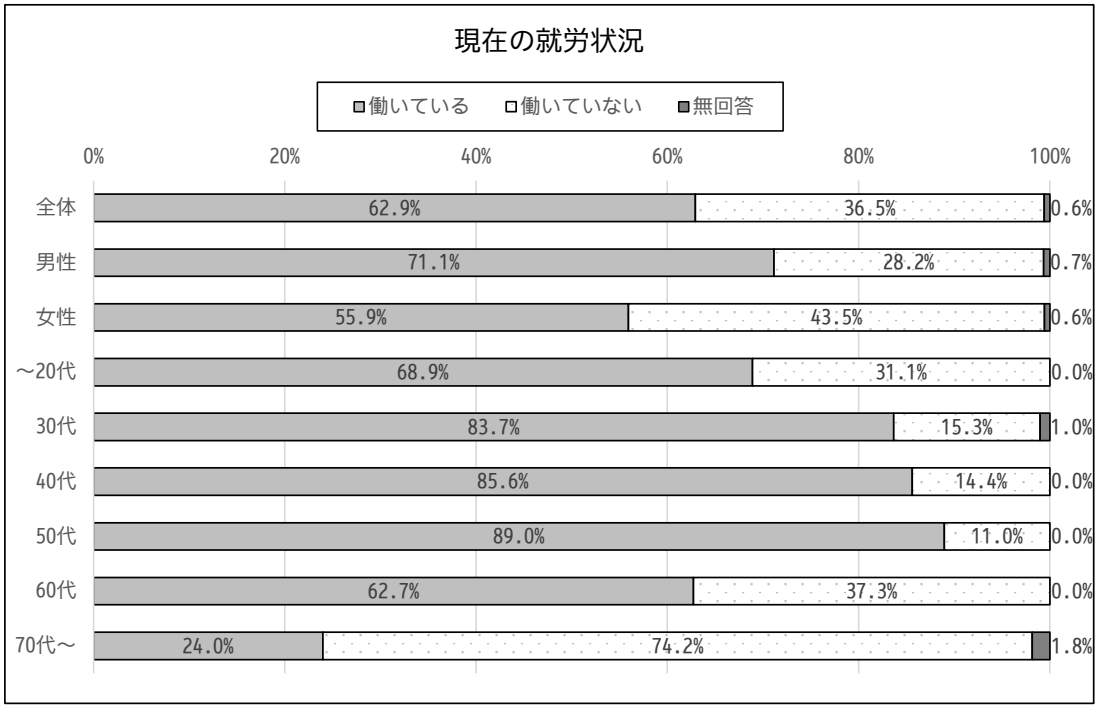
問２４　現在、あなたは働いていますか。

【全　体】
「働いている（育児休業中等を含む）」と回答した割合が、62.9%となっている。

【性　別】
「働いている（育児休業中等を含む）」と回答した割合は女性より男性の方が高い。
（男性71.1%、女性55.9%）

【年代別】
30代～50代においては、「働いている（育児休業中等を含む）」と回答した割合が８割を超えている。

【前回調査（2020年）比較】
2024年度新規調査項目



（人）

	実人数	働いている	働いていない	無回答
全体	993	625	362	6
男性	454	323	128	3
女性	531	297	231	3
性別無回答	8	5	3	0
～20代	74	51	23	0
30代	98	82	15	1
40代	153	131	22	0
50代	181	161	20	0
60代	212	133	79	0
70代～	271	65	201	5
年齢無回答	4	2	2	0

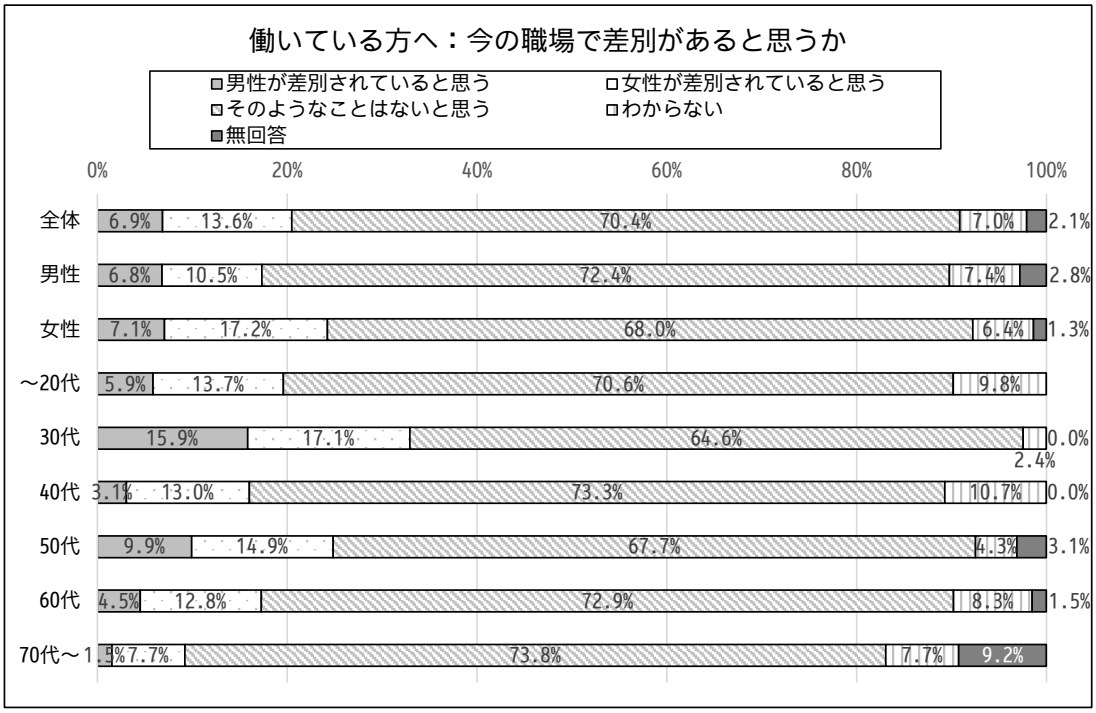
問２５　働いている方にお聞きします。今の職場で、仕事の内容や待遇面において、男女で差別されていると思いますか。

【全　体】
「そのようなことはないと思う」と回答した割合が、70.4%で最も高く、性別で差別されていると回答した割合が20.5%であった。

【性　別】
男女とも「そのようなことはないと思う」と回答した割合が高い（男性72.4%、女性68.0%）一方、「男性が差別されていると思う」と回答した割合はほぼ同率に対し、「女性が差別されていると思う」との回答が男性より女性の方が高い。（男性10.5%、女性17.2%）

【年代別】
30代においては、ほかの年代に比べて男性又は女性が差別されていると思うと回答した割合が高い。

【前回調査（2020年）比較】
「そのようなことはないと思う」と回答した割合が増加した。（2020年 66.5%）



（人）

	実人数	男性が差別されていると思う	女性が差別されていると思う	そのようなことはないと思う	わからない	無回答
全体	625	43	85	440	44	13
男性	323	22	34	234	24	9
女性	297	21	51	202	19	4
性別無回答	5	0	0	4	1	0
～20代	51	3	7	36	5	0
30代	82	13	14	53	2	0
40代	131	4	17	96	14	0
50代	161	16	24	109	7	5
60代	133	6	17	97	11	2
70代～	65	1	5	48	5	6
年齢無回答	2	0	1	1	0	0

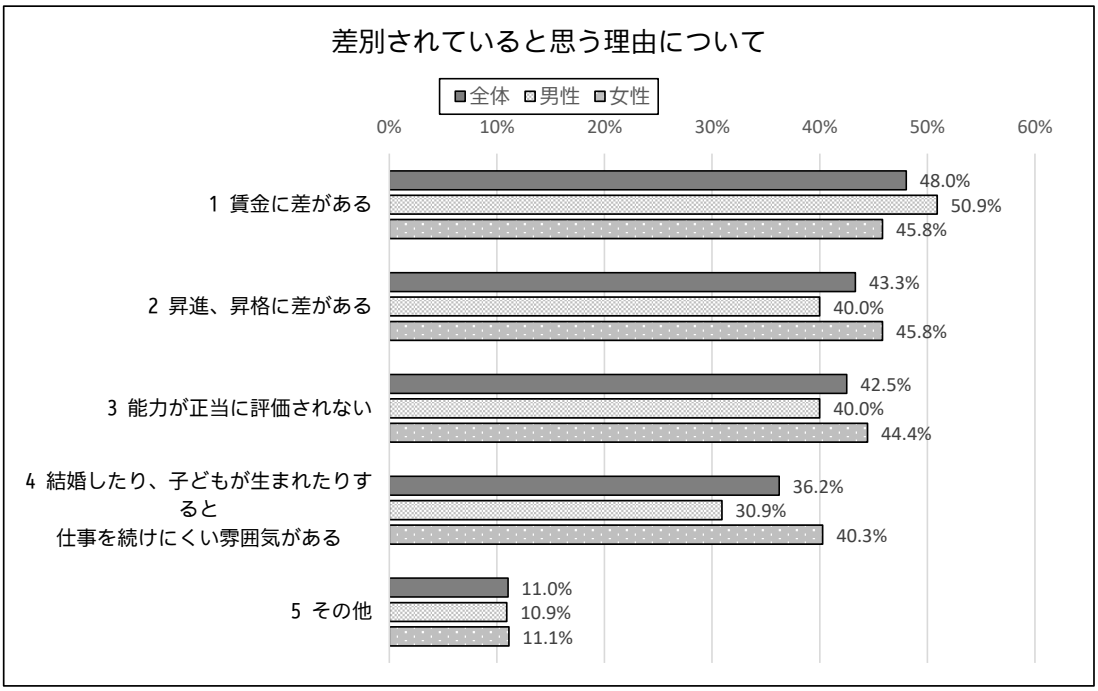
問２６　問２５で「差別されていると思う」と答えた方にお聞きします。それは、具体的にどのようなことですか。【複数回答】

【全　体】
「1 賃金に差がある」と回答した割合が48.0%と最も高く、次いで「2 昇進、昇格に差がある」が43.3%、「3 能力を適正に評価しない」が42.5%となっている。

【性　別】
男女ともに「1 賃金に差がある」と回答した割合が高く（男性50.9%、女性45.8%）、男性は「2 昇進、昇格に差がある」「3 能力を適正に評価しない」がともに40.0%、女性は「1 賃金に差がある」「2 昇進、昇格に差がある」がともに45.8%と同じ回答割合となっている。

【年代別】
20代以下では、「1 賃金に差がある」と回答した割合は他の年代に比べ低いものの、「4 結婚したり、子どもが生まれたりすると仕事を続けにくい雰囲気がある」が60.0%と高くなっている。

【前回調査（2020年）比較】
回答割合が高い順位は前回同様となっている。
「1 賃金に差がある」と回答した割合が前回調査から2.0ポイント減少している（2020年50.0%）。



（上段:人）

	回答実人数	回答総数	賃金に差がある	昇進、昇格に差がある	能力が正当に評価されない	結婚したり、子供が生まれたりすると仕事を続けにくい雰囲気がある	その他
全体	127	230	61 48.0%	55 43.3%	54 42.5%	46 36.2%	14 11.0%
男性	55	95	28 50.9%	22 40.0%	22 40.0%	17 30.9%	6 10.9%
女性	72	135	33 45.8%	33 45.8%	32 44.4%	29 40.3%	8 11.1%
性別無回答	0	0	0 ---	0 ---	0 ---	0 ---	0 ---
～20代	10	20	3 30.0%	4 40.0%	4 40.0%	6 60.0%	3 30.0%
30代	27	51	13 48.1%	9 33.3%	11 40.7%	11 40.7%	7 25.9%
40代	20	37	9 45.0%	10 50.0%	6 30.0%	10 50.0%	2 10.0%
50代	40	71	17 42.5%	22 55.0%	19 47.5%	13 32.5%	0 0.0%
60代	23	41	15 65.2%	9 39.1%	12 52.2%	3 13.0%	2 8.7%
70代～	6	9	4 66.7%	1 16.7%	2 33.3%	2 33.3%	0 0.0%
年齢無回答	1	1	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%

男女の働き方と仕事と生活の調和について

問２７　仕事と生活について、あなたの考え方にもっとも近いものを教えてください。

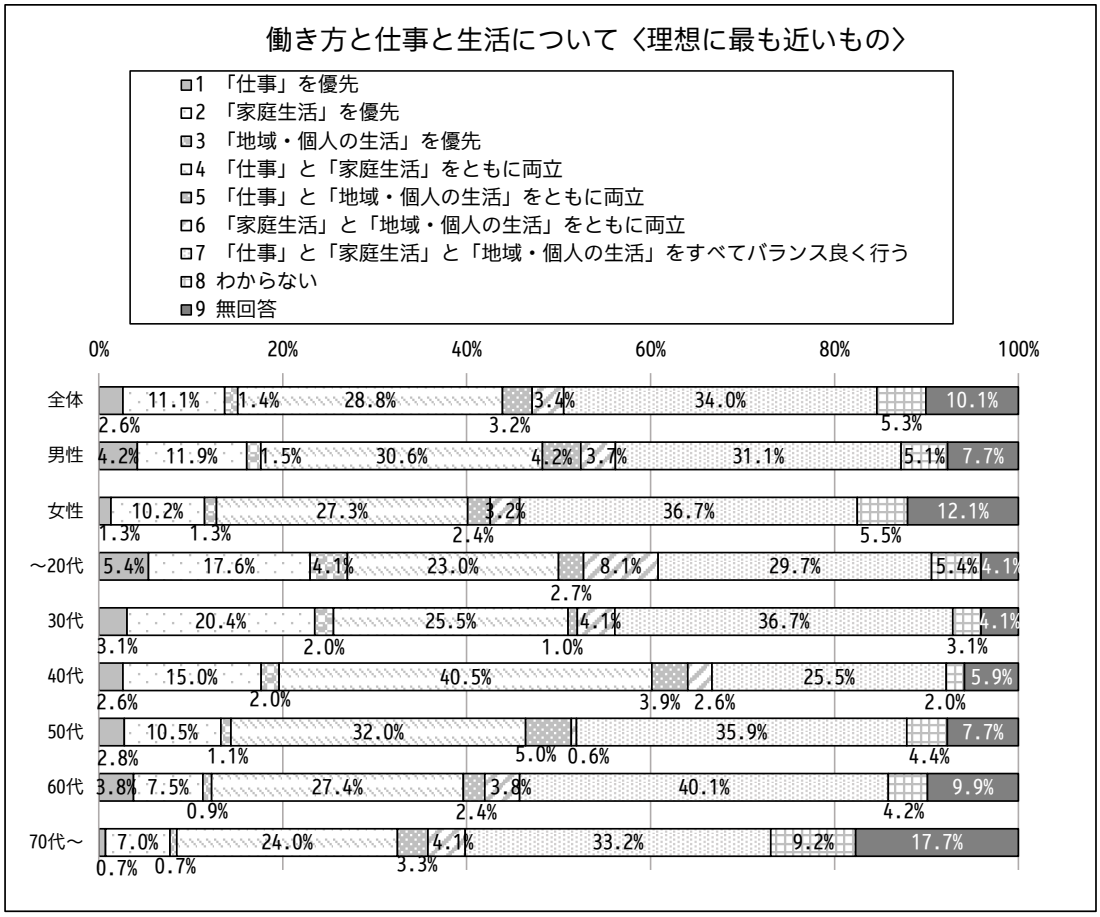
〈 考え方（理想） 〉

【全　体】
「7 仕事と家庭生活と地域・個人の生活をすべてバランス良く行う」と回答した割合が、34.0%と最も高く、次いで「4 仕事と家庭生活をともに両立」が、28.8%となっている。

【性　別】
男女とも「7 仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともにすべてバランス良く行う」と回答した割合が最も高いが、「1 仕事を優先」と回答した割合は、女性より男性の方が高い。

【年代別】
60代で「7 仕事と家庭生活と地域・個人の生活をすべてバランス良く行う」と回答した割合が40.1%と高い。
また、40代は、「4 仕事と家庭生活をともに両立」と回答した割合が他の年代よりも高い。

【前回調査（2020年）比較】
「7 仕事と家庭生活と地域・個人の生活をすべてバランス良く行う」と回答した割合が減少（2020年　45.2%）し、「4 仕事と家庭生活をともに両立」と回答した割合が増加（2020年 22.6%）した。



（人）

	回答実人数	1.「仕事」を優先	2.「家庭生活」を優先	3.「地域・個人の生活」を優先	4.「仕事」と「家庭生活」をともに両立	5.「仕事」と「地域・個人の生活」をともに両立	6.「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに両立	7.「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をすべてバランス良く行う	8.わからない	無回答
全体	993	26	110	14	286	32	34	338	53	100
男性	454	19	54	7	139	19	17	141	23	35
女性	531	7	54	7	145	13	17	195	29	64
性別無回答	8	0	2	0	2	0	0	2	1	1
～20代	74	4	13	3	17	2	6	22	4	3
30代	98	3	20	2	25	1	4	36	3	4
40代	153	4	23	3	62	6	4	39	3	9
50代	181	5	19	2	58	9	1	65	8	14
60代	212	8	16	2	58	5	8	85	9	21
70代～	271	2	19	2	65	9	11	90	25	48
年齢無回答	4	0	0	0	1	0	0	1	1	1

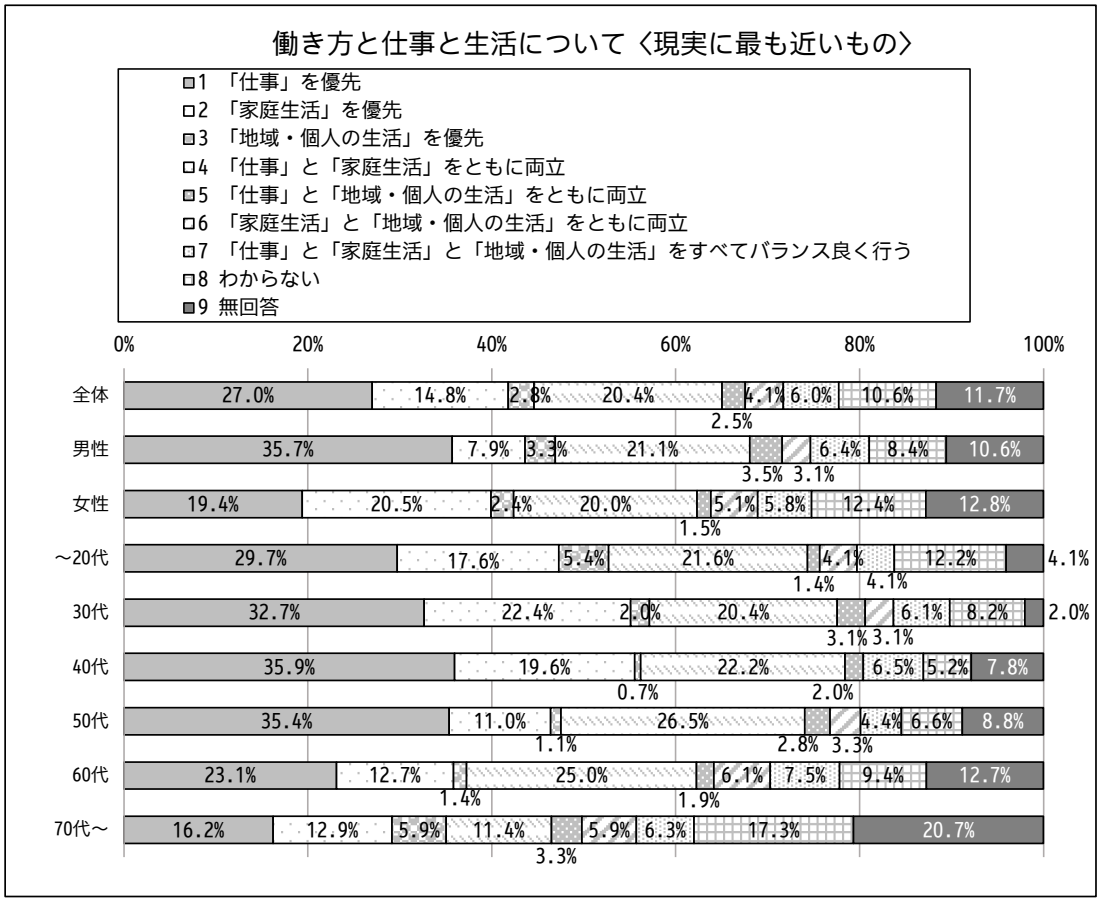
〈 現実（現状） 〉

【全　体】
「1 仕事を優先」と回答した割合が、27.0%で最も高く、次いで「4 仕事と家庭生活をともに両立」が20.4%となった。

【性　別】
男性は「1 仕事を優先」と回答した割合が35.7%、「2 家庭生活を優先」が7.9%となった一方、女性は「1 仕事を優先」が19.4%、「2 家庭生活を優先」が20.5%となった。

【年代別】
50代以下では、「1 仕事を優先」と回答した割合が約３割を占めており、最も高くなっている。
また、60代以下では、「4 仕事と家庭生活をともに両立」と回答した割合が次いで高くなっている。

【前回調査（2020年）比較】
「1 仕事を優先」と回答した割合（2020年 28.3%）と、「4 仕事と家庭生活を両立」と回答した割合（2020年 20.9%）がともに減少している。



（人）

	回答実人数	1.「仕事」を優先	2.「家庭生活」を優先	3.「地域・個人の生活」を優先	4.「仕事」と「家庭生活」をともに両立	5.「仕事」と「地域・個人の生活」をともに両立	6.「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに両立	7.「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をすべてバランス良く行う	8.わからない	無回答
全体	993	268	147	28	203	25	41	60	105	116
男性	454	162	36	15	96	16	14	29	38	48
女性	531	103	109	13	106	8	27	31	66	68
性別無回答	8	3	2	0	1	1	0	0	1	0
～20代	74	22	13	4	16	1	3	3	9	3
30代	98	32	22	2	20	3	3	6	8	2
40代	153	55	30	1	34	3	0	10	8	12
50代	181	64	20	2	48	5	6	8	12	16
60代	212	49	27	3	53	4	13	16	20	27
70代～	271	44	35	16	31	9	16	17	47	56
年齢無回答	4	2	0	0	1	0	0	0	1	0

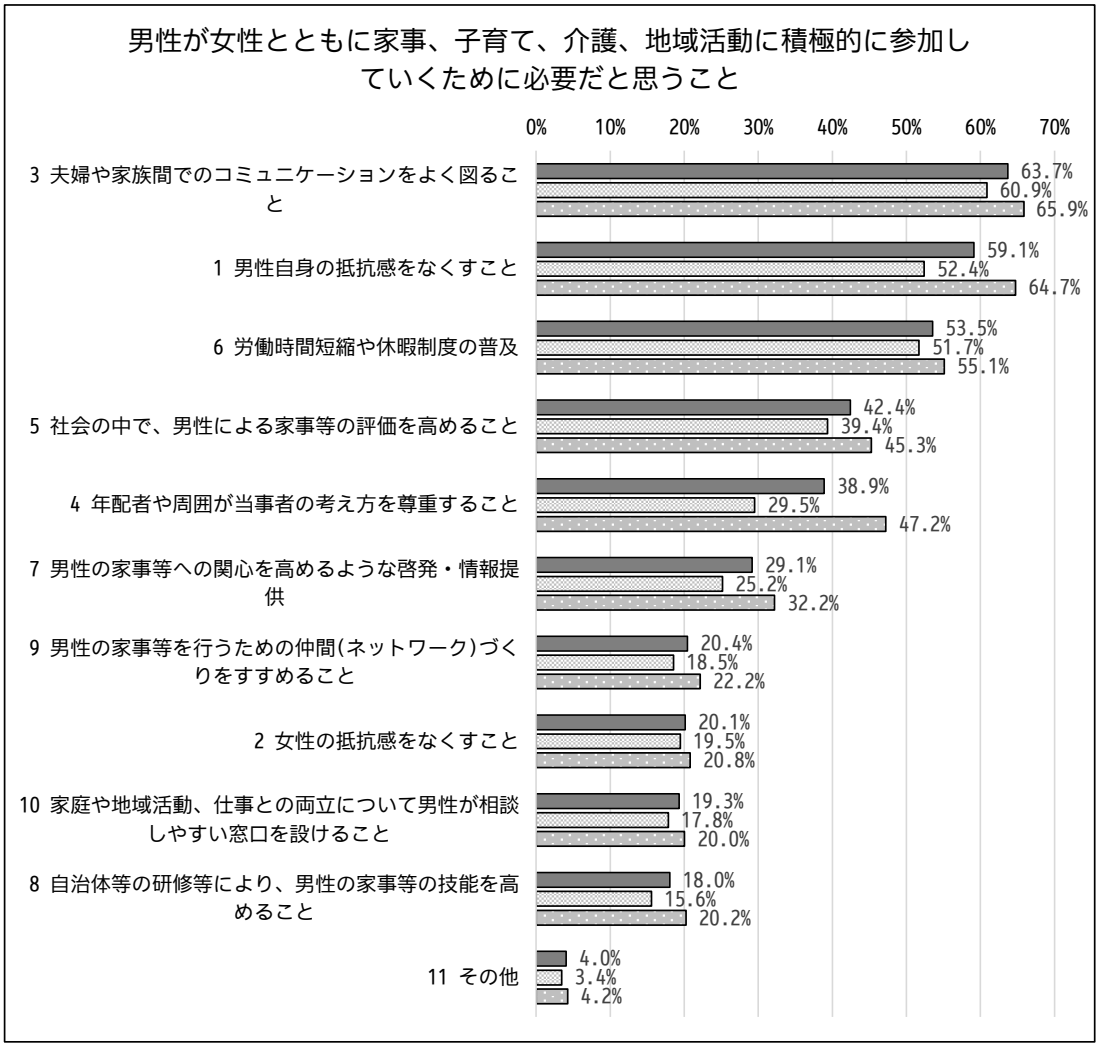
問２８　今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。【複数回答】

【全　体】
「3 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」と回答した割合が63.7%で最も高く、次いで「1 男性自身の抵抗感をなくすこと」が59.1%、「6 労働時間短縮や休暇制度の普及」が53.5%と続いている。

【性　別】
男女とも「3 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」と回答した割合が最も高い。（男性60.9%、女性65.9%）

【年代別】
20代以下では、他の年代に比べて「7 男性の家事等への関心を高めるような啓発・情報提供」「10 家庭や地域活動、仕事との両立について男性が相談しやすい窓口を設けること」の回答した割合が高い。

【前回調査（2020年）比較】
上位７項目について前回調査と同様の順位となっている。
また、「1 男性自身の抵抗感をなくすこと」（2020年 男性47.7%、女性60.7%）、「4 年配者や周囲が当事者の考え方を尊重すること」（2020年 男性32.0%、女性42.8%）について、前回調査と同様に、男性と女性で10ポイントを超える差があり、性別で必要だと思うことに差がみられている。



（上段：人）

	回答実人数	回答総数	1. 男性自身の抵抗感をなくすこと	2. 女性の抵抗感をなくすこと	3. 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること	4. 年配者や周囲が当事者の考え方を尊重すること	5. 社会の中で、男性による家事等の評価を高めること	6. 労働時間短縮や休暇制度の普及	7. 男性の家事等への関心を高めるような啓発・情報提供	8. 自治体等の研修等により、男性の家事等の技能を高めること	9. 男性の家事等を行うための仲間（ネットワーク）づくりをすすめること	10. 家庭や地域活動、仕事との両立について男性が相談しやすい窓口を設けること	11. その他
全体	964	3,555	570 59.1%	194 20.1%	614 63.7%	375 38.9%	409 42.4%	516 53.5%	281 29.1%	174 18.0%	197 20.4%	186 19.3%	39 4.0%
男性	437	1,459	229 52.4%	85 19.5%	266 60.9%	129 29.5%	172 39.4%	226 51.7%	110 25.2%	68 15.6%	81 18.5%	78 17.8%	15 3.4%
女性	519	2,065	336 64.7%	108 20.8%	342 65.9%	245 47.2%	235 45.3%	286 55.1%	167 32.2%	105 20.2%	115 22.2%	104 20.0%	22 4.2%
性別無回答	8	31	5 25.0%	1 25.0%	6 75.0%	1 25.0%	2 50.0%	4 75.0%	4 75.0%	1 25.0%	1 25.0%	4 50.0%	2 0.0%
～20代	74	256	40 62.5%	12 12.5%	46 75.0%	23 12.5%	22 25.0%	42 50.0%	18 50.0%	14 12.5%	16 12.5%	15 50.0%	8 25.0%
30代	97	352	45 54.1%	17 16.2%	68 62.2%	36 31.1%	42 29.7%	60 56.8%	25 24.3%	15 18.9%	22 21.6%	17 20.3%	5 10.8%
40代	151	554	88 46.4%	37 17.5%	90 70.1%	62 37.1%	62 43.3%	93 61.9%	37 25.8%	23 15.5%	28 22.7%	27 17.5%	7 5.2%
50代	180	666	103 58.3%	34 24.5%	106 59.6%	82 41.1%	90 41.1%	99 61.6%	47 24.5%	34 15.2%	33 18.5%	31 17.9%	7 4.6%
60代	206	759	129 57.2%	38 18.9%	139 58.9%	72 45.6%	87 50.0%	106 55.0%	61 26.1%	37 18.9%	48 18.3%	37 17.2%	5 3.9%
70代～	252	950	164 62.6%	55 18.4%	162 67.5%	99 35.0%	104 42.2%	113 51.5%	90 29.6%	50 18.0%	49 23.3%	57 18.0%	7 2.4%
年齢無回答	4	18	1 65.1%	1 21.8%	3 64.3%	1 39.3%	2 41.3%	3 44.8%	3 35.7%	1 19.8%	1 19.4%	2 22.6%	0 2.8%

防災について

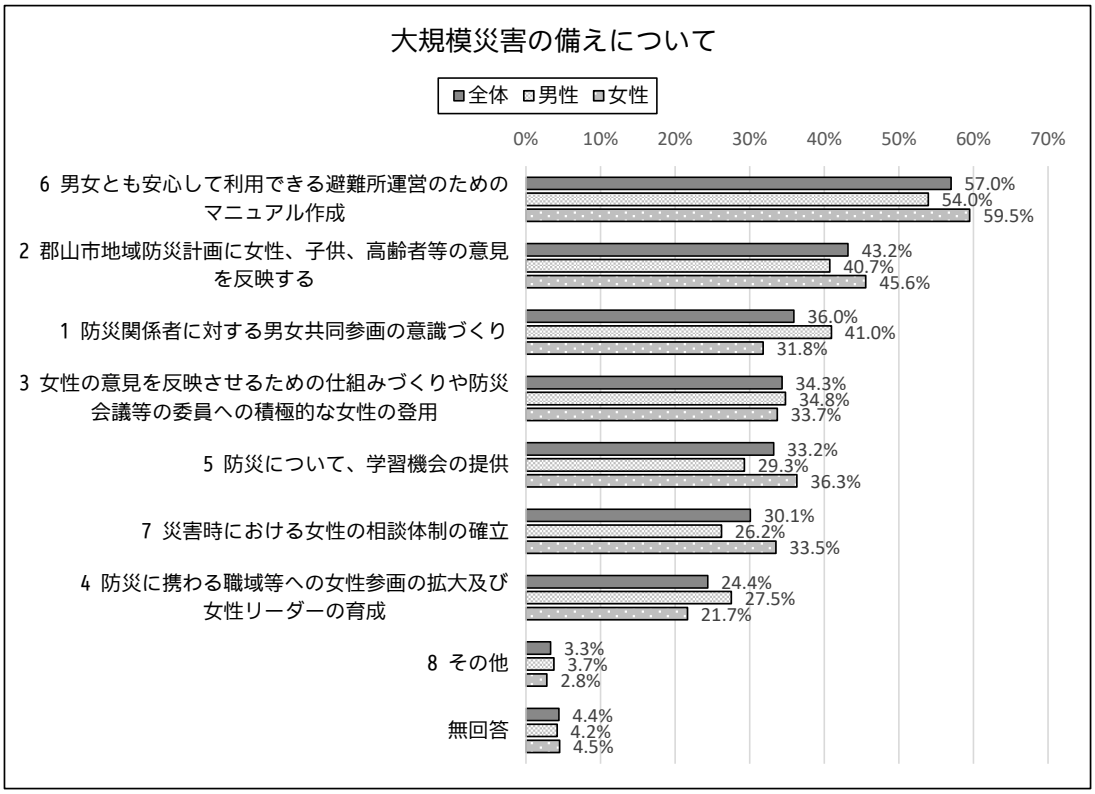
問２９　大規模災害時に備えに関して、男女がともに安心できる防災体制を整えるために日常的にどのようなことが必要だと思いますか。【複数回答】

【全　体】
「6 男女とも安心して利用できる避難所運営のためのマニュアル作成」と回答した割合が、57.0%と最も高く、次いで「2 郡山市地域防災計画に女性、子供、高齢者等の意見を反映する」43.2%、「1 防災関係者に対する男女共同参画の意識づくり」36.0%となっている。

【性　別】
男女ともに「6 男女とも安心して利用できる避難所運営のためのマニュアル作成」と回答した割合が最も高い一方、「1 防災関係者に対する男女共同参画の意識づくり」と回答した男性が41.0%に対し、女性は31.8%と9.2ポイントの開きがある。

【年代別】
全ての年代において、「6 男女とも安心して利用できる避難所運営のためのマニュアル作成」が最も高い。

【前回調査（2020年）比較】
前回同様、「6 男女とも安心して利用できる避難所運営のためのマニュアル作成」と回答した割合が最も高い。（2020年 57.6%）



（上段：人）

	回答実人数	回答総数	1.防災関係者に対する男女共同参画の意識づくり	2.郡山市地域防災計画に女性、子供、高齢者等の意見を反映する	3.女性の意見を反映させるための仕組みづくりや防災会議などの委員への積極的な女性の登用	4.防災に携わる職域等への女性参画の拡大及び女性リーダーの育成	5.防災について、学習機会の提供	6.男女とも安心して利用できる避難所運営のためのマニュアル作成	7.災害時における女性の相談体制の確立	8.その他	無回答
全体	993	2,641	357 36.0%	429 43.2%	341 34.3%	242 24.4%	330 33.2%	566 57.0%	299 30.1%	33 3.3%	44 4.4%
男性	454	1,187	186 41.0%	185 40.7%	158 34.8%	125 27.5%	133 29.3%	245 54.0%	119 26.2%	17 3.7%	19 4.2%
女性	531	1,431	169 31.8%	242 45.6%	179 33.7%	115 21.7%	193 36.3%	316 59.5%	178 33.5%	15 2.8%	24 4.5%
性別無回答	8	23	2 25.0%	2 25.0%	4 50.0%	2 25.0%	4 50.0%	5 62.5%	2 25.0%	1 12.5%	1 12.5%
～20代	74	167	26 35.1%	24 32.4%	20 27.0%	14 18.9%	22 29.7%	40 54.1%	14 18.9%	5 6.8%	2 2.7%
30代	98	231	31 31.6%	38 38.8%	23 23.5%	17 17.3%	35 35.7%	56 57.1%	28 28.6%	2 2.0%	1 1.0%
40代	153	399	59 38.6%	72 47.1%	55 35.9%	35 22.9%	39 25.5%	86 56.2%	48 31.4%	3 2.0%	2 1.3%
50代	181	499	64 35.4%	75 41.4%	81 44.8%	43 23.8%	66 36.5%	97 53.6%	63 34.8%	6 3.3%	4 2.2%
60代	212	602	88 41.5%	100 47.2%	71 33.5%	63 29.7%	66 31.1%	125 59.0%	72 34.0%	7 3.3%	10 4.7%
70代～	271	727	88 32.5%	118 43.5%	88 32.5%	67 24.7%	100 36.9%	159 58.7%	72 26.6%	10 3.7%	25 9.2%
年齢無回答	4	16	1 25.0%	2 50.0%	3 75.0%	3 75.0%	2 50.0%	3 75.0%	2 50.0%	0 0.0%	0 0.0%

本市の男女共同参画に関する取り組みについて

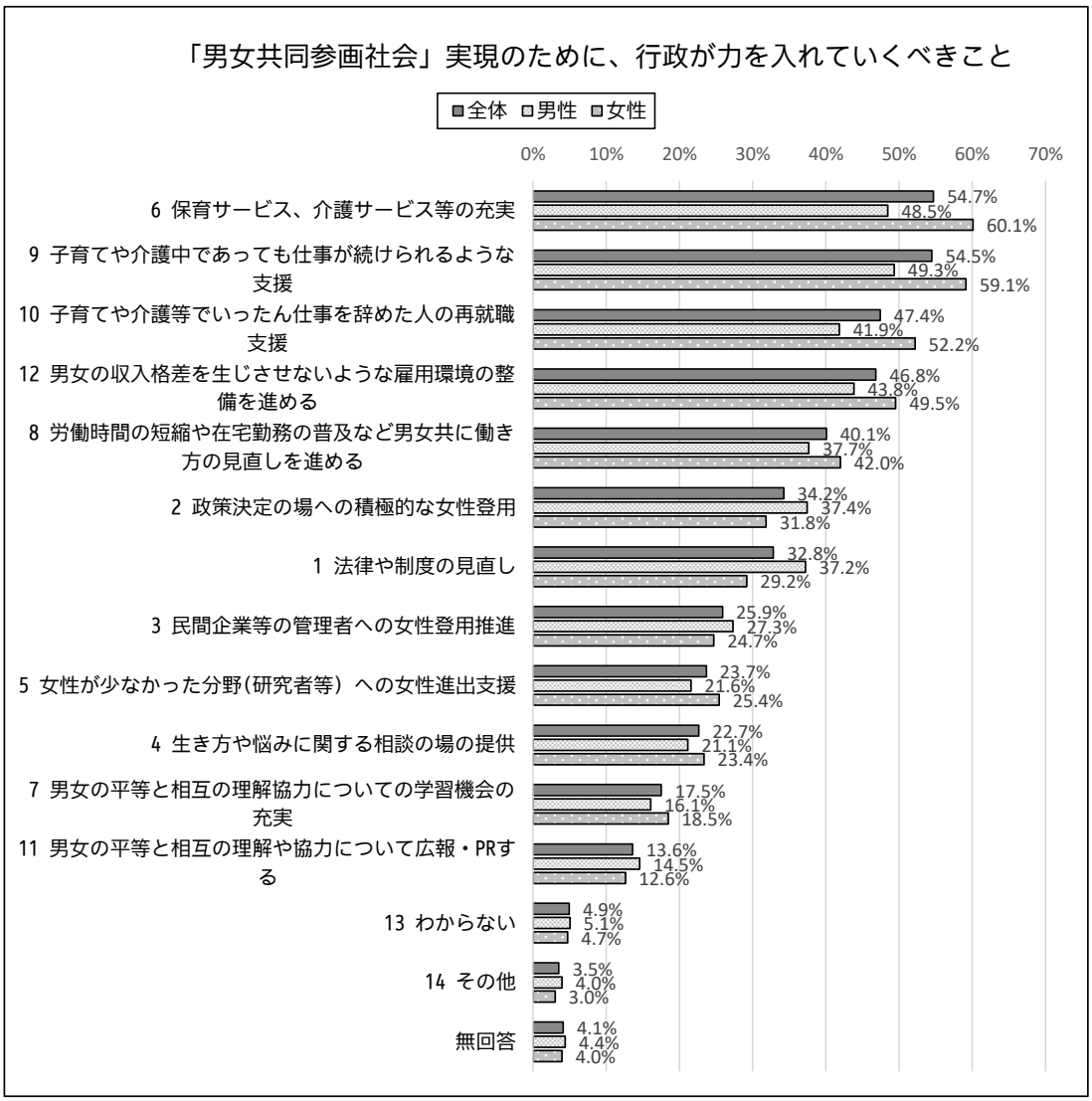
問３０　『男女共同参画社会』を実現するために、今後、行政はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。【複数回答】

【全　体】
「6 保育サービス、介護サービス等の充実」と回答した割合が54.7%と最も高く、次いで「9 子育てや介護中であっても仕事が続けられるような支援」が54.5%、「10 子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職支援」が47.4%となっている。

【性　別】
女性は、「6 保育サービス、介護サービスの充実」と回答した割合が60.1%と最も高く、男性は、「9 子育てや介護中であっても仕事が続けられるような支援」が49.3%と最も高い。

【年代別】
年代による大きな差は見られない。

【前回調査（2020年）比較】
今回調査の上位２つを除き、 前回調査と同じ順位となっている。
「6 保育サービス、介護サービス等の充実」（2020年 57.5%）、「9 子育てや介護中であっても仕事が続けられるような支援」（2020年 58.6%）、「10 子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職支援」（2020年 52.7%）の回答割合が高い。



（上段:人）

	回答実人数	回答総数	1.法律や制度の見直し	2.政策決定の場への積極的な女性登用	3.民間企業等の管理者への女性登用推進	4.生き方や悩みに関する相談の場の提供	5.女性が少なかった分野への女性進出支援	6.保育サービス、介護サービス等の充実	7.学習機会の充実	8.労働時間の短縮や在宅勤務普及など男女共に働き方の見直しを進める	9.子育てや介護中であっても仕事が続けられるような支援	10.子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職支援	11.男女の平等と相互の理解や協力について広報・PRする	12.男女の収入格差を生じさせないような雇用環境の整備を進める	13.わからない	14.その他	無回答
全体	993	4,235	326 32.8%	340 34.2%	257 25.9%	225 22.7%	235 23.7%	543 54.7%	174 17.5%	398 40.1%	541 54.5%	471 47.4%	135 13.6%	465 46.8%	49 4.9%	35 3.5%	41 4.1%
男性	454	1,861	169 37.2%	170 37.4%	124 27.3%	96 21.1%	98 21.6%	220 48.5%	73 16.1%	171 37.7%	224 49.3%	190 41.9%	66 14.5%	199 43.8%	23 5.1%	18 4.0%	20 4.4%
女性	531	2,337	155 29.2%	169 31.8%	131 24.7%	124 23.4%	135 25.4%	319 60.1%	98 18.5%	223 42.0%	314 59.1%	277 52.2%	67 12.6%	263 49.5%	25 4.7%	16 3.0%	21 4.0%
性別無回答	8	37	2 25.0%	1 12.5%	2 25.0%	5 62.5%	2 25.0%	4 50.0%	3 37.5%	4 50.0%	3 37.5%	4 50.0%	2 25.0%	3 37.5%	1 12.5%	1 12.5%	0 0.0%
～20代	74	315	29 39.2%	20 27.0%	20 27.0%	20 27.0%	23 31.1%	33 44.6%	17 23.0%	30 40.5%	36 48.6%	34 45.9%	14 18.9%	29 39.2%	5 6.8%	5 6.8%	0 0.0%
30代	98	415	37 37.8%	27 27.6%	21 21.4%	24 24.5%	25 25.5%	53 54.1%	15 15.3%	49 50.0%	59 60.2%	45 45.9%	9 9.2%	42 42.9%	4 4.1%	4 4.1%	1 1.0%
40代	153	686	62 40.5%	51 33.3%	36 23.5%	44 28.8%	40 26.1%	81 52.9%	38 24.8%	63 41.2%	81 52.9%	75 49.0%	28 18.3%	75 49.0%	4 2.6%	6 3.9%	2 1.3%
50代	181	754	65 35.9%	58 32.0%	54 29.8%	44 24.3%	41 22.7%	90 49.7%	27 14.9%	74 40.9%	101 55.8%	73 40.3%	21 11.6%	86 47.5%	10 5.5%	6 3.3%	4 2.2%
60代	212	954	71 33.5%	84 39.6%	48 22.6%	42 19.8%	43 20.3%	135 63.7%	31 14.6%	95 44.8%	134 63.2%	120 56.6%	23 10.8%	107 50.5%	2 0.9%	9 4.2%	10 4.7%
70代～	271	1,091	62 22.9%	99 36.5%	76 28.0%	49 18.1%	62 22.9%	147 54.2%	45 16.6%	86 31.7%	127 46.9%	122 45.0%	40 14.8%	124 45.8%	23 8.5%	5 1.8%	24 8.9%
年齢無回答	4	20	0 0.0%	1 25.0%	2 50.0%	2 50.0%	1 25.0%	4 100.0%	1 25.0%	1 25.0%	3 75.0%	2 50.0%	0 0.0%	2 50.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%

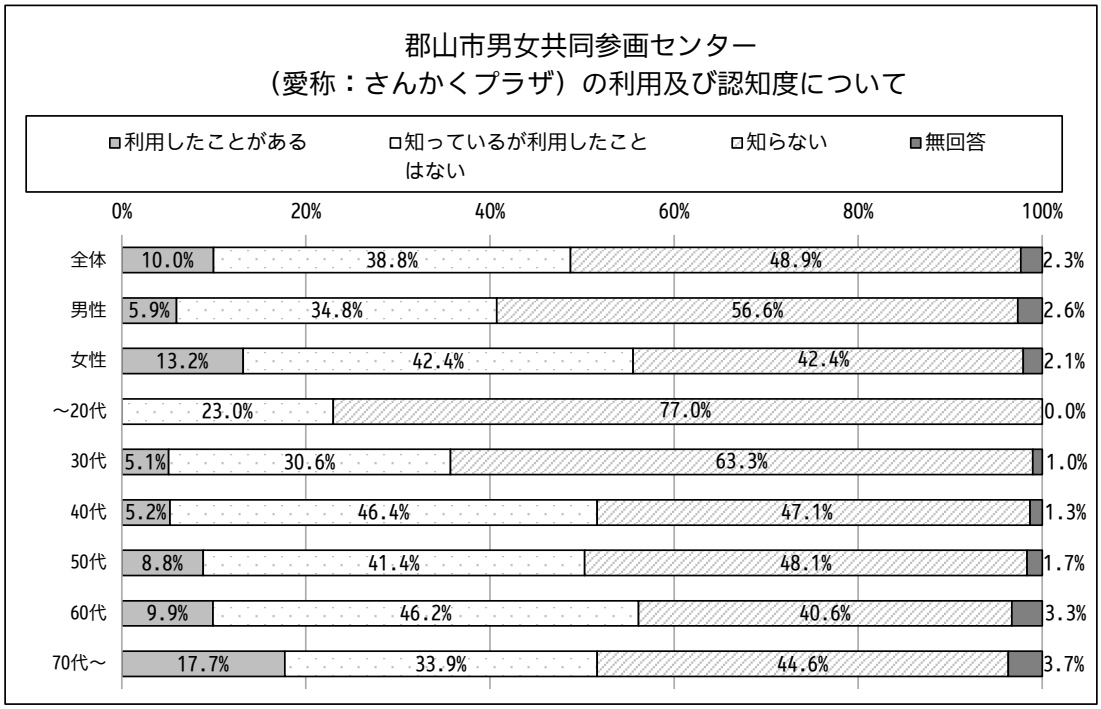
問３１　あなたは、男女共同参画センター（愛称：さんかくプラザ）をご存知ですか。

【全　体】
「知らない」と回答した割合が48.9%と最も高く、次いで「知っているが、利用したことはない」が38.8%「利用したことがある」10.0%となった。

【性　別】
「知らない」と回答した割合は、女性より男性の方が高い。（男性56.6%、女性42.4%）

【年代別】
「知らない」と回答した割合が、30代以下で特に高い。

【前回調査（2020年）比較】
「知らない」と回答した割合は減少した。（2020年 51.3%）



（人）

	実人数	利用したことがある	知っているが利用したことはない	知らない	無回答
全体	993	99	385	486	23
男性	454	27	158	257	12
女性	531	70	225	225	11
性別無回答	8	2	2	4	0
～20代	74	0	17	57	0
30代	98	5	30	62	1
40代	153	8	71	72	2
50代	181	16	75	87	3
60代	212	21	98	86	7
70代～	271	48	92	121	10
年齢無回答	4	1	2	1	0

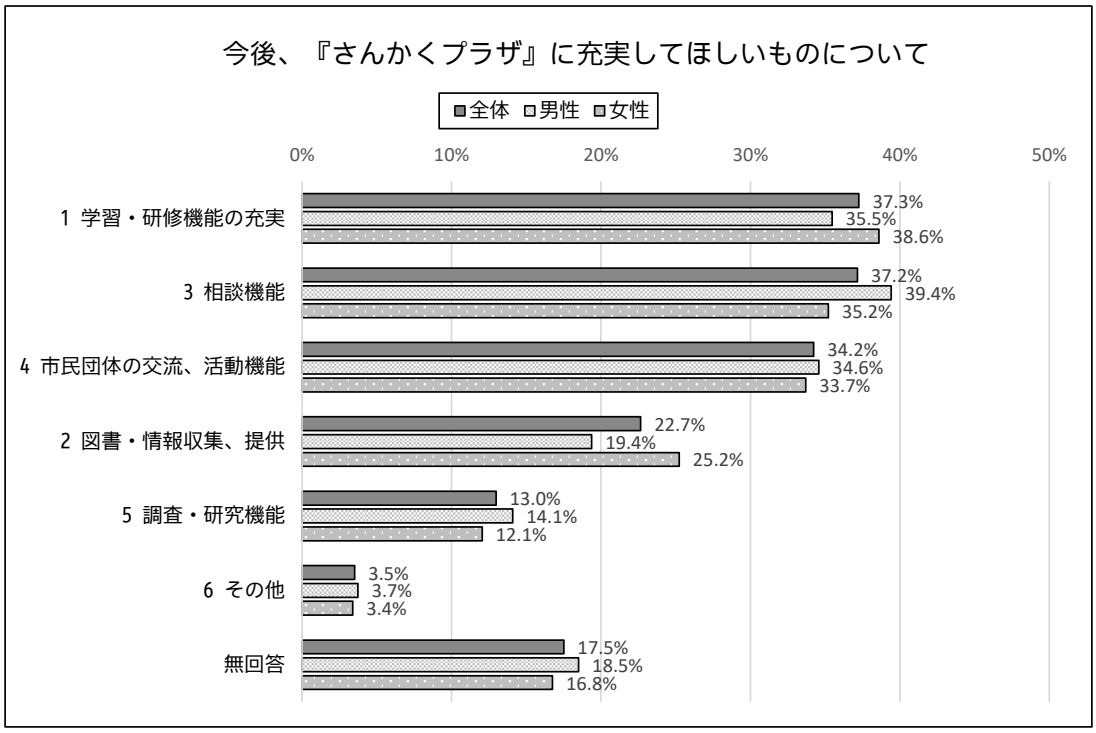
問３２　今後、『さんかくプラザ』に何を充実してほしいですか。【複数回答】

【全　体】
「学習・研修機能の充実」が37.3%で最も多く、次いで「相談機能」37.2%、「市民団体の交流、活動機能」34.2%となっている。

【性　別】
男性は「相談機能」、女性は「学習・研修機能の充実」と回答した割合が最も高い。

【年代別】
すべての世代で「学習・研修機能の充実」、「相談機能」と回答した割合は高く、年代が高いほど「市民団体の交流・活動機能」と回答した割合が高くなっている。

【前回調査（2020年）比較】
上位３つは順位に変動はあるものの、前回調査と同様であった。



（上段:人）

	回答実人数	回答総数	学習・研修機能の充実	図書・情報収集、提供	相談機能	市民団体の交流、活動機能	調査・研究機能	その他	無回答
全体	993	1,642	370 37.3%	225 22.7%	369 37.2%	340 34.2%	129 13.0%	35 3.5%	174 17.5%
男性	454	750	161 35.5%	88 19.4%	179 39.4%	157 34.6%	64 14.1%	17 3.7%	84 18.5%
女性	531	876	205 38.6%	134 25.2%	187 35.2%	179 33.7%	64 12.1%	18 3.4%	89 16.8%
性別無回答	8	16	4 50.0%	3 37.5%	3 37.5%	4 50.0%	1 12.5%	0 0.0%	1 12.5%
～20代	74	120	27 36.5%	21 28.4%	25 33.8%	18 24.3%	15 20.3%	2 2.7%	12 16.2%
30代	98	150	32 32.7%	25 25.5%	37 37.8%	22 22.4%	8 8.2%	4 4.1%	22 22.4%
40代	153	270	62 40.5%	43 28.1%	64 41.8%	57 37.3%	22 14.4%	4 2.6%	18 11.8%
50代	181	312	70 38.7%	49 27.1%	78 43.1%	57 31.5%	30 16.6%	6 3.3%	22 12.2%
60代	212	350	81 38.2%	37 17.5%	79 37.3%	79 37.3%	22 10.4%	12 5.7%	40 18.9%
70代～	271	431	96 35.4%	47 17.3%	85 31.4%	104 38.4%	32 11.8%	7 2.6%	60 22.1%
年齢無回答	4	9	2 50.0%	3 75.0%	1 25.0%	3 75.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%

第４章　自由回答

この章では、市民意識調査において、各問の自由回答欄や男女共同参画に関するご意見、ご感想などにいただいた回答の一部を掲載しています。

自由回答記述者数　計６４３名

（上段：人）

性別(性自認) ＼ 年齢	２０代以下	３０代	４０代	５０代	６０代	７０代以上	回答しない	合計
男性	23 3.6%	29 4.5%	54 8.4%	51 7.9%	54 8.4%	43 6.7%	0 0.0%	254 39.5%
女性	34 5.3%	50 7.8%	45 7.0%	52 8.1%	105 16.3%	86 13.4%	0 0.0%	372 57.9%
その他/ 回答しない	5 0.8%	7 1.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	5 0.8%	17 2.6%
計	62 9.6%	86 13.4%	99 15.4%	103 16.0%	159 24.7%	129 20.1%	5 0.8%	643 100.0%

各問の自由回答

※明らかな誤字・脱字の修正を除き、原文のまま掲載。

問９：人権侵害を自分が受けたと回答した方で「どこ（誰）にも相談しなかった・できなかった」と回答した方にお聞きします。相談しなかった・できなかったのはなぜですか。	年代	性別	備考
信頼できる人がいない	20代以下	女性	
考えたくなかった。めんどくさかった。人とかかわりたくなかった。	30代	女性	
立場が上であり、上の人は上の人同士でつながっており、自分が何を言っても無駄。そしてバカを見るであろうと予測できたため	40代	男性	
まわりの友人が心配してくれていた	50代	男性	
30年以上前で普通の風潮（当時は）厳しい指導とパワハラの境がなかった時代	60代	男性	
ただ単に我慢しただけ	60代	男性	
自分が相手より認められる立場になるまでガマンする事にした。	60代	男性	
会社総務のトップでパワハラの相手がパワハラの相談窓口になっていた。	60代	女性	
誰かに相談することが解決にならない（具体的な解決支援になっていない）から	60代	女性	
遠い嫁の時代なので	70代以上	女性	

問13：性的マイノリティ（性的少数者）が生きやすい社会を実現するために、あなたはどのような取り組みが必要だと思いますか？	年代	性別	備考
理解できない人達がいなくなるのを待つ	20代以下	男性	
性的マイノリティの周知は未成年の自己が確立していない時期に不安をあおるような危険性があると思う。	20代以下	男性	
性的マイノリティの方が社会の中で話す場を設ける	20代以下	女性	
学生服の見直し〔スラックス制服の導入〕	20代以下	女性	
保健体育の教科書に”異性を意識”とか書かない。	20代以下	その他	
その対象者自身が気にしないようにしないといけない。普通だという自覚と、堂々と過ごしてほしい	30代	男性	
高齢者の意識改善	30代	男性	
人間としての尊厳の教育及び人権教育	30代	女性	
特別扱いせず、ありふれた接し方としていく	30代	その他	
違いを認め合えるような教育	40代	男性	
フルオープンですべての人がいられる社会	40代	男性	
関心のある人は勝手にあつまり、理解を深めてくれます。どれだけ無関心の人たちにアプローチできるか。そのための同性パートナーシップ制度や法の統制を第１に考えてみては…	40代	男性	
男女別の施設（トイレ・温泉等）仕様要領・法律の明確化（マイノリティ以外の方のためにも）	40代	男性	
普通に生活すること。それぞれの立場で権利ばかり主張しないこと。	40代	男性	
個人の多様性が尊重されるあまり、多数の人が尊重されないのは問題。 一般の人を（多数）尊重する方が正しいと思います。	40代	男性	
特別な扱いをする必要はない	40代	男性	
ヨーロッパのように、幼児期から色んな人がいることを教育する。	40代	女性	
学校教育の中でも講習会など	40代	女性	
教育。特に小さい頃からの	40代	女性	
そんなことより男→女への性犯罪をなくすための教育や啓蒙に力を入れてほしい。性犯罪の多さにうんざりしている。	40代	女性	
法の改正	40代	女性	同様意見外2件
学校教育、周知啓発	50代	男性	
法制度、結婚や社会的保障	50代	男性	
生きやすい社会など実現しなくてもいい	50代	男性	

何もしない事。静かに見守る事。	50代	男性	
子育て、孫育てする中で理解できるような子育てをしていく	50代	女性	
小・中・高の授業でやる。	50代	女性	
LGBTQをふりかざして犯罪する思考も方もいるので、人として信頼関係を築くことが大事だと思う。	50代	女性	
基本的人権の尊重。本人の意志による決定を尊重すべき。	60代	男性	
小学校低学年からの説明と意識づけ	60代	男性	
カミングアウトする人が多ければ、身近で当たり前になると思います。	60代	男性	
そういうかたが、法律的権利は理解するが声高に、主張すれば一般のかたとの均衡はどうする。	60代	男性	
特段あげつらわないこと。静かに穏やかに見守ること。	60代	男性	
男女差別がいまだはびこっている中で、＋αは難しいのでは？	60代	女性	
各個人が人権を尊重し、他の人と同様に接する心掛けが最も大切	70代以上	男性	
今のままでよい	70代以上	男性	
同性のパートナーに対し反対（人口減少の一因になる）	70代以上	男性	
社会の為にならない。国がなくなる。	70代以上	男性	
兎に角難しいと思います。個人的に思う事は、噂話や指す事はしない事です。	70代以上	女性	
男女問わず”人は人”を皆が持つように。	70代以上	女性	
年代や思想の違いありだが、相談の窓口を増設し、もっと相談しやすくする。	70代以上	女性	

問15：あなたは、これまでにセクハラ、いじめ、虐待など「人権」について考えたり、学んだりした経験はありますか。	年代	性別	備考
学校での生徒指導	20代以下	男性	
高校在学中にスラックス制服の導入について学校に提案をした。（プレゼン）	20代以下	女性	
家族と話した（報道の事件等について）	30代	男性	
自身の体験により	30代	その他	同様意見外7件
会社での研修時に	40代	女性	同様意見外3件
大学で勉強してきました	40代	女性	
子供がいじめにあっているのではないか？と思い、先生に相談した事がある。	40代	女性	
実際に仕事として携わっていました。	50代	男性	同様意見外2件
ドラマなどで考えさせられることはある。	60代	女性	
いじめ虐待について考えた事があるが、どこで学んだらよいのか分からなかった。恐くて調べられなかった。	60代	女性	
夫婦からの虐待や暴力を受けても、性格によっては反論出来ない人がいると思いますが、そういう人の認識をかえないといけないので、もっと情報出してほしい。	60代	女性	
実際に経験した方から「どう思いますか」と問われた事はある。私は答えられなかったので、本人の了解を得て相談できる人、所を教えてもらい本人に伝えた。	60代	女性	
小学生時代に、友人をいじめてしまった事を今でも後悔している。その事で、出会った方々を大切に思いやりの気持ちを忘れない様に努めている。	60代	女性	
教育という名の親の教育は人生への生き方なのかも	70代以上	男性	

問20－①：女性が活躍していると感じている理由は何ですか。	年代	性別	備考
意識や人数の変化の実感はでないが、男女の差を感じない。	20代以下	男性	
子育てしながら働いている事自体が活躍だとおもう	30代	女性	
自身の考えをもって生活している	40代	男性	
女性が多い職場なので男性よりは活躍している	40代	女性	
とにかくイキイキとして働いている方ばかりです	50代	男性	

町内会など	50代	女性	同様意見外1件
納税額が大きすぎる。物価高のため女性の収入がないと生活できない。望んで働いている人ばかりではない。	50代	女性	
妻は会社で必要とされている様だ	60代	男性	
60才で退職する人が少なくなってきている	60代	女性	
子どもを持つ女性を優遇しようとしてきている	60代	女性	
仕事の選択が多くなってきた	60代	女性	
介護施設で活躍している女性が多数あり	60代	女性	
老人会の世話	70代以上	女性	
経済的に働かざるを得ない。いろいろな形態勤務で働いている。	70代以上	女性	
地域的に婦人会活動、地域包括支援活動、婦長さん	70代以上	女性	
考え方や環境の変化に関係なく責任を持ち仕事をしている	回答しない	回答しない	

問20－②：女性が活躍していないと感じている理由は何ですか。	年代	性別	備考
同性圧力が強すぎる為	30代	その他	
仕事をしていないため、上記に該当するものがない。	50代	男性	
後方で見るタイプの女性が多く、前へ出る女性を批判しがちである	60代	女性	
地域活動の情報を知らない	60代	女性	
退職したので、あえて社会活動をする気はない。自分の時間を優先。	60代	女性	
自分は６５歳となり退職したが、ハローワークへ行っても求職はむずかしい。活躍はむずかしい。	60代	女性	
社会とつながっていない	70代以上	女性	
他人が何をしているのかすら分からないので	70代以上	女性	
身体的理由	70代以上	女性	

問21：女性が活躍するにはどのようなことが必要だと思いますか。	年代	性別	備考
夫や男性が女性がキャリアを積む事へ理解をもつこと。家事分担をする事。	20代以下	男性	
ベビーシッターや家事代行などの支援	20代以下	女性	
育児休業の延長。原則として1歳までしか育休を利用できないという制度では2人目、3人目を産み育てるのは難しい。仕事でのキャリアを大切にしたい母親と、子どもとの時間を大切にしたい母親、その両方が子育てしやすいようになって欲しい。	20代以下	女性	
活躍を望む女性がいること（相対的に少ない）	30代	男性	
男性の育休の促進	30代	男性	
女性（男性であれ）が働かなくても未就学児がいるだけで生活費が補助されればよい。必要なのは「活躍」ではなく、「生活ができる」ことだと考えます。	30代	男性	
男女問わず、能力の是々非々での判断	30代	男性	
男性、女性そのものにこだわらず、仕事ができる人が活躍できるようにすることが大切。男性でも女性でもその役に合わない人は選ばれるべきではない。	30代	女性	
同調圧力をなんとかする	30代	その他	
意識改革が必要。今の日本人には無理	40代	男性	
特別な扱いをすることなく、お互いを尊重できること	40代	男性	
男子女子で物事を考えずに、実績や本人の思いなどを大切にしていくことが大切かと…	40代	男性	
活躍しなければならないと言う空気が良いわけではないと思う。	40代	男性	
企業のトップや管理職になり、責任ある仕事がしたい女性が増えること	40代	男性	
家庭内での家事、育児をパートナーと平等に分担できるようにすること。仕事、家事/育児を全て女性が担うようでは負担が大きすぎる。	40代	女性	

女性らしさを求めない空気を作ること	40代	女性	
女性のキャリア意識が向上していない	50代	男性	
活躍の場が広がってきただけで女性が活躍していない時代などないです。	50代	男性	
夫や義両親、身内の理解と協力。	50代	女性	
家族（夫、子ども、祖父母）の理解があり、仕事を応援してくれること	50代	女性	
男性の家事参加	60代	女性	
家庭内に上下関係がないこと。	60代	女性	
会社勤めの経験のない80才以上がいると無理	60代	女性	
性別で考えるより個人の得手不得手を重視する	回答しない	回答しない	

問22：女性が職業を持つことについてどうお考えになりますか。	年代	性別	備考
ライフサイクルや個人の意志により休職・復職（転職も）が柔軟に可能であれば良い。	30代	女性	
その人がしたい選択を環境的に選べる方が良い	30代	女性	同様意見外1件
両立できる環境があれば、どちらでも良いと思う。	40代	女性	
その人による。家庭におさまってる人、仕事してる方がいい人、その人による。一概に言えない。	50代	男性	同様意見外3件
望むように生きればいい。強制されないことが大事。	50代	女性	同様意見外1件
その時々で可能な働き方をしながら職業人として生きる部分をもつ	50代	女性	
女性が職業を持つかどうかはその人の考え方しだいである	60代	男性	同様意見外20件
社会参加は色々な形がある	60代	男性	
定年退職まで働けたら…と思う	60代	女性	
これも、働く女性が何をのぞんでいるのか。長い子育ての期間にどれに重きを置くかは個々だけれど、その意欲のある人には協力する会社、社会であってほしい。	60代	女性	
体が動くまで働きたい。経済的に。	60代	女性	
本人とパートナーの話し合いの上で、本人の意志で決めること。それぞれで。	60代	女性	同様意見外1件
それぞれの考えで環境に応じて選択していく	60代	女性	同様意見外6件
特に女性だからと言うわけではないが、女性に向けている職種につく方が良い。	70代以上	男性	
職業は続けた方が良い。世の中はあまい。	70代以上	男性	
仕事と育児両立出来る方向性で	70代以上	女性	
個人の意志を周囲と折り合いをつけて決定してほしい	回答しない	回答しない	

問23：政策、方針決定関わる役職において、今後女性がもっと増えた増えたほうがよいと思うものはどれですか。	年代	性別	備考
単に女性を起用するのではなく、その役職に適した人材であれば男女問わず良いと思う。	20代以下	男性	同様意見外2件
優秀な人材が増えれば男女に関係はない。	20代以下	男性	
故意に女性が役職につくのを妨げているのではなく、実力の上の評価で現在の割合になるのであれば、現在のままで良い。 男女の割合を１：１にすることが女性へのサポート、平等とも思わない。	20代以下	女性	
男女関係なく、お互いの意見を尊重しながら進めるべき	30代	男性	
増えたところでその方が令和の働く＋育児を理解をしっかりわかってくれている女性がいないと意味がない	30代	女性	
数より能力	30代	女性	
各役職の候補者の中から適切な人が平等に選ばれればよいのであって、その際に男女の割合に差があることに問題があるとは思わない。	30代	女性	
優秀な人が選ばれればいいだけ	30代	女性	
やりたいと思えるものをやれば良い。数合せは不用	40代	男性	

項目を決めてる時点で不平等。すべての組織で増えた方が良い。	40代	男性	
女性が増えること大事だが、女性の意見が反映されれば男女は関係ない。ならないのが問題。	40代	女性	
役職は関係ないと思う	40代	女性	
「女性」だから役職につくべきなのではなく、優秀な人は性別を問わず役職につけるような土壌を作るべきでは？と思います。（だから女性が増えればいいと言うのは少し違う…）	40代	女性	
ジャンルで考えるのでなく、能力適正で決めるべき。ムリに振り分けると、パリオリンピックの男性競技における女性審判問題のようなことになる。	40代	女性	
無理に増やすと、いびつな社会になるのでよくないと思います	50代	男性	
女性にとって魅力的な仕事であれば自然と増えますヨ	50代	男性	
医師	50代	女性	
どの職業も男女比率が同じになればよい。男女問わず実力主義	50代	女性	
ちゃんと男女の差別なく仕事を適正に評価できれば、自然と男女の差別なく女性の管理職の人も増えるのでは？	50代	女性	
女性が主体になると感情的になることが多い為、冷静な判断ができるなら全てにおいてマル〇である	60代	女性	
本人が望めばです。	60代	女性	
全国平均にくらべて低いからという理由で各種役職につかせるのは反対	70代以上	女性	
全ての役職、職業に男性女性同率を望みます	70代以上	女性	
無理に女性の責任を推進する事なく能力で判断すべき	回答しない	回答しない	

問26：仕事の内容や待遇面において、男女で差別されていると思うことは、具体的にどのようなことですか。	年代	性別	備考
育休がとれない（非常にとりづらい）	20代以下	男性	
男性職員しか送迎車を運転することができない	20代以下	女性	
結婚していない人へのしわ寄せがある	30代	男性	
女性が守られ、しわ寄せはすべて男性社員へ	30代	男性	
モラハラあり	30代	女性	
残業含む、仕事への期待度が高いことによるプレッシャーがあること	30代	女性	
力仕事を任される。	30代	女性	
心の病などもった人の差別、といつめる（過去のイヤなことなど） 過去のイヤなことなどを問いつめたりすることもパワハラ	30代	女性	
子育てしている人が同僚にいるので、色々と話を聞いている。子どもを見ながらは、大変だと。もっと子育てしている人が、働きやすい環境作りをしたほうがよいと思う。	30代	女性	
男性で育児休業が取得できない人や、要望より短い期間の育児休業しか取れない人がいた。	30代	女性	
今の職場では女性が多く働いています。重たいものを動かすことがたまにあります。女性には大変に思えるときがあります。	40代	男性	
男性が育休等まだまだとりにくい雰囲気がある。管理側の理解が少ない。	40代	男性	
男性のみ交替勤務を半強制される	60代	男性	
女性を事務員以上に見ていない。個々の能力や個性を見い出してそれを伸ばし、働かせるという考えがない。	60代	女性	

問28：今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。	年代	性別	備考
男性側のやる気と積極性	20代以下	男性	
男性が家事・育児に積極的に参加することに対する職場からの理解	20代以下	男性	
制度は整ってきていると思うが、実際に休暇を取る事で、評価が下がってしまう。それを無くす。（男女関係なく言える事になりますが…）	20代以下	女性	
男性も積極的に育休を取得する	20代以下	女性	
育児によって生じた職場でのマイナスを強く責められないこと	20代以下	その他	

女性にも同じことだが、昇給、昇進の不安払拭	30代	男性	
男性がしっかり働き賃金が上がり、女性は子どもの教育をしっかりできる方が良い。今はそれが難しすぎる。福島は学力が低いので女性も甘えず子供達に勉強・運動しっかりさせるのが県の未来の人材育成だと思う。子供達の教育の重要性を軽く考えていることが問題。	30代	女性	
男性も、もっと子育てに興味を持つべき	30代	女性	
疲れたら参加しなくてもいいと言える環境を作ってあげる	30代	その他	
職場の環境作り	40代	男性	
自分のできることから始めれば良い	40代	男性	
職場によって変わるかと思います	40代	男性	
企業が男性の産休、育休取得をしやすくする環境作りを行う。	40代	女性	
男性が～じゃなく、男性と女性が一緒に学んだり考えないとよくならない。	40代	女性	
学校での教育。小さい頃から家のことを男性も行う意識づけ。	40代	女性	
子供の頃から男性も家事ができるように教育しておくこと。実家にいるときに母親になんでもやってもらっている男が、結婚していきなり家事育児ができるわけがない。	40代	女性	
各個人の考え方を変えていく	40代	女性	
魅力的な何かを見つけることからスタートすべきです	50代	男性	
家庭、地域で暖かく見守り続けること。上手にできなくても。	50代	女性	
多様性豊かな社会の重要性を家庭内で子育てしながら、感性・感覚として育てていく 成人又は既に家庭を持った子供には、上記③（夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること）の中でお互いの考えを知り、すり合わせの経験値を上げていくことで、自分の知らない文化観も倫理観も受け入れ易くなると思う	50代	女性	
学校教育にて小さいうちから男性意識向上	50代	女性	
物価、税金を低下させること	60代	男性	
男とか女とか区別しないその家庭に合った生活を相談できる広い考えをもった相談員の育成ができる社会をつくること	60代	女性	
男性が家事、子育て介護をやらされているという思いや、他人事のように思っているその事（本人）の思いから見直すべき	60代	女性	
子供の頃からの教育	60代	女性	
いずれの場合でも意識の問題と思う。	70代以上	男性	
男性も女性も子供の頃から家事分担に参加し分かち合うをあたりまえにする	70代以上	女性	
家庭・社会で青少年の時期より自然に身につくような教育・環境作り	70代以上	女性	
男性が家事や子育て介護について意識すること（自分以外の事に目を向ける）	70代以上	女性	

問29：大規模災害時の備えに関して、男女がともに安心できる防災体制を整えるために日常的にどのようなことが必要だと思いますか。	年代	性別	備考
避難所に女性専用スペースや備蓄品をもつ	20代以下	男性	
男性への相談口を広く開くこと	20代以下	その他	
現在、郡山消防団はほとんど女子団員がいないため、もっと消防団をＰＲしてほしい	30代	男性	
災害時でなくても共同で使える炊事場の設置。孤独な人が集まれる。使用ルールを決める。 衣食住の安定と助け合いのしくみ作り。 人の意識を向上させる（お互いに仲間と意識させる）	40代	男性	
男女という限定的なくくりで検討するよりも、多角的な(いろいろな立場)視点で考えてほしい。	40代	男性	
女性、子ども、高齢者の意見が反映されていない社会がヤバイ。男性の思い込みが強い。	40代	女性	
災害時の犯罪への対応	50代	男性	
女性目線で避難所を設計する。トイレ等は特に。	50代	男性	
夏休み、冬休み期間に地域ごとに1泊2日の避難所生活訓練をして問題点を明確化すること。ペット避難含む。	50代	女性	
各地域ごとの避難場所の情報提供	60代	女性	

震災の時、市街地のライフラインが早く、ドーナツ地域が一週間も遅かったが、なんのフォローもされてなかった。まつだけの日々だった。それから市を信用していない。住民税や水道代は同じように徴収するのに、平等ではないのだと大きいだけの市はこの程度なのだとあきらめた。	60代	女性	
地域のきずなが昔ほどなさすぎる。	60代	女性	
思春期、とじこもりｅｔｃ、個別化を考えての防災対策あればいいですね。	60代	女性	
避難弱者対策を早急に具体化	70代以上	男性	
障害者への支援体制	70代以上	男性	
テレビ等での広報活動	70代以上	男性	
水タンクを配布。雨どいの水を側溝に流すのを少なくする。雨どいからの水を各家庭で溜めて庭や畑にまく予備水にして水害を小さくする。	70代以上	女性	
老人には御近所との在り方が何よりと。	70代以上	女性	
定期的な訓練を地域的に実施したらどうか	70代以上	女性	

問30：『男女共同参画社会』を実現するために、今後、行政はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。	年代	性別	備考
年配の役員・管理職に男女平等への理解を広める場を設ける。 女性だけの優遇だけではなく、男女の平等について法律や制度はもちろん地域・企業での環境を整える活動をする。	20代以下	女性	
中学校に男子更衣室を作る。男子に使わせる。	20代以下	その他	
家族、パートナー、個人に関わらず、経済的余裕を得られること	30代	男性	
子育て、出産での休職に伴う所得の保障充実	30代	男性	
女性が働くことで、周りをみると子供達がほったらかしにされて、夏休み中はＴＶやＳＮＳに釘づけにされている。女性が働くのなら、部活動の充実、学校の補講や補習を充実させなければならないと思う。働きながら、家事や教育を完璧にすることは難しいが、とても大事なことなので、働くことを強要するような社会はおかしい。	30代	女性	
男女の前に個人の尊重を重視する教育	40代	男性	
自分自身考える。男女平等という不平等について考える。	40代	男性	
お金じゃない。価値観を皆が理解すること。	40代	男性	
各家庭で、一人働けば生活できる賃金が必要。（ある会社） （昔の日本のように、父ではなく母が一人で働いても良いような良いような社会）	40代	男性	
肩書きに囚われない女性の活躍する社会	50代	男性	
年収のカベは不要	50代	男性	
女性にとって魅力的な何かを探して実行して下さい。	50代	男性	
このアンケートは日本人の男女を想定していると思いますが、国の政策が外国人受入れ優先しているので今から多民族、多様性、文化も意識し、生活しているのは日本人だけではないことを忘れずに政策していただきたいく思います。	50代	女性	
県内企業の平均賃金を向上させる仕組みを作る	60代	男性	
国会議員、都道府県議員、市町村議員の定年を作る	60代	男性	
過剰な男女共同…思想で人の心を管理しようとしないこと。経済発展をするための人材活用としての役割も考慮すること。	60代	女性	
情報の発信の仕方（工夫は大事ですが）	60代	女性	
平等や相互の理解は子供の時から自然の形でそれが普通の事だと意識しないでできるようにしたい。教育が大事。未来につながると思う。	60代	女性	
シニア世代の活性	60代	女性	
介護が女性中心になりすぎる。	60代	女性	
学生の時には、能力差は感じても男女の性別差は感じていないように思う。ところが、就職すると男子だから女子だからの性差別があたり前の様にあるように思う。	60代	女性	
全てが良い案と思います。	60代	女性	
男性＞女性という考え方を両方の考えから取り除くにはどうしたら良いか？	70代以上	女性	
全部あてはまる。大切	70代以上	女性	

問32：今後『さんかくプラザ』に何を充実してほしいですか。	年代	性別	備考
休憩所（全世代）	30代	女性	
存在を周知させるのが先	40代	女性	同様意見外７件
社会への周知とＰＲ	50代	男性	
出張講座	50代	女性	
会場として必要とする利用希望者が利用しやすい環境になると良いと思う。 小さなグループでも内容がマッチする団体なら、必ずこのテーマに光が見える活動をして行くために使用してくれると思う。 市の考えと多少のズレがあっても参加して各々が学びがあれば、それはそれで前進と思う。	50代	女性	
利用者等を増やす	60代	男性	
さんかくプラザのPRをもっとする	60代	男性	
イベント等	60代	男性	
広報、PR、チラシ作成、周知に全力	60代	男性	
利用しやすい情報など	60代	女性	
近い所で相談しにくいという事もあると思う。他の県の例なども知る事が出来たら、自分だけかも…が無くなるのでは？ 実例がないと相談はできにくいと思う。	60代	女性	
各学習室の拡充	70代以上	女性	
駐車場を確保	70代以上	女性	
気楽に参加できる広報	70代以上	女性	同様意見外２件

男女共同参画に関する自由記載欄

1　男女平等について	年代	性別	備考
近年は女性の社会進出や地位向上を目的とした取組が増え、女性であることを必要以上に取り上げているように思えます。 重要なのは優秀な女性が女性であることを理由に正当な評価を受けられないことを防ぐことであり、女性であることを理由に優遇することではありません。 このアンケートの内容は、女性に対してどうするべきか問うものが多く、本質からずれていると思います。 また、性的マイノリティについても、差別的に扱うことは絶対に許されるべきではありませんが、自らの性的嗜好をさらすものでもありません。非常に下品です。ただ、それに悩む人の窓口はあるべきだと思います。	20代以下	男性	
家事を男女両立する	20代以下	男性	
男女平等。 男性の育休の取得の推進。 女性管理職と増やしていく。	20代以下	男性	
男女と分けてる時点で平等にはならない。自分は自分という考えをもっと普及するべき。古い考えの人が多いのは仕方ないと思うので、若い人達が偏った考え方にならないよう、学校での教育は大切だと思う。	20代以下	女性	
結婚して子どもが生まれ、離婚したあとの子育てが息詰まることが多々ある。金銭面の不安のため仕事の残業や転職をしたいが養育する人が他にいないためできない。男女で元々の収入格差があるにもかかわらずそれに育児もプラスとなると、ひとり親の女性は苦労が多いと思います。　問18　1人親の場合はどう回答すれば？どうして結婚している前提なのか？	20代以下	女性	
男性・女性という枠に関わらず、様々な個々の考え方、価値観、生き方を互いに理解し合い、尊重し合えるような社会づくりができれば素敵だなと思います。	20代以下	女性	
女性の意見に寄り添っていくだけでなく、男女ともに尊重し合えるような社会を作っていくことが大切だと思う。性別にとらわれることなく、権利をのびのびまっとうできる地域の雰囲気ができれば生活しやすいと思う。	20代以下	女性	
・何事においても、男女の差をつくらない。感じさせない。 ・ＬＧＢＴについてもっと周知させ、理解を深める。	20代以下	女性	
雇用環境を改善し、女性の管理職の割合を増やしていくべきだと思う。	20代以下	女性	
男性（特に中高年の方々）の女性に対する偏見を減らす。女性優遇だと言われてしまうもの（女性専用車両や映画のレディースデー）が作られた背景である男性の痴漢行為や男女間の賃金格差を分からせることが大事である。	20代以下	女性	
「男性と女性どちらかを優遇するのではなく、平等に生活できる環境」をつくっていくということを認識できるようになってほしい。 （世間が）どうしても男女平等についての活動は、女性にスポットが当たりがちで、それにより女性のための制度なども使用しにくくなっている。 社会も大事だが、学生生活についても男女平等の考えを広めてほしい。	20代以下	女性	
世間では、男性も育児休暇をとりましょう、男女平等、など言われているが、実際に男性が育休を取れている人はわずかだと感じる。それは育児休暇を取ることにより年収が下がったり職場の人手不足の点で、等理由は家庭により違うと思うが、実際に妊娠出産を経て、以前のような働き方ができないこと、収入のために働くが子どもとの時間も大切にしたい、独身の歳下にキャリアを追い越されることに焦る、など葛藤し、両立の難しさを感じる。その両立の難しさを痛感しているのが女性側がほとんどだ。仕事と育児をするようになり、女性ばかり、、と不平等を感じることが多くなった。	20代以下	女性	
小・中学校における男子生徒の保護を進めてください。日常的に男性的役割を求められた経験があり、とても苦しい思いをしてきました。 あと、うちの中学校ではプールの際男子は屋外で着替えを強要され、著しく自尊心を傷つけられました。男子更衣室は女子が使っているからと、私の要求は退けられました。ただある男子更衣室を男子が使いたいと言っただけなのに。 学校は本当に意識が低くて、人権意識がなくて、苦痛でした。どうにかしてください。再生産しないでください。	20代以下	その他	
子育てに対しては子供を持たない人が増えており、上司・同僚が独身者で子育てしている女性に対して理解しなかったり、心無い言動が見られ女性活躍の妨げになっていると感じる。	30代	男性	
格差をなくしてください。	30代	男性	
法律や条例など、文の解釈によって男女差別が無いかなど、学校の授業で取り扱っても良いかもしれない。	30代	女性	
男だからこうあるべきだ、女だからこうならないといけないという考えを見直すこと。性別でなく個人の生き方を尊重すべきである。	30代	女性	
男女差別は世代によってもあると思います。今は少しずつ意識がかわっているとは思いますが、潜在意識をかえるのは難しいですね。頑張って下さい。	30代	女性	
性別関係なく、お互い協力し合ってしっかりコミュニケーションを取ることが何より重要なのではないかと思います。みんなで助け合いをしていくこと。	30代	女性	
男、女と性別を意識せずに、出来る人が出来ることを当たり前にできるようになれば平等に暮らせると思う。	30代	女性	
皆が家事の分担の必要性を理解する。	30代	女性	
男性の方（働いている人）には、女性が言われて困る発言をしないで欲しい。特に年上の男性（働いている）	30代	女性	
私は未婚ですが、友人や会社の方々のお話を聞きますと、家事が家庭内でも分担されない事も多く、負担になっているとよく聞きます。会社と家庭の両立をできてこそ自分が男女対等であると感じ、生きいきと生活できることにつながると思いました。	30代	女性	
「男女共生」と言うことすら時代の遅れの感じ。早く男女には特性があり、役割分担はしながらも個人の特性を重んじる世の中になっている（なってほしい）と考えます。	40代	男性	

制度改革や社会全体の取り組みが必須。国や地域、企業、個人が全体で取り組まなければ実現していかない問題。	40代	男性	
男女が共に尊重し合い、コミュニケーションが良好にとりあえる環境を整備し、高い意識を持って生活していきたい。	40代	男性	
郡山市でも女性が働く職種は多様になってきていると感じます。 一方で、地域等を見ると家事を女性が行うという意識はまだ根強いとも感じます。 男女がともにいきいきと暮らせる社会づくりの為には、市民への啓蒙活動と支援は引き続き必要だと思います。	40代	男性	
男女共に稼ぎ、仕事と家庭を両立しメリハリのある生活が大事だと思います。 また、男女平等の時代であり、家庭も仕事も分担してやるべきだと思います。	40代	男性	
女性には社会的にも就労や様々な役割でも、もっと積極的になって前にでて欲しい。消極的過ぎと思う。権利ばかり主張するわりに大事なところでおとなしいと思う。もっとリーダーをやってみて下さい。	40代	男性	
男女が互いに人権を尊重し「女性」や「男性」というイメージにあてはめてしまう事なく、一人一人が持っている個性や能力を十分に発揮できる豊かな社会になってほしい。	40代	女性	
小学生が人格形成にあたって一番影響がある時だと思うので学校教諭採用時に成績だけではなく人格も判断材料としてほしい。尊敬できる教諭に出会えば、子供も成長して一人一人が個性の違いを認める社会になると思う。	40代	女性	
年配の方の意識が変わる事が必要だと思います。	40代	女性	
女性活躍の場や役職に関する問がありましたが、”女性が増えた方が良い”という理由だけで増やす事が良いとは思いません。トップに立つ女性が偏った考え方の場合、何も変わらない。柔軟性があり、様々な意見を取り入れようとする姿勢のある方ならば、男性女性拘らず良い社会づくりに繋がっていくのではないかと思っています。	40代	女性	
昔ながらの考えの頭のかたい男性を排除することが必要。	40代	女性	
成人した人に、いろいろ言っても考えが変わる人は少ないと思う。子供の教育から男女平等の教えを伝えてほしい。	40代	女性	
女性は結婚すると男性に合わせてしまう傾向があります。 自立した女性がもっと増えてほしいので、子供の頃から教育や家庭での関わりが重要だと思います。男性に何でも言えるようになれればいいなと…	40代	女性	
男女の収入格差をなくしてほしい。最低賃金が大幅に上がらなければ、生きいきと暮らせない。（離婚後の女性は大変） 仕事→家→仕事の連続で、楽しみが持てない方が多いと思う。	40代	女性	
男女平等を目指しているが、仕事関係ではまだ男性中心の社会（女性の業務遂行が男性レベルに達していない為）生活面では女性優位の世界（女性専用）が溢れている。男女平等の社会作りの為全て廃止して能力主義も1つの考えもある	40代	女性	
能力がある女性はそれなりの仕事についています。今のままでいいと思います。今の女性は、自分で自由に生きています。　問30 男女平等にするなら力仕事もするべきと思います。どんな平等がおのぞみですか？	50代	男性	
お互い（男・女）の信頼と理解が大事だと思う	50代	男性	
男女は関係ない。平等にすべき	50代	男性	
家庭での男女の地位、立場を均平化する。主に男性の職場について、人財不足により常に会社にしばられている。家庭を大切にすべきだという社会の共通認識を高めるべき。	50代	男性	
日本古来からの男はこうあるべき、女はこうあるべきの概念が変わったことを理解した行動に対しての評価を高くし、その行動に対しての評価を世に広く知らしめること	50代	男性	
半強制的な民間への施策は歪みが出やすいので、学習、研修、相談による意識変化を時間掛けてやることが結局は早道だと思う。 一方で、行政による採用や委員の委嘱などは積極的に男女共同参画を図ることが望ましいと考える。 ただし、男女問わずに能力についてはきちんと評価し、共同参画を理由に組織能力が劣化するのは避けていただきたい。	50代	男性	
待機児童ゼロを１００％充実させないと、働きたいけど働けない（現職を辞めざるを得ない）お母さんが多い。身近に何人もいた。（なぜ女性ばかり？）	50代	女性	
日本の長い歴史の中で、男女の役割みたいな考えを少しずつ変えていく必要があるのかなと思います。	50代	女性	
世の中の流れは男女平等にはなっているが、男性にしか出来ない、女性にしか出来ない仕事も存在している。初めから男女差の意識を持たない仕組みがあれば平等になると思います。	50代	女性	
「人は皆平等」意識を幼稚園・小・中・高校で事あるごとに大人が口にする事。また、そのような行動する事。	50代	女性	
男性に女性の大変さや苦労してることをわかってもらわないといきいきとは暮らせないと思います。これからを期待しています	50代	女性	
主に年配の方に男性優位の考え方が残っていると感じます。「男女平等」に関しては、首都圏に比べるとまだまだ考え方や行動が遅れています。私は女性ですが一度大学進学のため県外に出ました。大学内で男女不平等を感じることはあまりありませんでしたが、福島に戻り新卒で入社した会社は男性優位で、今入社後15年経ってようやく変わってきたと感じています。社会にはもっとできることがあると思っています。まだまだ女性は虐げられていると感じています。同じ人間です。今は変化の時であることを必要以上に認識させる機会（男女平等、人権尊重をあらゆる面で周知すること）がなければ、人の考え方は変わらないと思います。	50代	女性	
男女関係なく、それぞれの個性や能力が尊重され、協力しあえる社会であること。出産や育児は、どうしても女性がメインになることが多く、女性の負担になることは多い。更年期になると自身の体調管理と親の介護も追加される。そういった時のサポート体制があると良い。郡山市の年配の方々には、男尊女卑の意識が根強くあるイメージがあります。	50代	女性	

いまだ根深く性的役割分担意識が家庭、組織、社会の中に存在していることが大きな課題だと思う。「男らしく女らしく」という、この性的役割分担意識が特に高齢層な割合が多く、親や周囲から固定観念を押し付けられることで、生き方の制限をかけられる人も少なくない。では、性的役割分担意識を改善するためには、子供たちに性別にとらわれない教育を行うことが重要だ。この男女がともに生き生きと暮らせる社会のためには、日本が他の先進国と比べて数が少ない研究職・技術職や、経済・政治の意思決定層に女性を増やしていく必要もある。また、子育てや介護に参画しやすく、育児や介護を行っている中でも、働き続けることができる環境の整備も必要になってくると思う。	50代	女性	
男女とも、お互いを尊重すること。 家庭で夫婦がコミュニケーションを図り良好な関係を保ちいきいきと生活することが、ひいては社会づくりに役立つと思います。	50代	女性	
生命を生み育てる役割の大きい女性の意見・考え方を最大限に組み上げて政治・社会に反映させることにより、より平和な社会、地球に向かっていけるのではないかと思う。	60代	男性	
最も確実な方法は子供のころから教育すること	60代	男性	
男女互いに思いやりを忘れず協力してゆけばいいと思います。	60代	男性	
男女平等になる社会がもっとふえれば良いと思います。 生きにくい社会になることのないようにしていただければと思います。	60代	男性	
男女の比率で、どうのこうのは止めてほしい。 「男社会」ではあるが、女性自らが積極的に行動することが第一である。その意識がある女性には、自治体などが支援すればよい。 とにかく、女性だから登用とか枠をつくるとか、能力に見合わないことはしてはいけない。	60代	男性	
男女平等のさらなる推進	60代	男性	
母子家庭の母親の苦労を何とかへらせないだろうか。	60代	男性	
女性、なりわいで生きる事、社会が認知すること。金額を決定、税を払わせる（市へ町へ村へ）情報を考える。 問13　知りたくない人間に、いかに聞かすか	60代	男性	
男女それぞれの願いや思いをしっかりと言葉にできる環境整備が必要である。その上で、実現するためには、どう考えて、行動すればいいのか、それぞれがきちんと理解することが重要である。 そういった場が必要。	60代	男性	
子育てに関して、女性の負担がまだまだ大きい。また、離婚後の子育てを含む女性の負担も大きい。その点のフォローを手厚くすることで、女性が社会に参加出来る機会が増えると思う。	60代	男性	
男性が女性への思いやりや立場を認める事。一人親の女性の立場尊重を深める。又、地域、社会、企業が高齢者でも仕事のできる環境を作ってほしいです。	60代	女性	
男性、女性の特性も生かせるよう、すべて平等という言葉で特性を否定してしまうことのないよう気をつけてもらいたい。	60代	女性	
男だから女だからという枠に縛られることなく、困った時にはお互いに助け合える社会になればよいと思う。	60代	女性	
家事や子育てとかで女性の仕事と決めつけずに男性も協力していける日々が来るように、国、地方で社会面に強力になれる様な動きをお願いしたい。	60代	女性	
働きやすい環境の中で、賃金の格差少なく、皆が安心・安全に生活出来る社会になって欲しい。	60代	女性	
子どもに家事を手伝わせ、ひとりでも行うことができるよう自信をもたせることによって大人になって家庭をもっても家事、育児に積極的になれると思う。	60代	女性	
近年男女共同参画によりすばらしく女性の立ち位置が上がり男女平等に近づいていると思います。しかし、私の経験ですが、子を持つ女性の中には、業務をはたさず、権利ばかり主張し、職場の同僚に迷惑をかけ続ける女性もいるように思います。バランスを大切に。	60代	女性	
男女平等と言われながらも、まだまだ整っていないと思います。 女性特有の「感情的」な部分がマイナスだと思います。 介護や子供に逃げ道を作って、仕事を放棄することが多々ある為、責任がもてない。	60代	女性	
娘が中学生の時、俳句？で賞をいただきました（もう１５年も前）まだおぼえています。『らしさって　男女じゃなくて　自分でしょ』 男らしく女らしくはもう死語ですネ。男女平等かと言うと日本はまだまだです。郡山も少しは良くなれば良いですネ。	60代	女性	
まわりにも、まだまだ古い考えの人たちが多いので、こういう人たちの考え方をアップデートできるようになれば良いと思うが難しいと思っている。	60代	女性	
介護の問題が大変です。”生きいき”がストップしてしまいます。女性にかたよりを感じています。	60代	女性	
男だから、女だからと決めつけずに、自分の好きな事、勉強したい事をやれる社会になってほしい。	60代	女性	
・子供時期に適正な人間形成のための教育が必要（大人になってからでは、なかなか人間変えられない） ・自分の周りにいる女性は、面倒な事（煩わしい事）は「男性にやらせておけば良い」傾向がある。	70代以上	男性	
男女のそれぞれの個性を尊重し、相手の人格を認める社会であること。	70代以上	男性	
全く異なる意見で申し訳ないが、あまりにも“男女平等”と言い過ぎると感じる。そもそも神が造ってくれた性の異なる生物なので、平等（同じ）になることはできない。力（腕力）の差や体力の差もある。男女お互いの弱い点を補いながら社会を築いて行くことが大事と考える。	70代以上	男性	
幼い頃に（男女共生について）植えつけられた感情は、なかなか変わらない。 男性の意識を変えるとともに、母親が息子を特別視せずに育てることも大切という気がする。長い時間がかかるが、必ずや実現することを期待している。（周囲の母親は息子のためには労をいとわない人が多数です。）	70代以上	男性	

法で決めない限り男の人がえらい。職場で休めない、休みがとりづらいなど変わらないと思います。何かが起こってからではないと政府も役所も変わりません。	70代以上	女性	
社会のしくみや考え方がまだまだ男性中心である。男性自身もそれがあたりまえと疑問をもっていないところに問題がある。女性も我慢があたりまえと声をあげない現状は、当分かわりそうにありませんね。	70代以上	女性	
現在の小学校の授業で男女の体について（特に女性の生理について）男子にも詳しく学んでもらうと生命の尊さがわかって命を粗末にしないようになるかも。それを参画プラザで休みの時など（夏休み、冬休み）講習会などで出来ないものでしょうか？	70代以上	女性	
40年前は子育てと仕事との両立が大変で、子育ては女性が多く、現在は良くなりました。 物価が上り、その分日本は給料は安過ぎる。又、年金も少ないのでもう少し議員（国・地方自治体）を少なくしてほしい。（税金から賃金支払いの為）	70代以上	女性	
さんかくプラザ、三春町に住む従姉が利用してます。 連れ合いは、元教師の年金生活（二人とも）。私は、毎日草取りに精出す上姿さんです。 問28　個人の考え方の問題です。今の人達（50代以下）は、男子も小学生から家庭科があるので、男子も何でもできる。ごみ出しも、うちではごみの分別も連れ合いはやらない。	70代以上	女性	
私は団塊の世代ですが、学卒から定年迄働いて来ました。今は私達が働いていた頃よりずっといい時代です（男尊女卑）	70代以上	女性	
女性が一生職業を持ち続けられるよう環境を作ること、優先するべきと思います。男性優位の効率重視を女性の現場労働に求める風土が変わらない限り女性活躍の障害になると思います。育休、介護の支援制度が確実に実行され評価され定着することを望みます。	70代以上	女性	
男女とも意見を出すようになればいい	70代以上	女性	
年齢が高いので、まだ全体に男女共生についていくのが大変です。	70代以上	女性	
各個人、各家庭等足元からの意識向上の大切さと地域での交流があれば、良い点を参考にする等できるのではないでしょうか。	70代以上	女性	
男性だけの意見ではなく、女性の意見をもっと積極的に取り入れていくようにすればよいのではないかと思います。	70代以上	女性	
女性が自分の意見を主張出来る場、雰囲気をつくる話し合いをするため、男性のとり組み方、考え方の向上。 （女性に対しての言葉遣いや態度。特に地域では）	70代以上	女性	
男女が共に相手の立場（性差・人格・社会的活動）等を知り、理解できる様努力する。コミュニケーションが大切。 （性差を知る人が少ない感があります）	70代以上	女性	
男尊女卑の長い歴史があり、偏見や固執も儘ならない。 男女ともにいきいきと暮らせるような、本質的な社会の実現には、まだ時間も意識改革も圧倒的に不足している。 現在の過渡期をどう理解し、どう改善し、どういう未来へのビジョンを策定するか、具体的かつ明確なタイムスケジュールが必要であると考えている。	70代以上	女性	
2　働き方について			
女性が出産・育児等で休暇を取得しやすい環境を作る。 給付金等の支給ではなく、その会社として、出産休暇や子どもが体調不良等で親が休んで迎えに行く場合等の休暇制度があると、女性がもっと働きやすくなると思う。	20代以下	男性	
じじいのパワハラがたえがたいので、みんな早期退職を願います。なぜ、あのような人材が課長など役職がついているのかが分からない。年寄りの意見は入らない。気分屋なので適切な意見だと思えません。言ったことも忘れてしまい、カバーが大変である。	20代以下	女性	
女性の賃金ＵＰ 看護師の三交代廃止→日勤を17時までやり、深夜を０時からやると子との時間をもてない	20代以下	女性	
お互いに協力し合わなければならないと思うので、職場においても例えば男性の育休などを認める社会になってもらいたいです。	30代	男性	
女性が社会に参加していける環境を作る必要があるが、無理に女性を管理者にすると他の方も含め働きづらい環境となってしまう。男性、女性関係なく、適材適所で働ける環境が必要。	30代	女性	
産休・育休を取得する・しないに限らず、男女で差別がなく賃金の低下も見直してほしい。福島はあまりにも賃金が低く感じる。働いても生活に余裕がなく不安に思う。	30代	女性	
子どもがいる家庭では、夫婦どちらかは子ども優先で動けるよう、職場に対応してもらう。（急なお迎えなど） 男女とか関係なく夫婦間で決めればいいと思います。子どもを産む前に夫婦でよく話し合うのがいいと思います。お互い仕事が大事なら子どもはあきらめればいいと思う。	30代	女性	
産後、スムーズに子供をあずけて働くことができて、子供が体調を崩した時も休むことができたり、リモートに変更できるような制度を作ってほしい。	30代	女性	
結局は、その人の職場でどの位サポートできるか、理解があるかなので、行政は関係ないと思います	40代	男性	
休日が増えて、休日に使えるお金が増えるとより生き生きとなるかもしれません	40代	男性	
派遣社員やパート社員は女性が多いと感じるが、賃金が低く、生活が成り立たないのではないか？特に、20～40代の女性の正社員雇用機会を増やす事が好ましいと思います。	40代	男性	
郡山市は特に育休制度（父親に対する）が一般企業まで浸透していません。良いとこ、役所関係・大企業くらいではないでしょうか。少なくとも、私の職場で父親が育休を取るものは１人もおりません。これから働き手不足が拍車をかけるのですからもっと深い問題になるはずです。孫休暇も良いですが、両親への育休制度をもっともっと広く啓発してほしいです。	40代	男性	

賃金の差別化をなくすこと	40代	男性	
女性の産休育休で仕事を休まれるのはやはり周りが大変。必要なのはもちろん分かるけど。まして男性の育休取得なんて尚更。抜ける分の周囲への保証や人材不足をなんとかして欲しい。のが現場の本音と思う。	40代	男性	
主に育児や介護を優先せざるを得ない状況の夫婦の有給を増やす。	40代	女性	
育休や介護で仕事を辞めなくてはいけないような状況にならない政策作りや、支援などを行って頂きたい。	50代	女性	
職場での人間関係で悩んでいる人が多いと思います。特に上に立つ人…そんな人が役職につける事が不思議です。（企業だけでなく役所、公務員の方のお話が多いです）	50代	女性	
男女というより、若い方が働きやすい社会になるよう願っています。	50代	女性	
職場における安定した収入と安心して働ける環境	60代	男性	
近年、男性でも育休を取ったりしているのをちらほらと聞きます。会社でも社会でも、もっと男性が育児に対して取組める風土づくりが必要かと思います。	60代	男性	
・働ける場所（会社）があること ・働ける環境の中での男女の環境の理解できる社会づくり	60代	男性	
まだまだ職場内では長時間労働が続いている。また女性が産休・育休を取って休んでいる間に即戦力となる職員が配置されず、結局残っている職員に負担がかかる。（これが職場の現実です）	60代	男性	
女性も経済力をつけ自立すべきと思う。保育施設や学童保育など充実させるべきと思う。	70代以上	男性	
地域・企業の理解があって仕事・家事・子育てが成り立っていくと思うので、労働時間短縮・在宅勤務等を平等にしていく必要がある。	70代以上	女性	
大企業公務員と中小企業の差をなくして欲しい	70代以上	女性	
3　人権について			
お互いの考えや背景を知ること。自分と立場が異なる人を見くださないこと。	20代以下	女性	
学校教育、家庭教育、しつけの充実と考える。小さなころから、それがスタンダードになっていれば良いのにと思う。	20代以下	女性	
個人の考えを尊重し、自由な発言機会を多く作りストレスを感じないような全ての環境整備が必要だと思う。	30代	男性	
男女に関わらず、一人の人間として得意・不得意を認め、補完し合えるパートナーシップが必要。価値観を押しつけず、共に思いあえる社会になったら素敵だなと思います。	30代	女性	
そもそも「男女」と言ってしまっていることが古いです。全ての人間一人一人が平等である社会を望みます。	50代	女性	
ハラスメントと騒ぎすぎて会社でも家庭でも皆がいきいきと暮らせなくなっていると思う。	50代	女性	
何事も同じですがともに思いやりを持ち行動することと思います。	70代以上	女性	
皆違うと言う事を認め合う。おもいやる。そこから始められたら良いと思っています。	70代以上	女性	
一人一人の人間の尊厳を確立する。男か女か・・・という以上に、どんな人もかけがえのない生命の尊厳がある。（基本的人権）の尊重	70代以上	女性	
お互いを理解できる社会環境作り。子供－大人、男性－女性、若者－老人、等。	70代以上	女性	
お互いに相手の話をよく聞く	70代以上	女性	
”人”として何をすべきか小学校から教えるべき。”何”が大切か行動出来るような話合を。	70代以上	女性	
4　市政について			
すくすくばこの導入がとても良いと思いました。	20代以下	女性	
アンケート結果を市のＨＰで確認できるようにしてほしい。 女性の意見を女性に聞くのも大切だが、みんなで男女と社会について考えていきたい。	20代以下	女性	
チャレンジしたり興味をもって暮らせるきっかけを発信してほしいです。	30代	男性	
本宮市固定資産税に比べて、どうして郡山市はこんなに高いのでしょうか？未来都市計画の為とは言え、未来にすら、この市税金額だと住んでいられなくなってしまいそうな程、家計負担額へ影響しています。	30代	女性	
図書館にジェンダーやフェミニズムの本をおいてほしい	30代	女性	
おおえんしたいとおもいます。がんばってください。	40代	男性	
郡山市が掲げる「全ての市民が性別を問わず、一人の人間として尊重される豊かで活力ある『男女共同参画のまち郡山』」に少しでも近づけるよう、心よりお祈りしております。	40代	女性	
何かあった時に気軽になんでも相談できる窓口があったら良いと思う。	40代	女性	
昔と比べると、ずいぶん女性が生きやすくなっていると思います。 男女共により生きやすい郡山市になるといいなと思います。	40代	女性	
こういうアンケートをしても、現実に反映されないのであれば、意味がないのではないでしょうか？仕事だからやってるようなものですよね。	50代	男性	
単純に郡山市に魅力があれば男女ともにイキイキするはずです。原因を”格差”だとかにせずに取組んでください。	50代	男性	
日本はまだまだ性別役割分業意識が根強い。この考え方を変えるような啓発活動を行い男女共に豊かな生活を送ることができるようになることを望む	50代	女性	

郡山が車がなくても暮らせる町になって欲しい	50代	女性	
市はいろいろお金をかけてやっているのだと思うが、血税なのだということ理解していない。市が何をしてるかに興味をもつ前に、自分たちの生活でやっとなのだということです。市がやるべきは無駄をへらして住民税を下げることです。企業を改善提案をして自分たちを守っているのですよ。自社努力です。郡山市としての自社努力してください。	60代	男性	
アンケートの結果をまとめて満足せず、行政が主導して男女平等の社会をつくりあげて欲しい。 この調査票も分かりずらいので、簡素化した方がよいと思う。（質問と答えが同じページないので分かりずらい）	60代	男性	
保育施設の充実、出産後の再就職支援の充実等、郡山市も大玉村をモデルにして若夫婦が安心出来る体制を推進してほしい。	60代	男性	
高齢者施設も大切だと思うが、若者が流出し、子供が居なくなれば街は消失してしまうと思う。若者に魅力的な街、子育てしても良いと思う街作りをしないといけないと思う。	60代	男性	
交通の便利を良くしてほしい。	60代	女性	
いつでも気軽に立ちよれる場所がほしいです	60代	女性	
各自が学び、交流の場があり、活動できたら良い。憩いの場があると良いと思う。安い金額で趣味、文化教養が学べ、好奇心が満たされると良いと思う。	60代	女性	
「さんかくプラザ」というセンターを聞いたことがなかったので、もう少しどんなことをしているのか、市民にわかるようにしてほしいと思いました。	60代	女性	
男女がともに　ではなく誰もが生き生きと暮せる社会にして下さい。「生活弱者」が取り残される感なく、というより生活する上で弱者とならないような社会・郡山市にしていただきたい。	60代	女性	
明るい老後になるような町づくりをしてほしい。	60代	女性	
男女の違いはあっても、人として平等で、お互いを補い合う関係でありたいと思います。各種報道や周知啓発に力を入れて頂きたいです	60代	女性	
男女が共同参画するためには、選択夫婦別姓　ＬＧＢＴＱ　中絶など世界が取り組んでいる課題を他人事にせず、市町村・県をあげて取り組んでほしい。	60代	女性	
情報が広報など書面で多く発しても、若者達が関心をもたない。 郡山の若者はおとなしすぎると思う。若い人達が社会づくりを積極的に活動出来るようにしてほしい。	60代	女性	
先ずは行政がかわってほしい。	60代	女性	
市民税や国保税などの減税を実現し役所のスリム化を回って下さい。時々市役所へ行くと、のんびりしている職員さんを見かけます。	70代以上	男性	
高齢者に対する支援が不十分である	70代以上	男性	
会社等の事ばかりではなく農業を入れた意識調査にすべきだと思う。片寄っていませんか？ 男女参画でも、農業は当てはまらないと思う。	70代以上	男性	
頑張って下さい。	70代以上	男性	
年金受給者ですが、税金ばかり増えて生活が厳しくなっております。 豊かな老後生活を夢見ておりましたが、政府の方針が国民に希望を持てる様、運営していただきたいと思います。	70代以上	女性	
男女がともに～はあたりまえの社会。”つくる”のではなく”できる”を待ちます。このようなアンケートが”いらない”社会を。	70代以上	女性	
生きいきと暮らすためには、一番は健康が大事だと思います。健康づくりのための身近でやりやすい運動とかの設備が必要かと思います。	70代以上	女性	
１０年後、１００年後の未来が見通せるような設計（指針）を市民にも持たせてほしい。教えてほしいです。	70代以上	女性	
私の時代は終りだが、これからの郡山市の発展を期待します。	70代以上	女性	
集計ご苦労様です！皆様の声が反映することを祈ってます	70代以上	女性	
５ その他について			
賃金UP！	20代以下	男性	
難しいことかもしれませんが、社会に生きるすべての人が安心して、満足して暮らせるような社会になってほしいです。	20代以下	男性	
好きなように生きよう	20代以下	男性	
上記のテーマ自体が「女性優先」になっている。	20代以下	女性	
Hai,shiawase	20代以下	女性	
結婚すると子どもを育てる家庭が多いと思うが、子どもを育てるとなるとなかなか自分の時間が作れなくなってしまうのは女性だと思うので子どもを施設等に気軽に預けられるようになったり、子どもが楽しめる施設を作ることで夫婦で一緒に子どもを連れて行動する時間が増やすことが出来るので自然と夫婦間のコミュニケーションだったり、父、母、子での時間を増やせると思うので子どもが遊べる施設を増やせると良いと思う。そうすることによって女性のストレスが少し軽減されると思った。	20代以下	女性	
もっと男性が育児に積極的になるようにしてほしい。結局男性の育休とれないところが多すぎる。物価高をどうにかしていくしかない。	30代	女性	
子育てしやすい社会（大事なこと）に目を向けすぎて、子供がいない家庭、独身の方が生きづらい世界になっている気がするので、個々の気持ちを分かりあえる社会になってほしい。	30代	女性	

子供ができると、更にお金がかかる為、男性も女性も仕事を頑張ろうと思いますが、長時間労働や体の負担などで、クタクタになって家庭の事がおろそかになってしまいがちです。郡山は転勤族の方も多く、身内が近くに居ない方もいて、すぐに助けてもらえる環境じゃない方もいるので、食事や掃除など家事代行サービスがもっと身近になり、時間に余裕ができ、家族が笑顔の時間が多くなれば良いなと思います。	30代	女性	
もっと楽しめる事や場所があればみんな郡山に住み続ける。楽しみがあれば仕事も楽しめ家庭も充実する。男女問題は議員などの年寄りの考え方を直さないと…若い人の意見も聞くといい。	30代	女性	
ＳＮＳでも相談できるようにしてもらう。点字や手話つきの案内も必要だと思う。映画館も車イス用のエリアがないかも	30代	女性	
男女、夫婦と枠の中で考えるのでは無く、それぞれに置かれた立場を互いに尊重し合い、考えられる地域というものを創造していけたらいいのではないかと思っています。	30代	その他	
理想だけでなく、本当の意味で社会のいろんな方の意見を参考にしたら良いと思う	40代	男性	
お金がない人が生きれる環境作り。←人にだまされてお金がなくなった人の事、働かないでお金がない人とはちがう。	40代	男性	
今回、改めて考えさせられた事もありました。これを機に、他者の意見なども聞かせていただけるような場や機会が増えると、一つのきっかけになりより良い様に思いました。	40代	男性	
男女も生き生きの前に障害者も生きやすい社会にして欲しいです。	40代	男性	
まず女性、男性ではなく一人の人間が社会参加できる環境づくりは大事。	40代	男性	
・現代に合った法律の改正が一番必要。 ・保育、教育、介護等に携わる方々の賃金を上げる。（国が補助する） 　施設を増やす事も大切だが、働く人手不足が重要、それ相応の報酬になれば、人材も増えると思う。リスクの方が高く、やる人が減る一方。 ・公務員の賃金を見直す必要あり。（税金をもっと上手に使ってほしい）	40代	女性	
表向きだけの理解のスタイルをやめる。 想像と理想だけではどうにもならないので、キレイごとはなくす。	40代	女性	
夫の借金、暴力で離婚、一人親で三人子育て、親と同居では児童扶養手当一切もらえず、働かないと生きていけない。無理心中するニュースが多く、国が、社会が早急に対応を。子供小学生でも早朝から夕方まで週６日働き、学校へ送りだしもできなかった。	40代	女性	
LGBTへのいきすぎた配慮はやめてほしい。「心は女」と言えば、体が男でも女湯や女子トイレに入って来られるような社会は「男女が共にいきいきと暮らせる」とは真逆。普通（一般）の女性が、安心して暮らせる社会であってほしい。LGBTが利権のために騒いでいるのも犯罪目的としか思えない。	40代	女性	
若い人の意見をもっときくべき。採用されるのは、結局年配方の意見なので。	40代	女性	
治安が良くなってほしい	50代	男性	
自由時間がないので何にも参加出来ない。ので何もわかりません。	50代	男性	
夫婦仲良く	50代	男性	
減税し暮しを豊かに	50代	男性	
お互い様	50代	男性	
生き生きと生活するためには、何が必要であるか？ ストレス無く過ごせるためには、何が必要であるか？を考えると先ずは資本が欲しい。そう思う。	50代	男性	
すべての人達（男女）が住み慣れた町で、自分らしく生きがいをもって、暮らし続ける社会創造とかが、できたらよいと思います。 生きがいをある毎日の生活（暮らし）ができたらすごくよいと思います。	50代	男性	
何をもって生き生きとした暮らしなのか？と考えました。 ２０代～３０代子育てに必死で、３０代～４０代教育費を稼ぐのに必死で。ずっと必死に生きてきた私自身で生き生きとした暮らしだったのかわかりません。	50代	女性	
子どもの見本となる社会を希望します。また年配の方の言動が良くも悪くも優先され、子育て世代を圧迫し、生き生きと笑顔になる大人の背中が見られません。未来の子ども達が尊敬する大人の社会を希望します。	50代	女性	
偏った考え方、思い込み、間違った正義感、増えてきてますね。何事にも、バランスを整え、想像力を育みながら生活したいです。	50代	女性	
経済不安が治安悪化へつながるので、まずは個々の家庭が安定した経済状況になること。その上で望むように好きにいきたらええ。他の人を傷つけない限りは何をしても自由だと思う。原発事故にコロナ、自然災害でいつ死んでもおかしくなかったのに今も生きている。せっかく生きているのだから好きなように生きたらええわ。私もみんなも。	50代	女性	
情報の発信と制度を整える	50代	女性	
男女が一緒に協力してできるスポーツ「バレーボール」の大会などを通して、ＳＮＳでは得られない“コミュニケーションの楽しさ”を広げられたら、地域の「和」が生まれると考えている。	50代	女性	
一人一人が意見に耳をかたむけ、差別することなく（男女人種マイノリテ）自由に生きていける社会にしたいです。	50代	女性	
一番大切なのは、人を思いやる気持ちだと思います。（どんな政策よりも） パートナーを尊重し、コミュニケーションをとって家庭が幸せであってこそ、全てが上手く回ると考えています。	50代	女性	
互いに助け合い前に進めて行ける社会になれるように出来れば良いなと思います。	60代	男性	
互いのことを理解し認め合い思いやる。ひとりひとりが意識する事で良い関係が生まれると思います。	60代	男性	

生活に余裕を持たせるため、とにかく、経済的にお金を使いたくなる社会にすること。お金はどんどん印刷してコロナの時のように配るくらいがよい。	60代	男性	
色々な問題があるのかも知れないが、それより税金、社会保険料、見直しを。この様な事は、まだ生活が安定してる人のわがまま、税金の無駄使い、こんなアンケートＳＮＳでアンケート取れば良い	60代	男性	
私は3年前に妻をなくして寡居に成りましたが、株式投資の趣味で一生懸命生きて居ます。投資は頭を非常に使う為老後生活が充実して居る。	60代	男性	
このようなアンケート調査が早く無くなる日を期待いたします。	60代	男性	
理想ばかりで何も変わらないアンケートなど時間の無駄です。 例えば、学校現場では未だに用務員のおじさん、給食のおばさんという呼称が生きています。誰もセクハラという認識はありません。親しみやすい呼び名だとさえ考えている人も多いのです。こういう身近なことに目を向けない「あなた方の姿勢」に疑問を感じます。理想ばかりで実のない行動は、税金の無駄使いですよ！ 年上の教員がうっかり年下の用務員・給食員をおじさん、おばさんと呼んだ事例がありました。どっちがおじさん、おばさんだ！ と意見しましたが・・・現実はこんなもんですよ！ 何も変わりません、変えられません。 この件を取り上げて改善できたら、あなた方を尊敬します。信じます。	60代	男性	
無関心が問題。周知を徹底させること。アニメ～拡散しやすいのではないか。	60代	男性	
・社会の思いやりとか優しさをもっと社会全体でもつようにする。 ・強い者（お金もちなど）が弱者に対し、もっと考えてやる気持ちをもつようにする。	60代	男性	
以前よりも格段に良い社会になって来ていると感じます。市民が求めるだけでは無い参加する社会になる事を願っています。	60代	男性	
豊かな老後を送るために、年金を増やしてほしいところですが、少子化を防ぐ為に、子供達が安心して暮せる環境を作ってほしいと思います。	60代	女性	
いつも利用させて頂き、楽しい時間をすごさせていただいてます。 もっと楽しめる講座を多くとり入れて、皆がいつもつどえる場になることを願っています。	60代	女性	
世の中不景気なので子供手当だけでなく高齢者の医療費を国がもっと考えてほしい。	60代	女性	
もう少しで定年ですが、延長するにしても生活は変わらない。少しゆっくりと仕事、生活を楽しみたい（２人で協力して）と思いますが、金銭的な不安が有るのは悲しいです。	60代	女性	
過剰な男女…は社会を混乱させます。このアンケートも回答者をある方向に誘導しているように感じます。 ひとりひとりが穏やかに安心して暮らせるよう、まず国力を上げること。経済を発展させること。そのうえで、この種の観点にも考えを及ぼすこと。順序が逆です。 社会がますますギスギスし、目先のことしか考えない人々が増えていくように感じます。最近の社会の閉塞感を引き起こしている原因のひとつになっているのではないでしょうか？ 根本的な見直しを求めます。	60代	女性	
国にせよ、地方にせよ年齢が高すぎます。（75才、80才）過ぎれば引退し若い人にバトンタッチしなければ、いつまでたっても社会は良くなりません。 議員年金をなくせば厚生年金、国民年金も考える人が真剣になると思います。 これら一般人のことが考えられる人が上に立たないとダメだと思います。	60代	女性	
とりあえず物価高が悪さをしているのでは？いい機会をいただきました。興味を持った行動をとりたいと思います。	60代	女性	
思いやりのある社会にして欲しい。“ねばならない…”と決めつけるのではなく、夫婦の自由を認めてあげられる社会に…	60代	女性	
中心地での活動は、行われているが、へき地や企業そのものの介入が少ないと思います。ポスターチラシだけでは、住民の方には活用してもらえないと思います。	60代	女性	
男女にこだわらず、性別でなく能力・適正で正当に評価されるべきだと思います。	60代	女性	
トランスジェンダーの方が増えてきていますが、トイレや銭湯を一緒に使用するのはかなり怖いです。性的興味とどのように見分けるのかわかりません。	60代	女性	
今から50年近く前に、私の入学していた女子大に、私が４年の時に男子の生徒が一名入学しました。そして、大学名は「女子」をはずした別名に変わりました。その子の授業の様子を見に行った時から、私の男・女の意識が変わったと思います。	60代	女性	
人権を尊重しての企画等ありがとうございます。身近に参加しやすい環境づくりか、誰でも参加できますことが、はじめの一歩となり、末永く続きますように。	60代	女性	
諸事における参画活動の日常における事例が伝わりにくいので、明確な情報の提供をきめ細かく伝えて下さい。	70代以上	男性	
「子育て」「介護」について中高生に教育体験させる。	70代以上	男性	
労働者（男女共）の賃金水準を大幅に上げること（新自由主義による格差拡大の解消）。使役者に集中しているおカネを労働者に大幅に再配分すること。自己責任主義を唾棄し、だれもを、正規職員・社員にすること。その他。	70代以上	男性	
男・女　人間である。区別する事態おかしい。皆、楽しく元気な事が良い。	70代以上	男性	
心で考えて行動する。人を育成する事	70代以上	男性	
80才以上の医療費の無料。年金のうわのせ。	70代以上	男性	
問10　相談窓口一覧を知人にも紹介したい	70代以上	男性	
1.教育⇒家庭教育　家庭で子供の頃から教育。　2.学校教育⇒小・中・高と教育内容に取り入れる。　3.社会慣習、風習の見直し。	70代以上	男性	
未婚の男女を減少させる対応が大切と思う（生活して行く中で、助け合える人は必要だから）	70代以上	男性	

女性の能力発揮できる環境、男系優位を崩すため、愛子様の天皇即位の道を拓く	70代以上	男性	
人間を男女に分ける考え・意識というより、人間を自分と他人に分けて考え、自分と他人がともに生きいきと暮らせる社会づくりをめざしたいものである。	70代以上	男性	
高齢者の増加により受け入り施設の充実（施設等の増設、介護員の増加、介護員の身分保障）と介護システムの見直し等々を現場優先に考える組織作り。	70代以上	男性	
今のままでよい。	70代以上	男性	
子供さんをもっている家庭にやさしい援助をしてほしい	70代以上	女性	
地域（隣近所）の交流が希薄になっています。かと言って無理に交流してもと思っています。高齢になって一人暮らしに不安を感じています。	70代以上	女性	
いつの時代も現実と理想が掛け離れ、正直思う事はどのような状況に自分が、我家が置きて起きているのかを知る必要があるかと思います。口で語る程全て簡単では無い。この歳にしみじみ思います。	70代以上	女性	
あと数年で免許返納の年になるが、近くに店もなく生き生きと暮らせるでしょうか。街に住んでる人は、ちょっと散歩となるけど、田舎では心もしぼんでしまいます。	70代以上	女性	
父母子供の家族関係の結びつきが薄れてきています。お互い話し合い、認め合って自慢できる家庭を作ってほしいです。	70代以上	女性	
夫婦、家族、お互いに話し合う事が大切かと。	70代以上	女性	
老後の生活の心配を少しでも少なくなるような社会にしてほしい。	70代以上	女性	
年齢・男女に関係なく学習や交流が必要だと思います。	70代以上	女性	
安定した収入（政治的）　やはり、まわりの理解が必要だと思います。	70代以上	女性	
自分としては、いくつになっても目標があれば自分が生きていく以上必要だと思う。どんな小さな事でもいいので、自分でコレと思ったものを心の中に持つ事が力になり良いと思います。	70代以上	女性	
「生き生きと暮らせる社会づくり」以前に若者の仕事、男女ともに安定した仕事がなく低所得で苦労している。ある程度の収入が得られなければ結婚も子供も作れない。非常勤、派遣とかもう少しその辺も考えて欲しいです。	70代以上	女性	
今、年金で暮らしていますが、物価高で大変。お年寄りの事も考えてほしい。	70代以上	女性	
結婚、出産、子育ての中で１番助けてほしいのが子育てでした。	70代以上	女性	
家族がなかよく生活してほしい	70代以上	女性	
愛を大切にする	70代以上	女性	
今現在のインフレ（物価高）には、とても生き生き暮らせません。 国会で居眠りしている議員、スマホを見ている議員はいりません この内容主旨には関係ないけれど、そんな法律（クビにして欲しい）を定めて欲しいと切に願います。	70代以上	女性	
―※男・女というのではなく人間として― まず、（投資とかけしかけるのではなく）まっとうに働いた人がまっとうに暮らせる世の中でありたいと思います。 現職中、必死で働いてきましたのに、退職後、年金の実質減額で不安な日々です。 医療費の自己負担額、教育の充実、子育て支援、そして運転免許証返納後の安心支援等、各種、生きていく上での気配りのある豊かな補助・助成・支援制度を広く祈ります。（さらに、さらにより一層） ※条件ギリギリにあと一歩の人が厳しいです。	70代以上	女性	
子育て中の女性を応援出来る国の補助が整備して頂けるように願っています。これからの人達に力を注いで下さりますようお願い申し上げます。	70代以上	女性	
安心安全な社会生活を送れる社会の為、警察職員等大幅増員	70代以上	女性	
私は介護支援を受けている者ですが、手続きなどがわからなかったが、以前に年配の人に聞き今に至っている。今ではその内容など知人に知らせています。	70代以上	女性	
昔の話ですが祖母のいる家庭は孫を保育所に入れなかったのに対して不満でした。なぜと思っていました。子育てに苦手な祖母もいる事もわかってほしかった。ケースバイケースもある！	70代以上	女性	
社会が急に変化を求めても歪みが生まれかねないため、男女という枠ではなく、誰がどうしたい・どうすべきか個人の意志から時間をかけて変えてゆくべき	回答しない	回答しない	

第５章　資料

この章では、市民意識調査の「調査票」及び過去の調査結果との比較資料を掲載しています。

令和6（2024）年度

男女共同参画に関する市民意識調査票

【あなたご自身についておたずねします。】

問１ あなたの性別（性自認）は？（1つに○）

１　男性	２　女性	３　その他	４　回答しない

問２ あなたの年齢（2024 年７月１日時点の満年齢）は、おいくつですか。（1つに○）

１　18～19歳	２　20～29 歳	３　30～39 歳	４　40～49 歳
５　50～59 歳	６　60～69 歳	７　70 歳以上	８　回答しない

問３ あなたはご結婚（事実婚を含む）されていますか。（1つに○）

１　未婚	２　既婚（配偶者あり）	３　既婚（配偶者と離別・死別）

問4 あなたの職業をおたずねします。※主に当てはまる番号の1つに○。

【自営業】

１　農・林・漁業（自営、家族従事者）
２　商・工・サービス業（自営、家族従事者）
３　自由業（開業医・弁護士・芸術家・茶華道等の自営者、家族従事者）

【勤め人】

４　役員・管理職（課長級以上）
５　専門技術職（勤務医・看護師・研究員・教員・栄養士・保育士・技術者等）
６　事務職（一般事務・司書等）
７　労務・技能職（技能工・調理師・自動車運転手・労務員等）
８　販売・サービス業（外交員・販売員・理美容師・飲食店の接客員等）

【無職】

９　主婦・主夫	１０　学生	１１　無職	１２　その他（　　）

【男女平等意識についておたずねします。】

問５ あなたは、次のような各分野での男女の地位が平等だと思いますか。
（それぞれの項目ごと、1つに○）

選択肢 ／ 項目	男性が優遇されている	やや男性が優遇されている	男女平等である	やや女性が優遇されている	女性が優遇されている
① 家庭生活では	1	2	3	4	5
② 職場では	1	2	3	4	5
③ 学校教育の場では	1	2	3	4	5
④ 地域活動の場では	1	2	3	4	5
⑤ 法律や制度上では	1	2	3	4	5
⑥ 社会通念、慣習、しきたり等では	1	2	3	4	5
⑦ 社会全体では	1	2	3	4	5

問６ あなたは、結婚、家庭、離婚等についての次のような考え方についてどう思いますか。
（それぞれの項目ごと、1つに○）

選択肢 ／ 項目	賛成（そう思う）	どちらかといえば賛成（そう思う）	どちらかといえば反対（そう思わない）	反対（そう思わない）
① 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい	1	2	3	4
② 女性が仕事を持つのはよいが、家事、育児等と両立させるべきである	1	2	3	4
③ 結婚や出産後も女性が働き続けることは、自然なことであり、夫婦で協力して家事をするべきである	1	2	3	4
④ 結婚しても必ずしも子どもを持つことはない	1	2	3	4
⑤ 一般的に今の社会では、離婚した場合、女性のほうが不利である	1	2	3	4
⑥ 男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである	1	2	3	4

【人権についておたずねします。】

問７ あなたは、次のような人権侵害を受けたり、身近で見聞きしたことがありますか。
（それぞれの項目ごと、1つに○）

項 目 ＼ 選択肢	自分が受けた	身近で見聞きした	マスコミ等で聞いたことはある	知らない
① セクハラ（セクシュアル・ハラスメント） ※	1	2	3	4
② パワハラ（パワー・ハラスメント） ※	1	2	3	4
③ マタハラ（マタニティ・ハラスメント） ※	1	2	3	4
④ ストーカー ※	1	2	3	4
⑤ DV（ドメスティック・バイオレンス） ※	1	2	3	4
⑥ インターネット（SNS）上での書き込み ※	1	2	3	4

※① 相手が望まない性的な意味合いを持つ言動のことをいいます。

※② 同じ職場で働く者に対して、職務上の地位や人間関係などの職場内の優位性を背景に、業務の適正な範囲を超えて、精神的・身体的苦痛を与える又は職場環境を悪化させる行為をいいます。

※③ 職場において妊娠や出産を理由に行われる嫌がらせ、退職の強要、雇い止めなどをいいます。

※④ 同一の者に対し、つきまとい行為等を繰り返し行うことをいいます。

※⑤ 夫婦や恋人など親しい関係にあるパートナーからの暴力をいいます。暴力には、殴る、蹴るといった身体的暴力だけでなく、言葉や態度による精神的暴力や金銭を渡さない、あるいは奪うなどの経済的暴力、性的暴力などもあります。

※⑥ インターネット上で、他人を誹謗中傷したり、個人の名誉やプライバシーを侵害したり、あるいは偏見や差別を助長したりするような情報を発信するといった悪質な事案が急増しています。匿名性や情報発信の容易さから、同様の書き込みを次々と誘発し、取り返しのつかない重大な人権侵害にもつながるものです。

問８ 問７で、「1 自分が受けた」と回答された方にお聞きします。あなたはそのことを誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。（1つに○）

1 相談した
2 どこ（誰）にも相談しなかった・できなかった **→問9へ**

問９ 問８で、「2　どこ(誰)にも相談しなかった・できなかった」と回答した方にお聞きします。相談しなかった・できなかったのはなぜですか。(○はいくつでも)

１　どこ(誰)に相談してよいのか分からなかったから ２　相談しても無駄だと思ったから ３　相談したことが分かると、仕返しを受けると思ったから ４　自分さえ我慢すればよいと思ったから ５　世間体が悪いから ６　自分にも悪いところがあるから ７　相談するほどのことではないと思ったから ８　その他(具体的に　　)

問10 あなたは、セクハラ、パワハラ、ストーカー、DV、インターネット(SNS)上での書き込み等の被害にあったときの相談窓口をご存知ですか。(1つに○)
＜県内の相談窓口については、アンケート依頼文書の裏面をご参照ください。＞

１　知っている　　２　知らない

問11 あなたは、今までに自分の体の性、心の性または性的指向※に違和感を持ったり悩んだりしたことがありますか。また、身近に悩んでいる方を見たり、悩んでいることを聞いたりしましたか。(1つに○)

１　はい　　２　いいえ

※ 性的指向とは、恋愛感情又は性的感情の対象となる性別についての指向のことをいいます。人によって、性的指向のあり方は様々で、自身と異なる性別の人を好きになる人、自分と同じ性別の人を好きになる人、相手の性別を意識せずにその人を好きになる人などがいます。また、誰にも恋愛感情や性的な感情をもたない人もいます。

問12 現在、性的マイノリティ(性的少数者)※の方々にとって、偏見や差別などにより、生活しづらい社会だと思いますか。(1つに○)

１　そう思う　　２　どちらかといえばそう思う ３　どちらかといえばそう思わない　　４　そう思わない　　５　わからない

※ 性的マイノリティ(性的少数者)は、性的指向又は性自認における少数者を表す総称で「LGBT」の方など、何らかの意味で「性」の在り方が大多数の人とは異なる方々のことをいいます。L:レズビアン(女性同性愛者)、G:ゲイ(男性同性愛者)、B:バイセクシュアル(両性愛者)、T:トランスジェンダー(出生時に診断された性とは違う性を生きる人)

問13 性的マイノリティ（性的少数者）の方々が生きやすい社会を実現するために、あなたはどのような取り組みが必要だと思いますか。（○はいくつでも）

1　市民の理解促進を図るための周知啓発（講座、情報紙等）
2　悩みを相談できる窓口の設置
3　当事者同士で交流ができる機会の確保
4　支援団体の育成
5　同性パートナーシップ制度※の導入
6　その他（具体的に　　）

※ 個人の多様性を尊重するため、同性の2人を人生のパートナーとして自治体が認める制度のことをいいます。

問14 新聞、テレビなどで「人権問題」や「人権侵害」が報道されることがありますが、あなたの身近では、どのようになってきていると思いますか。（1つに○）

1　少なくなってきた　　2　あまり変わらない
3　多くなってきた　　4　わからない

問15 あなたは、これまでにセクハラ、いじめ、虐待など「人権」について考えたり、学んだりした経験はありますか。（○はいくつでも）

1　各種報道や書籍から「人権」について考えたり、学んだりしたことがある
2　授業、講座や講演会等を通して考えたり、学んだりしたことがある
3　身近な人の経験や話から、考えたり、学んだりしたことがある
4　特に考えたり、学んだりしたことはない
5　わからない
6　その他（具体的に　　）

問16 あなたは、次にあげた①～⑯のことが夫婦やパートナーの間で行われた場合、それを暴力だと思いますか。①～⑯のそれぞれについてお答えください。
（それぞれの項目ごと、1つに○）

選択肢 ／ 項目	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない
① 殴る、蹴る、首を絞める	1	2	3
② 物を投げつける	1	2	3
③ 刃物などを突きつける	1	2	3

④ 大声でどなる	1	2	3
⑤ 無視する	1	2	3
⑥ 「別れるなら自殺する」などと言う	1	2	3
⑦ 相手が大切にしている物を壊す	1	2	3
⑧ 性行為を強要する	1	2	3
⑨ 避妊に協力しない	1	2	3
⑩ 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる	1	2	3
⑪ 生活費を渡さない	1	2	3
⑫ 妻(夫)を働かせない	1	2	3
⑬ 家計を厳しく管理し、金銭的自由を与えない	1	2	3
⑭ 友人などとの付き合いを制限する	1	2	3
⑮ 電話・メール・SNS(LINEなど)の内容を細かくチェックする	1	2	3
⑯ 子どもに母親(父親)を非難することを言わせる	1	2	3

問17 『人権相談』※をご存知ですか。(1つに○)

1 知っている　　2 知らない

※ 人権相談は、法務局の職員や人権擁護委員が相談に応じます。セクハラやパワハラ、家庭内暴力、体罰やいじめ、インターネットでの誹謗中傷、差別、隣近所のもめごとなど様々な相談ができます。(相談は無料、秘密は厳守されます。)

相談方法は、電話相談や窓口相談、インターネット相談等があります。

窓口相談は、法務局のほか市内施設で開設(月1回程度)しており、開設日程は、広報こおりやま、市ウェブサイト、チラシ等でお知らせしています。

【家庭生活についておたずねします。】

問18 あなたの家庭では、次にあげるような家事、育児や介護等を、主にどなたが分担していますか。（それぞれの項目ごと、1つに○）

選択肢 ／ 項目	主として夫	主として妻	夫婦で	家族全員（夫婦と子ども）	その他の家族	該当しない※
① 食事の用意、あと片付け	1	2	3	4	5	6
② 掃除	1	2	3	4	5	6
③ 洗濯	1	2	3	4	5	6
④ 育児	1	2	3	4	5	6
⑤ 家族の介護や看病	1	2	3	4	5	6
⑥ 地域活動（PTA や町内会の活動等）	1	2	3	4	5	6

※「該当しない」には、各項目に該当しない場合のほか、家族等以外の方が主に分担している場合（家事支援サービスの利用など）も含まれます。

【女性活躍についておたずねします。】

問19 あなた自身あるいはあなたの身近にいる女性は、仕事や地域活動で活躍していると思いますか。（1つに○）

1 活躍している
2 どちらかといえば活躍している
3 どちらかといえば活躍していない
4 活躍していない

問20（1）へ
問20（2）へ

問20 問19のように感じる理由は何ですか。（それぞれの項目ごと、3つまで○）

（1） 問19で「1 活躍している」又は「2 どちらかといえば活躍している」と回答された方にお聞きします。活躍していると感じている理由は何ですか。（3つまで○）

1 産休・育休・介護などの支援制度が充実し、女性社員の退社が減っている
2 女性の経営者や管理職が増えている
3 管理職でないが活躍する女性が増えている
4 女性の職域（研究開発、マーケティング、営業など）が広がっている
5 報道などで女性の活躍を目にする機会が増えている

次ページに選択肢の続きがあります

６　女性のキャリア意識（仕事で経験を積もうとする意識）が上がっている
７　長時間労働の慣習が改善されてきている
８　PTA や自治会の会長等役職に就く女性が増えている
９　その他（具体的に　　）

（2）問19で「3　どちらかといえば活躍していない」又は「4　活躍していない」と回答された方にお聞きします。活躍していないと感じている理由は何ですか。（3つまで○）

１　産休・育休・介護などの支援制度が不十分である
２　産休・育休・介護などの支援制度があっても利用しにくい（できない）
３　女性の経営者や管理職が少ない
４　女性の職域が限定的である
５　女性のキャリア意識（仕事で経験を積もうとする意識）が向上していない
６　出産・育児などのため、男性に比べキャリア形成が難しい
７　男性優位の考え方が変わっていない
８　長時間労働の慣習が改善されていない
９　PTA や自治会の会長等役職に就いている女性がいない
10　その他（具体的に　　）

問21　女性が活躍するにはどのようなことが必要だと思いますか。（3つまで○）

１　企業トップが女性の活躍促進に積極的であること
２　職場の上司・同僚が、女性が働くことについて理解があること
３　育児・介護等との両立について職場の支援制度が整っていること
４　企業内で長時間労働の必要がないこと、勤務時間が柔軟であること
５　身近に活躍している女性（ロールモデル）がいること
６　仕事が適正に評価されていること
７　職域が拡大されるなど、仕事にやりがいがあること
８　キャリア形成のための研修制度があること
９　保育施設が充実していること
10　国や地方自治体など行政による企業支援があること
11　地域社会が自治会などの地域活動に女性の参画の必要性を認めること
12　わからない
13　その他（具体的に　　）

問22　あなたは、女性が職業を持つことについてどうお考えになりますか。次の中からあなたのお考えに一番近いものを選んでください。（1つに○）

１　職業は一生持ち続けるほうがよい
２　結婚するまでは、職業を持つほうがよい
３　子どもができるまでは、職業を持つほうがよい

次ページに選択肢の続きがあります

４　子どもができたら職業を辞め、子どもが大きくなったら再就職するほうがよい
５　女性は職業を持たないほうがよい
６　わからない
７　その他（具体的に：　　）

問23　福島県は、政策、方針決定に関わる役職の女性の割合が全国平均と比べて低い現状にあります。あなたが、次にあげるような政策、方針決定に関わる役職において、今後、女性がもっと増えたほうがよいと思うものはどれですか。（○はいくつでも）

１　都道府県、市町村の首長
２　国会議員、都道府県議員、市町村議員
３　国家公務員、地方公務員の管理職
４　裁判官、検察官、弁護士
５　大学教授、教育関係の管理職（校長・教頭）
６　国連などの国際機関の管理職
７　企業の管理職
８　起業家、経営者
９　労働組合の幹部
10　農協の役員
11　自治会、町内会の役員
12　PTAの役員
13　今のままでよい
14　その他（具体的に：　　）

【就業についておたずねします。】

問24　現在、あなたは働いていますか。（1つに○）

１　働いている（育児休業中等を含む）　**→問25へ**
２　働いていない　**→問27へ**

問25　今の職場で、仕事の内容や待遇面において、男女で差別されていると思いますか。（1つに○）

１　男性が差別されていると思う
２　女性が差別されていると思う
　　} **問26へ**
３　そのようなことはないと思う
４　わからない

問26　問25で、「差別されていると思う」と答えた方にお聞きします。それは、具体的にどのようなことですか。（○はいくつでも）

１　賃金に差がある
２　昇進、昇格に差別がある
３　能力が正当に評価されない
４　結婚したり、子どもが生まれたりすると仕事を続けにくい雰囲気がある
５　その他（具体的に　　）

【男女の働き方と仕事と生活についておたずねします。】

問27 仕事と生活について、あなたの考え方（理想）と現実（現状）にもっとも近いものを教えてください。（それぞれの項目ごと、1つに○）

選択肢 ＼ 項目	「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	「地域・個人の生活」※を優先	「仕事」と「家庭生活」をともに両立	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに両立	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに両立	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をすべてバランス良く行う。	わからない
① 考え方（理想）	1	2	3	4	5	6	7	8
② 現実（現状）	1	2	3	4	5	6	7	8

※「地域・個人の生活」とは、地域活動、学習、趣味、付き合いなどを指します。

問28 今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（○はいくつでも）

1 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
2 男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと
3 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること
4 年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること
5 社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動について、その評価を高めること
6 労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること
7 男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう、啓発や情報提供を行うこと
8 国や地方自治体などの研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること
9 男性が子育てや介護、地域活動を行うための、仲間（ネットワーク）づくりをすすめること
10 家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること
11 その他（具体的に　　）

【防災についておたずねします。】

問29 大規模災害時の備えに関して、男女がともに安心できる防災体制を整えるために日常的にどのようなことが必要だと思いますか。（○はいくつでも）

１　防災関係者に対する男女共同参画の意識づくり
２　郡山市地域防災計画※に女性や子供、高齢者等の意見を反映する
３　女性の意見を反映させるための仕組みづくりや防災会議等の委員への積極的な女性の登用
４　防災に携わる職域等への女性参画の拡大及び女性リーダーの育成
５　防災について、学習機会の提供
６　男女ともに安心して利用できる避難所運営のためのマニュアル作成
７　災害時における女性の相談体制の確立
８　その他（具体的に　　）

※　郡山市地域防災計画：災害対策基本法の規定に基づき、本市の防災に関する基本的事項を総合的に定め、市民の生命、身体及び財産を災害から保護するとともに、被害を最小化する「減災」の考え方に立ち、郡山市防災会議が策定する計画です。

【郡山市の男女共同参画に関する取り組みについておたずねします。】

問30『男女共同参画社会』を実現するために、今後、行政はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。（○はいくつでも）

１　法律や制度の面で見直しを行う
２　国・地方公共団体審議会委員や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用する
３　民間企業・団体等の管理職に女性の登用が進むよう支援する
４　女性や男性の生き方や悩みに関する相談の場を提供する
５　従来、女性が少なかった分野（研究者等）への女性の進出を支援する
６　保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する
７　男女の平等と相互の理解や協力について学習機会を充実する
８　労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女共に働き方の見直しを進める
９　子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する
１０　子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する
１１　男女の平等と相互の理解や協力について広報・PR する
１２　男女の収入格差を生じさせないような雇用環境の整備を進める
１３　わからない
１４　その他（具体的に　　）

問31 あなたは、男女共同参画センター（愛称：さんかくプラザ）※をご存知ですか。
また、利用したことがありますか。（1つに○）

1　利用したことがある 2　知っているが、利用したことはない 3　知らない

※ さんかくプラザは、「男女共同参画のまち郡山」の実現を目指すための市民活動の拠点施設です。男女共同参画推進の活動をする皆さまを支援します。

さんかくプラザの４つの機能　　・学習　・交流　・情報　・相談

さんかくプラザは、長寿命化工事のため、令和6（2024）年7月から来年3月末まで休館しています。各種講座や相談については、他施設で行っています。「広報こおりやま」や「さんかくプラザのウェブサイト」などを、ぜひご覧ください。

問32 今後、『さんかくプラザ』に何を充実してほしいですか。（○はいくつでも）

1　学習・研修機能の充実	2　図書・情報収集、提供
3　相談機能	4　市民団体の交流、活動機能
5　調査・研究機能	6　その他（具体的に　　）

「男女がともに生きいきと暮らせる社会づくり」に向けて、あなたのご意見、ご感想などを、ぜひお聞かせください。

ご協力ありがとうございました。

お手数をおかけいたしますが、この調査票を、同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、**令和6年8月31日（土）までに**ご投函ください。

なお、このアンケートは「無記名調査」ですので、お名前やご住所の記載は不要です。

～ お知らせ ～

11月10日（日）に「第23回福島県男女共生のつどい」を郡山市（けんしん郡山文化センター）で開催します。
男女共生のつどいは、男女共生の意識を広く県民と共有し、一人一人に根付くことを目的としています。講師に山口真由さん（弁護士・信州大学特任教授）を迎えて講演会を行いますので、ぜひご参加ください。詳細は、広報こおりやま9月号でお知らせします。

FSC www.fsc.org ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C010089
VEGETABLE OIL INK 植物油インキを使用して印刷しています
紙へリサイクル可

２.過去の調査との比較

経年比較をするために、過去に実施した2008(平成20)年、2012(平成24)年、2016(平成28)年、2020(令和２)年調査の４回分の結果との比較を行った。

実施方法は、すべて同じ方法であるが、設問の違いがあるため、比較可能な項目に絞っている。

【2024(令和６)年調査】
調査名：郡山市男女共同参画に関する市民意識調査
調査時期：2024(令和６)年７月
調査対象：市内在住18歳以上の男女　3,000人
調査方法：郵送による自記式又はインターネットによる電子申請
回収率：33.1%　　回答数：993件

【2020(令和２)年調査】
調査名：郡山市男女共同参画に関する市民意識調査
調査時期：2020(令和２)年７月
調査対象：市内在住20歳以上の男女　3,000人
調査方法：郵送による自記式又はインターネットによる電子申請
回収率：33.6%　　回答数：1,007件

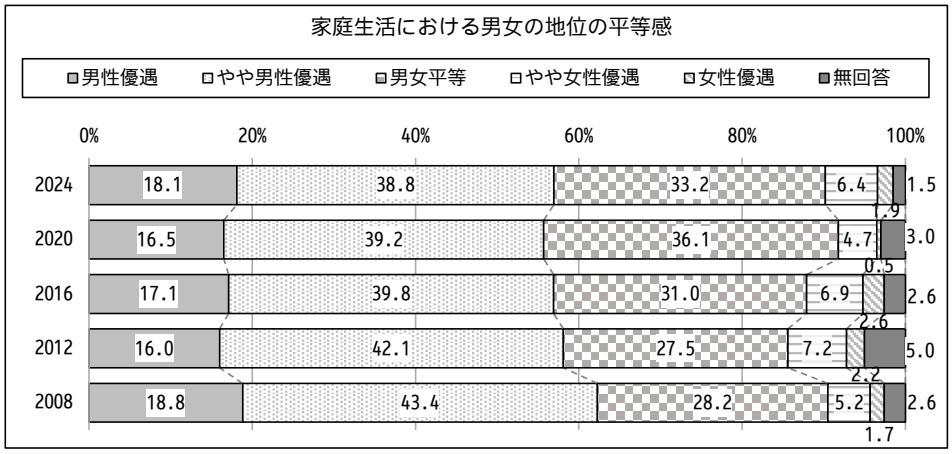
【2016(平成28)年調査】
調査名：郡山市男女共同参画に関する市民意識調査
調査時期：2016(平成28)年７月
調査対象：市内在住20歳以上の男女　3,000人
調査方法：郵送による自記式
回収率：32.3%　　回答数：968件

【2012(平成24)年調査】
調査名：郡山市男女共同参画に関する市民意識調査
調査時期：2012(平成24)年７月
調査対象：市内在住20歳以上の男女　3,000人
調査方法：郵送による自記式
回収率：30.6%　　回答数：917件

【2008(平成20)年調査】
調査名：郡山市男女共同参画に関する市民意識調査
調査時期：2008(平成20)年７月
調査対象：市内在住20歳以上の男女　3,000人
調査方法：郵送による自記式
回収率：36.6%　　回答数：1,099件

（１）各分野における男女の地位の平等感（問５）

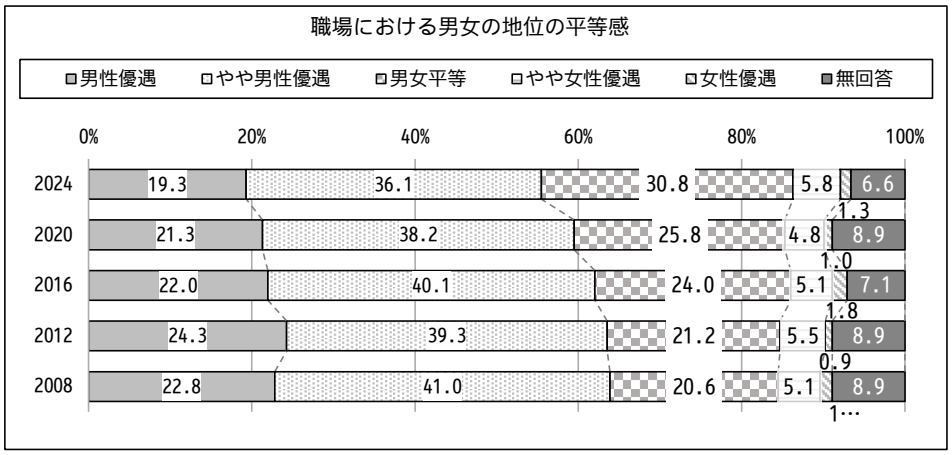
①家庭生活において



（%）

		実人数	男性優遇	やや男性優遇	男女平等	やや女性優遇	女性優遇	無回答
全体	2024	993	18.1	38.8	33.2	6.4	1.9	1.5
	2020	1,007	16.5	39.2	36.1	4.7	0.5	3.0
	2016	968	17.1	39.8	31.0	6.9	2.6	2.6
	2012	917	16.0	42.1	27.5	7.2	2.2	5.0
	2008	1,099	18.8	43.4	28.2	5.2	1.7	2.6

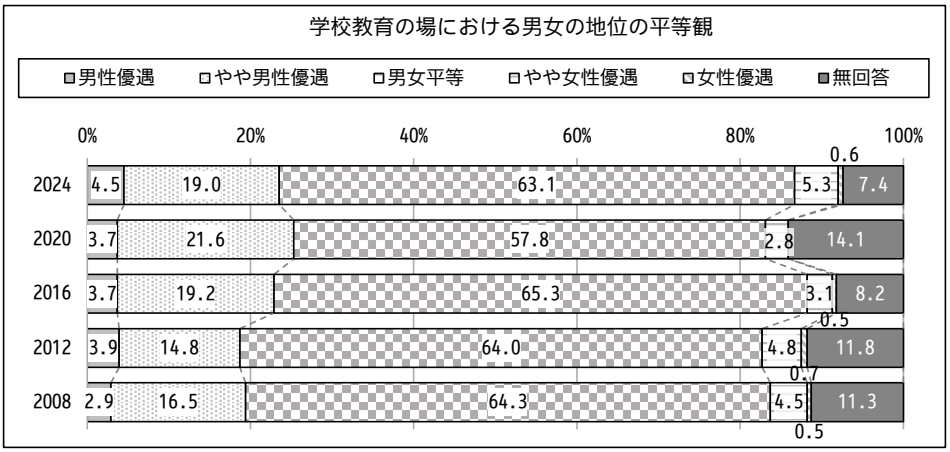
②職場において



（%）

		実人数	男性優遇	やや男性優遇	男女平等	やや女性優遇	女性優遇	無回答
全体	2024	993	19.3	36.1	30.8	5.8	1.3	6.6
	2020	1,007	21.3	38.2	25.8	4.8	1.0	8.9
	2016	968	22.0	40.1	24.0	5.1	1.8	7.1
	2012	917	24.3	39.3	21.2	5.5	0.9	8.9
	2008	1,099	22.8	41.0	20.6	5.1	1.5	8.9

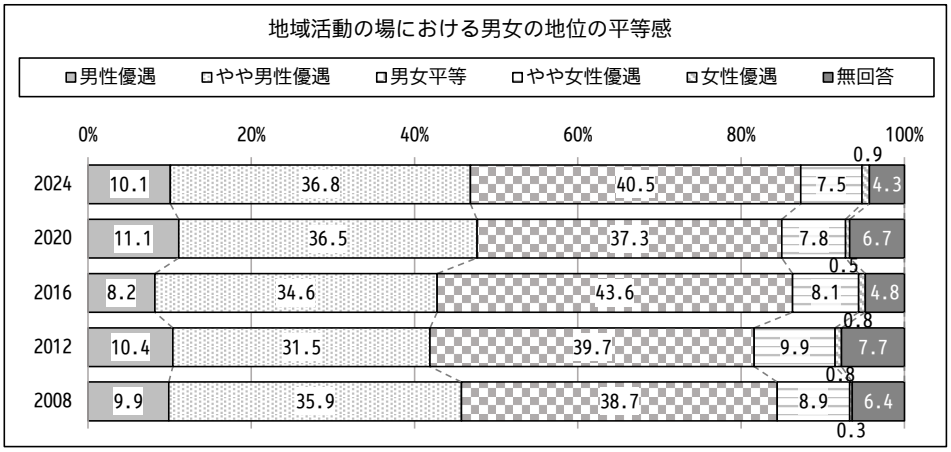
③学校教育の場において



（%）

		実人数	男性優遇	やや男性優遇	男女平等	やや女性優遇	女性優遇	無回答
全体	2024	993	4.5	19.0	63.1	5.3	0.6	7.4
	2020	1,007	3.7	21.6	57.8	2.8	0.0	14.1
	2016	968	3.7	19.2	65.3	3.1	0.5	8.2
	2012	917	3.9	14.8	64.0	4.8	0.7	11.8
	2008	1,099	2.9	16.5	64.3	4.5	0.5	11.3

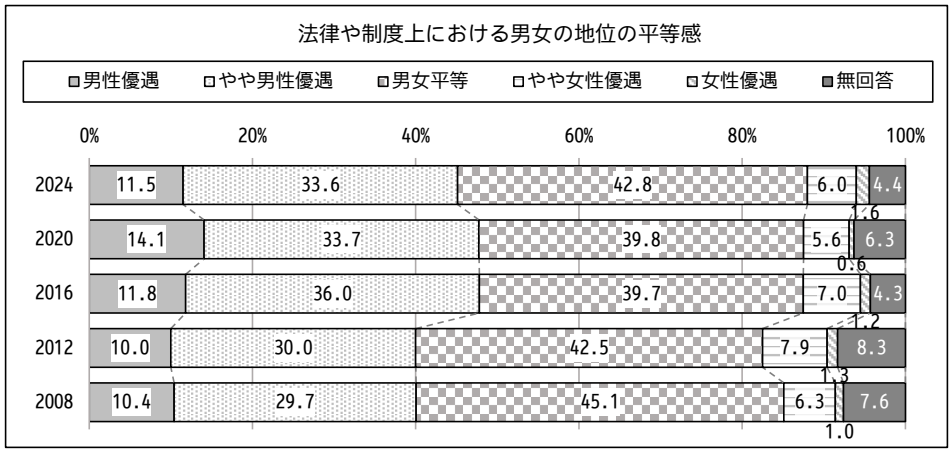
④地域活動の場において



（%）

		実人数	男性優遇	やや男性優遇	男女平等	やや女性優遇	女性優遇	無回答
全体	2024	993	10.1	36.8	40.5	7.5	0.9	4.3
	2020	1,007	11.1	36.5	37.3	7.8	0.5	6.7
	2016	968	8.2	34.6	43.6	8.1	0.8	4.8
	2012	917	10.4	31.5	39.7	9.9	0.8	7.7
	2008	1,099	9.9	35.9	38.7	8.9	0.3	6.4

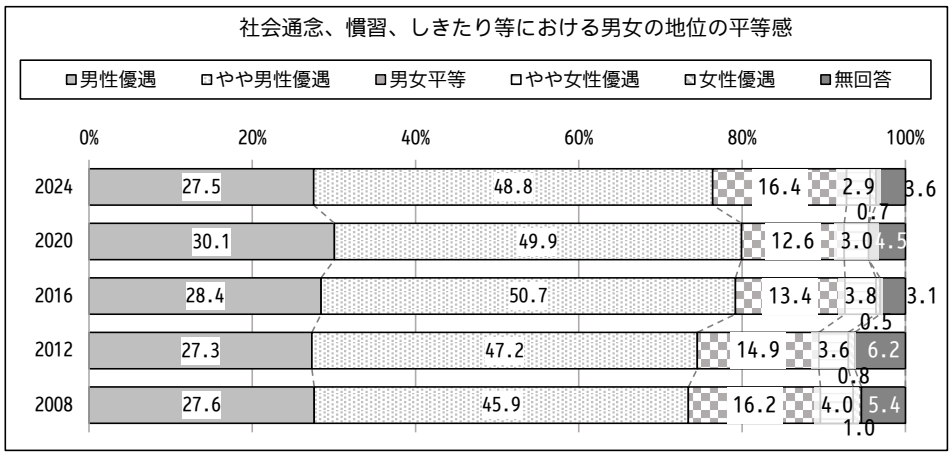
⑤法律・制度上において



（%）

		実人数	男性優遇	やや男性優遇	男女平等	やや女性優遇	女性優遇	無回答
全体	2024	993	11.5	33.6	42.8	6.0	1.6	4.4
	2020	1,007	14.1	33.7	39.8	5.6	0.6	6.3
	2016	968	11.8	36.0	39.7	7.0	1.2	4.3
	2012	917	10.0	30.0	42.5	7.9	1.3	8.3
	2008	1,099	10.4	29.7	45.1	6.3	1.0	7.6

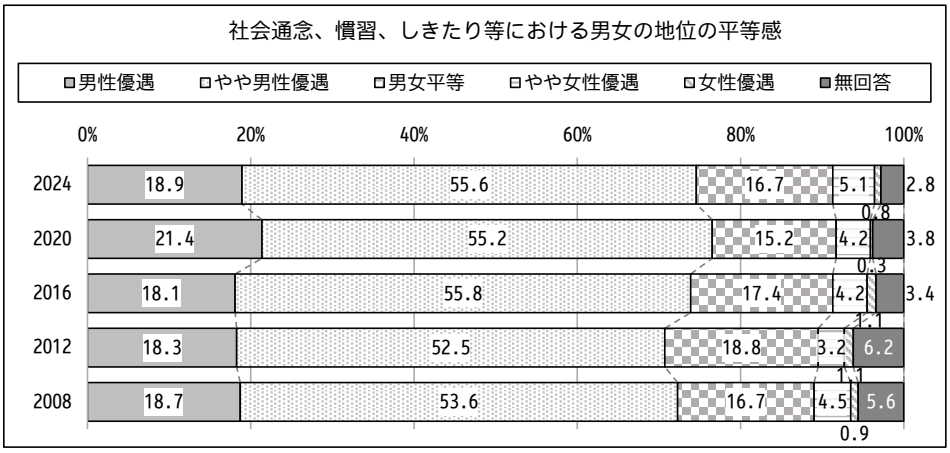
⑥社会通念、慣習、しきたり等において



（%）

		実人数	男性優遇	やや男性優遇	男女平等	やや女性優遇	女性優遇	無回答
全体	2024	993	27.5	48.8	16.4	2.9	0.7	3.6
	2020	1,007	30.1	49.9	12.6	3.0	0.0	4.5
	2016	968	28.4	50.7	13.4	3.8	0.5	3.1
	2012	917	27.3	47.2	14.9	3.6	0.8	6.2
	2008	1,099	27.6	45.9	16.2	4.0	1.0	5.4

⑦社会全体において

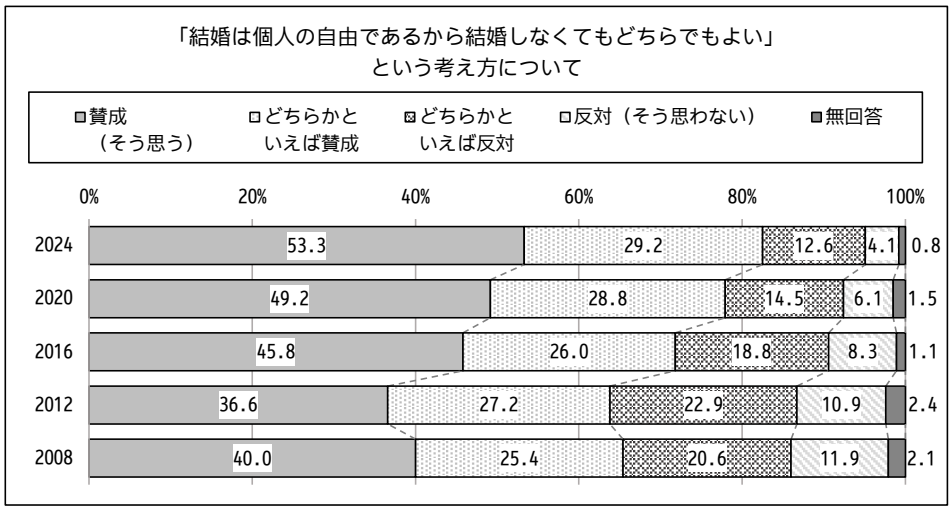


（%）

		実人数	男性優遇	やや男性優遇	男女平等	やや女性優遇	女性優遇	無回答
全体	2024	993	18.9	55.6	16.7	5.1	0.8	2.8
	2020	1,007	21.4	55.2	15.2	4.2	0.3	3.8
	2016	968	18.1	55.8	17.4	4.2	1.1	3.4
	2012	917	18.3	52.5	18.8	3.2	1.1	6.2
	2008	1,099	18.7	53.6	16.7	4.5	0.9	5.6

（２）結婚、家庭、離婚についての考え方（問６）

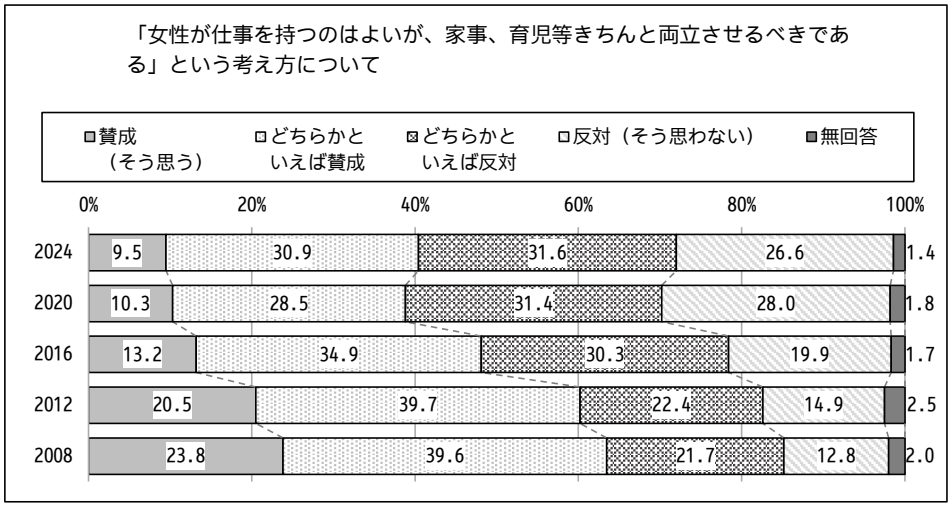
①「結婚は個人の自由であるから、結婚しなくてもどちらでもよい」という考え方について



（%）

		実人数	賛成（そう思う）	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対（そう思わない）	無回答
全体	2024	993	53.3	29.2	12.6	4.1	0.8
	2020	1,007	49.2	28.8	14.5	6.1	1.5
	2016	968	45.8	26.0	18.8	8.3	1.1
	2012	917	36.6	27.2	22.9	10.9	2.4
	2008	1,099	40.0	25.4	20.6	11.9	2.1

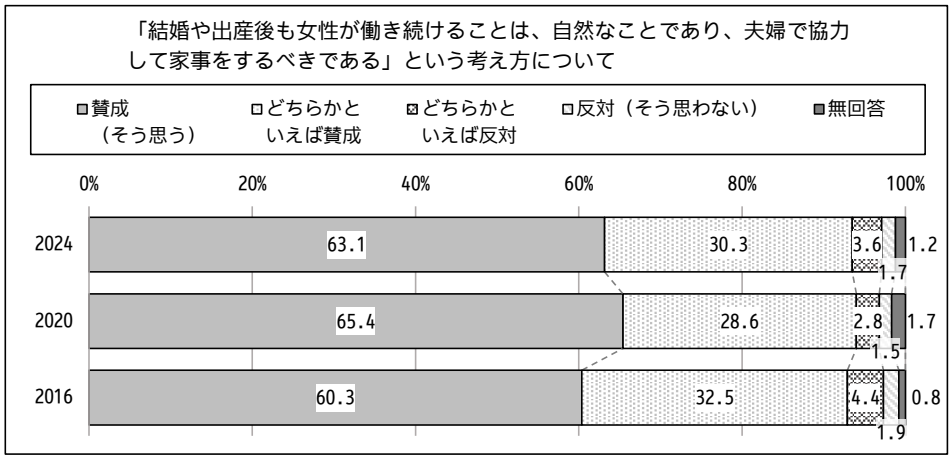
②「女性が仕事を持つのはよいが、家事、育児等きちんと両立させるべきである」という考え方について



（%）

		実人数	賛成（そう思う）	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対（そう思わない）	無回答
全体	2024	993	9.5	30.9	31.6	26.6	1.4
	2020	1,007	10.3	28.5	31.4	28.0	1.8
	2016	968	13.2	34.9	30.3	19.9	1.7
	2012	917	20.5	39.7	22.4	14.9	2.5
	2008	1,099	23.8	39.6	21.7	12.8	2.0

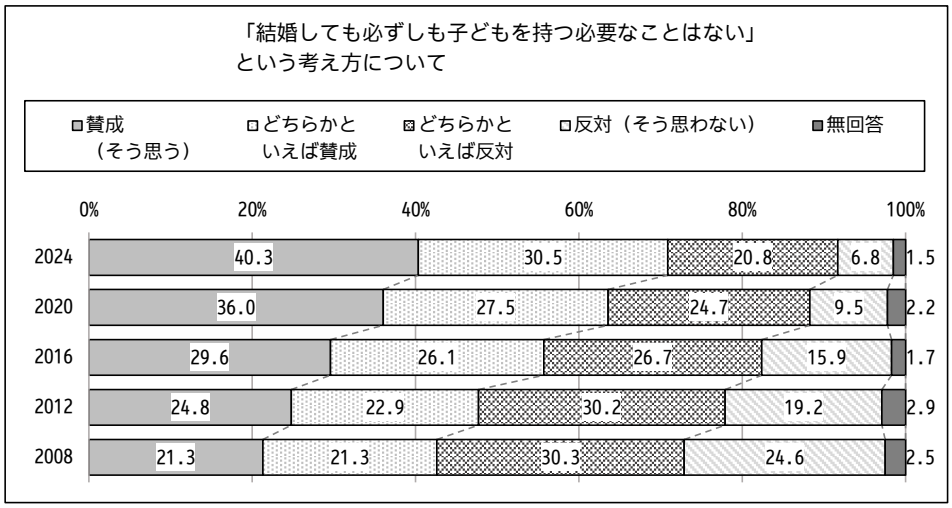
③「結婚や出産後も女性が働き続けることは、自然なことであり、夫婦で協力して家事をするべきであるという考え方について



（%）

		実人数	賛成（そう思う）	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対（そう思わない）	無回答
全体	2024	993	63.1	30.3	3.6	1.7	1.2
	2020	1,007	65.4	28.6	2.8	1.5	1.7
	2016	968	60.3	32.5	4.4	1.9	0.8

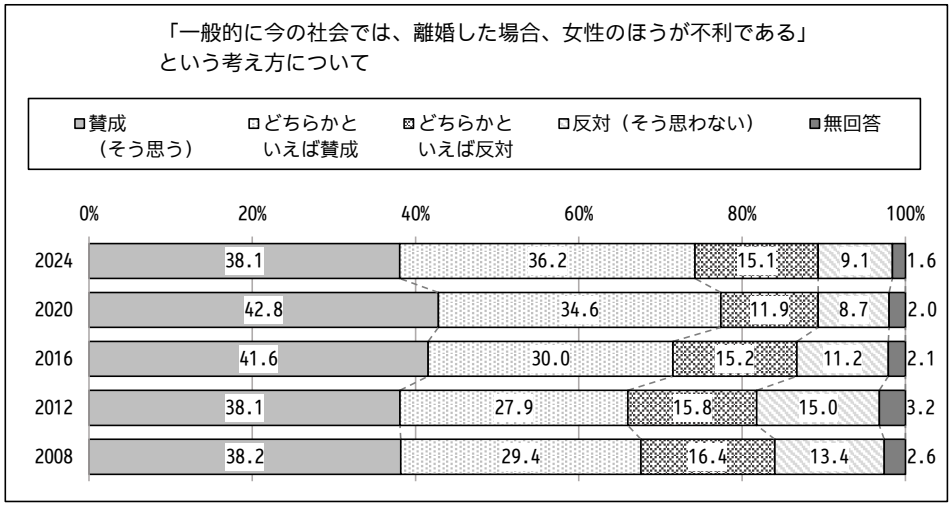
④「結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」という考え方について



（%）

		実人数	賛成（そう思う）	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対（そう思わない）	無回答
全体	2024	993	40.3	30.5	20.8	6.8	1.5
	2020	1,007	36.0	27.5	24.7	9.5	2.2
	2016	968	29.6	26.1	26.7	15.9	1.7
	2012	917	24.8	22.9	30.2	19.2	2.9
	2008	1,099	21.3	21.3	30.3	24.6	2.5

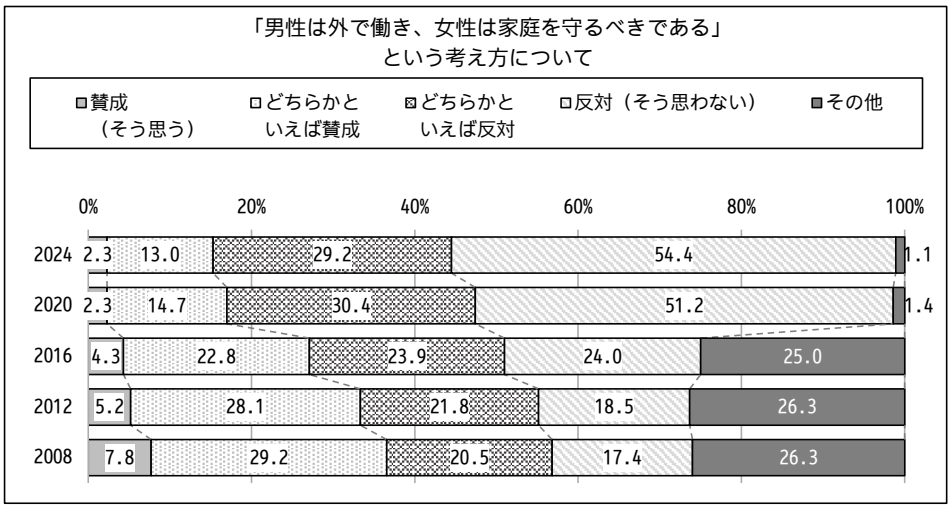
⑤「一般的に今の社会では、離婚した場合、女性のほうが不利である」という考え方について



（%）

		実人数	賛成（そう思う）	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対（そう思わない）	無回答
全体	2024	993	38.1	36.2	15.1	9.1	1.6
	2020	1,007	42.8	34.6	11.9	8.7	2.0
	2016	968	41.6	30.0	15.2	11.2	2.1
	2012	917	38.1	27.9	15.8	15.0	3.2
	2008	1,099	38.2	29.4	16.4	13.4	2.6

⑥「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」という考え方について



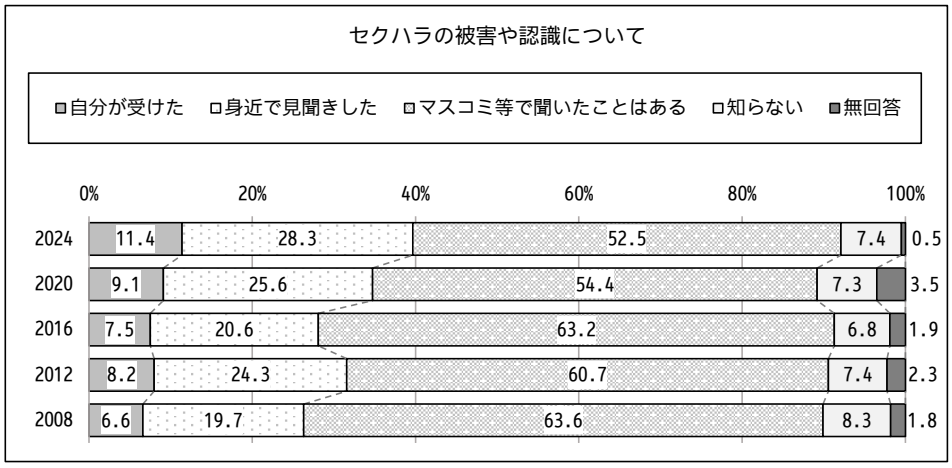
（%）

		実人数	賛成（そう思う）	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対（そう思わない）	その他
全体	2024	993	2.3	13.0	29.2	54.4	1.1
	2020	1,007	2.3	14.7	30.4	51.2	1.4
	2016	968	4.3	22.8	23.9	24.0	25.0
	2012	917	5.2	28.1	21.8	18.5	26.3
	2008	1,099	7.8	29.2	20.5	17.4	26.3

※2020年度から設問を変更し、今回から選択肢のうち「どちらともいえない」を削除。
比較のため、「その他」欄を設け、「どちらともいえない」「無回答」を合算の上計上した。

（３）人権について（問７）
～次のような人権侵害を受けたり、身近で見聞きしたことがあるか～

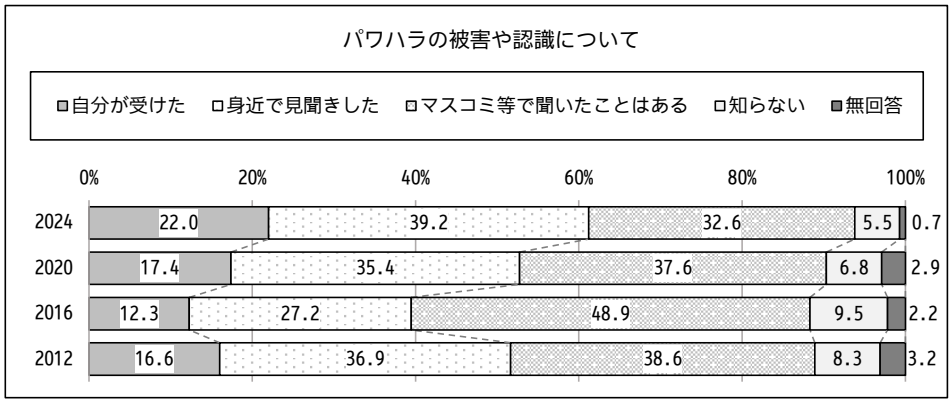
①セクハラ（セクシャル・ハラスメント）



（%）

		実人数	自分が受けた	身近で見聞きした	マスコミ等で聞いたことはある	知らない	無回答
全体	2024	993	11.4	28.3	52.5	7.4	0.5
	2020	1,007	9.1	25.6	54.4	7.3	3.5
	2016	968	7.5	20.6	63.2	6.8	1.9
	2012	917	8.2	24.3	60.7	7.4	2.3
	2008	1,099	6.6	19.7	63.6	8.3	1.8

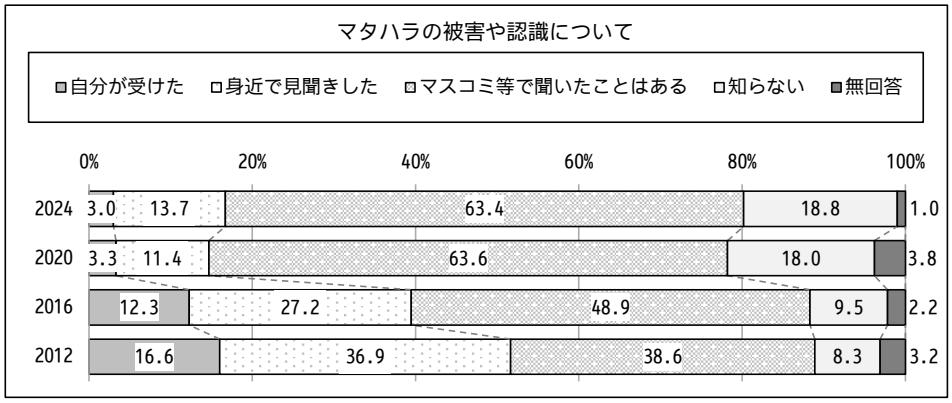
②パワハラ（パワー・ハラスメント）2012年～



（%）

		実人数	自分が受けた	身近で見聞きした	マスコミ等で聞いたことはある	知らない	無回答
全体	2024	993	22.0	39.2	32.6	5.5	0.7
	2020	1,007	17.4	35.4	37.6	6.8	2.9
	2016	968	12.3	27.2	48.9	9.5	2.2
	2012	917	16.6	36.9	38.6	8.3	3.2

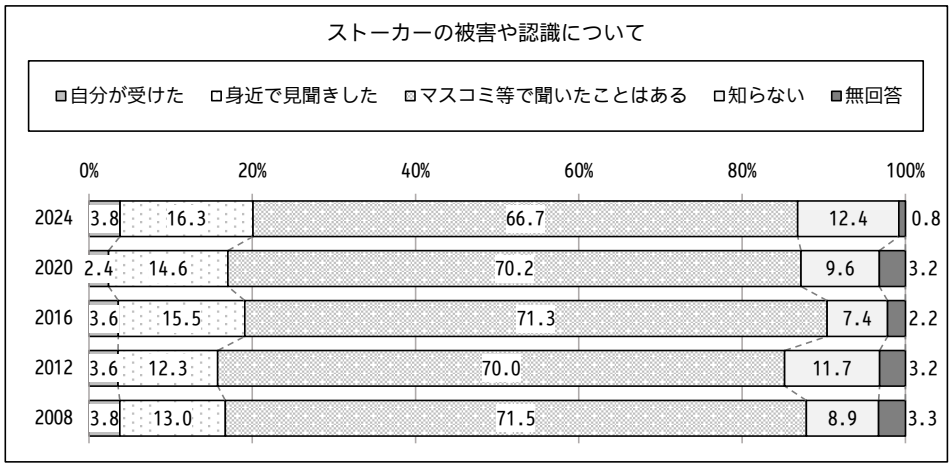
③マタハラ（マタニティ・ハラスメント）　2012年～



（%）

		実人数	自分が受けた	身近で見聞きした	マスコミ等で聞いたことはある	知らない	無回答
全体	2024	993	3.0	13.7	63.4	18.8	1.0
	2020	1,007	3.3	11.4	63.6	18.0	3.8
	2016	968	12.3	27.2	48.9	9.5	2.2
	2012	917	16.6	36.9	38.6	8.3	3.2

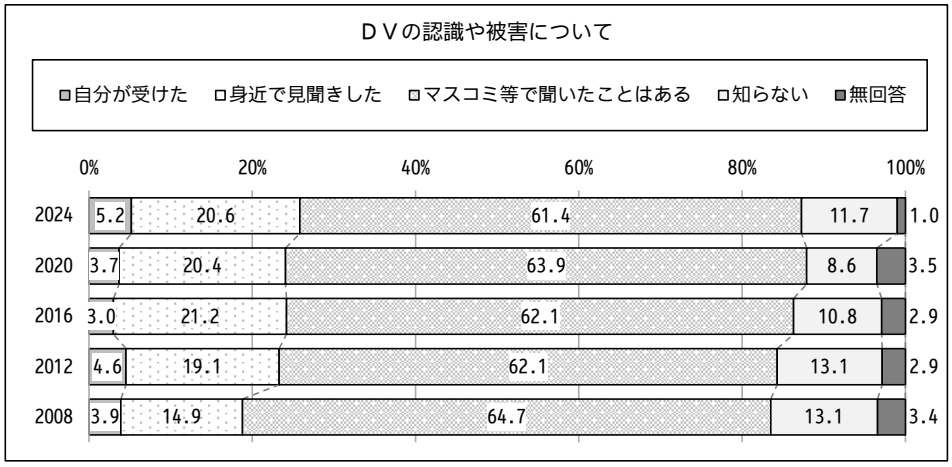
④ストーカー



（%）

		実人数	自分が受けた	身近で見聞きした	マスコミ等で聞いたことはある	知らない	無回答
全体	2024	993	3.8	16.3	66.7	12.4	0.8
	2020	1,007	2.4	14.6	70.2	9.6	3.2
	2016	968	3.6	15.5	71.3	7.4	2.2
	2012	917	3.6	12.3	70.0	11.7	3.2
	2008	1,099	3.8	13.0	71.5	8.9	3.3

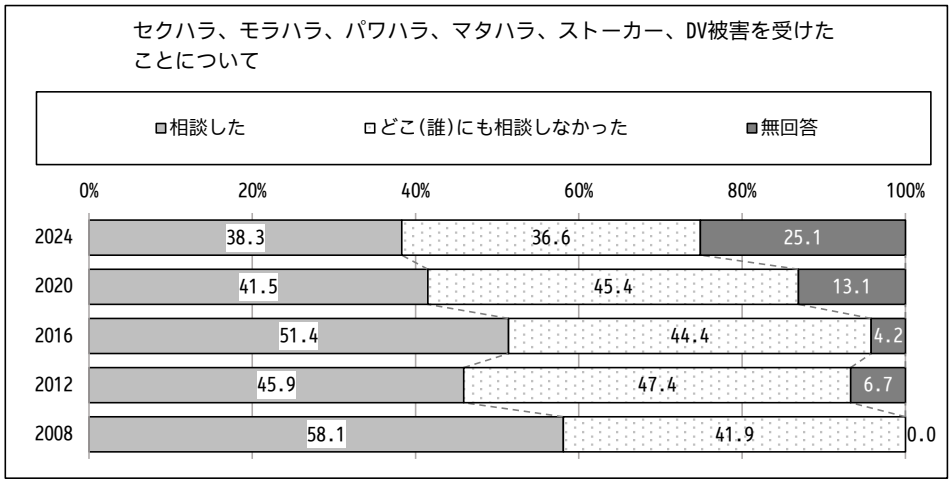
⑤ＤＶ（ドメスティック・バイオレンス）



（%）

		実人数	自分が受けた	身近で見聞きした	マスコミ等で聞いたことはある	知らない	無回答
全体	2024	993	5.2	20.6	61.4	11.7	1.0
	2020	1,007	3.7	20.4	63.9	8.6	3.5
	2016	968	3.0	21.2	62.1	10.8	2.9
	2012	917	4.6	19.1	62.1	13.1	2.9
	2008	1,099	3.9	14.9	64.7	13.1	3.4

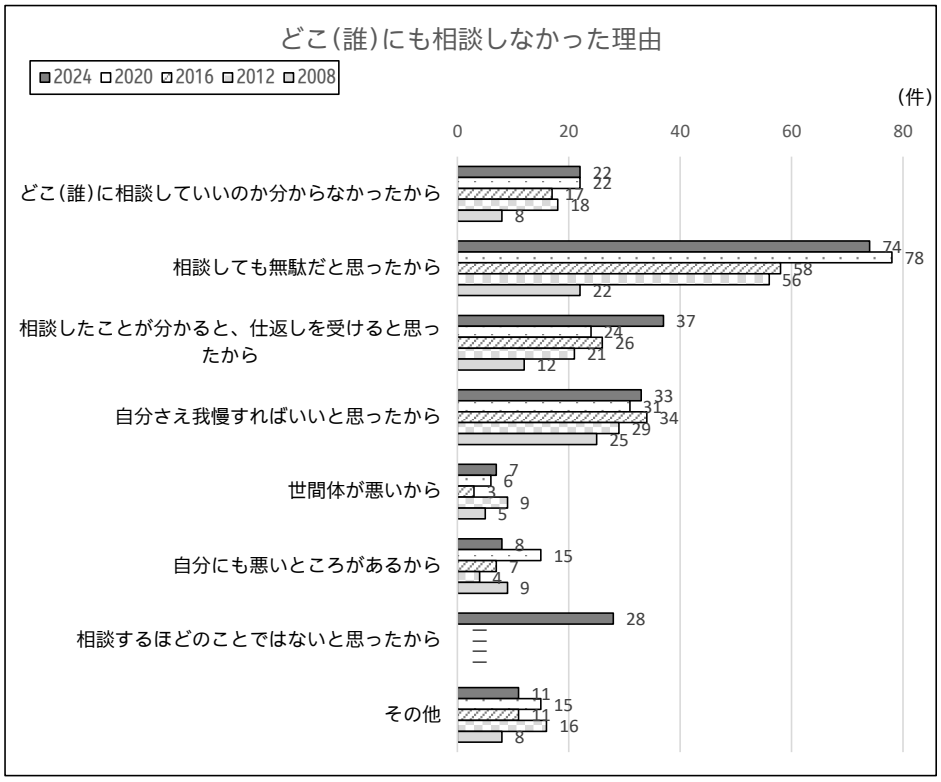
⑥セクハラ、パワハラ、ストーカー、ＤＶ被害にあったことを相談したかどうか（問８）



（%）

		回答数	相談した	どこ(誰)にも相談しなかった	無回答
全体	2024	295	38.3	36.6	25.1
	2020	260	41.5	45.4	13.1
	2016	356	51.4	44.4	4.2
	2012	209	45.9	47.4	6.7
	2008	117	58.1	41.9	0.0

⑦被害にあったことをどこ（誰）にも相談しなかった理由について（問９）

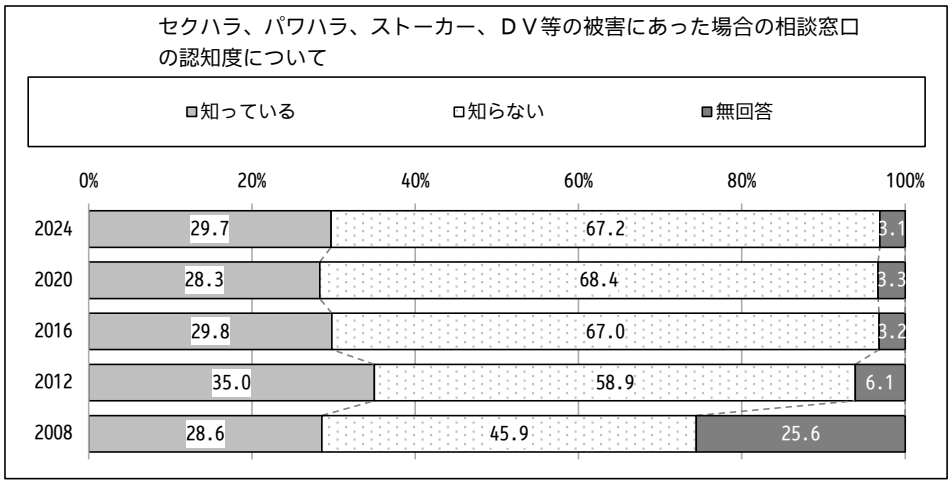


（件）

	回答件数	どこ（誰）に相談していいのか分からなかったから	相談しても無駄だと思ったから	相談したことが分かると、仕返しを受けると思ったから	自分さえ我慢すればいいと思ったから	世間体が悪いから	自分にも悪いところがあるから	相談するほどのことではないと思ったから	その他
2024	220	22	74	37	33	7	8	28	11
2020	191	22	78	24	31	6	15	—	15
2016	156	17	58	26	34	3	7	—	11
2012	153	18	56	21	29	9	4	—	16
2008	89	8	22	12	25	5	9	—	8

※2024年度から選択肢に「相談するほどのことではないと思ったから」を追加。

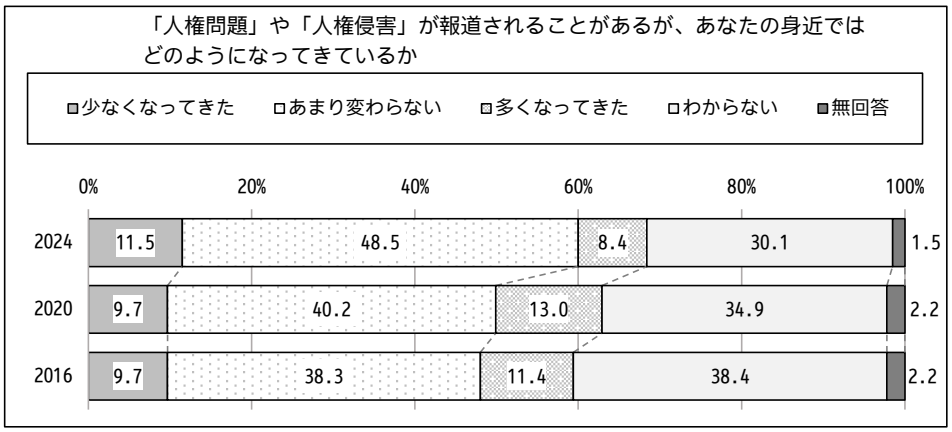
⑧相談窓口の認知度について（問１０）



（%）

		実人数	知っている	知らない	無回答
全体	2024	993	29.7	67.2	3.1
	2020	1,007	28.3	68.4	3.3
	2016	968	29.8	67.0	3.2
	2012	917	35.0	58.9	6.1
	2008	1,099	28.6	45.9	25.6

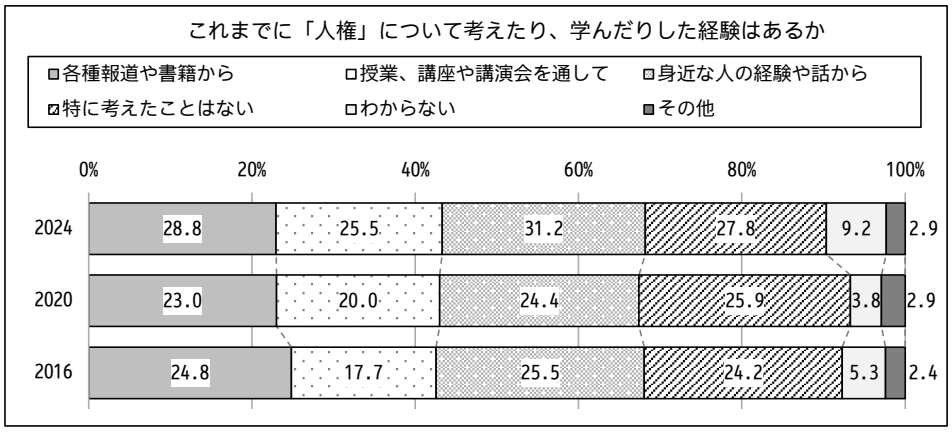
⑨「人権問題」や「人権侵害」が報道されることがあるが、あなたの身近ではどのようになってきているか　（問１４）　2016年～



（%）

		実人数	少なくなってきた	あまり変わらない	多くなってきた	わからない	無回答
全体	2024	993	11.5	48.5	8.4	30.1	1.5
	2020	1,007	9.7	40.2	13.0	34.9	2.2
	2016	968	9.7	38.3	11.4	38.4	2.2

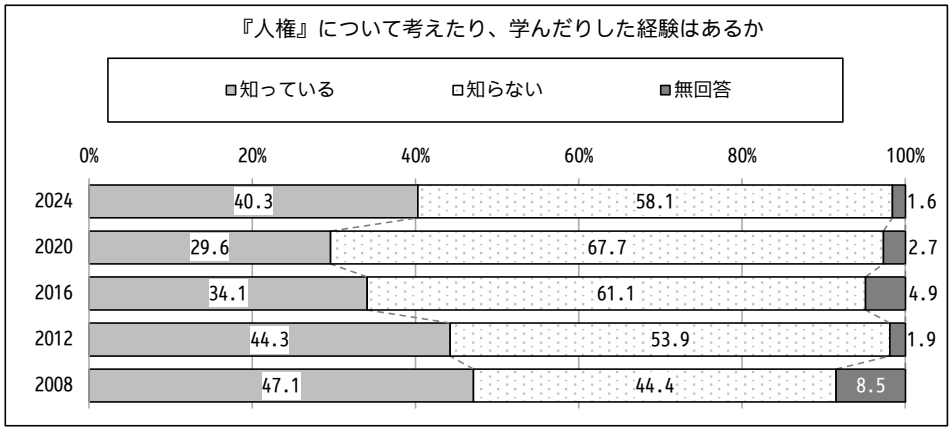
⑩これまでに「人権」について考えたり、学んだりした経験はあるか（問１５）　2016年～



（%）

		実人数	各種報道や書籍から	授業、講座や講演会を通して	身近な人の経験や話から	特に考えたことはない	わからない	その他
全体	2024	993	28.8	25.5	31.2	27.8	9.2	2.9
	2020	1,007	23.0	20.0	24.4	25.9	3.8	2.9
	2016	968	24.8	17.7	25.5	24.2	5.3	2.4

⑪『人権相談』の認知度について（問１７）

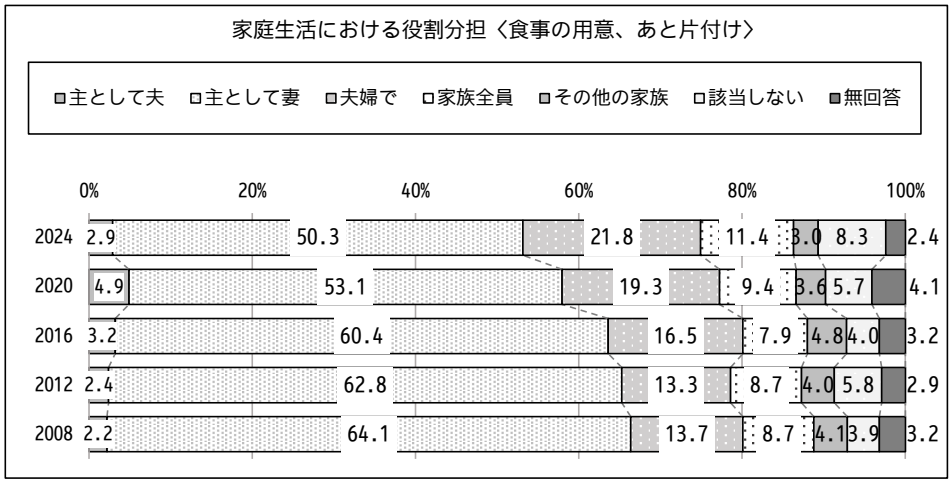


（%）

		実人数	知っている	知らない	無回答
全体	2024	993	40.3	58.1	1.6
	2020	1,007	29.6	67.7	2.7
	2016	968	34.1	61.1	4.9
	2012	917	44.3	53.9	1.9
	2008	1,099	47.1	44.4	8.5

（４）家庭生活における役割分担について（問１８）

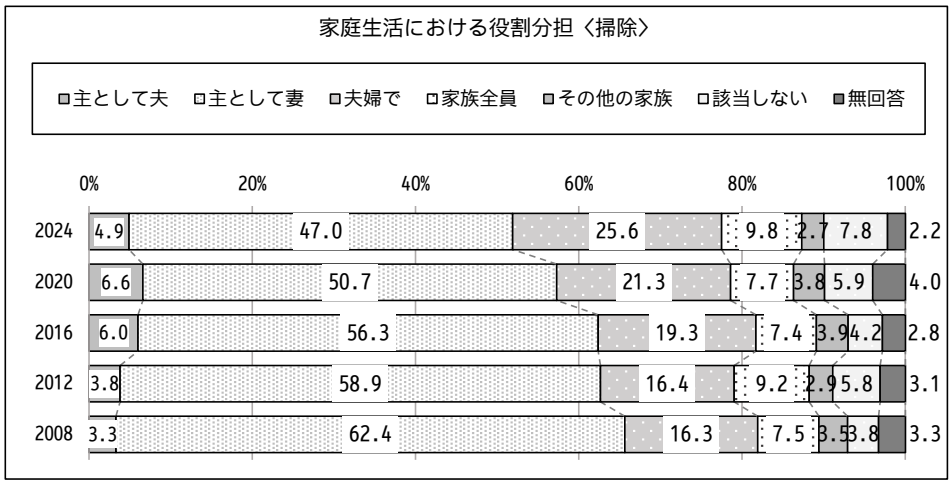
①食事の用意、あと片付け



（%）

		実人数	主として夫	主として妻	夫婦で	家族全員	その他の家族	該当しない	無回答
全体	2024	993	2.9	50.3	21.8	11.4	3.0	8.3	2.4
	2020	1,007	4.9	53.1	19.3	9.4	3.6	5.7	4.1
	2016	968	3.2	60.4	16.5	7.9	4.8	4.0	3.2
	2012	917	2.4	62.8	13.3	8.7	4.0	5.8	2.9
	2008	1,099	2.2	64.1	13.7	8.7	4.1	3.9	3.2

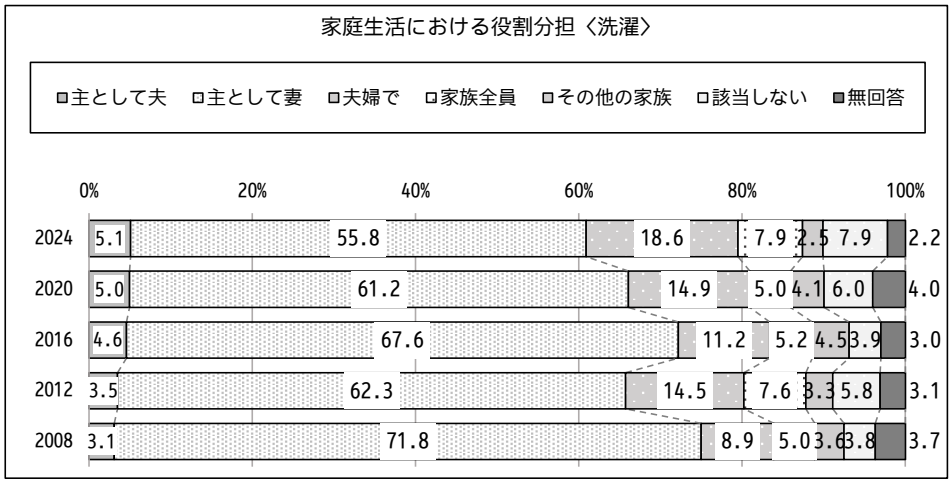
②掃除



（%）

		実人数	主として夫	主として妻	夫婦で	家族全員	その他の家族	該当しない	無回答
全体	2024	993	4.9	47.0	25.6	9.8	2.7	7.8	2.2
	2020	1,007	6.6	50.7	21.3	7.7	3.8	5.9	4.0
	2016	968	6.0	56.3	19.3	7.4	3.9	4.2	2.8
	2012	917	3.8	58.9	16.4	9.2	2.9	5.8	3.1
	2008	1,099	3.3	62.4	16.3	7.5	3.5	3.8	3.3

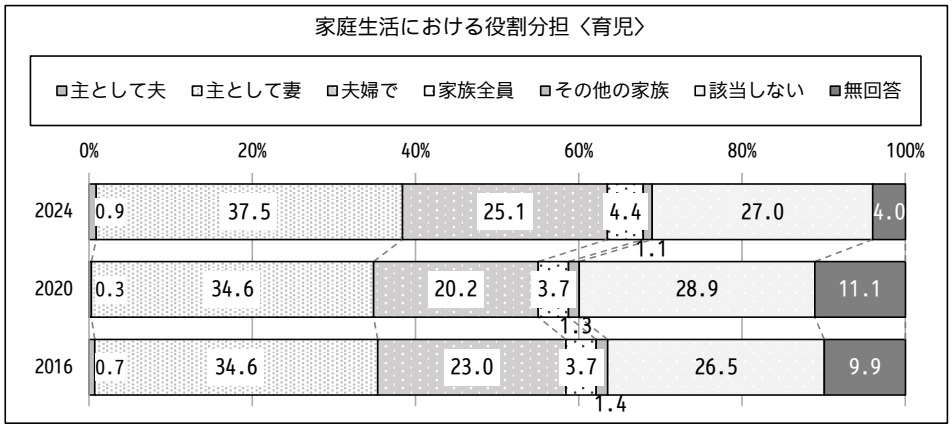
③洗濯



（%）

		実人数	主として夫	主として妻	夫婦で	家族全員	その他の家族	該当しない	無回答
全体	2024	993	5.1	55.8	18.6	7.9	2.5	7.9	2.2
	2020	1,007	5.0	61.2	14.9	5.0	4.1	6.0	4.0
	2016	968	4.6	67.6	11.2	5.2	4.5	3.9	3.0
	2012	917	3.5	62.3	14.5	7.6	3.3	5.8	3.1
	2008	1,099	3.1	71.8	8.9	5.0	3.6	3.8	3.7

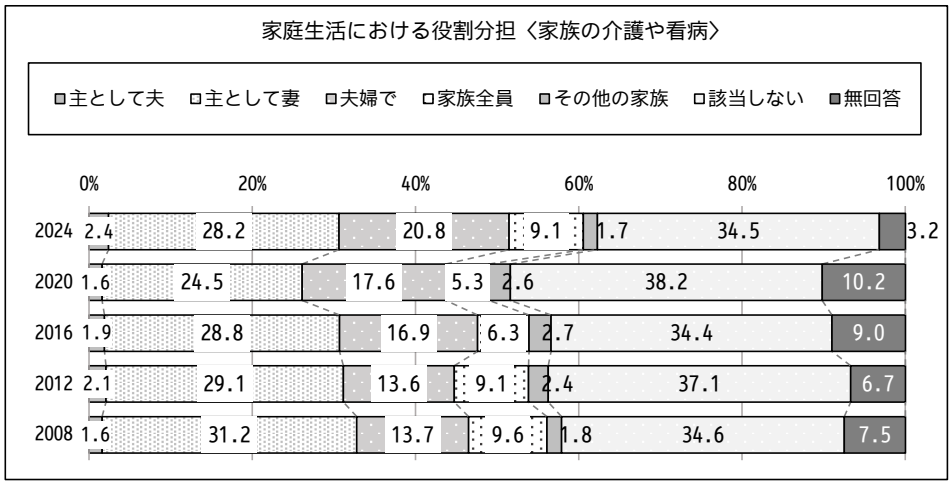
④育児　2016年～



（%）

		実人数	主として夫	主として妻	夫婦で	家族全員	その他の家族	該当しない	無回答
全体	2024	993	0.9	37.5	25.1	4.4	1.1	27.0	4.0
	2020	1,007	0.3	34.6	20.2	3.7	1.3	28.9	11.1
	2016	968	0.7	34.6	23.0	3.7	1.4	26.5	9.9

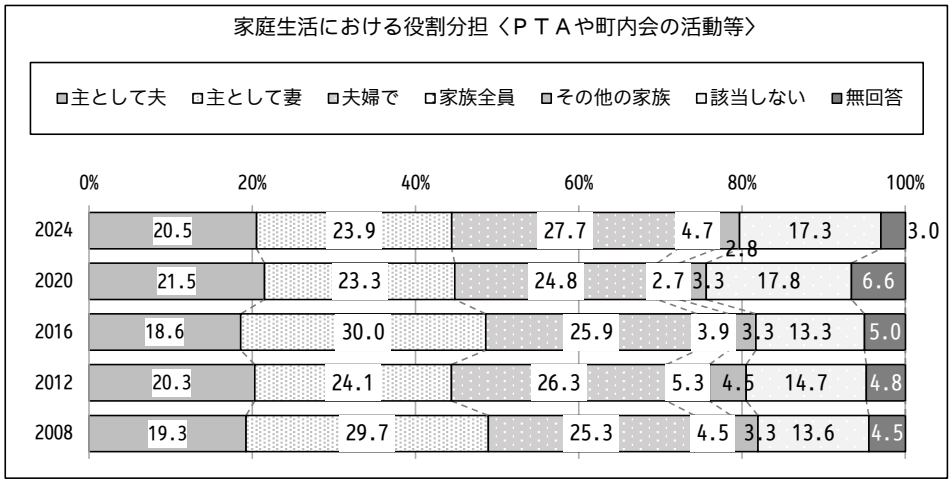
⑤家族介護や看病



（%）

		実人数	主として夫	主として妻	夫婦で	家族全員	その他の家族	該当しない	無回答
全体	2024	993	2.4	28.2	20.8	9.1	1.7	34.5	3.2
	2020	1,007	1.6	24.5	17.6	5.3	2.6	38.2	10.2
	2016	968	1.9	28.8	16.9	6.3	2.7	34.4	9.0
	2012	917	2.1	29.1	13.6	9.1	2.4	37.1	6.7
	2008	1,099	1.6	31.2	13.7	9.6	1.8	34.6	7.5

⑥地域活動（ＰＴＡや町内会の活動等）

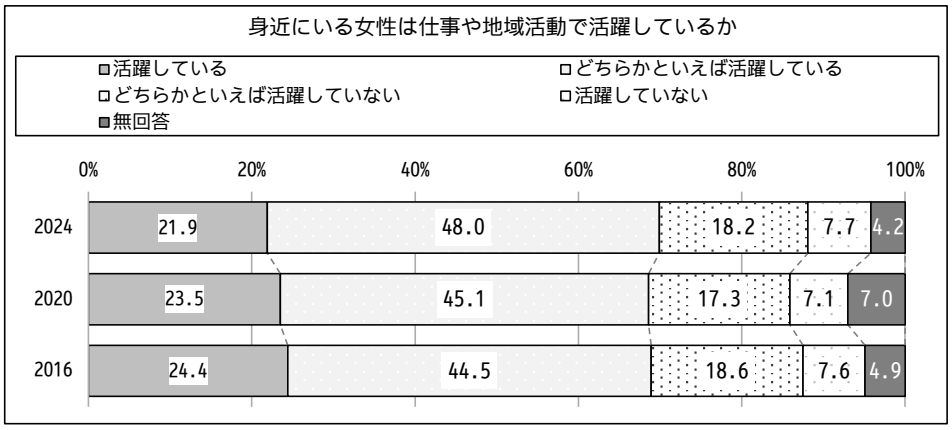


（%）

		実人数	主として夫	主として妻	夫婦で	家族全員	その他の家族	該当しない	無回答
全体	2024	993	20.5	23.9	27.7	4.7	2.8	17.3	3.0
	2020	1,007	21.5	23.3	24.8	2.7	3.3	17.8	6.6
	2016	968	18.6	30.0	25.9	3.9	3.3	13.3	5.0
	2012	917	20.3	24.1	26.3	5.3	4.5	14.7	4.8
	2008	1,099	19.3	29.7	25.3	4.5	3.3	13.6	4.5

（５）女性活躍について

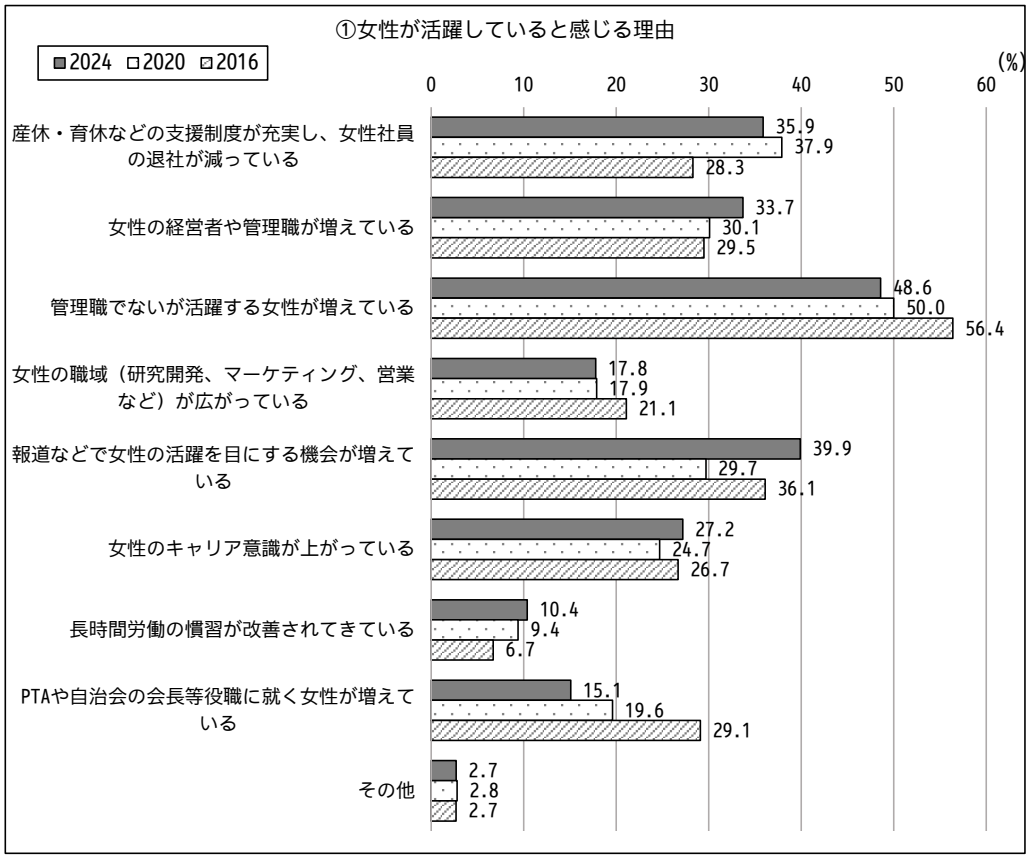
身近にいる女性は仕事や地域活動で活躍しているか（問１９）　2016年～



（%）

		実人数	活躍している	どちらかといえば活躍している	どちらかといえば活躍していない	活躍していない	無回答
全体	2024	993	21.9	48.0	18.2	7.7	4.2
	2020	1,007	23.5	45.1	17.3	7.1	7.0
	2016	968	24.4	44.5	18.6	7.6	4.9

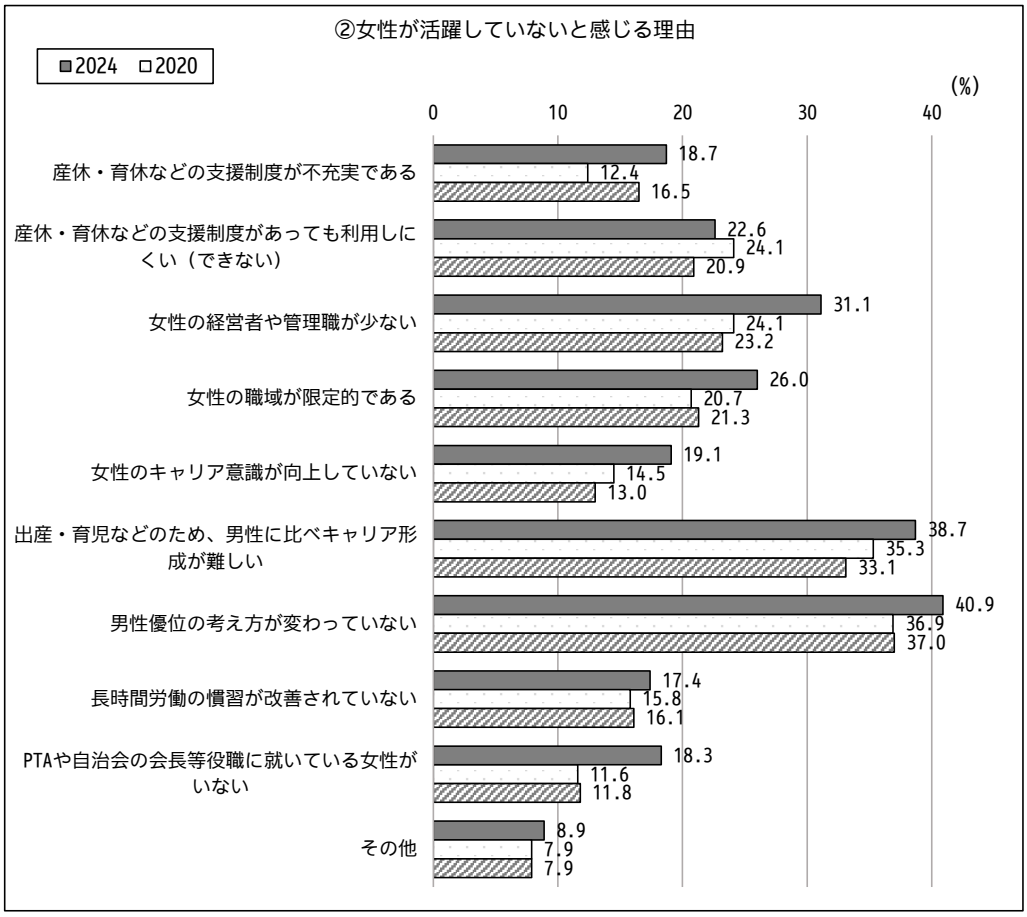
①女性が活躍していると感じる理由（問２０－①）　2016年～



(%)

	実人数	産休・育休などの支援制度が充実し、女性社員の退社が減っている	女性の経営者や管理職が増えている	管理職でないが活躍する女性が増えている	女性の職域（研究開発、マーケティング、営業など）が広がっている	報道などで女性の活躍を目にする機会が増えている	女性のキャリア意識が上がっている	長時間労働の慣習が改善されてきている	PTAや自治会の会長等役職に就く女性が増えている	その他
2024	691	35.9	33.7	48.6	17.8	39.9	27.2	10.4	15.1	2.7
2020	688	37.9	30.1	50.0	17.9	29.7	24.7	9.4	19.6	2.8
2016	667	28.3	29.5	56.4	21.1	36.1	26.7	6.7	29.1	2.7

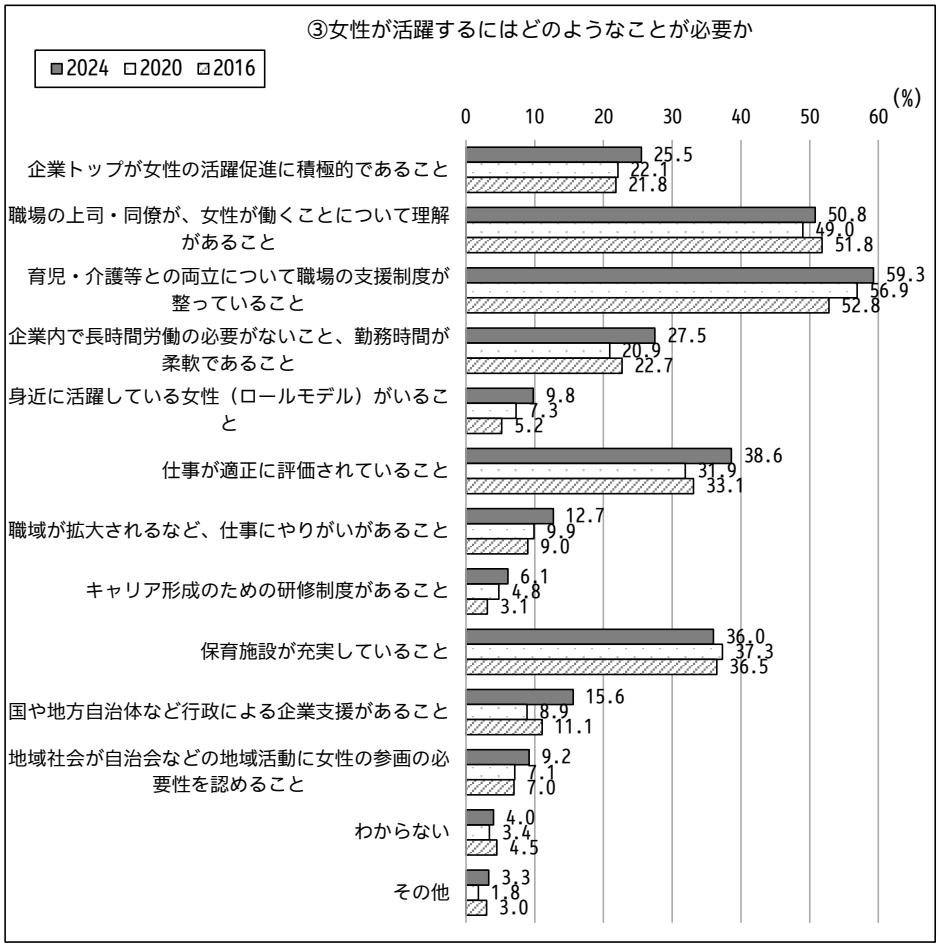
②女性が活躍してないと感じる理由（問２０－②）　2016年～



(%)

	実人数	産休・育休などの支援制度が不充実である	産休・育休などの支援制度があっても利用しにくい（できない）	女性の経営者や管理職が少ない	女性の職域が限定的である	女性のキャリア意識が向上していない	出産・育児などのため、男性に比べキャリア形成が難しい	男性優位の考え方が変わっていない	長時間労働の慣習が改善されていない	PTAや自治会の会長等役職に就いている女性がいない	その他
2024	235	18.7	22.6	31.1	26.0	19.1	38.7	40.9	17.4	18.3	8.9
2020	241	12.4	24.1	24.1	20.7	14.5	35.3	36.9	15.8	11.6	7.9
2016	254	16.5	20.9	23.2	21.3	13.0	33.1	37.0	16.1	11.8	7.9

③女性が活躍するにはどのようなことが必要か（問２１）　2016年～

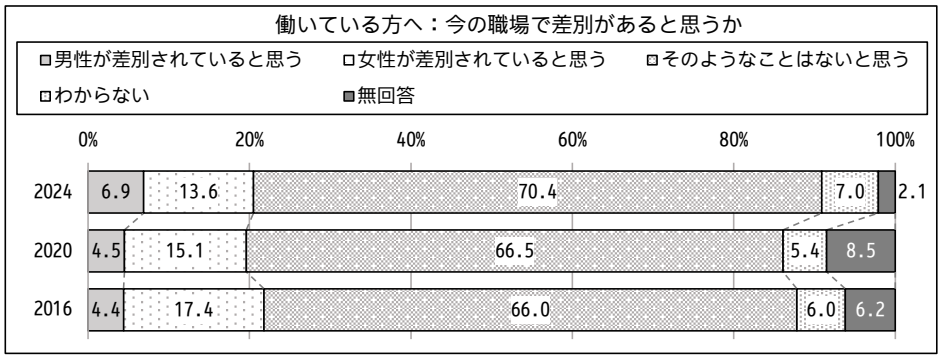


(%)

	実人数	企業トップが女性の活躍促進に積極的であること	職場の上司・同僚が、女性が働くことについて理解があること	育児・介護等との両立について職場の支援制度が整っていること	企業内で長時間労働の必要がないこと、勤務時間が柔軟であること	身近に活躍している女性（ロールモデル）がいること	仕事が適正に評価されていること	職域が拡大されるなど、仕事にやりがいがあること	キャリア形成のための研修制度があること	保育施設が充実していること	国や地方自治体など行政による企業支援があること	地域社会が自治会などの地域活動に女性の参画の必要性を認めること	わからない	その他
2024	950	25.5	50.8	59.3	27.5	9.8	38.6	12.7	6.1	36.0	15.6	9.2	4.0	3.3
2020	1,007	22.1	49.0	56.9	20.9	7.3	31.9	9.9	4.8	37.3	8.9	7.1	3.4	1.8
2016	968	21.8	51.8	52.8	22.7	5.2	33.1	9.0	3.1	36.5	11.1	7.0	4.5	3.0

（６）就業について

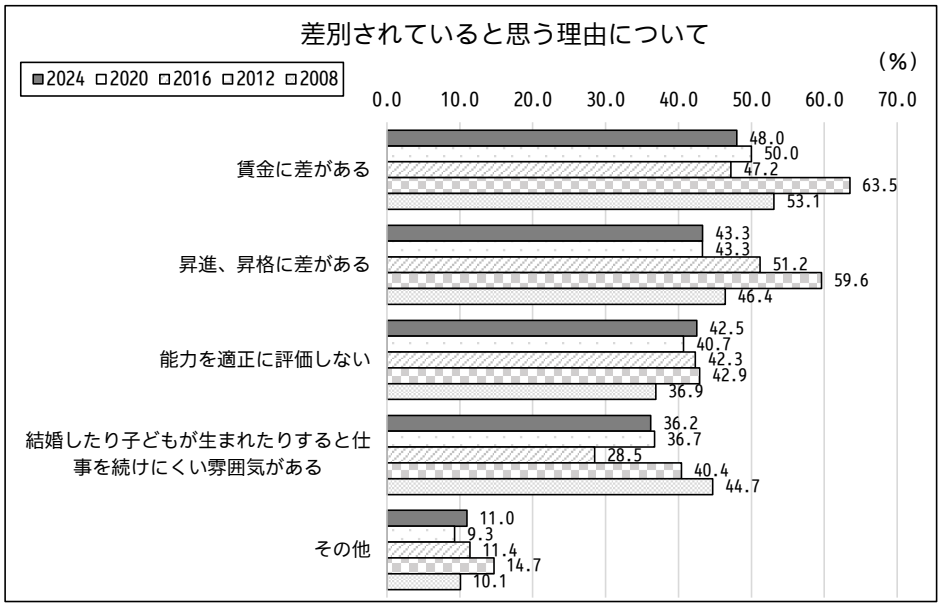
①働いている方への質問：今の職場で差別があると思うかについて（問２５）　2016年～



（%）

		回答数	男性が差別されていると思う	女性が差別されていると思う	そのようなことはないと思う	わからない	無回答
全体	2024	625	6.9	13.6	70.4	7.0	2.1
	2020	644	4.5	15.1	66.5	5.4	8.5
	2016	564	4.4	17.4	66.0	6.0	6.2

②「差別されていると思う」方へ質問：具体的な理由について（問２６）

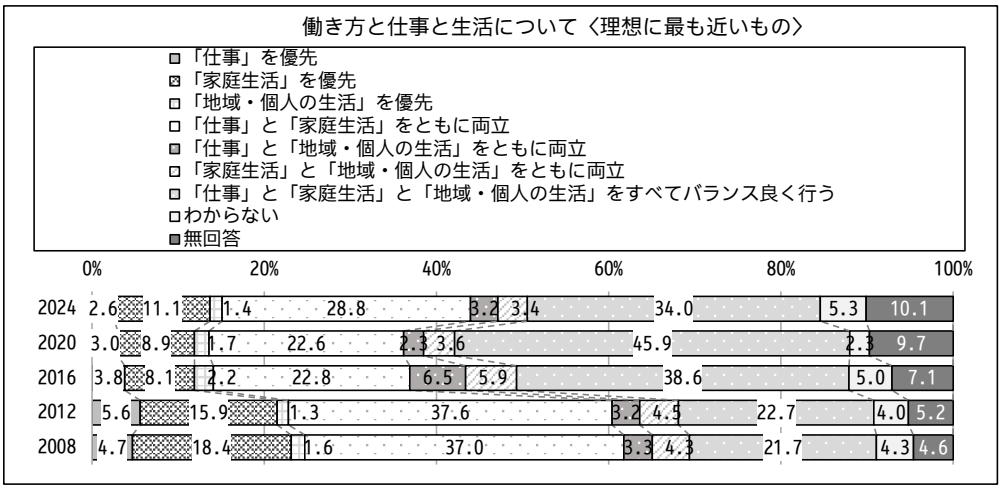


（%）

		回答数	賃金に差がある	昇進、昇格に差がある	能力を適正に評価しない	結婚したり子どもが生まれたりすると仕事を続けにくい雰囲気がある	その他
全体	2024	230	48.0	43.3	42.5	36.2	11.0
	2020	270	50.0	43.3	40.7	36.7	9.3
	2016	222	47.2	51.2	42.3	28.5	11.4
	2012	345	63.5	59.6	42.9	40.4	14.7
	2008	259	53.1	46.4	36.9	44.7	10.1

（７）男女の働き方と仕事と生活の調和について（問２７）

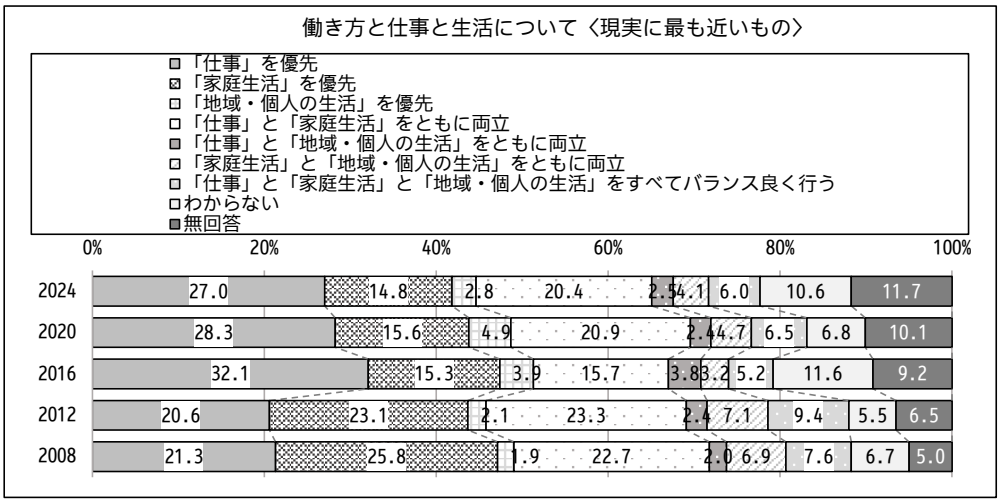
①あなたの考え方にもっとも近いもの



（%）

		実人数	「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	「地域・個人の生活」を優先	「仕事」と「家庭生活」をともに両立	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに両立	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに両立	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をすべてバランス良く行う	わからない	無回答
全体	2024	993	2.6	11.1	1.4	28.8	3.2	3.4	34.0	5.3	10.1
	2020	1,007	3.0	8.9	1.7	22.6	2.3	3.6	45.9	2.3	9.7
	2016	968	3.8	8.1	2.2	22.8	6.5	5.9	38.6	5.0	7.1
	2012	917	5.6	15.9	1.3	37.6	3.2	4.5	22.7	4.0	5.2
	2008	1,099	4.7	18.4	1.6	37.0	3.3	4.3	21.7	4.3	4.6

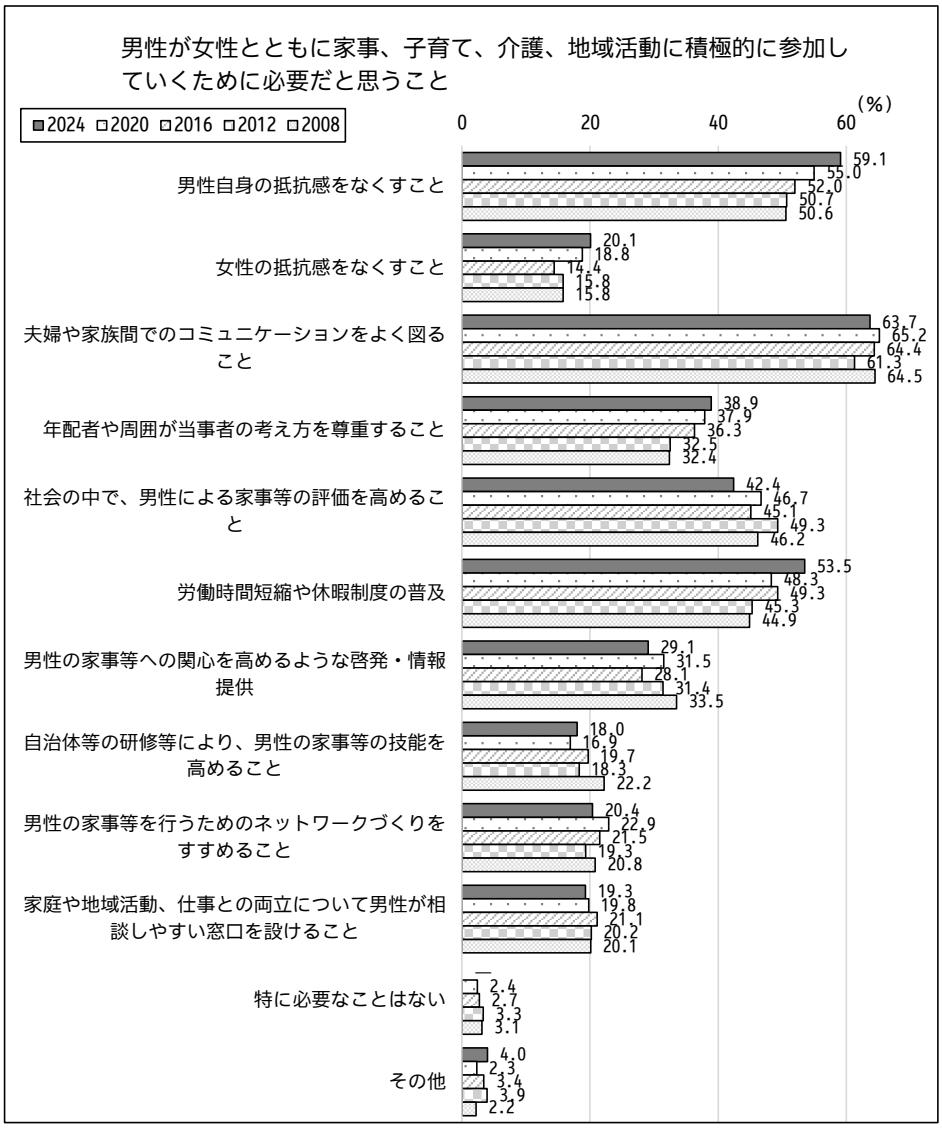
②あなたの現実（現状）にもっとも近いもの



（%）

		実人数	「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	「地域・個人の生活」を優先	「仕事」と「家庭生活」をともに両立	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに両立	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに両立	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をすべてバランス良く行う	わからない	無回答
全体	2024	993	27.0	14.8	2.8	20.4	2.5	4.1	6.0	10.6	11.7
	2020	1,007	28.3	15.6	4.9	20.9	2.4	4.7	6.5	6.8	10.1
	2016	968	32.1	15.3	3.9	15.7	3.8	3.2	5.2	11.6	9.2
	2012	917	20.6	23.1	2.1	23.3	2.4	7.1	9.4	5.5	6.5
	2008	1,099	21.3	25.8	1.9	22.7	2.0	6.9	7.6	6.7	5.0

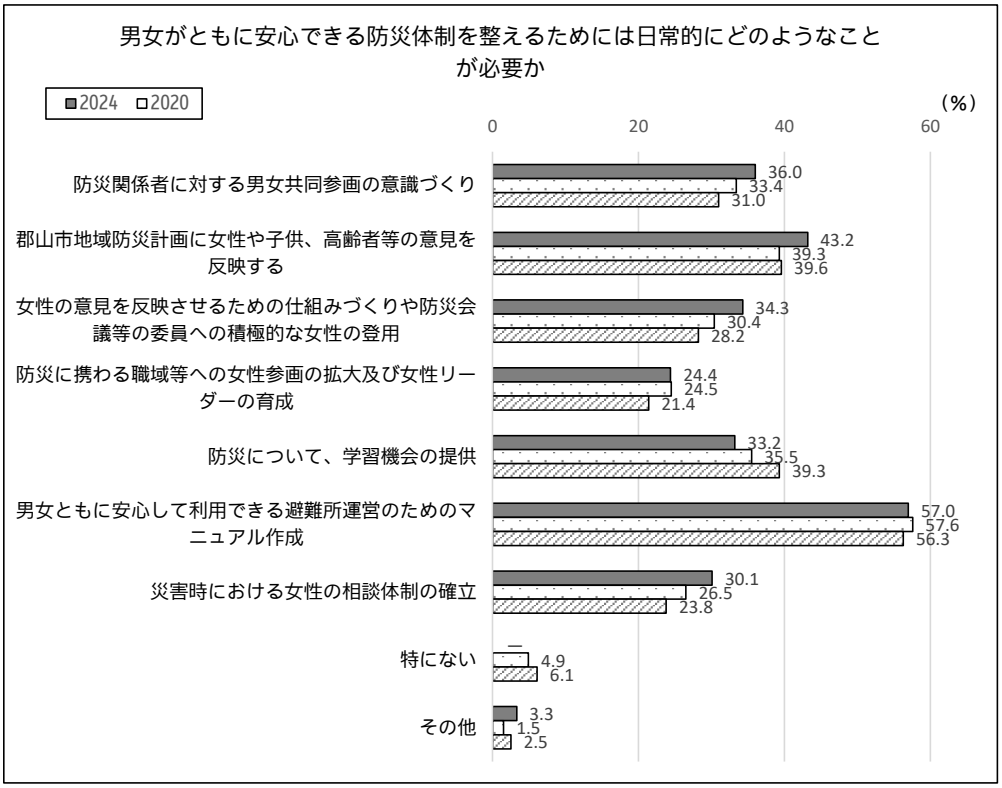
（８）男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要だと思うこと（問２８）



（%）

		実人数	男性自身の抵抗感をなくすこと	女性の抵抗感をなくすこと	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること	年配者や周囲が当事者の考え方を尊重すること	社会の中で、男性による家事等の評価を高めること	労働時間短縮や休暇制度の普及	男性の家事等への関心を高めるような啓発・情報提供	自治体等の研修等により、男性の家事等の技能を高めること	男性の家事等を行うためのネットワークづくりをすすめること	家庭や地域活動、仕事との両立について男性が相談しやすい窓口を設けること	特に必要なことはない	その他
全体	2024	964	59.1	20.1	63.7	38.9	42.4	53.5	29.1	18.0	20.4	19.3	—	4.0
	2020	1,007	55.0	18.8	65.2	37.9	46.7	48.3	31.5	16.9	22.9	19.8	2.4	2.3
	2016	968	52.0	14.4	64.4	36.3	45.1	49.3	28.1	19.7	21.5	21.1	2.7	3.4
	2012	917	50.7	15.8	61.3	32.5	49.3	45.3	31.4	18.3	19.3	20.2	3.3	3.9
	2008	1,099	50.6	15.8	64.5	32.4	46.2	44.9	33.5	22.2	20.8	20.1	3.1	2.2

（９）防災について（問２９）　2016年～



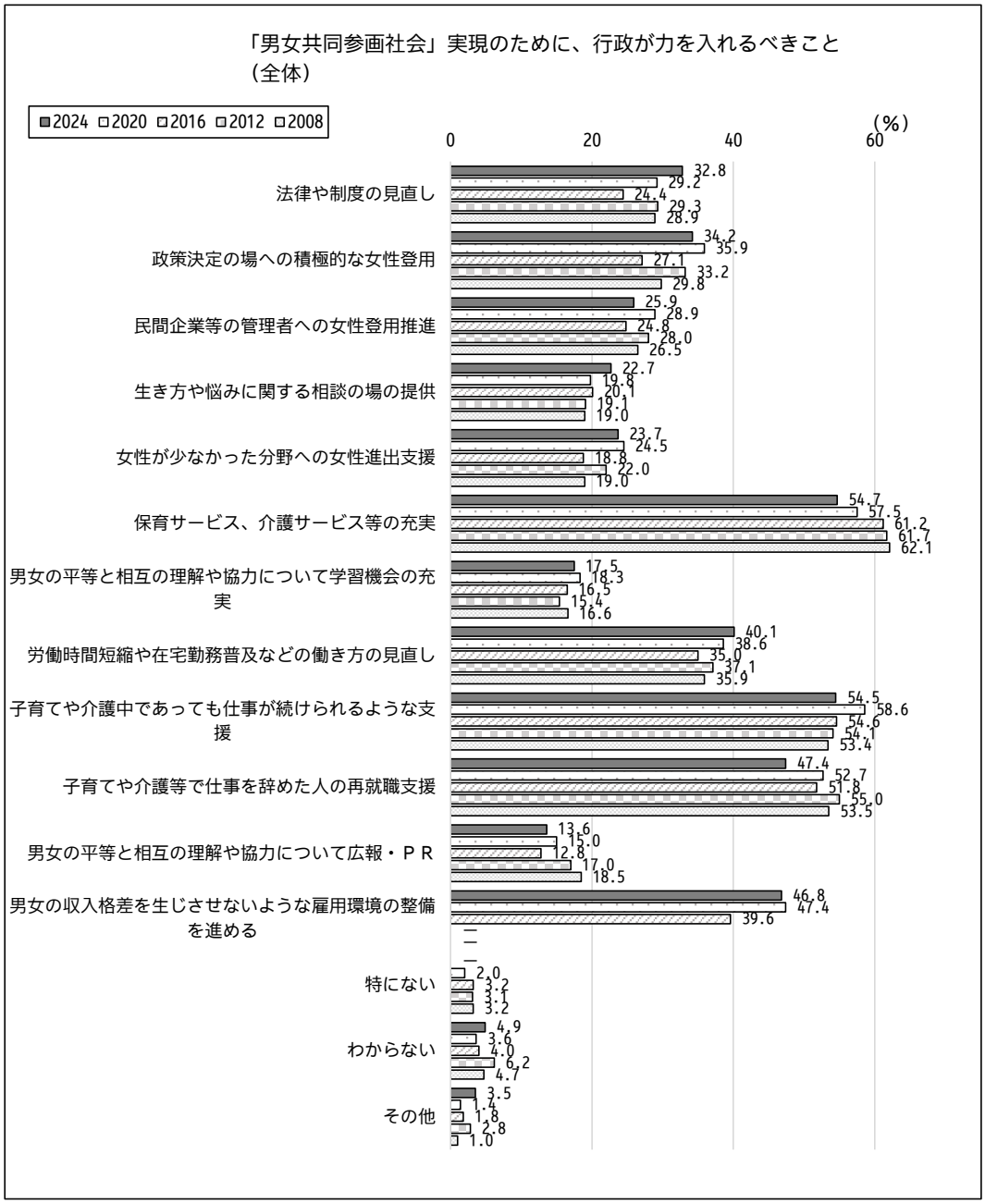
（%）

		実人数	防災関係者に対する男女共同参画の意識づくり	郡山市地域防災計画に女性や子供、高齢者等の意見を反映する	女性の意見を反映させるための仕組みづくりや防災会議等の委員への積極的な女性の登用	防災に携わる職域等への女性参画の拡大及び女性リーダーの育成	防災について、学習機会の提供	男女ともに安心して利用できる避難所運営のためのマニュアル作成	災害時における女性の相談体制の確立	特にない	その他
全体	2024	993	36.0	43.2	34.3	24.4	33.2	57.0	30.1	－	3.3
	2020	1,007	33.4	39.3	30.4	24.5	35.5	57.6	26.5	4.9	1.5
	2016	968	31.0	39.6	28.2	21.4	39.3	56.3	23.8	6.1	2.5

※2024年度から選択肢の「特にない」を削除

（１０）郡山市の男女共同参画推進の取り組みについて（問３０）

「男女共同参画社会」実現のために、行政が力を入れていくべきこと

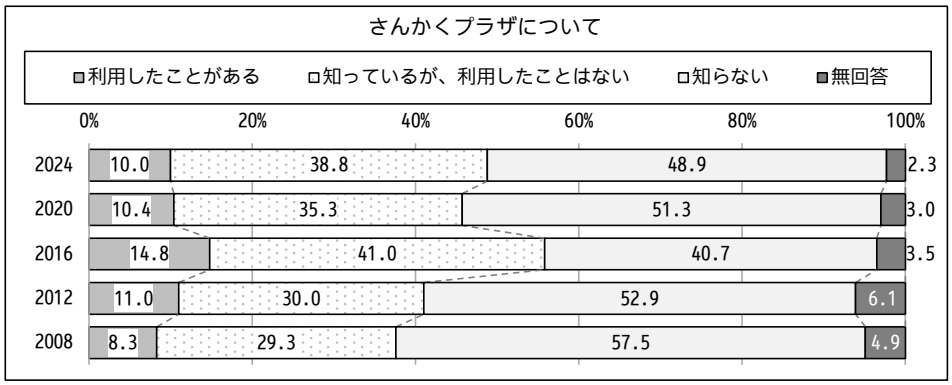


（%）

		実人数	法律や制度の見直し	政策決定の場への積極的な女性登用	民間企業等の管理者への女性登用推進	生き方や悩みに関する相談の場の提供	女性が少なかった分野への女性進出支援	保育サービス、介護サービス等の充実	男女の平等と相互の理解や協力について学習機会の充実	労働時間短縮や在宅勤務普及などの働き方の見直し	子育てや介護中であっても仕事が続けられるような支援	子育てや介護等で仕事を辞めた人の再就職支援	男女の平等と相互の理解や協力について広報・ＰＲ	男女の収入格差を生じさせないような雇用環境の整備を進める	特にない	わからない	その他
全体	2024	993	32.8	34.2	25.9	22.7	23.7	54.7	17.5	40.1	54.5	47.4	13.6	46.8	－	4.9	3.5
	2020	1,007	29.2	35.9	28.9	19.8	24.5	57.5	18.3	38.6	58.6	52.7	15.0	47.4	2.0	3.6	1.4
	2016	968	24.4	27.1	24.8	20.1	18.8	61.2	16.5	35.0	54.6	51.8	12.8	39.6	3.2	4.0	1.8
	2012	917	29.3	33.2	28.0	19.1	22.0	61.7	15.4	37.1	54.1	55.0	17.0	－	3.1	6.2	2.8
	2008	1,099	28.9	29.8	26.5	19.0	19.0	62.1	16.6	35.9	53.4	53.5	18.5	－	3.2	4.7	1.0

（１１）男女共同参画センター（さんかくプラザ）について

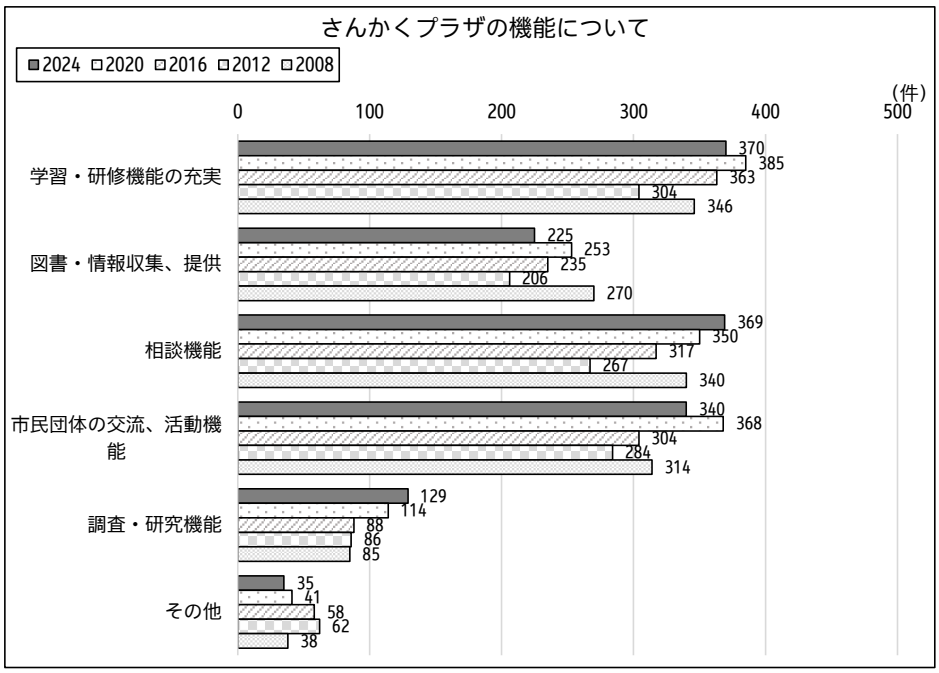
①男女共同参画センター（さんかくプラザ）の利用について（問３１）



（%）

		実人数	利用したことがある	知っているが、利用したことはない	知らない	無回答
全体	2024	993	10.0	38.8	48.9	2.3
	2020	1,007	10.4	35.3	51.3	3.0
	2016	968	14.8	41.0	40.7	3.5
	2012	917	11.0	30.0	52.9	6.1
	2008	1,099	8.3	29.3	57.5	4.9

②男女共同参画センター（さんかくプラザ）の機能について（問３２）



（件）

		実人数	学習・研修機能の充実	図書・情報収集、提供	相談機能	市民団体の交流、活動機能	調査・研究機能	その他
全体	2024	993	370	225	369	340	129	35
	2020	1,007	385	253	350	368	114	41
	2016	968	363	235	317	304	88	58
	2012	917	304	206	267	284	86	62
	2008	1,099	346	270	340	314	85	38

第６章　参考

この章では、今回の市民意識調査の結果と国及び県の意識調査との比較について掲載しています。

1　国・県・市の比較資料

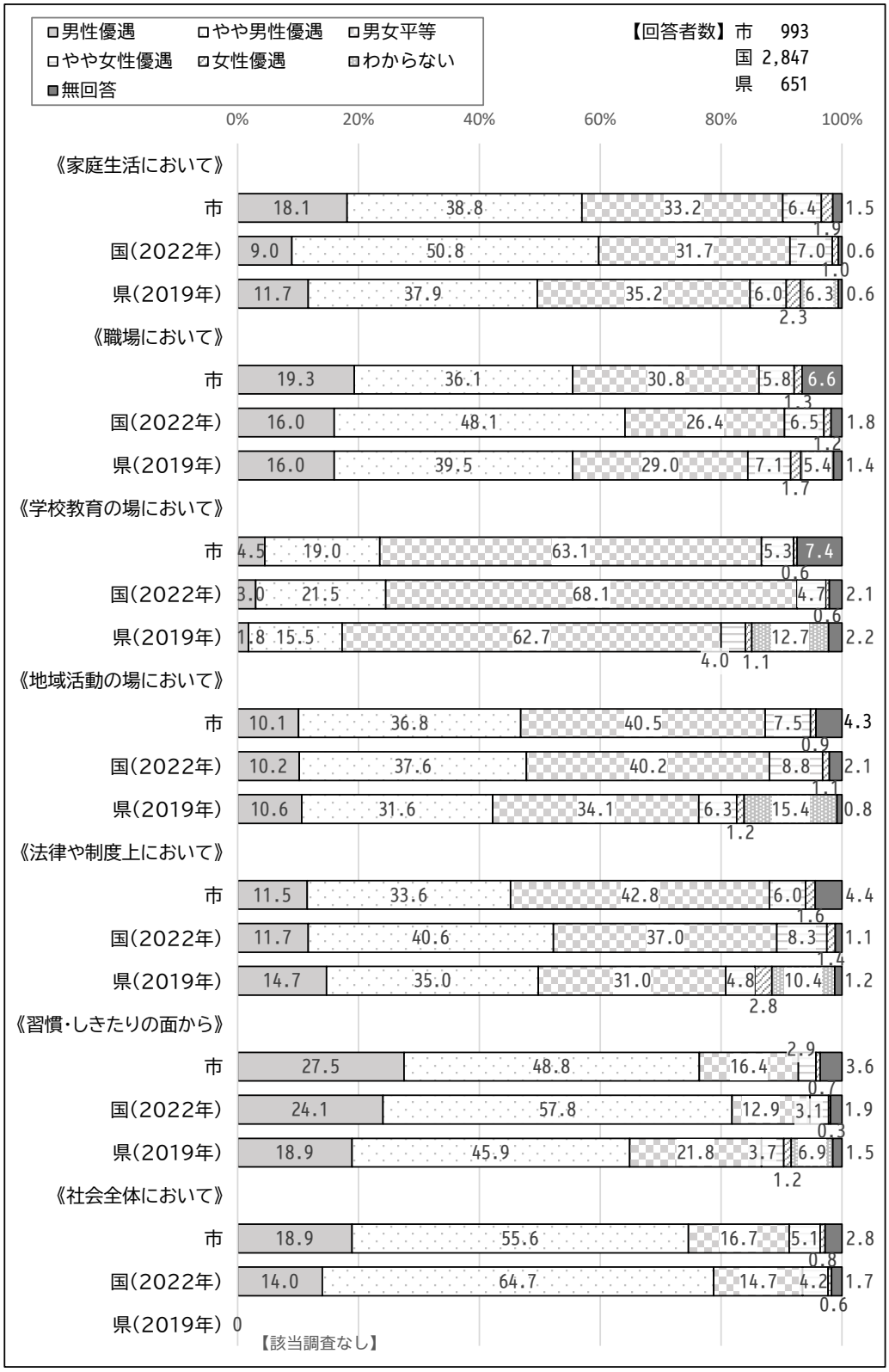
　地域差の有無を調査するために、国（内閣府）及び福島県が実施した調査結果との比較を行った。
　なお、比較した調査結果は、次のとおりであり、それぞれ調査の時期や対象が違い、かつ、設問に対する選択肢の違いがあるため、単純比較することはできないが、おおよその意識の違いをみる参考とするものである。
　また、調査対象等の標記については、それぞれの調査報告書の表現を用いているため、統一されていない。

【国（内閣府）の調査】
　調査名：男女共同参画社会に関する世論調査
　実施時期：2022(令和４)年11月24日～2023(令和５)年１月１日
　調査対象：全国18歳以上の日本国籍を有する者　5,000人
　調査方法：郵送法

【福島県の調査】
　調査名：男女共同参画・女性の活躍促進に関する意識調査報告書
　調査時期：2019(令和元)年11月12日～25日
　調査対象：福島県内の20歳以上の男女個人　2,000人
　調査方法：郵送による自記式

【郡山市の調査】
　調査名：郡山市男女共同参画に関する市民意識調査
　調査時期：2024(令和６)年７月29日～８月31日
　調査対象：市内在住18歳以上の男女　3,000人
　調査方法：郵送による自記式又はインターネットによる電子申請

問：あなたは、次の各分野での男女の地位が平等だと思いますか。



国、県、市ともに「男女平等」と回答した割合が最も高いのは、「学校教育において」で、それぞれ国68.1%、県62.7%、市63.1%と、ほぼ同様の結果となっている。

「男女平等」と回答した割合が最も低かったのは「習慣・しきたりの面から」で、国12.9%、県21.8%、市16.4%と全体的に低く、「男性優遇・やや男性優遇」と回答した割合は、国81.9%、県64.8%、市76.3%と高い状況にある。

各分野において、国、県の調査と比較すると、ほぼ同様の結果が見られるなか、「家庭生活において」の男女の地位について、「男性優遇」と回答した割合が、国9.0%、県11.7%、市18.1%と、国及び県と比べ、市が高い状況となっている。

男女共同参画に関する市民意識調査
報　告　書
2025（令和７）年３月発行

発行：郡山市市民部男女共同参画課
〒963-8601　郡山市朝日一丁目 23 番７号
ＴＥＬ：024-924-3351
ＦＡＸ：024-921-1340
メール：danjokyoudou@city.koriyama.lg.jp
郡山市ウェブサイト：https://www.city.koriyama.lg.jp/